

授 業 概 要

平成30年度

群馬医療福祉大学 リハビリテーション学部

〒371-0023 群馬県前橋市本町2-12-1

TEL 027-210-1294

FAX 027-260-1294

目 次

基礎科目

共通

人間哲学	5
道徳教育	6
教育原理	7
生涯学習概論	8
心理学	9
国際文化論	10
美術技法	11
物理学	13
法学	14
経済学	15
情報処理Ⅰ	16
情報処理Ⅱ	17
マスメディア論	18
医療英語Ⅰ	19
医療英語Ⅱ	20
韓国語Ⅰ	21
韓国語Ⅱ	22
中国語Ⅰ	23
中国語Ⅱ	24
スポーツ・レクリエーション実技	25
レクリエーション活動援助法	27
障害者スポーツ	29
医療・福祉・教育の基礎	30
チームケア入門Ⅰ	31
チームケア入門Ⅱ	32
海外語学研修(カナダ)	33
海外語学研修(フィリピン)	35

理学療法専攻

基礎演習Ⅰ	39
基礎演習Ⅱ	40
総合演習Ⅰ	41
総合演習Ⅱ	42
ボランティア活動Ⅰ	43
ボランティア活動Ⅱ	44

作業療法専攻

基礎演習Ⅰ	47
基礎演習Ⅱ	48
総合演習Ⅰ	49
総合演習Ⅱ	50
ボランティア活動Ⅰ	51
ボランティア活動Ⅱ	52

専門基礎科目

共通

解剖学Ⅰ	57
解剖学Ⅱ	58
解剖学実習	59
生理学Ⅰ	60
生理学Ⅱ	61
生理学実習	62
人間発達学	63
病理学概論	64
臨床心理学	65
一般臨床医学	66
リハビリテーション医学	67
内科・老年医学Ⅰ	68
内科・老年医学Ⅱ	69
整形外科Ⅰ	70
整形外科Ⅱ	71
神経内科学Ⅰ	72
神経内科学Ⅱ	73
精神医学	74
小児科学	75
保健医療福祉論	76
公衆衛生学	77

理学療法専攻

体表解剖・触診演習	81
運動生理学演習	82
運動学Ⅰ	83
運動学Ⅱ	84
臨床運動学実習	85
リハビリテーション入門	86

作業療法専攻

運動学Ⅰ	89
運動学Ⅱ	90
運動学実習	91
リハビリテーション入門	92

専門科目

理学療法専攻

理学療法概論	97
理学療法セミナーⅠ	98
理学療法セミナーⅡ	99
理学療法評価学Ⅰ	100
理学療法評価学Ⅱ	101
理学療法評価学実習Ⅰ	102
理学療法評価学実習Ⅱ	103
運動療法学Ⅰ	104
運動療法学Ⅱ	105
運動療法学Ⅲ	106
運動療法学実習Ⅰ	107
運動療法学実習Ⅱ	108
運動療法学実習Ⅲ	109
物理療法学	110
物理療法学実習	111
義肢装具学	112
義肢装具学実習	113
理学療法技術論Ⅰ	114
理学療法技術論Ⅱ	115
理学療法技術論Ⅲ	116
理学療法技術論実習Ⅰ	117
理学療法技術論実習Ⅱ	118
理学療法技術論実習Ⅲ	119
基礎理学療法学特論	120
中枢神経障害理学療法学特論	121
内部障害理学療法学特論	122
スポーツ理学療法特論	123
ヘルスプロモーション理学療法学特論	124
地域理学療法学Ⅰ	125
地域理学療法学Ⅱ	126
地域理学療法学実習	127
地域理学療法学特論	129
臨床実習指導Ⅰ	130
臨床実習指導Ⅱ	132
評価実習	134
総合臨床実習Ⅰ	135
総合臨床実習Ⅱ	136
卒業研究	137

作業療法専攻

作業療法入門	141
作業療法入門実習	142
作業療法管理論	143
ひとと作業	144
ひとと作業活動Ⅰ	145
ひとと作業活動Ⅱ	147
作業療法研究法	149
作業療法セミナーⅠ	150
作業療法セミナーⅡ	151
作業療法評価法Ⅰ	152
作業療法評価法Ⅱ	153
作業療法評価法Ⅲ	154
作業療法評価法特論Ⅰ	155
作業療法評価法特論Ⅱ	156
身体機能作業療法学Ⅰ	157
身体機能作業療法学Ⅱ	158
精神機能作業療法学Ⅰ	159
精神機能作業療法学Ⅱ	160
発達過程作業療法学Ⅰ	161
発達過程作業療法学Ⅱ	162
高齢期作業療法学Ⅰ	163
高齢期作業療法学Ⅱ	164
ひとと暮らしⅠ	165
ひとと暮らしⅡ	166
義肢装具学	167
作業療法治療学Ⅰ	168
作業療法治療学Ⅱ	169
作業療法治療学Ⅲ	170
作業療法技術論Ⅰ	171
作業療法技術論Ⅱ	172
作業療法技術論Ⅲ	173
作業療法特論Ⅰ	174
作業療法特論Ⅱ	175
作業療法特論Ⅲ	176
作業療法特論Ⅳ	177
地域作業療法入門Ⅰ	178
地域作業療法入門Ⅱ	179
地域作業療法実習Ⅰ	180
地域作業療法実習Ⅱ	181
臨床評価実習指導	182
臨床評価実習Ⅰ	183
臨床評価実習Ⅱ	184
臨床総合実習指導	185
臨床総合実習Ⅰ	186
臨床総合実習Ⅱ	187
卒業研究	188

授業概要の目的とその活用について

「授業概要」とは、皆さんが授業を選択する前に、それぞれの授業科目がどのような目標と内容で、またどのような計画によって行われるかをあらかじめお知らせするものです。具体的には「授業到達目標」、「授業概要」、「授業計画」、「教科書・参考書」、「成績評価の方法と基準」、「履修上の注意」などが記載されており、スムーズに科目選択ができるようになっています。この「授業概要」とは別に「シラバス」がダウンロード（PDF）できるようになっています。「シラバス」は専攻ディプロマポリシーと授業の到達目標との関係やより詳細な授業計画、成績評価などが記載されています。こちらは、一回一回の授業の予習復習に役立つ目的で作成されています。

リハビリテーション学部では理学療法士・作業療法士養成施設指定規則に則り、カリキュラム編成されています。そのため必修科目が大半を占めています。つまり、各授業がそのまま国家試験に直結していると言えるでしょう。したがって、国家試験の過去問題や予想問題など、各授業内において国家試験対策を意識した内容も多く含まれます。本授業概要、シラバスを予習・復習に積極的に活用し、全員が国家試験に合格できることを強く望みます。

【リハビリテーション学部 ディプロマ・ポリシー】

1. 医療専門職としての基礎知識や技術とともに、幅広い教養と技能、職業倫理観を身につけることができる。
2. 人びとの生活に興味を持ち、社会における生活者としての視点と、専門的知識や科学的知見に裏付けされた分析的視点で、リハビリテーションの実践に携わることができる。
3. 自己研鑽や研究の必要性を理解し、リハビリテーションを多職種協働で実践しながら、得られた専門的知識や技術を社会に還元する態度を身に付けている。
4. 単にリハビリテーションの実践に携わるのではなく、自らが置かれている社会の課題を専門的視点から分析することができ、その解決手段を主体的に検討する事ができる。

【リハビリテーション学部 カリキュラム・ポリシー】

リハビリテーション学部では、大学の建学精神と教育理念に基づき、医療・保健・福祉分野の一員として、社会に貢献できる人材を育成するため、以下の方針に基づきカリキュラムを編成する。

- 1) 初年次教育では物事を多面的にとらえて考察できる能力を身につけるために、一般教養科目と専門基礎科目を設ける。
- 2) リハビリテーション専門職としてのアイデンティティーを育成し、他職種と協働して社会の課題解決に主体的に取り組む力を身につけるため、基礎演習や総合演習、ボランティア活動など実践教育の機会を設ける。
- 3) 環境美化などに配慮した正課外教育を通して、他者への配慮と自己研鑽に励む態度を養うとともに、人としてのあり方を考える機会を設ける。
- 4) 専門教育では、幅広い専門医学に関する知識を学ぶとともに、人びとの豊かな生活を実現するための技能を身につける科目を設ける。
- 5) 専門的知識を実践力につなげるため、初年次より充実した実習の機会を設ける。
- 6) 各専門分野に関する研究を主体的に行い、社会における課題解決に向けた取り組みと実践、学問体系の確立に寄与するための力を身につけるため、卒業研究を設ける。

【理学療法専攻 ディプロマ・ポリシー】

1. 科学的根拠に基づいた理学療法に関する専門的知識及び技術を修得するとともに、幅広い教養と技能、職業倫理感を身につけ、リハビリテーション専門職としての自覚をもった行動ができる。
2. 人びとの多様な生活や価値観を理解し、理学療法士として臨床的問題解決に必要な知識・技能を身につけ、健康に関する課題解決に向け、科学的根拠に基づいた理学療法の実践ができる。
3. 科学的根拠に基づいた理学療法の基礎および臨床に立脚した研究ができる素養を身につけ、得られた知識や技術を駆使し、多職種協働による対象者への支援や社会の発展に寄与できる。
4. 最新の社会・医療情勢の把握に努め、社会のニーズや課題を総合的にとらえ、自らの能力を活用し、自己研鑽しながら、社会における課題の解決に向け、主体的に行動することができる。

【理学療法専攻 カリキュラム・ポリシー】

理学療法専攻では、大学の建学精神と教育理念に基づき、高度な専門知識・技能を身につけ、社会に貢献できる人材を育成するため、以下の方針に基づきカリキュラムを編成する。

- 1) 初年次教育では人としての規範的理解、大学で学ぶための思考や能動的学習の方法を身につけるための教養科目を設ける。
- 2) 教養教育では、専攻を超えて協働学習できる科目を設定し、専門職連携の理解を深め、多角的な視野を身につける機会を設ける。
- 3) 専門教育では、基礎医学及び理学療法学を学ぶとともに、疾病予防、機能回復、健康推進、対象者への支援ができる能力を身につけるための専門科目を設ける。
- 4) 教養・専門教育で修得した知識や技術を総合的に実践・実証し、将来を担うべく社会で活躍するための専門性を身につけるための臨床実習を設ける。
- 5) 各自が興味ある専門分野に関する研究を主体的に行い、臨床や社会における実践・実証ができる力を身につけるための卒業研究を設ける。

【作業療法専攻 ディプロマ・ポリシー】

1. 作業療法に関する基本的な医学知識や技術とともに、多様なひとやその集団を多角的な視点で理解するための教養を身につけ、対象者の健康と社会の安寧を促進するための役割を認識した行動ができる。
2. 生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法の実践ができる。
3. 作業療法の専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、専門的知識に限局せず多様な文化・学問を受け入れ、多職種協働による対象者への支援や社会の発展に寄与できる。
4. 全人的視点から対象者が抱える問題や、社会の課題を総合的にとらえ、人びとがより豊かに日常生活の活動に参加できるよう創意工夫することができる。

【作業療法専攻 カリキュラム・ポリシー】

作業療法専攻では、大学の建学精神と教育理念に基づき、高度な専門知識・技能を身につけ、社会に貢献できる人材を育成するため、以下の方針に基づきカリキュラムを編成する。

- 1) 初年次教育では人としての規範的理解、大学で学ぶための思考や能動的学習の方法を身につけるための教養科目を設ける。
- 2) 教養科目と併せ、人体の構造や仕組みなど基礎医学や作業療法の原理などの専門教育の基礎となる科目を設ける。
- 3) 専門教育では、対象者の生活行為の遂行や向上に必要となる知識や技術を学ぶ科目を設ける。
- 4) 教養・専門教育で修得した知識や技術を総合的に活用し実践するため、世界作業療法士連盟の基準に準拠した実習の機会を設ける。
- 5) 各自が興味ある専門分野に関する研究を主体的に行い、臨床や社会での実践報告ができる力を身につけるための卒業研究を設ける。

群馬医療福祉大学リハビリテーション学部リハビリテーション学科理学療法専攻 教育課程

◎必修科目 △選択科目 □自由科目

授業科目の名称	配当年次	単位数				1年		2年		3年		4年		備考
		必修	選択	自由		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
人間哲学	1	2			◎									
道徳教育	1	2			△									
教育原理	1	2			△									
生涯学習概論	1	2			△									
心理学	1	2			△									
国際文化論	1	2			△									
美術技法	1	2			△									
物理学	1	2			△									
法学	1	2			△									
経済学	1	2			△									
情報処理	1	2			△									
マスメディア論	1	2			△									
医療英語Ⅰ	1	2			◎									
医療英語Ⅱ	1	2			△									
韓国語Ⅰ	1	2			△									
韓国語Ⅱ	1	2			△									
中国語Ⅰ	1	2			△									
中国語Ⅱ	1	2			△									
スポーツ・レクリエーション実技	1	2			△									
レクリエーション活動援助法	1	2			△									
障害者スポーツ	1	2			△									
医療・福祉・教育の基礎	1	2			△									
チームケア入門Ⅰ	1	1			△									
チームケア入門Ⅱ	2	1				△								
基礎演習Ⅰ	1	1			◎									
基礎演習Ⅱ	2	1				◎								
総合演習Ⅰ	3	1						◎						
総合演習Ⅱ	4	1								◎				
ボランティア活動Ⅰ	1	1			◎									
ボランティア活動Ⅱ	2	1				◎								
海外語学研修(カナダ)	1~4	2					△							
海外語学研修(フィリピン)	1~3	2				△								
小計	—	10	46	0										
基礎科目	基礎科目	解剖学Ⅰ	1	2		◎								
		解剖学Ⅱ	1	2		◎								
		解剖学実習	1	1		◎								
		体表解剖・触診演習	2	1			◎							
		生理学Ⅰ	1	2		◎								
		生理学Ⅱ	1	2			◎							
		生理学実習	1	1			◎							
		運動生理学演習	2	1				◎						
		運動学Ⅰ	1	2		◎								
		運動学Ⅱ	1	2			◎							
		臨床運動学実習	2	1				◎						
		人間発達学	1	1			◎							
		病理学概論	2	2			◎							
		臨床心理学	1	2			◎							
一般臨床医学	1	2			◎									
リハビリテーション医学	1	2			◎									
内科・老年医学Ⅰ	2	2				◎								
内科・老年医学Ⅱ	2	2				◎								
整形外科Ⅰ	2	2				◎								
整形外科Ⅱ	2	2				◎								
神経内科学Ⅰ	2	2				◎								
神経内科学Ⅱ	2	2				◎								
精神医学	2	2				◎								
小児科学	2	2				◎								
専門基礎科目	保健医療とシヨンの理念	リハビリテーション入門	1	1		◎								
		保健医療福祉論	1	1		△								
		公衆衛生学	1	1		◎								
小計	—	44	1	0										

必修科目10単位のほか、選択科目から4単位以上履修

授業科目の名称	配当年次	単位数				1年		2年		3年		4年		備考
		必修	選択	自由		前期	後期	前期	後期	前期	後期			
基礎理学	理学療法概論	1	2			◎								
	理学療法セミナーⅠ	3	1						◎					
	理学療法セミナーⅡ	4	1								◎			
理学療法評価学	理学療法評価学Ⅰ	2	2					◎						
	理学療法評価学Ⅱ	2	2						◎					
	理学療法評価学実習Ⅰ	2	1					◎						
	理学療法評価学実習Ⅱ	2	1						◎					
理学療法治療学	運動療法学Ⅰ	2	2					◎						
	運動療法学Ⅱ	2	2						◎					
	運動療法学Ⅲ	3	2							◎				
	運動療法学実習Ⅰ	2	1					◎						
	運動療法学実習Ⅱ	2	1						◎					
	運動療法学実習Ⅲ	3	1							◎				
	物理療法学	2	2						◎					
	物理療法学実習	2	1							◎				
	義肢装具学	2	2						◎					
	義肢装具学実習	3	1							◎				
	理学療法技術論Ⅰ	3	2								◎			
	理学療法技術論Ⅱ	3	2								◎			
	理学療法技術論Ⅲ	3	2							◎				
	理学療法技術論実習Ⅰ	3	1								◎			
	理学療法技術論実習Ⅱ	3	1								◎			
	理学療法技術論実習Ⅲ	3	1								◎			
基礎理学療法学特論	3		1							□				
中枢神経障害理学療法学特論	3		1							□				
内部障害理学療法学特論	3		1							□				
スポーツ理学療法学特論	3		1							□				
ヘルスプロモーション理学療法学特論	3		1							□				
地域理学療法学	地域理学療法学Ⅰ	3	2						◎					
	地域理学療法学Ⅱ	3	2							◎				
	地域理学療法学実習	3	2							◎				
	地域理学療法学特論	3		1							□			
臨床実習	臨床実習指導Ⅰ	3	2							◎				
	臨床実習指導Ⅱ	4	2								◎			
	評価実習	3	4								◎			
	総合臨床実習Ⅰ	4	8									◎		
総合臨床実習Ⅱ	4	8										◎		
卒業研究	4	2										◎		
小計	—	66	0	6										
合計	—	120	47	6										

必修科目66単位履修

卒業要件

基礎教養科目の必修科目10単位、選択科目から4単位以上、専門基礎科目の必修科目44単位、専門科目の必修科目66単位を修得し、124単位以上修得すること。(履修科目の登録の上限：50単位(年間))

群馬医療福祉大学リハビリテーション学部理学療法専攻 カリキュラムマップ

理学療法専攻ディプロマポリシー（理学療法専攻のカリキュラムを履修することにより修得できる能力）
 「知識・理解」(1) 理学療法士として活躍するための基礎的知識・技術を習得している (2) 人間性や倫理感を裏付ける幅広い教養を身につけている
 「思考・判断」(3) 対象となる人の身体的・心理的・社会的な健康状態を科学的に評価し、情報の統合と的確な判断を行い、必要な行動を示すことができる
 「技能・表現」(4) 基本的な医療行為を対象者にも自らにも安全に実施することができる (5) 他者の声に耳を傾け、自分の考えを口頭表現や文章表現によって伝えることができる
 「関心・意欲・態度」(6) 科学の進歩及び社会の医療ニーズの変化や国際化に対応して、生涯を通して自らを高めることができる
 (7) 地域や組織の中で医療人としての高い倫理観と責任感を持ち、他者と協力して仕事や研究を進める意欲を持つことができる

教育内容	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
基礎分野	○人間哲学 ○道徳教育 ○国際文化論 ○医療英語 I ○韓国語 I ○中国語 I ○基礎演習 I ○ポランティア活動 I ○情報処理 ○スホート・レクリエーション実技 ○レクリエーション活動援助法 ○障害者スポーツ ○医療・福祉・教育の基礎 △チアムケア入門 I	△教育原理 △生理学習概論 △物理学 △国際文化論 △マスマメテリア論 △医療英語 II △韓国語 II △中国語 II ○基礎演習 II ○ポランティア活動 II △美容技法 △情報処理 △スホート・レクリエーション実技 △レクリエーション活動援助法 △障害者スポーツ △医療・福祉・教育の基礎 △チアムケア入門 I	○解剖学 II ○生理学 II ○運動学 II ○臨床心理学 ○リハビリテーション医学 ○公衆衛生学	○表象認知・触診演習 ○臨床運動学実習 ○病理学概論 ○整形外科学 I ○整形外科学 II ○神経内科学 I ○精神医学	○運動生理学演習 ○内科・老年医学 I ○内科・老年医学 II ○整形外科学 II ○神経内科学 II ○小児科学	○基礎演習 I ○ポランティア活動 I △チアムケア入門 I	○基礎演習 II ○ポランティア活動 II △チアムケア入門 II	○総合演習 I	○総合演習 II
	△海外語学研修 (カナダ) (1~4 年)								
専門基礎分野	○解剖学 I ○生理学 I ○運動学 I ○一般臨床医学 ○リハビリテーション入門 △保健医療福祉論	○解剖学 II ○生理学 II ○運動学 II ○臨床心理学 ○リハビリテーション医学 ○公衆衛生学	○表象認知・触診演習 ○臨床運動学実習 ○病理学概論 ○整形外科学 I ○整形外科学 II ○神経内科学 I ○精神医学	○運動生理学演習 ○内科・老年医学 I ○内科・老年医学 II ○整形外科学 II ○神経内科学 II ○小児科学	○運動生理学演習 ○内科・老年医学 I ○内科・老年医学 II ○整形外科学 II ○神経内科学 II ○小児科学	△海外語学研修 (フィリピン) (1~3 年)			
	基礎理学療法学 理学療法評価学	基礎理学療法学 理学療法評価学	○理学療法評価学 I ○理学療法評価学実習 I ○運動療法学 I ○運動療法学実習 I	○理学療法評価学 II ○理学療法評価学実習 II ○運動療法学 II ○運動療法学実習 II ○物理療法学実習 ○物理療法学実習 ○鍼灸器具学	○理学療法評価学 II ○理学療法評価学実習 II ○運動療法学 II ○運動療法学実習 II ○物理療法学実習 ○物理療法学実習 ○鍼灸器具学	○理学療法学セミナー I ○理学療法学セミナー II	卒業研究		
専門分野	理学療法治療学 地域理学療法学 臨床実習	理学療法治療学 地域理学療法学 臨床実習	○運動療法学 III ○運動療法学実習 III ○鍼灸器具学実習 III ○理学療法技術論実習 III ○理学療法技術論実習 III ○基礎理学療法学特論 □中枢神経障害理学療法学特論 □内部障害理学療法学特論 □スホート理学療法学特論 □ヘルスプロモーション理学療法学特論	○運動療法学 III ○運動療法学実習 III ○鍼灸器具学実習 III ○理学療法技術論実習 III ○理学療法技術論実習 III ○基礎理学療法学特論 □中枢神経障害理学療法学特論 □内部障害理学療法学特論 □スホート理学療法学特論 □ヘルスプロモーション理学療法学特論	○理学療法学セミナー I ○理学療法学セミナー II	○理学療法学セミナー I ○理学療法学セミナー II	○臨床実習指導 I ○評価実習	○臨床実習指導 II ○総合臨床実習 I	○臨床実習指導 II ○総合臨床実習 II
	△海外語学研修 (カナダ) (1~4 年)								

○必修科目 △選択科目 □自由科目

群馬医療福祉大学リハビリテーション学部リハビリテーション学科作業療法専攻 教育課程

◎必修科目 △選択科目

授業科目の名称	配当年次	単位数		1年		2年		3年		4年		備考	
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
人間哲学	1	2	◎										
道徳教育	1	2	△										
教育原理	1	2	△										
生涯学習概論	1	2	△										
心理学	1	2	△										
国際文化論	1	2	△										
美術技法	1	2	△										
物理学	1	2	△										
法学	1	2	△										
経済学	1	2	△										
情報処理	1	2	△										
マスメディア論	1	2	△										
医療英語Ⅰ	1	2	◎										
医療英語Ⅱ	1	2	△										
韓国語Ⅰ	1	2	△										
韓国語Ⅱ	1	2	△										
中国語Ⅰ	1	2	△										
中国語Ⅱ	1	2	△										
スポーツ・レクリエーション実技	1	2	△										
レクリエーション活動援助法	1	2	△										
障害者スポーツ	1	2	△										
医療・福祉・教育の基礎	1	2	△										
チームケア入門Ⅰ	1	1	△										
チームケア入門Ⅱ	2	1		△									
基礎演習Ⅰ	1	1	◎										
基礎演習Ⅱ	2	1		◎									
総合演習Ⅰ	3	1				◎							
総合演習Ⅱ	4	1							◎				
ボランティア活動Ⅰ	1	1	◎										
ボランティア活動Ⅱ	2	1		◎									
海外語学研修(カナダ)	1~4	2			△								
海外語学研修(フィリピン)	1~3	2		△									
小計	—	10	46										
基礎科目	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学Ⅰ	1	2	◎								
		解剖学Ⅱ	1	2	◎								
		解剖学実習	1	1	◎								
		生理学Ⅰ	1	2	◎								
		生理学Ⅱ	1	2	◎								
		生理学実習	1	1	◎								
		運動学Ⅰ	1	2	◎								
		運動学Ⅱ	1	2	◎								
		運動学実習	2	1	◎								
		人間発達学	1	1	◎								
		病理学概論	2	2		◎							
		臨床心理学	1	2		◎							
		一般臨床医学	1	2		◎							
専門基礎科目	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	リハビリテーション医学	1	2		◎							
		内科・老年医学Ⅰ	2	2			◎						
		内科・老年医学Ⅱ	2	2			◎						
		整形外科Ⅰ	2	2			◎						
		整形外科Ⅱ	2	2			◎						
		神経内科学Ⅰ	2	2			◎						
		神経内科学Ⅱ	2	2			◎						
		精神医学	2	2			◎						
		小児科学	2	2			◎						
		リハビリテーション入門	1	1		◎							
テーリハビリの理念	保健医療とリハビリの理念	保健医療福祉論	1	1	△								
		公衆衛生学	1	1		◎							
		小計	—	44	1								

必修科目10単位のほか、選択科目から4単位以上履修

授業科目の名称	配当年次	単位数		1年		2年		3年		4年		備考
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
基礎作業療法学	作業療法入門	1	1		◎							
	作業療法入門実習	2	1				◎					
	作業療法管理論	4	1								◎	
	ひとと作業	1	1		◎							
	ひとと作業活動Ⅰ	1	2			◎						
	ひとと作業活動Ⅱ	2	2				◎					
	作業療法研究法	3	1						◎			
	作業療法セミナーⅠ	3	1							◎		
	作業療法セミナーⅡ	4	1									◎
	作業療法評価学	作業療法評価法Ⅰ	2	2				◎				
作業療法評価法Ⅱ		2	2					◎				
作業療法評価法Ⅲ		3	1						◎			
作業療法評価法特論Ⅰ		3	1							△		
作業療法評価法特論Ⅱ		3	1								△	
作業療法治療学	身体機能作業療法Ⅰ	2	1				◎					
	身体機能作業療法Ⅱ	2	2					◎				
	精神機能作業療法Ⅰ	2	1				◎					
	精神機能作業療法Ⅱ	2	2					◎				
	発達過程作業療法Ⅰ	3	2						◎			
	発達過程作業療法Ⅱ	3	1							◎		
	高齢期作業療法Ⅰ	3	2							◎		
	高齢期作業療法Ⅱ	3	1								◎	
	ひとと暮らしⅠ	2	2				◎					
	ひとと暮らしⅡ	2	2					◎				
	義肢装具学	3	1							◎		
	作業療法治療学Ⅰ	2	1					◎				
	作業療法治療学Ⅱ	3	1						◎			
	作業療法治療学Ⅲ	3	1						◎			
	作業療法技術論Ⅰ	3	1							△		
作業療法技術論Ⅱ	3	1								△		
作業療法技術論Ⅲ	3	1								△		
作業療法特論Ⅰ	3	1									△	
作業療法特論Ⅱ	3	1									△	
作業療法特論Ⅲ	4	1									△	
作業療法特論Ⅳ	4	1									△	
地域作業療法学	地域作業療法入門Ⅰ	2	1				◎					
	地域作業療法入門Ⅱ	2	1					◎				
	地域作業療法実習Ⅰ	2	1						◎			
	地域作業療法実習Ⅱ	2	1							◎		
	臨床実習	臨床評価実習指導	3	1								◎
臨床評価実習Ⅰ		3	3								◎	
臨床評価実習Ⅱ		3	3								◎	
臨床総合実習指導		4	1									◎
臨床総合実習Ⅰ		4	8									◎
臨床総合実習Ⅱ		4	8									◎
卒業研究		4	2									◎
小計	—	66	9									
合計	—	120	56									

必修科目66単位のほか、選択科目から2単位以上を履修

卒業要件

基礎教養科目の必修科目10単位、選択科目から4単位以上、専門基礎科目の必修科目42単位、専門科目の必修科目66単位、選択科目から2単位を修得し、124単位以上修得すること。
(履修科目の登録の上限：50単位(年間))

群馬医療福祉大学リハビリテーション学部作業療法専攻 カリキュラムマップ

作業療法専攻ディプロマポリシー（作業療法専攻のカリキュラムを履修することにより修得できる能力）
 「知識・理解」(1) 作業療法士として活躍するための必要な基礎的知識・技術を習得している (2) 人間性や倫理感を裏付ける幅広い教養を身につけている
 「思考・判断」(3) 対象となる人の身体的・心理的・社会的な健康状態を科学的に評価し、情報の統合と的確な判断を行い、必要な行動を示すことができる
 「技能・表現」(4) 基本的な医療行為を対象者にも自らにも安全に実施することができる (5) 他者の声に耳を傾け、自分の考えを口頭表現や文章表現によって伝えることができる
 「関心・意欲・態度」(6) 科学的進歩及び社会の医療ニーズの変化や国際化に対応して、生涯を通じて自らを高めることができる
 (7) 地域や組織の中で医療人としての高い倫理観と責任感を持ち、他者と協力して仕事や研究を進める意欲を持つことができる

教育内容	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
基礎分野	〇人間哲学 △道徳教育 △心理学 △国際文化論 △法理学 △医療英語 I △韓国語 I △中国語 I △韓国語 II △中国語 II	△教育原理 △生涯学習概論 △物理学 △経済学 △マスマティクス △韓国語 II △中国語 II	〇基礎演習 I 〇ポランティア活動 I △情報処理 △スポーツ・レクリエーション実技 △レクリエーション活動援助法 △障害者スポーツ △医療・福祉・教育の基礎 △チャームケア入門 I	〇基礎演習 II 〇ポランティア活動 II △チャームケア入門 II	〇総合演習 I	〇総合演習 II		
	△ 海外語学研修 (カナダ) (1～4 年)							
専門基礎分野	〇解剖学 I 〇生理学 I 〇運動学 I	〇解剖学 II 〇生理学 II 〇運動学 II	〇運動学実習 〇病理学概論 〇整形外科学 I 〇神経内科学 I 〇精神医学	〇内科・老年医学 I 〇内科・老年医学 II 〇整形外科学 II 〇神経内科学 II 〇小児医学				
	△ 海外語学研修 (フィリピン) (1～3 年)							
専門分野	〇基礎作業療法学 〇作業療法評価学	〇基礎作業療法学 I 〇身体機能作業療法学 I 〇精神機能作業療法学 I 〇ひとと暮らし I	〇ひとと作業活動 II 〇作業療法評価法 I	〇作業療法入門実習 〇作業療法評価法 II	〇作業療法研究法 〇作業療法評価法 III 〇作業療法評価法特論 I 〇作業療法評価法特論 II	〇作業療法セミナー I 〇作業療法管理論	〇作業療法セミナー II 〇作業療法特論 III △作業療法特論 IV	卒業研究
	作業療法治療学	〇身体機能作業療法学 II 〇精神機能作業療法学 II 〇ひとと暮らし II	〇身体機能作業療法学 II 〇精神機能作業療法学 II 〇ひとと暮らし II 〇作業療法治療学 I	〇身体機能作業療法学 II 〇精神機能作業療法学 II 〇ひとと暮らし II 〇作業療法治療学 I △作業療法技術論 I △作業療法技術論 II	△作業療法特論 I △作業療法特論 II △作業療法特論 III △作業療法特論 IV		〇臨床総合実習指導 〇臨床総合実習 I 〇臨床総合実習 II	〇臨床総合実習 I 〇臨床総合実習 II
臨床実習		〇地域作業療法学入門 I	〇地域作業療法学入門 II 〇地域作業療法学実習 I 〇地域作業療法学実習 II	〇臨床評価実習指導 〇臨床評価実習 I 〇臨床評価実習 II	〇臨床総合実習指導 〇臨床総合実習 I 〇臨床総合実習 II	〇臨床総合実習 I 〇臨床総合実習 II	〇臨床総合実習 I 〇臨床総合実習 II	

基礎科目

共 通

科目名	人間哲学	担当教員 (単位認定者)	鈴木 利定	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学・作業療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目			
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目			
キーワード	儒教 論語 孔子 孟子 老荘思想				

■授業の目的・到達目標

「人間とは何か」我々はこれまで幾度となくこの問いかけを繰り返してきた。中国の思想家たちは、この問いにどのように解答しているのか。そしてそれぞれの解答に対して自分自身はどう思うのかを自ら問うてみる学問をねらいとしている。

■授業の概要

孔子は人間にいかによく生きべきかという問いについて、人間によるべき新しい「道」をどのように考えたか。仁と礼について、特に最近では礼儀をわきまえないという声もある。つまり「形式的な礼など無用だ。真心さえ持っていればそれでよいのでは虚礼廃止だ。」ということもあるが、孔子の説いた礼をもとに現代における礼のあり方を学ぶ。プラトンと同じく孔子は、理想国家を説くことにより政治のあり方を説いた。孔子の説いた政治道徳の現代にあてはまることを学ぶ。老子・荘子は孔子と並ぶ中国の代表的な思想家である。両者は全く相反する傾向すら持っている。この両者の思想を比較し、学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション / 論語序説「史記」孔子出家で孔子の履歴を知る。学ぶことの意義、孝弟について、文を学ぶことは人倫の大きな者について、信と義について。君子と貧しきものの生き方。学問について。
第2回	政とは如何なるべきか。志学より従心までの心持。孝と敬と。人物の観察法。身を正すこと。内省。志の大切さ。道に志す。性善論。信の大切さ。
第3回	教育論、礼に反する儀式について。僭し泰れに旅したこと。祭りと祭神について。射にみる古道について。
第4回	大学の道についての孔子の説明。大学辛句(右経一章) 明德を明らかにするを積く。民を新に積く。(右伝の三章、右伝の二章)
第5回	至善に止まるを積く。本末を積く。(右伝の三章、右伝の四章) 心を正しくして身を脩めて、家を斉う。(右伝の七章、右伝の八章)
第6回	家を斉へて国を治むるを積く。(右伝の十章) 朱子の中庸に対する解説であり、孔子の孫子思が道学のその伝を失わんことを優えて作るより説きおこす。(中庸章句序)
第7回	道に対する知者、愚者、賢者、不肖のかかわりを論ずる。(右章第四章、五章、六章)
第8回	顔回が中庸をえらび人生に処したことを論ずる。(右第七、八、九章)
第9回	国に道あると無きとに閑せず節操を持つべきを子路に示す。(右第十、十一章)
第10回	孔子が憂いが無いのは文王だけだろうと語った理由を論ず。(右第十九章)
第11回	よく民を治めるには、誠は天の道なるを知るに有るを論ず。(右第二十章)
第12回	孔子の思想が「人間中心」であり、「ヒューマニズム」であるといわれるのはなぜかを学ぶ。
第13回	孟子の人間観と荀子の人間観は孔子を中心とした仁と礼のいずれかの強調からきたものである。孟子、荀子はそれぞれを重視するものか、仁を重視するものかを考える。「四端の心」について学ぶ。
第14回	老荘思想においては、人間をどのようにとらえるか。又、儒教の人間観に対してどのような批判をしているかを学ぶ。
第15回	老荘思想と儒教のどちらの人間観により自己の思想を築いていくのかを学ぶ。

■受講生に関わる情報および受講のルール

成績評価は、試験・レポート・出席状況を監視、一度も休みのない者については、成績としては十分な評価を与える。出欠席は重視する。理由なくして欠席、遅刻の多い者(2回以上の者)は成績評価を受ける資格を失う。欠席の虚偽申告(代返等)をした者は単位を認めない。講義中のノート筆記は必ず行い、質問に対して的確な解答ができるよう努める。私語は厳禁。注意を促し、場合によっては退出を命ずる。再試は1回のみ。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(ウェブフォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

テキストの予習・復習をすること。

■オフィスアワー

火曜日 10時30分～12時。

■評価方法

■筆記試験(口論述 □客観) ■レポート □口答試験 □実地試験 □その他
 評価配分:成績評価は、試験(70%)・レポート(15%)・授業取組み状況(15%)を鑑み、評価を与える。

■教科書

鈴木利定著「儒教哲学の研究—修正版」(明治書院) 咸有一徳(中央法規)

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	道徳教育	担当教員 (単位認定者)	岡野 康幸	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学・作業療法専攻 1 年次選択科目	免許等指定科目			
	カリキュラム上の位置づけ		基礎科目		
キーワード	道徳 道徳教育 建学の精神 仁 マナー				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

社会の一員として人は他者と協力し共存しながら生活をしていきます。では、どのようにすれば自他ともによりよい生活を送ることが可能でしょうか。それは人が誰しも心の奥に存在する「人間らしくよりよく生きよう」とする小さな声、つまり道徳心を構築することから始まります。この講義では道徳心をどのように育てていくのかを建学の精神（儒学の「仁」と関連しながら解説していきます。また、小・中教員免許の取得を目指す学生のために、どのように道徳の授業を構成・展開するのかを、テキスト以外にも身近な事例話題をもとに指導案の作成などを通して指導力の育成に当たります。

〔到達目標〕

- ・自覚的に道徳心を養おうとする態度を身につけ、感情ではなく道徳的判断を可能としその道徳的判断を論理的に説明できる。
- ・児童・生徒の発達段階に即した道徳の授業を計画し、系統的に授業ができる。

■授業の概要

- ・人はどのような時に道徳心を発揮するのか、テキスト掲載の中国古典を例に学生との議論や解説を通じて考察する。その過程を経ることにより、人としてのあり方・生き方について自ら学び、積極的に社会に参加できる力を養う。
- ・児童・生徒が日常的に経験する事例から道徳の端緒を探り、どのように拡充していくかを討論から考察する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	授業オリエンテーション(講義内容・方法・授業時の留意事項・評価)ハチドリのひとつ(事象の論説・事実把握・論述すること)
第2回	咸有一徳とは、「徳」「仁」の字源から咸有一徳を解釈する
第3回	論語に見る「仁」「徳」の解釈、孔子の時代について
第4回	「真心」の解説(中国における儒学関係古典の解釈)「心」の字源
第5回	「至誠」「尽くす」の解説・「儒教」とは、五倫五常の解説
第6回	王陽明『伝習録』と建学の精神—仁について—
第7回	王陽明『伝習録』と教育理念—知行合一について—
第8回	小学校・中学校学習指導要領に示された「道徳」—各年代における位置づけ—、明治以降の教育界における道徳教育の変遷
第9回	小学校・中学校における道徳課題について
第10回	道徳課題に基づき指導案を作成してみる
第11回	模擬授業
第12回	続模擬授業、総括(総括に基づき訂正の上、指導案を提出してもらいます)
第13回	豊かな人間性の涵養と、人格の向上について(交際・礼儀作法・エチケット)家庭生活の基本マナー(儒学における関係古典文献より考察)
第14回	福祉界が望むマナー(人として大切であることを説く中国古典、先達の言葉から考察)
第15回	時事問題の考察・発表・解説(人としてのあり方・生き方を考える)

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・ただ授業を聞くといった受け身の姿勢ではなく、「学ぶ意義」を自身に問いかけながら、積極的に参加すること。
- ・周囲の迷惑になるので私語は慎むこと。
- ・本人の責に帰す遅刻早退は認めない。
- ・不明な用語に当たったら、辞典類で調べること。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(WEBフォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

講義に臨む前に、指定箇所を必ず読んでおくこと。読んでいるという前提で講義を進める。

■オフィスアワー

毎週火曜 14 時～ 16 時。

■評価方法

期末試験 70%、課題 15%、発表 15%。

■教科書

鈴木利定・中田勝著『咸有一徳』修訂第2版、中央法規、2014年5月
 鈴木利定・中田勝著『王陽明 徐愛「伝習録集評」』明德出版社、2016年6月

■参考書

『中学校学習指導要領 道徳編』『小学校学習指導要領解説 道徳編』

科目名	教育原理	担当教員 (単位認定者)	江原 京子	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学・作業療法専攻 1 年次選択科目	免許等指定科目	教員免許状取得		
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目			
キーワード	教育思想の変遷、学校の歴史、義務教育の意義、教育課程の編成、「わかる」と「できる」、非言語・言語コミュニケーション				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

学習指導要領の「総則」に示される、これからの日本の学校教育の理念、具体化の方向の趣旨に沿い、我が国が歩んできた教育の歴史的背景を理解する。教育課程とは何か、これからの日本の教師はどうあるべきかを学び、必要な資質や能力、態度の基礎・基本を養う。

〔到達目標〕

- 1 教育思想の変遷に基づき、歴史的背景から教育の本質を捉えることができる。
- 2 学校の歴史・義務教育の意義が理解できる。
- 3 教育課程を理解し、教育活動の展開の実際を身につける。

■授業の概要

- 1 教育における人間観を哲学者のカントや比較動物学者のポルトマンから言及し、教育思想の展開を、村井実のモデル（①手細工モデル、②農耕モデル、③生産モデル）を用い、社会的背景を交えながら考察し、学校の歴史や義務教育史にも触れる。
- 2 子どもと授業の関係を、「わかる」「できる」「考える」といったそれぞれの違った視点から捉える。さらに、教育現場における言語コミュニケーションと非言語コミュニケーションの教育的意義について考え、学校における教育的効果について考える。
- 3 教育課程を理解し、教育活動の展開の実際を身につける。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション（授業概要、評価方法等）- 授業の冒頭に示す【視点】を意識し授業に臨む。 教育における人間観-「人間は教育によってのみ人間になる」その功罪、野生児に学ぶ。
第2回	教育思想の変遷 ① 手細工モデルと農耕モデルの特徴と問題点
第3回	教育思想の変遷 ② 生産モデルの特徴と問題点
第4回	学校の歴史 ① 学校とは何か・学校の定義、下構型・上構型の学校システム
第5回	学校の歴史 ② 就学の形態：複線型、分岐型、単線型
第6回	義務教育の意義 ① 義務教育の歴史からその成立に至った意義について4つの視点からみる
第7回	義務教育の意義 ② 日本の義務教育制度の変遷、教育課程
第8回	教育システムの閉鎖性と開放性の諸問題
第9回	教育課程の編成
第10回	子ども理解の視点 ① 「わかっている」とはどういうことか-事例を通して考える-
第11回	子ども理解の視点 ② 「わかっている」が出来ていないというのはどういうことか-事例を通して考える-
第12回	学校における非言語コミュニケーション ①人は気持ちをどう伝え合うのか-近言語的、非言語-
第13回	学校における非言語コミュニケーション ②人は気持ちをどう伝え合うのか-空間の行動、人工物、物理的環境等-
第14回	言語コミュニケーション 言語を通してのコミュニケーションの役割
第15回	教師について考える 発問と質問/まとめ 14回を通して、教育の意義・目的を理解し、教師としての資質を確認する。

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 1 遅刻・欠席は授業時間前に必ず届け出ること。無断欠席や遅刻の多い学生は受講取消もあり得る。
- 2 授業中に課したミニレポート・シャトルカードを必ず提出すること。
- 3 予習復習を必ず行い、疑問点を確認しておくこと。
- 4 将来、教職に携わる者としての資質を養うため、私語を慎み、誠意ある態度での受講を求める。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式
 シャトルカード方式
 ICT利用（WEBフォームやメールなど）
 その他（ミニレポート）

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・授業の要約もしくは課題をミニレポートとシャトルカードにまとめ、指定した日時までに提出すること。ミニレポートをまとめる際、語句の意味や内容を専門書等で調べ詳細にまとめること。
- ・定期試験やミニレポートのまとめは授業中の内容が中心となるため、真摯な態度で授業に臨み、毎回の授業内容を確認し、疑問点等を残さないようにしておくこと。

■オフィスアワー

水曜日 9時～11時。それ以外の時間帯については、要相談・要予約。

■評価方法

授業中に課したミニレポート・シャトルカードの内容（30%）、試験またはレポート（70%）を総合して評価する。

■教科書

柴田義松著 『新教育原理』 有斐閣双書、2005年

■参考書

講義の中で適宜紹介する。

科目名	生涯学習概論	担当教員 (単位認定者)	篠原 章	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学・作業療法専攻 1 年次選択科目	免許等指定科目			
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目			
キーワード	だれでも どこでも いつでも 秘められた宝				

■授業の目的・到達目標

生涯学習の基本理念と内容を理解し、わが国の歴史的展開と現状や世界の流れを知るとともに、生涯学習における学び方を身に付け、学習者への支援方法を効果的に活かせる力を養う。

■授業の概要

生涯学習における日本と世界の基本的考え方や理念、特にユネスコとOECDの相違、生涯学習の今後の展望を学ぶ。また現在の家庭・学校・社会の諸課題を踏まえ、生涯学習時代に期待される人間像について考察する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第 1 回授業にて配付します。

第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	国際社会における議論
第 3 回	日本での議論・政策
第 4 回	生涯学習の理念と理論(その 1)
第 5 回	生涯学習の理念と理論(その 2)
第 6 回	生涯学習の内容と形態
第 7 回	学校教育と生涯学習
第 8 回	外国の生涯学習(その 1)
第 9 回	外国の生涯学習(その 2)
第 10 回	生涯学習の先駆け(その 1)
第 11 回	生涯学習の先駆け(その 2)
第 12 回	社会教育制度
第 13 回	生涯学習支援の動向と課題
第 14 回	まちづくりと生涯学習
第 15 回	グローバリゼーションと生涯学習

■受講生に関わる情報および受講のルール

板書・口述内容は、定期試験に重要なので整理すること。
小論文、レポートは必ず提出すること。
5 回を超えて欠席すると定期試験の受験資格を失う。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT 利用(WEB フォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

予習に重点を置き学習すること。「学び方を学ぶ」ということ意識して学習すること。

■オフィスアワー

講師室で授業後 30 分。

■評価方法

定期試験・小論文・レポートを総合的に評価する。(目安)定期試験 70%、小論文・レポート 30%。

■教科書

「テキスト生涯学習 新訂版」学文社

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	心理学	担当教員 (単位認定者)	橋本 広信	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学・作業療法専攻 1 年次選択科目	免許等指定科目	特になし		
カリキュラム上の位置づけ		基礎教養科目			
キーワード	感覚、知覚、認知、思考、知能、学習、記憶、パーソナリティ、発達				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

心に関する現象や基礎知識を学ぶことで、人の心を成立させている機能やメカニズムを理解し、幅広く人間を理解する知識と視点を得る。

〔到達目標〕

- ①知覚と認知のメカニズムの理解を通し、人が感じ生きている個別の世界を想像する基礎知識を得る。
- ②学習と記憶の仕組みの理解を通し、人の人格や生活世界の心理的基盤をイメージすることができる。
- ③生涯にわたる発達の流れを把握することで、人がどのように生き、どのような課題と出会うかについてイメージすることができる。
- ④専門職として出会う患者の心理を直接当事者から学ぶことで、学びへの姿勢や意欲を高め、患者理解の基礎体験を作ることができる。

■授業の概要

広範囲にわたる心理学の研究や知識を概観し、人の心理や行動、人間関係の理解に関する基礎知識を学んでいく。心理学は臨床心理学など、応用的心理学の基礎となる科目であり、精神医学などその他の科目とも連動する内容となっている。他の心理学の理解のためにも、積極的に学習に臨んでほしい。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション：心理学の歴史と研究法
第2回	知覚：感覚、知覚、錯視
第3回	空間・運動知覚と認知
第4回	学習の理論と記憶の基礎、パブロフ、スキナー、バンデューラ 他
第5回	動機づけ：マズローの理論、自己効力感、学習性無力感
第6回	感情：コンフリクト、フラストレーション、防衛機制、ストレスコーピング
第7回	パーソナリティ：類型論と特性論、ビッグファイブ、パーソナリティ検査の種類と方法
第8回	知能と知能検査
第9回	思考：集中的思考、拡散的思考、問題解決、創造性
第10回	発達①：発達段階論 児童期まで
第11回	発達②：発達段階論 青年期および成人期
第12回	発達③：成人期・老年期、喪失、グリーフワーク、モーニングワーク、ライフクリプト、トラウマ、PTSDとPTG
第13回	リハビリテーション患者の心理を考える① 障害受容とその功罪
第14回	リハビリテーション患者の心理を考える② 障害当事者から学ぶ、障害者の心理（身体障害）
第15回	リハビリテーション患者の心理を考える③ 障害当事者から学ぶ、障害者の心理（難病等）

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・選択科目ではあるが、医療・福祉職を目指すものにとって国家試験に関連する基礎知識を学ぶので履修することが望ましい。

〔受講のルール〕

- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は退席を命じます。その場合は欠席扱いとします。
- ・評価にある通り、3回程度小レポートや感想文を課す予定。それぞれ評価の対象になりますので、必ず提出してください。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式
 シャトルカード方式
 ICT利用（WEBフォームやメールなど）
 その他（ ）

■授業時間外学習にかかわる情報

多くの用語が出てくるので、概要に基づき教科書中の該当部分を予習し用語調べをしてノートなどに記録しておくこと。授業の最初に数名を指名し、確認をする。

■オフィスアワー

火曜日 11 時～13 時 30 分。

■評価方法

- ・総合評価は、以下の通りの割合で評価。総合得点 60～69 点：C 70～79 点：B 80～89 点：A 90 点以上：S
- ・期末試験 70%、小レポート・感想文等提出物 30%（30 ÷ 提出回（予定 3 回）= 1 提出物得点（1 回 10 点満点：提出により得点））。

■教科書

二宮克美編著『ベーシック心理学 第2版』（医歯薬出版、2016）

■参考書

鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃編『心理学（第5版）』（東京大学出版会、2015） 他適宜指示をする

科目名	国際文化論	担当教員 (単位認定者)	久山 宗彦	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学・作業療法専攻 1 年次選択科目	免許等指定科目			
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目			
キーワード	人づくり、対話と独語(ひとりごと)、平和				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

国際文化論(intercultural studies)を勉強すれば、国際的な相互依存関係の中で生きていく私たちが、自立した個人として生き生きと活躍していくためには、自国の文化に根差した自己の確立や、異なる文化を持った人たちをも受け入れる必要があることがわかるようになる。

〔到達目標〕

国際文化論は、異なる文化を持った人たちと繋がっていける能力や態度を身につけていくことを主眼としている。

■授業の概要

世界の諸事情と日本との関係を知り、自らの歩む道について考える。更に、日本と世界(諸外国)の関係がどのように発展したらよいかについても考察する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	「国際文化論が目指すのは国際平和である。」～特に難民問題と日本の関わりを巡って～
第2回	和の文化(1)～その構造について～
第3回	和の文化(2)～神の文化との比較～
第4回	マルティン・ブーバー(Martin Buber)の「関係」の哲学(1)
第5回	マルティン・ブーバー(Martin Buber)の「関係」の哲学(2)～医療世界への応用～
第6回	日本外交の原点に位置する聖徳太子
第7回	ヨーロッパ文明とEU
第8回	日本と中東(1)
第9回	日本と中東(2)
第10回	湾岸戦争後のイラクの弱者に対する救護活動
第11回	ダブリン(Dublin)のホスピスの発祥の地、聖母ホスピスを訪ねて
第12回	「平和」実現への第一歩とは(1)
第13回	「平和」実現への第一歩とは(2)～平和憲法の共有～
第14回	国際文化論として考えるリハビリテーション
第15回	個性と異文化との格闘、異文化理解、そして外国語

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・授業レジュメは原則として毎回配布する。
- ・授業には積極的な態度で臨むように。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(WEBフォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

世界の国々と関わる日本のニュースにも、いつも関心を持っていただきたい。

■オフィスアワー

授業終了後 30 分。

■評価方法

最終レポート試験(80%)、授業時等のレポート(20%)。

■教科書

教科書は使用しないが、毎回の授業時には授業レジュメのほかに、時々参考資料を配布する。

■参考書

授業時に随時紹介する。久山宗彦著「神の文化と和の文化」(北樹出版)もそのうちの一つである。

科目名	美術技法	担当教員 (単位認定者)	本田 真芳	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	理学・作業療法専攻 1 年次選択科目	免許等指定科目			
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目			
キーワード	発想 表現 鑑賞 版画製作 版画の教育的意義				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

表現及び鑑賞の活動を通して感性を働かせながら作り出す喜びを味わう。造形的な創造活動の能力を培い、豊かな情操を養うことを目的とする。

〔到達目標〕

- ①私たちの造形表現の歴史は、私たちが外界と内面とに感じる「美」との対話の歴史であることを知ることができる。
- ②造形表現を学ぶ、あるいは教える目的は、まず造形表現の面白さに気づくことができる。
- ③版画を歴史的に俯瞰した場合、印刷術の発展とは切っても切れない関係があることを知ることができる。

■授業の概要

人は生きていく限り様々な体験をし、様々な生活感情を持ち、命ある人間がその生活感情に基づき、何かを表そうとする意識を持った時、それが表現の原点であることを身につけ美術技法を通して、美しいものを作ろうという観念から版画の歴史、その流れを学び、版画の教育的意義を理解する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	オリエンテーション 美術技法を考える 版画の材料と用具
第2回	発想、表現 鑑賞について 版画の種類について
第3回	美術の概念 木版の伝統技法について
第4回	木版のいろいろな技法
第5回	版画の歴史について考える 銅版の流れ
第6回	版画の種類について学ぶ 凸版凹版、平板、孔版の確認
第7回	版画の種類について学ぶ 直接法と間接法
第8回	基本技法を学ぶ 各技法による道具の確認
第9回	基本技法を学ぶ いろいろなものでドライポイントを試みる
第10回	製版の準備 ドライポイント プレートを使用する
第11回	製版の準備 インクの詰め方、ふき取り方を学ぶ
第12回	製版の準備 プレス機の(圧) いろいろな工夫を学ぶ
第13回	製版の実践・刷り インクの硬さ、やわらかさについて学ぶ
第14回	製版の実践・刷り インクの硬さ、やわらかさが適切であったかの確認
第15回	製版の実践・刷り 紙による印刷効果の違いを学ぶ
第16回	基本技法を学ぶ (メゾチント)について 黒の版面を削り作成する

第 17 回	基本技法を学ぶ (ルーレット)について ルーレットで不規則な点の下地を作る
第 18 回	基本技法を学ぶ (エッチング)について 針で軽く絵を描き腐蝕させる技法
第 19 回	基本技法を学ぶ (ソフトグラウンド)について 亀裂が生じた版を腐蝕する技法
第 20 回	基本技法を学ぶ (アクアチント)について 松ヤニの粉末を使う技法
第 21 回	その他の技法 ステンシル、孔版、穴から絵具を刷り込んで作る技法
第 22 回	その他の技法 謄写版画、ロウ引きの原紙に鉄筆などで描く方法
第 23 回	凸版を刷る 実物版、紙版、木版、ゴム版等で作成する
第 24 回	版画のサインと限定番号 他の複製作品と区別するために用いる
第 25 回	製版の実践 版材となる金属板を用意する
第 26 回	製版の実践 銅版の切り方、銅版カッターを使う、俗に「ひっかき」ともいう
第 27 回	紙の湿し方 銅版画の刷りのためには、前もって湿らせる必要がある
第 28 回	銅版画におけるプレス庄の決め方 ドライポイントプレートと銅版の違い
第 29 回	銅版画における刷り、インクの詰め方、インクの拭き取りについて
第 30 回	版の保存と構図等はどうであったか、他の作品の鑑賞

■受講生に関わる情報および受講のルール

シラバスを確認し積極的に授業に取り組むこと。他の学生の迷惑になる行為は慎むこと。次の講義の資料等配布する。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT 利用 (WEB フォームやメールなど)
 その他 ()

■授業時間外学習にかかわる情報

作業内容を十分理解し授業に臨むこと。復習予習を必須とする。

■オフィスアワー

授業前後 30 分対応可能。

■評価方法

課題作品 70% (作品の構成、バランス、プロポーシオン、コントラスト等で評価)、試験 (レポート) 30%。
総合で評価します。

■教科書

長谷喜久一 (著) 図画工作 建帛社

■参考書

宮脇理 (著) ベーシック造形技法 建帛社

科目名	物理学	担当教員 (単位認定者)	栗原 秀司	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学・作業療法専攻 1 年次選択科目	免許等指定科目			
	カリキュラム上の位置づけ		基礎科目		
キーワード	運動、力、エネルギー、波動、電磁気、原子				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

物理学を通して自然科学の基本的な考え方を学び、応用できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①力の種類を知り、力のつりあいや運動の法則等を応用して、ヒトの体や骨・筋肉にはたらく力を求めることができる。
- ②運動の表し方を知り、式やグラフを読み取ることや式やグラフで表すことができる。
- ③エネルギー、熱、波、電気、磁気、放射線等について知り、その表し方や法則を理解し説明できる。

■授業の概要

物理学は自然を理解する基本的な考え方であるとともに、多くの場面で利用されている。医療の現場では検査や治療に応用されているだけでなく、ヒトの体の骨格・筋肉等は力学に従っている。本授業では力学を中心に物理学の基本的な考え方を説明し、エネルギー、熱、波、電気、磁気、放射線等について概説する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第 1 回授業にて配付します。

第 1 回	科目オリエンテーション、「物理を理解するための道具とルール」 物理で扱う文字式や数式など、物理に必要な最低限の数学の知識と、物理量の注意点について学ぶ。
第 2 回	「力学の基本ー物体の運動を数式で表すー」 身近な物体の運動を観察し、数式やグラフで表す方法について学ぶ。
第 3 回	「物体の運動と力の関係(1)ー力の表し方と力の種類ー」 物体にどのような力がはたらいているかを知り、その関係を学ぶ。
第 4 回	「物体の運動と力の関係(2)ー運動方程式ー」 物体に力がはたらいて加速度が生じる場合の法則を知り、式の立て方を学ぶ。
第 5 回	「圧力のはたらきと物を回転させる力」 気圧や水圧など身近な圧力を知る。大きさのある物体にはたらく力や力のモーメント、三種類のてこについて学ぶ。
第 6 回	「エネルギーとその保存法則」 エネルギーとは何か、力と仕事、エネルギーの保存、様々なエネルギーの変換例などを学ぶ。
第 7 回	「運動量と視点の違いにより感じる力」 運動量とは？衝突や分裂など瞬間的な力がはたらいたときの運動の扱い方や、見る位置の違いで速度や力のはたらき方の違いについて学ぶ。
第 8 回	「気体分子の運動と熱エネルギー」 温度と熱の違いやその関係、気体の温度・圧力・体積についての法則などについて学ぶ。
第 9 回	「波の性質とその表し方」 波の伝わり方や波の種類、その性質などを学ぶ。
第 10 回	「波で理解する音と光の現象」 身近な音や光は波の性質を持っていることを、一部実験や観察を交えて学ぶ。
第 11 回	「静電気のとちとその表し方」 目に見えない電気を表すための「電場」や「電位」という考え方を学ぶ。
第 12 回	「オームの法則から理解する電気回路」 電流と電気回路について理解し、電気エネルギーの表し方を学ぶ。
第 13 回	「電流と磁場の関係」 電流が作る磁場、磁場から電流が受ける力、荷電粒子が磁場から受ける力などを学ぶ。
第 14 回	「電磁誘導と交流」 磁石やコイルを動かすと電流が生じる現象、日常使用している交流や電磁波について学ぶ。
第 15 回	「原子の構造と放射線」 原子の構造、3 種の放射線の発生とその性質、核反応の仕組みについて学ぶ。全体のまとめをする。

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・チャトルカードで出席を確認するので、授業終了時に必ず提出すること。
- ・座席は特に指定しないが、できるだけ前に座るようにすること。

〔受講のルール〕

- ・分からないところがあれば、授業中いつ質問をしてもよい。分からないところをそのままにしないようにすること。
- ・授業内容に関係のない私語は慎むこと。他の受講生の迷惑になる行為は禁止する。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式
 シャトルカード方式
 ICT 利用 (WEB フォームやメールなど)
- その他 ()

■授業時間外学習にかかわる情報

事前に教科書を読み、学習内容の全体像を把握しておくこと。授業終了後は、授業で扱った問題や授業中に扱えなかった教科書の章末問題を解いて理解を深めるようにすること。2 回目以降の授業では最初に前回の授業についての確認テストを行う。

■オフィスアワー

- ・授業終了後 30 分間。
- ・シャトルカードに質問を記載すれば返答を書き、必要に応じて次の授業で返答する。

■評価方法

確認テスト 15%、筆記試験 85%。

■教科書

時政孝行監修、菓子研著：まるわかり！基礎物理、南山堂

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	法学	担当教員 (単位認定者)	森田 隆夫	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学・作業療法専攻 1 年次選択科目	免許等指定科目	社会福祉主事任用資格指定科目		
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目			
キーワード	法学概論、憲法、民法、理学療法士及び作業療法士法				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

医療福祉の法律の実践では、法律関係が随所にあり、基本的知識や法的センスが必要となります。そこで、医療福祉を志す者に必要な基本的法領域として、法学概論・憲法・民法を中心に、実務上の具体例等を通じた学習をしたいと考えています。この学習を通じて、法条の検索、判例等に触れて行きたいと考えています。

〔到達目標〕

- ①六法で条文を調べることができる。
- ②法学概論・憲法・民法につきその重要な概念、制度等を説明することができる。
- ③法を解釈するという思考方法をとることができる。

■授業の概要

法学概論の学習によって、法についての基本的な考えを身につけます。その上で、公法および私法の代表としての憲法・民法につき、判例も用いて法解釈を体験してもらいます。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	オリエンテーション／概論1：市民生活と社会規範
第2回	概論2：市民生活の各領域と主な関係法
第3回	憲法1：憲法総論、基本的人権総論1
第4回	憲法2：基本的人権総論2・思想・良心の自由、信教の自由
第5回	憲法3：表現の自由、経済的自由
第6回	憲法4：財産権、社会権
第7回	憲法5：人身の自由、その他の人権、国民の義務
第8回	憲法6：統治機構の基本原則、国会、内閣
第9回	憲法7：裁判所、財政、地方自治
第10回	民法1：民法総則
第11回	民法2：契約総論
第12回	民法3：契約各論
第13回	民法4：親権
第14回	民法5：相続
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・可及的に多くの情報を提供したいので、予習復習は必ず行うこと。
- ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・社会福祉を志す者として、出席時間を厳守し、態度や身だしなみ等を整えること。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁する。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式
 シャトルカード方式
 ICT 利用 (WEB フォームやメールなど)
- その他 ()

■授業時間外学習にかかわる情報

教科書で予習・復習すること、根拠条文を確認しておくことが、絶対に必要です。

■オフィスアワー

月曜日 9 時～12 時。

■評価方法

定期試験 (60%)、授業時間に行う小テスト (40%) を総合して評価する。

■教科書

森長秀編著「法学入門」光生館、2015 年、有斐閣「ポケット六法」

■参考書

授業中に随時紹介する。

科目名	経済学	担当教員 (単位認定者)	白石 憲一	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学・作業療法専攻 1 年次選択科目	免許等指定科目			
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目			
キーワード	マクロ経済学、経済統計				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

経済学の基礎を学習していないと、毎日報道される経済関係のニュースに対して自分なりの的確な見解を持つことは難しい。この授業では学生がマクロ経済学の基礎を理解することを目的とする。

〔到達目標〕

そして毎日起きる経済事象について自分なりの意見を持つことを授業の到達目標とする。

■授業の概要

経済学の基礎理論について概観していく。あわせて現実の経済データを用いて、経済の実態についても講義をしていく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第 1 回授業にて配付します。

第 1 回	科目オリエンテーション
第 2 回	貧困
第 3 回	社会保障と経済
第 4 回	医療経済学
第 5 回	格差
第 6 回	GDP
第 7 回	幸福の経済学
第 8 回	ストック経済学
第 9 回	経済成長
第 10 回	教育の経済学
第 11 回	福祉と経済学
第 12 回	国際収支
第 13 回	国際金融
第 14 回	金融
第 15 回	経済学と日本経済

■受講生に関わる情報および受講のルール

新聞、ニュースなどで最新の経済の情報について確認すること。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シヤトルカード方式 ICT 利用 (WEB フォームやメールなど)
 その他 ()

■授業時間外学習にかかわる情報

予習を毎回行い、質問があればコメントカードを活用すること。

■オフィスアワー

木曜日 4 限。

■評価方法

試験 (60%) と授業中の課題 (40%) によって評価。

■教科書

井堀利広「大学 4 年間の経済学が 10 時間でざっと学べる」(KADOKAWA) 2015

■参考書

中谷巖「入門マクロ経済学」(日本評論社) 2007

科目名	情報処理 I	担当教員 (単位認定者)	藤本 壱	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学・作業療法専攻 1 年次選択科目	免許等指定科目			
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目			
キーワード	インターネット、Word、Excel				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕
レポート作成等で必要なパソコンの基本操作を身につけることを目的とする。
〔到達目標〕
①パソコンの基本的な操作を理解する。
②インターネットを正しく利用できる。
③Microsoft Wordでレポート等の文章を作成できる。
④Microsoft Excelで表やグラフをまとめることができる。

■授業の概要

授業を通し、パソコンの基本的な使い方をマスターし、WordとExcelを使って各種の文書を作成することができるようになることを目標とする。
また、情報の検索など、インターネットの活用方法も理解できるようにする。
他の科目でレポート課題等の文書を作成する際にWordやExcelを使う機会が多いので、他の科目との関わりも多い。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	オリエンテーションとパソコンの基本操作
第2回	[基礎]日本語の入力とファイルの操作
第3回	[基礎]ホームページの利用と情報セキュリティ
第4回	[Word]各種の書式設定
第5回	[Word]応用的な書式設定
第6回	[Word]表のある文書の作成
第7回	[Word]図や写真を含む文書の作成
第8回	[Word]作業の効率化と複数ページ文書の作成
第9回	[Excel]Excelの基本操作
第10回	[Excel]セルの書式設定
第11回	[Excel]グラフの作成
第12回	[Excel]計算の基本
第13回	[Excel]Excelをデータベースとして使う
第14回	[Word/Excel]Word/Excelの各種の操作
第15回	課題説明・作成

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕
・ファイル保存用にUSBメモリを持参すること。
〔受講のルール〕
・積極的に授業に臨むこと。
・実習形式の授業なので、話を聞くだけでなく、手を動かしてパソコンの操作を身につけること。
・授業に関係のないこと(例:YouTubeを見る)をしないこと。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(WEBフォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

教科書の練習問題等を利用して復習すること。

■オフィスアワー

授業開始前 20 分間。

■評価方法

レポート課題による評価(100%)。

■教科書

スクリーンを利用した独自資料(ホームページで配布あり)。

■参考書

できるWord&Excel 2016 Windows 10/8.1/7 対応、インプレス、2015 年

科目名	情報処理Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	藤本 壱	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学・作業療法専攻 1 年次選択科目	免許等指定科目			
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目			
キーワード	Word、Excel、PowerPoint				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

パソコンでの発表用の資料作りの方法や、よりよい発表の方法を身につけることを目的とする。

[到達目標]

- ① PowerPointの基本的な操作を理解する。
- ② PowerPointでプレゼンテーションを作成できる。
- ③ 作成したプレゼンテーションを使って発表できる。
- ④ WordやExcelをより活用できる。

■授業の概要

PowerPointでプレゼンテーション用資料を作成することをマスターし、またその資料を使って人前で発表することができるようになることを目標とする。
他の科目での各種発表の際にも、PowerPointを活用できるようにする。
また、WordやExcelもより活用できるようにする。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	[PowerPoint] Power Pointの基本操作
第2回	[PowerPoint] 書式の設定
第3回	[PowerPoint] 表と図の操作
第4回	[PowerPoint] 各種のオブジェクトの操作
第5回	[PowerPoint] 画面切り替えとアニメーション
第6回	[PowerPoint] プレゼンテーションの発表とその関連機能
第7回	[Word] 長文関連の機能(1)
第8回	[Word] 長文関連の機能(2)
第9回	[Word] 差し込み印刷関連の機能
第10回	[Excel] 複雑な計算(1)
第11回	[Excel] 複雑な計算(2)
第12回	プレゼンテーション作成実習
第13回	プレゼンテーション発表実習
第14回	プレゼンテーション発表実習
第15回	プレゼンテーション発表実習

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関わる情報]

- ・ファイル保存用にUSBメモリを持参すること。

[受講のルール]

- ・積極的に授業に臨むこと。
- ・実習形式の授業なので、話を聞くだけでなく、手を動かしてパソコンの操作を身につけること。
- ・授業に関係のないこと(例: YouTubeを見る)をしないこと。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(WEBフォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

教科書の練習問題等を利用して復習すること。

■オフィスアワー

授業開始前 20 分間。

■評価方法

レポート課題(70%)、レポート発表(30%)。

■教科書

スクリーンを利用した独自資料(ホームページで配布あり)。

■参考書

できるPowerPoint 2016 Windows 10/8.1/7 対応、インプレス、2015年

科目名	マスメディア論	担当教員 (単位認定者)	新井 英司	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学・作業療法専攻 1 年次選択科目	免許等指定科目			
	カリキュラム上の位置づけ		基礎科目		
キーワード	事実 客観性 メディア・リテラシー ことば 生活態度				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

テレビ番組の制作過程を具体的にたどりながら、ジャーナリストの情熱や工夫、技術を学び、自分の人生を輝かせる生活態度、智慧を習得する。

〔到達目標〕

- ①ものの見方、考え方が深められるようになる。
- ②客観的な認識の方法と態度について理解する。
- ③メディア・リテラシーが磨かれる。
- ④複眼で見る大切さを知る。
- ⑤なぜ、という問いの重要性を認識する。

■授業の概要

テレビ番組の企画、制作、報道等の現場から様々な事例を紹介するとともに、今日的なニュースや話題も数多く取り上げ、高度情報化社会を明るく楽しく生きるたくましさを養う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第 1 回授業にて配付します。

第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	おしゃべりは明るく元気にありがとう
第 3 回	恥かき、汗かき、原稿書き
第 4 回	3 分間スピーチは四コママンガ
第 5 回	番組づくりは八木節音頭
第 6 回	身近なところにヒントあり
第 7 回	地名は知らないとチメイ的
第 8 回	ニュースとは何か
第 9 回	客観報道とメディア・リテラシー
第 10 回	たかが順番、されど順番
第 11 回	スタッフの複眼生きるナマ中継
第 12 回	実況は大和言葉で花盛り
第 13 回	アブになれ
第 14 回	人生はミスマッチ、三日三月三年
第 15 回	満点を狙わぬ結果が合格点

■受講生に関わる情報および受講のルール

タイムリーなニュースや話題を取り上げ、意見や感想を発表し合います。その都度、資料も配布しますので、積極的に参加して下さい。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式
 シャトルカード方式
 ICT 利用 (WEB フォームやメールなど)
- その他 ()

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

毎時間授業終了後 30 分は対応可能。

■評価方法

筆記試験 100%。

■教科書

テキストは特にありませんが、常時、国語辞典を携帯して下さい。(電子辞書も可)

■参考書

日々の新聞、テレビ等。

科目名	医療英語 I	担当教員 (単位認定者)	デイビス ウォーレン	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学・作業療法専攻 1 年次必修科目	免許等指定科目			
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目			
キーワード	日常会話、身体部位、姿勢や動き				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

医療の場面の中に基本的なコミュニケーションができるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ① 日常会話も含め、患者との基本的な会話ができる。
- ② 医療の専門用語を理解できる。
- ③ 英語でコミュニケーションをとる自信をつける。

■授業の概要

医療の現場で必要な会話や専門的な用語を中心に学びます。単語を学び、それを使って患者さんと会話できるように練習します。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第 1 回授業にて配付します。

第 1 回	Meeting Colleagues I - Introducing Yourself to the Team / Orientation
第 2 回	Meeting Colleagues II - Reading a Nursing Schedule
第 3 回	Meeting Colleagues III - Meeting Patients and their Visitors ① - Textbook p8
第 4 回	Meeting Colleagues III - Meeting Patients and their Visitors ② - Textbook p9
第 5 回	Meeting Colleagues IV - Escorting a Patient for Tests
第 6 回	Nursing Assessment I - Checking Patient Details
第 7 回	Nursing Assessment II - Describing Symptoms
第 8 回	The Patient Ward I - The Patient Ward
第 9 回	The Patient Ward II - Nursing Duties
第 10 回	Review Test ① ・ノート提出 ①
第 11 回	The Body and Movement I - The Body: Limbs and Joints
第 12 回	The Body and Movement II - The Body: Torso and Head
第 13 回	The Body and Movement III - Setting Goals and Giving Encouragement
第 14 回	The Body and Movement IV - Documenting ROM Exercises
第 15 回	Review Test ② ・ノート提出 ②

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・英和・和英辞書があると授業に役立つでしょう。

〔受講のルール〕

- ・授業をよく聞いて、ノートをとる。
- ・ペアワークやグループワークをするときに積極的に参加すること。
- ・英和・和英辞典が入っていても携帯電話を使用しないこと。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式
 シャトルカード方式
 ICT 利用 (WEB フォームやメールなど)
- その他 ()

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・Review Test の時は、指示された範囲を必ず学習すること。
- ・分からない単語があれば、調べておくこと。

■オフィスアワー

授業終了後 20 分は対応可能。

■評価方法

- ・筆記試験 (論述・客観)、聞き取りを含む 90%。
- ・ノート提出、評価 10%。

■教科書

「著者」Ros Wright & Bethany Cagnol 「書名」English for Nursing ① - Course Book 「出版社」PEARSON 「出版年」2012

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	医療英語Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	デイビス ウォーレン	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学・作業療法専攻 1 年次選択科目	免許等指定科目			
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目			
キーワード	会話、医学英語				

■授業の目的・到達目標

<p>[授業の目的] 医療の場面の中に基本的なコミュニケーションができるようになることを目的とする。</p> <p>[到達目標] ①日常会話も含め、患者との基本的な会話ができる。 ②医療の専門用語を理解できる。 ③英語でコミュニケーションをとる自信をつける。</p>

■授業の概要

医療の現場で必要な会話や専門的な用語を中心に学びます。単語を学び、それを使って患者さんと会話できるように練習します。
--

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第 1 回授業にて配付します。	
第 1 回	Medication I - Medication Routes and Forms / Orientation
第 2 回	Medication II - Dosages and Frequency
第 3 回	Medication III - Side Effects: Assisting Patients with Medication
第 4 回	Communicating with Relatives by Phone
第 5 回	Moving and Handling Patients
第 6 回	The Hospital Team II - Communicating with Team Members by Phone
第 7 回	Ordering Supplies
第 8 回	Hospital Food and Beverages
第 9 回	Measurements and Quantities
第 10 回	Review Test ① ・ノート提出 ①
第 11 回	Caring for a Patient in the Recovery Room ①
第 12 回	Caring for a Patient in the Recovery Room ②
第 13 回	Removing Sutures
第 14 回	Assessing an Elderly Care Home Resident
第 15 回	Review Test ② ・ノート提出 ②

■受講生に関わる情報および受講のルール

<p>[受講生に関わる情報] ・英和・和英辞書があると授業に役立つでしょう。</p> <p>[受講のルール] ・授業をよく聞いて、ノートをとる。 ・ペアワークやグループワークをするときに積極的に参加すること。 ・英和・和英辞典が入っていても携帯電話を使用しないこと。</p>

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

<input checked="" type="checkbox"/> コメントカード方式 <input type="checkbox"/> シャトルカード方式 <input type="checkbox"/> ICT 利用 (WEB フォームやメールなど) <input type="checkbox"/> その他 ()

■授業時間外学習にかかわる情報

<ul style="list-style-type: none"> ・Review Test の時は、指示された範囲を必ず学習すること。 ・分からない単語があれば、調べておくこと。

■オフィスアワー

授業終了後 20 分は対応可能。

■評価方法

<ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験 (論述・客観)、聞き取りを含む 90%。 ・ノート提出、評価 10%。
--

■教科書

「著者」 Ros Wright & Bethany Cagnol 「書名」 English for Nursing ① - Course Book 「出版社」 PEARSON 「出版年」 2012
--

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	韓国語 I	担当教員 (単位認定者)	朴 惠蘭	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学・作業療法専攻 1 年次選択科目	免許等指定科目			
	カリキュラム上の位置づけ		基礎科目		
キーワード	ハングル 母音・子音 基礎会話				

■授業の目的・到達目標

<p>[授業の目的] ハングル (文字) の成り立ちや発音を学習し、文字が読み、書けるようにする。日常生活の中でよく使う基本会話を身に付ける。 韓国語で自己紹介が出来るようにする。パソコンで韓国語の入力が出来るようにする。 [到達目標] 1) ハングル文字が書けて正しく読める。 2) 挨拶・生活の基本会話を身に付ける。 3) 韓国語で自己紹介が出来る。 4) パソコンで韓国語の入力が出来る。</p>
--

■授業の概要

ハングルの特長、話し言葉の特徴や発音、イントネーションを日常生活及び一般的な話題を通じて学び、基礎会話が出来る様に何度も口に出して練習する。
 ハングルの仕組み、特徴を理解し読み書き出来る様にくり返し練習する。パソコン・CD・DVD等の視聴覚教材も用いる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第 1 回授業にて配付します。	
第 1 回	オリエンテーション ハングルについて、語順、仕組み、特徴
第 2 回	ハングルの母音、出会いの挨拶
第 3 回	ハングルの子音、発音のコツ、別れの挨拶
第 4 回	ハングルの子音 (平音、激音、濃音の相違点) 感謝、謝罪の際の会話
第 5 回	ハングルの二重母音、有声音化 食事の時の会話
第 6 回	ハングルのパッチム、お願いの時の会話
第 7 回	ハングルの二重パッチム、お休みの時の挨拶
第 8 回	ハングルの発音の法則 弱化、連音化、鼻音化、激音化、濃音化
第 9 回	ハングルのカナ表記法による人名、地名などの固有名詞の表記
第 10 回	パソコンでのハングルの入力方法
第 11 回	～は～ですの文型、自己紹介
第 12 回	～は何ですか? の文型 指示代名詞
第 13 回	疑問詞を用いての分の表現 (いつ、どこ、なに、だれ)
第 14 回	ある、ない、分かる、分からないの表現
第 15 回	読み書きのまとめ、日常会話の復習

■受講生に関わる情報および受講のルール

日本語に無い発音が多い為、正しい発音を身に付けるためには、積極的に出席し積極的に何度も口に出して練習する事が望ましい。
 文字の読み書きから覚えて行く初めての言語なので文字を覚える為には、繰り返しの練習、復習が必要である。
 韓国語 I に続けて韓国語 II も一緒に履修する事が望ましい。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

<input checked="" type="checkbox"/> コメントカード方式	<input type="checkbox"/> シャトルカード方式	<input type="checkbox"/> ICT 利用 (WEB フォームやメールなど)
<input type="checkbox"/> その他 ()		

■授業時間外学習にかかわる情報

毎回の授業後に復習用の宿題を次回授業時に提出する事。

■オフィスアワー

授業の 15 分前、授業後の 30 分は対応可能。

■評価方法

定期試験 60%、宿題及びレポート 40%。

■教科書

李昌圭著『韓国語へ旅しよう (初級)』朝日出版社

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	韓国語Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	朴 惠蘭	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学・作業療法専攻 1 年次選択科目	免許等指定科目			
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目			
キーワード	助詞 否定型 活用 変則活用				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

基礎会話から少し進んだ日常会話を身に付ける。数字、番号、物の値段が言えるようにする。言葉を通じて韓国語と日本語の発想、表現の違いなどを確認して行く。韓国に興味を持って、現代韓国社会・文化と現代日本社会・文化との共通点と相違点を知る。

〔到達目標〕

- 1) 基礎会話から進んだ日常会話を身に付ける。
- 2) 月・日・番号・値段が言える。
- 3) 韓国語と日本語の共通点、相違点を知る。
- 4) 簡単な発表などを韓国語で出来る様にする。
- 5) 韓国の社会・文化・歴史に対する理解を深める。

■授業の概要

韓国語Ⅰで韓国語の基礎会話、発音の習得を終えた学生を対象に、書く・読む・話すの4機能のうち書くこと・話す事にやや比重を置いて授業を進めて行き会話力を身に付ける。疑問詞、数詞などを用いて教科書の項目別文例をもとに、対応の言い換え練習を行いながら会話を覚えて行く。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	否定文の表現 助詞～も
第2回	指示代名詞(事物・場所) 身の回りの単語
第3回	家族の呼び名 助詞～の
第4回	この～は誰の物ですかの文型
第5回	位置関係の言葉
第6回	何処に～がありますの文型 助詞～が (主格助詞)
第7回	助詞～に (場所)、～と (並列・羅列)
第8回	動詞、形容詞の会話体(です、ます)の活用 助詞～を(目的格)
第9回	～で～をしますの文型 助詞～で
第10回	体の名称の単語 主要副詞語
第11回	時を表す言葉 疑問を表す言葉
第12回	映像で学ぶハングル
第13回	尊敬型の活用 曜日
第14回	リウル変則用言、助詞～しに
第15回	まとめ(助詞 活用 変則活用の復習)

■受講生に関わる情報および受講のルール

日常生活及び身近な一般的な題材を中心に会話を学んで行く授業である。日本語の発音と似ている単語も多く、新たな発見も有り、とても学び易い言語でもある。身に付ける為には、繰り返しの練習、復習が必要である。原則として「韓国語Ⅰ」の修了者を対象とする。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(WEBフォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

毎回の授業後に復習用の宿題を次回授業時に提出する事。

■オフィスアワー

授業の15分前、授業後の30分は対応可能。

■評価方法

定期試験60%、宿題及びレポート40%。

■教科書

李昌圭著『韓国語へ旅しよう(初級)』朝日出版社

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	中国語I	担当教員 (単位認定者)	岡野 康幸	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学・作業療法専攻1年次選択科目	免許等指定科目			
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目			
キーワード	中国語 漢語 漢字 ピンイン 簡体字 繁体字				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

- ・中国語の正確な発音と初歩の文法・語彙を修得することにより、自身に関する簡単なことが言えるようにする。
- ・中国語の学習を通じて、日本語との構造の差異に着目する。

〔到達目標〕

- ・ピンインを見て発音ができるようになる。
- ・中国語であいさつ・簡単な自己紹介ができるようになる。

■授業の概要

中国語は声調（音声の高低）によって意味が変わる言語であり、また日本語には存在しない発音も多い言語です。発音を徹底的に練習することにより、正しい発音の習得と今後の自発的学習（予習・復習）の筋道をつける。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	授業オリエンテーション（教科書2・3頁を読んでおく）
第2回	第1課 你好（こんにちは） 中国語の音節 声調 ドリル
第3回	第2課 明天见（また明日） 単母音 複母音 ドリル
第4回	第3課 谢谢（ありがとう） 子音（1）ドリル
第5回	第4課 好久不见（お久しぶり） 子音（2） 鼻音 ドリル
第6回	第5課 迎接（出迎える） 名前の言い方・たずね方
第7回	第6課 欢迎会（歓迎会） 動詞「是」・助詞「的」の使い方
第8回	第7課 打的（タクシーに乗る） 基本語順S+V+O 連動文
第9回	第8課 住宿（宿泊する） 希望・願望を表す「想」、「いる・ある・持っている」を表す「有」、指示代名詞
第10回	第9課 问路（道を尋ねる）動詞「在」・前置詞の使い方
第11回	第10課 买东西（ショッピングをする） 数の言い方・お金の言い方・値段の尋ね方
第12回	第11課 聊天儿（おしゃべりをする） 年月日・曜日の言い方、年齢の言い方
第13回	第12課 点菜（料理を注文する） 量詞、動詞の重ね方
第14回	第13課 买足球票（サッカーのチケットを買う）時刻の言い方、状態の変化を表す「了」
第15回	前期総復習

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・ただ授業を聞くといった受け身の姿勢ではなく、「学ぶ意義」を自身に問いかけながら、積極的に参加すること。
- ・周囲の迷惑になるので私語は慎むこと。
- ・本人の責に帰す遅刻早退は認めない。中国語Iに続けて中国語IIも一緒に履修することが望ましい。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用（WEBフォームやメールなど）
 その他（ ）

■授業時間外学習にかかわる情報

漢字で書かれていても中国語は外国語です。漢字を見て中国語ではどのように発音するのかと意識してみてください。

■オフィスアワー

毎週火曜 14時～16時。

■評価方法

期末試験 70%、小テスト 30%。

■教科書

陳淑海 劉赤光『しゃべっていいとも中国語 トータル版』 朝日出版社、2014年1月

■参考書

相原茂『はじめての中国語』 講談社現代新書、1990年2月

科目名	中国語Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	岡野 康幸	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学・作業療法専攻1年次選択科目	免許等指定科目			
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目			
キーワード	中国語 漢語 漢字 ピンイン 簡体字 繁体字 異文化理解				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

- ・中国語Ⅰに続き、正確な発音、初級文法・語彙を修得することにより、身近の日常的な事柄を表現できるようにする。
- ・中国語の学習を通して、日本語日本文化との相違に着目する。
- ・語学学習を通して、異文化理解を深めます。

〔到達目標〕

- ・簡単・初歩的な日常会話ができるようにする。このレベルは真面目に予習復習をすれば中国語検定4級のレベルになります。

■授業の概要

中国語は声調（音声の高低）によって意味が変わる言語であり、また日本語には存在しない発音も多い言語です。発音を徹底的に練習することにより、正しい発音の習得と今後の自発的学習（予習・復習）の筋道をつける。加えて、中国語Ⅱは語学のみならず、中国の文化歴史にも着目し授業を進めます。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	第14課 做按摩（マッサージをする）時間の長さの言い方 完了を表す「了」
第2回	第15課 网吧（ネットカフェ）動作の対象を表す前置詞「給」、助動詞「可以」「能」
第3回	第16課 打电话（電話をかける）動作行為の進行を表す表現、助動詞「会」
第4回	第17課 打工（アルバイトをする）前置詞「在」二重目的語をとる動詞
第5回	第18課 在饭店（レストランで）経験を表す「过」、選択疑問文
第6回	第19課 去唱卡拉OK（カラオケに行く）助動詞「得」、「一～就」構文
第7回	第20課 你唱得真好（あなたは歌がうまい）補語結果 様態補語
第8回	中国の日本事情
第9回	第21課 全家照（家族写真）「是～的」構文、比較表現「比」
第10回	第22課 买衬衫（シャツを買う）方向補語①単純方向補語
第11回	第23課 生日晚会（誕生パーティー）「把」構文、方向補語②複合方向補語
第12回	第24課 看DVD（DVDを見る）程度補語 可能補語
第13回	第25課 看病（診察）主述述語文 受身表現
第14回	第26課 回国之前（帰国前）「就要～了」構文、使役表現
第15回	総復習

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・ただ授業を聞くといった受け身の姿勢ではなく、「学ぶ意義」を自身に問いかけながら、積極的に参加すること。
- ・周囲の迷惑になるので私語は慎むこと。
- ・本人の責に帰す遅刻早退は認めない。中国語Ⅰに続けて中国語Ⅱも一緒に履修することが望ましい。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式
 シヤトルカード方式
 ICT利用（WEBフォームやメールなど）
 その他（ ）

■授業時間外学習にかかわる情報

漢字で書かれていても中国語は外国語です。漢字を見て中国語ではどのように発音するのかと意識してみてください。

■オフィスアワー

毎週火曜 14時～16時。

■評価方法

期末試験 70%、小テスト 30%。

■教科書

陳淑海 劉赤光『しゃべっていいとも中国語 トータル版』朝日出版社、2014年1月

■参考書

相原茂他『why?にこたえる はじめての 中国語文法書』同学社、1996年9月
倉石武四郎『中国語五十年』岩波新書、1973年1月

科目名	スポーツ・レクリエーション実技	担当教員 (単位認定者)	田口 敦彦	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学・作業療法専攻 1 年次選択科目	免許等指定科目	レクリエーションインストラクター 資格取得に関わる必修		
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目			
キーワード	コミュニケーション・ワーク レクリエーション・ワーク ニュースポーツ・支援実習				

■授業の目的・到達目標

<p>〔授業の目的〕 レクリエーションプログラムの習得と企画や運営、指導技術を身につける。学びを通して、福祉施設、病院、学校教育の現場等で活動できるようになることを目的とする。</p> <p>〔到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. レクリエーション活動の意義を理解できる。 2. さまざまな活動を通して、企画・実践することができる。 3. 他者への支援(指導)ができるようになる。
--

■授業の概要

<p>レクリエーションの楽しさを知り、ニュースポーツやコミュニケーションゲームを通じてレクリエーション支援の技術を習得する。そのための指導理論、組織論、事業論などの学習を通じ、支援者(指導者)としての実践力を高める。レクリエーションインストラクター資格取得のための科目である。</p>
--

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。	
第1回	科目オリエンテーション・レクリエーションの理解
第2回	アイスブレイキング(実践)
第3回	対象にあわせたレクリエーションワーク 対象に合わせたアレンジ方法① アレンジの基本技術
第4回	対象にあわせたレクリエーションワーク 対象に合わせたアレンジ方法② アレンジ法の応用
第5回	対象にあわせたレクリエーションワーク 指導実習 室内でできるレクリエーションゲーム(実践)
第6回	対象にあわせたレクリエーションワーク 指導実習 新聞紙を使ったレクリエーションゲーム(実践)
第7回	支援活動演習Ⅰ レクリエーションプログラムの企画と運営①-1 (制約のある空間での支援方法/企画案の発表及び実践)
第8回	支援活動演習Ⅰ レクリエーションプログラムの企画と運営①-2 (制約のない空間での支援方法/企画案の発表及び実践)
第9回	支援活動演習Ⅰ レクリエーション評価とまとめ① (企画案の評価及び講評)
第10回	ニュースポーツ キンボール ルールの理解と基礎技術の獲得
第11回	ニュースポーツ キンボール ゲーム
第12回	支援活動演習Ⅱ レクリエーションプログラムの企画と運営②-1 (制約のある空間での支援方法/企画案の発表及び実践)
第13回	支援活動演習Ⅱ レクリエーションプログラムの企画と運営②-2 (制約のない空間での支援方法/企画案の発表及び実践)
第14回	支援活動演習Ⅱ レクリエーション評価とまとめ② (企画案の評価及び講評)
第15回	前期の振り返り まとめ
第16回	レクリエーションダンス (地域伝承踊り)

第 17 回	レクリエーションダンス（介護予防体操含む）
第 18 回	コミュニケーション・ワーク ホスピタリティとは
第 19 回	コミュニケーション・ワーク ホスピタリティの示し方
第 20 回	ニュースポーツ ユニバーサルホッケー ルールの理解と基礎技術の獲得
第 21 回	ニュースポーツ ユニバーサルホッケー ゲーム
第 22 回	支援活動演習Ⅲ レクリエーションプログラムの企画と運営③-1 (制約のある空間での支援方法/企画案の発表及び実践)
第 23 回	支援活動演習Ⅲ レクリエーションプログラムの企画と運営③-2 (制約のない空間での支援方法/企画案の発表及び実践)
第 24 回	支援活動演習Ⅲ レクリエーション評価とまとめ③（企画案の評価及び講評）
第 25 回	目的に合わせたレクリエーションワーク 目的に合わせたレクリエーションワークとは
第 26 回	目的に合わせたレクリエーションワーク 素材、アクティビティの選択
第 27 回	支援活動演習Ⅳ レクリエーションプログラムの企画と運営④-1 (制約のある空間での支援方法/企画案の発表及び実践)
第 28 回	支援活動演習Ⅳ レクリエーションプログラムの企画と運営④-2 (制約のない空間での支援方法/企画案の発表及び実践)
第 29 回	支援活動演習Ⅳ レクリエーション評価とまとめ④（企画案の評価及び講評）
第 30 回	1年間の振り返り まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・レクリエーション活動(実技)を行う場合は、指定体育着、体育館シューズを着用すること。
- ・装飾品や爪など活動時に支障とならないようにすること。
- ・積極的に授業に取り組むこと。また支援者として好感のもてる態度、身だしなみを心掛けること
- ・実技活動、グループ活動は仲間と協力して作業をすすめること。自分勝手な行動をとる受講者は減点の対象とする。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT 利用 (WEB フォームやメールなど)
 その他 ()

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・日頃からレクリエーションに関する情報を新聞、雑誌、テレビ、インターネット等で収集するよう心がけること。
- ・地域で行われているレクリエーション活動に積極的に参加すること。

■オフィスアワー

木曜日 9 時～10 時 30 分 (変更時は掲示する)。

■評価方法

評価の基準：到達目標の達成度を評価する。
 評価の方法：筆記試験 40%、レポート等提出物(活動企画書)20%、実技 40%として総合的に評価する。
 (詳細な評価基準は授業シラバス参照)

■教科書

レクリエーションインストラクター養成テキスト 【レクリエーション支援の基礎】 ～楽しさ・心地よさを活かす理論と技術～
 (財)日本レクリエーション協会編

■参考書

必要に応じて紹介する。

科目名	レクリエーション活動援助法	担当教員 (単位認定者)	田口 敦彦	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	理学・作業療法専攻 1 年次選択科目	免許等指定科目	レクリエーションインストラクター 資格取得に関わる必修		
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目			
キーワード	コミュニケーション・ワーク レクリエーション・ワーク 事業計画 ホスピタリティ アイスブレイキング A-PIE プロセス				

■授業の目的・到達目標

<p>〔授業の目的〕 レクリエーション活動の社会的意義を理解し、様々な活動現場における適切なレクリエーション活動支援の在り方や技術を身につけ、良好な人間関係を構築し、人々が笑顔に満ちた豊かなライフスタイルを確立できるように、公認指導者資格を有する支援者（レクリエーション・インストラクター）として、実践できるようになることを目的とする。</p> <p>〔到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. レクリエーション活動の社会的意義と支援方法を身につける。 2. 対象に応じたレクリエーション支援の計画立案と実践の能力を身につける。 3. レクリエーション支援が十分に効果をあげるために組織論、事業論を理解し、活用できる。 4. 安全な活動とそのための危険を回避する能力を身につける。

■授業の概要

<p>年代ごとの課題や特徴を知り、対象者のニーズに沿ったふさわしい形で提供できるレクリエーション活動の計画づくりを行い、対象者の元気や活力づくりの意欲を高め、自立・自律的な活動展開を支援できるよう学ぶ。</p>

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。	
第1回	科目オリエンテーション 福祉サービスにおけるレクリエーション援助の役割
第2回	基礎理論 レクリエーションの意義
第3回	基礎理論 レクリエーション運動を支える制度（歴史とその背景）
第4回	基礎理論 レクリエーションへの期待
第5回	基礎理論 生活のレクリエーション化
第6回	基礎理論 レクリエーションの生活化
第7回	基礎理論 社会福祉の中でのレクリエーションインストラクターの役割
第8回	日常生活におけるレクリエーションの捉え方
第9回	日常生活の3領域とレクリエーション援助の関係
第10回	コミュニケーションワーク アイスブレイキングの意義と基本技術 ～アイスブレイキングとは 意義～
第11回	コミュニケーションワーク アイスブレイキングの意義と基本技術 ～アイスブレイキングの方法 同時発声 同時動作 合図出し～
第12回	コミュニケーションワーク アイスブレイキングのプログラミング ～プログラミングの原則～
第13回	コミュニケーションワーク アイスブレイキングのプログラミング ～アイスブレイキングモデルの作成～
第14回	コミュニケーションワーク アイスブレイキングのプログラミング ～実践・発表～
第15回	まとめ（評価・ふりかえり）
第16回	支援論 ライフスタイルとレクリエーション 乳幼児期～児童期～青年期～老年期

科目名	障害者スポーツ	担当教員 (単位認定者)	櫻井 秀雄	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学・作業療法専攻 1 年次選択科目	免許等指定科目	初級障がい者スポーツ指導員		
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目			
キーワード	障がい区分 障がいと特性 スポーツ 医療 社会参加と自立				

■授業の目的・到達目標

<p>[授業の目的] 障がい者が豊かな生活を送るために、障がい者スポーツを理解して支援・援助できる知識・技能を習得することを目的とする。</p> <p>[到達目標]</p> <p>①障がい者スポーツの意味、特性、支援・援助方法を理解できる。 ②障がい区分に応じた基本的な支援・援助技法を身につけることができる。 ③障がい者スポーツ指導員としての資質を身につけ、スポーツを生活の中で親しめることができる。</p>

■授業の概要

障がい者を取り巻く地域社会での福祉施策や、スポーツ環境、レクリエーションの意義、障がい区分とスポーツ活動、スポーツ傷害の予防と処置、健康づくりとリハビリテーションの意義、障がい者との交流を行いながら、障がい者スポーツの実施と障がい者のために工夫されたスポーツを学習する。「日本障がい者スポーツ指導員」の資格取得もおこなう。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第 1 回授業にて配付します。	
第 1 回	科目オリエンテーション (障がい者スポーツ指導者に求められるもの)
第 2 回	わが国のスポーツ施策と障がい者スポーツ (障がい者スポーツの意義と理念、障がい者スポーツ指導者制度)
第 3 回	障がいの理解とスポーツ (障がいの分類と概要、障がい区分)
第 4 回	身体障がい者とスポーツ・レクリエーション (種類と特徴、運動とスポーツの効用、指導時の留意点)
第 5 回	知的障がい者とスポーツ・レクリエーション (種類と特徴、運動とスポーツの効用、指導時の留意点)
第 6 回	精神障がい者とスポーツ・レクリエーション (種類と特徴、運動とスポーツの効用、指導時の留意点)
第 7 回	安全管理 (指導者の安全配慮義務、安全管理の留意点、救命手当・応急手当)
第 8 回	全国障がい者スポーツ大会 (歴史・意義、目的、実施競技、障がい区分)
第 9 回	障がい者スポーツの理解① (視覚障がい者の陸上競技：ウォーク&ラン)
第 10 回	障がい者スポーツの理解② (脊椎損傷者のバレーボール：シッティングバレーボール)
第 11 回	障がい者スポーツの理解③ (視覚障がい者の卓球：サウンドテーブルテニス)
第 12 回	障がい者スポーツの理解④ (視覚障がい者のサッカー：ブラインドサッカー)
第 13 回	障がい者との交流① (障がい者のスポーツ大会、レクリエーション活動等で交流学習：1 回目)
第 14 回	障がい者との交流② (障がい者のスポーツ大会、レクリエーション活動等で交流学習：2 回目)
第 15 回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

<p>[受講者に関する情報]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がい者の生活支援を念頭に置き、真摯な態度で受講する。 ・実技は運動着、運動靴、メモの用意をする。 <p>[受講のルール]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・着替え等は迅速にして授業の用具準備をおこなう。 ・教材の整頓、会場の清掃は全員で協力しておこなう。
--

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

<input checked="" type="checkbox"/> コメントカード方式 <input type="checkbox"/> シャトルカード方式 <input type="checkbox"/> ICT 利用 (WEB フォームやメールなど) <input type="checkbox"/> その他 ()

■授業時間外学習にかかわる情報

施設実習や障がい者へのボランティア活動をとおして、障がい者スポーツの情報を収集しておく。
--

■オフィスアワー

木曜日 13 時～16 時、他の時間帯の希望のときはアポイントを取っていただく。
--

■評価方法

筆記試験・レポート試験 (70%)、実技試験 (30%) の総合評価。

■教科書

日本障がい者スポーツ協会編：新盤障がい者スポーツ教本 (初級・中級)：ぎょうせい：平成 28 年
--

■参考書

井田朋宏：NO LIMIT (障がい者スポーツ情報誌)：日本障がい者スポーツ協会：2017 (年 4 回発刊)

科目名	チームケア入門I	担当教員 (単位認定者)		単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	理学・作業療法専攻 1年次集中選択科目	免許等指定科目			
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目			
キーワード	連携 多職種理解				

■授業の目的・到達目標

<p>〔授業の目的〕 ねらい： 「包括的視点で対象者を捉え、多職種による円滑なケアが展開できるための基礎的知識・技術・態度について学び多職種連携のあり方を修得する」</p> <p>目的： 他学部・学科との学生間の交流を通して、多職種の連携の必要性について気づくことができる。</p> <p>〔目標〕 1) 自己の職種について他者に伝えることができる。 2) 他職種の基本的な役割について述べるができる。 3) ケアチームとして一連の取り組みのまとめ、報告、自己の評価ができる。 4) 他職種との連携について関心が持てる。</p>
--

■授業の概要

<p>保健医療福祉の動向に伴い、多様なニーズを必要とする対象者が増加しており保健医療福祉教育専門職に求められることも多様化している。対象者のケアの目標を達成するためには、多職種間の連携が不可欠となる。保健医療福祉教育職種が連携を取り合うことの意義・必要性と多様なチームケアの在り方について学習する。群馬医療福祉大学の福祉・医療総合大学の特色を生かし、3学部・短期大学1学科合同チームによる、「チームケア」について学ぶ。</p>

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。	
第1回	1. 科目のオリエンテーション 2. なぜ、いま連携なのか チームケアの目的・意義、背景、多職種の種類とその役割、連携の目的・意義。
第2回	チームケアを担う人々を理解する。自己の職種役割についてまとめる。
第3回	チームケア・チーム医療を担う人々を理解する。簡単な事例をとおして、チームケアにおける自職種・他職種の役割について各学部のグループで、討議する。
第4回	チームケアにおける多職種の役割、連携方法についての合同討議。
第5回	チームケアにおける多職種の役割、連携方法についての合同討議、報告準備。
第6回	チームケアにおける多職種の役割、連携方法についての合同討議・報告会①
第7回	チームケアにおける多職種の役割、連携方法についての合同討議・報告会②
第8回	学習成果をリフレクションする。一連の学習過程を評価・考察し自己の課題に気付くことができる。

■受講生に関わる情報および受講のルール

<p>①予習：事前学習課題を整理し、授業時活用する。 ②復習：授業で配布したプリント・資料を読み返す。 〔受講のルール〕 ①積極的に取り組む事。 ②レポート等の課題について、提出期限を厳守する。 ③授業の学びを必ず記載すること。記載することで表現力を養うものである。</p>

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

<input type="checkbox"/> コメントカード方式 <input type="checkbox"/> シャトルカード方式 <input type="checkbox"/> ICT 利用（WEB フォームやメールなど） <input checked="" type="checkbox"/> その他（ポートフォリオ）

■授業時間外学習にかかわる情報

課題に積極的に取り組む。

■オフィスアワー

水曜日 15 時 30 分～ 17 時 30 分。

■評価方法

①グループワークでの取り組み 50% ②ポートフォリオ評価 50%

■教科書

資料配布

■参考書

<p>1. 鷹野和美著：チームケア論 ぱる出版、2008。 2. 小松秀樹：地域包括ケアの課題と未来、ロハス・メディカル、2015</p>

科目名	チームケア入門Ⅱ	担当教員 (単位認定者)		単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	理学・作業療法専攻 2年次集中選択科目	免許等指定科目			
	カリキュラム上の位置づけ			基礎科目	
キーワード	連携 多職種理解				

■授業の目的・到達目標

<p>〔授業の目的〕 ねらい 「包括的視点で対象者を捉え、多職種による円滑なケアが展開できるための基礎的知識・技術・態度について学び多職種連携のあり方を修得する」</p> <p>目的: 事例検討を通してチームケアの実践につながる演習を行うことができる。</p> <p>〔到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 事例検討を通して、職種毎に課題を明確化し、自らできること、やるべきことを列挙できる。 2) 事例検討を通して、多職種の特徴・連携の必要性・連携上の留意点を理解することができる。 3) 多職種連携・チームケアのあり方・今後の課題に気付くことができる。 4) 多職種連携・チームケアの気付き・課題について継続した取り組みができる。 5) チームメンバーを尊重し主体的・計画的・協力的に取り組むことができる。

■授業の概要

<p>保健医療福祉の動向に伴い、多様なニーズを必要とする対象者が増加しており保健医療福祉教育専門職に求められることも多様化している。対象者のケアの目標を達成するためには、多職種間の連携が不可欠となる。保健医療福祉教育職種が連携を取り合うことの意義・必要性と多様なチームケアの在り方について学習する。群馬医療福祉大学の福祉・医療総合大学の特色を生かし、3学部合同チームによる「チームケア教育」を行う。</p>

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。	
第1回	・授業オリエンテーション ・多職種連携・チームケアの考え方・取り巻く背景 リハビリ・福祉職・看護職の役割
第2回	・事例展開に関する調べ学習
第3回	・事例展開に関する調べ学習 ・自職種の特徴を踏まえ、事例の問題点・課題点を挙げ、自職種ができることやるべきことをまとめる(学部毎)
第4回	事例について各学部毎に課題(問題点)を明確化し、自分の職種ができることやるべきことを職種毎に明らかにするための合同討議(3学部小グループ)・報告準備。
第5回	事例について各学部毎に課題(問題点)を明確化し、自分の職種ができることやるべきことを職種毎に明らかにするための合同討議(3学部小グループ)・報告準備。
第6回	明確化した課題(問題点)について自分の職種ができることやるべきことについて全学部(3学部大グループ)で報告、共有する。
第7回	明確化した課題(問題点)について自分の職種ができることやるべきことについて全学部(3学部大グループ)で報告、共有する。・体験者によるIPWの講義
第8回	事例検討による一連の学習過程を評価・考察する。その上で、チームケア教育への関心・自己の課題に気付き課題を達成するための方法を考えることができる。

■受講生に関わる情報および受講のルール

<ol style="list-style-type: none"> ① 予習: 事前学習課題を整理し、授業時活用する。 ② 復習: 授業で配布したプリント・資料を読み返す。 <p>〔受講のルール〕</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 積極的に取り組む事。 ② レポート等の課題について、提出期限を厳守する。 ③ 授業の学びを必ず記載すること。記載することで表現力を養うものである。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

<input type="checkbox"/> コメントカード方式 <input type="checkbox"/> シャトルカード方式 <input type="checkbox"/> ICT利用(WEBフォームやメールなど) <input checked="" type="checkbox"/> その他(ポートフォリオ)

■授業時間外学習にかかわる情報

関連文献、新聞などに関心を持ち情報収集することを期待する。

■オフィスアワー

水曜日 15時30分～17時30分。

■評価方法

① グループワークでの取り組み 50% ② ポートフォリオ評価 50%
--

■教科書

資料配布

■参考書

<ol style="list-style-type: none"> 1. 鷹野和美著: チームケア論 ぱる出版, 2008. 2. 小松秀樹: 地域包括ケアの課題と未来, ロハス・メディカル, 2015
--

科目名	海外語学研修（カナダ）	担当教員 （単位認定者）	田口 敦彦	単位数 （時間数）	2 （60）
履修要件	理学・作業療法専攻 1年次～4年次選択科目	免許等指定科目			
	カリキュラム上の位置づけ		基礎科目		
キーワード	グローバル化 英語教育 国際経験 海外ボランティア ホームステイ				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

海外研修を通じて国際社会に貢献する意欲を養い、様々な人と出会い交流し、文化や言葉の壁を越えた理解を深めながらコミュニケーション能力を身につける。また国際社会で活躍する医療福祉人材として、海外での様々な体験を通して世界を違う視点から見るができるようになることを目的とする。本プログラムは参加者の英語能力を、面接授業、ワークショップ及びセミナーを通して向上させ、さらにカナダの歴史、文化、伝統等について学んだり、現地でのフィールドワークに携わったりしながら、カナダ独特の文化に触れ英語能力の更なる向上を目指していく。現地の学生やホームステイ先のホストファミリーとの交流により、英語によるコミュニケーション能力並びに異文化体験の機会を得る。

〔到達目標〕

- (1) 語学力の向上：日常的な英語力を身に付け、より良い意思疎通を図るためのコミュニケーションスキル、語学力の向上を目指す。
- (2) 異文化の体験：文化や生活習慣の違いを海外で体験することで、視野を広げ、コミュニケーション力を向上させる。さらに生き方を見つけるなど人生において重要な経験を得る。
- (3) 意識：日本での文献調査では得られない学びや様々な体験により、主体的に学び、実践できるようになる。

■授業の概要

研修は、群馬医療福祉大学の協定・提携大学カナダ・レジャイナ大学との間に企画された、誰もが参加しやすい語学学習（英語）に重点を置いたプログラムである。事前学習として訪問先の文化・社会等についての理解を深め、日常英会話についてのコミュニケーション能力を高める。その後、本学の協定大学における11日間の研修プログラム（講義又フィールドワーク）を中心に実施し、帰国後、それらの講義、体験をもとに、まとめ・報告会を行う。
研修期間 平成30年8月29日～9月8日

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	研修先の概要(1) オリエンテーション 海外研修プログラムについての概要 申込書などの記入の仕方
第2回	研修先の概要(2) レジャイナ大学についての概要
第3回	カナダ研究(1) 世界とカナダの関係について 文化、歴史、経済、習慣等について
第4回	手続きガイド(1) 海外渡航に必要な諸手続きについて
第5回	英語研修(1) 日常英会話 英語圏の生活に必要なこと 入国審査カードの書き方、入国審査での質問、機内での英会話
第6回	英語研修(2) 日常英会話 自文化を紹介する態度、言い回し
第7回	英語研修(3) 日常英会話 研修先でのコミュニケーション
第8回	英語研修(4) 日常英会話 寮、ホームステイ 研修先での注意事項
第9回	英語研修(5) 日常英会話 危機管理
第10回	協定校での授業 会話、課外授業 Meet with Program Team
第11回	協定校での授業 会話、課外授業 Welcome & Program Orientation
第12回	協定校での授業 会話、課外授業 Campus Orientation & Tour
第13回	協定校での授業 会話、課外授業 Language Canada-at-a Glance ①
第14回	協定校での授業 会話、課外授業 Language Canada-at-a Glance ②
第15回	協定校での授業 会話、課外授業 Tour of the Royal Saskatchewan Museum
第16回	協定校での授業 会話、課外授業 Language History ①

第 17 回	協定校での授業	会話、課外授業	Language History ②
第 18 回	協定校での授業	会話、課外授業	Farmer's Market and Regina Down Town Tour
第 19 回	協定校での授業	会話、課外授業	Language Culture ①
第 20 回	協定校での授業	会話、課外授業	Language Culture ②
第 21 回	協定校での授業	会話、課外授業	Tour of Saskatoon & Western Development Museum
第 22 回	協定校での授業	会話、課外授業	Language Sports ①
第 23 回	協定校での授業	会話、課外授業	Language Sports ②
第 24 回	協定校での授業	会話、課外授業	Tour of the Royal Canadian Mounted Police & Government House
第 25 回	協定校での授業	会話、課外授業	Language Arts ①
第 26 回	協定校での授業	会話、課外授業	Language Arts ②
第 27 回	協定校での授業	会話、課外授業	Kayaking on Wascana & Barbeque with U of R Students
第 28 回	協定校での授業	会話、課外授業	Program Closing Ceremony
第 29 回	研修成果	レポート及び報告会	プレゼンテーション準備
第 30 回	研修成果	報告会	(まとめとふりかえり)

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ① 研修への参加責任及び費用負担義務の所在が本人及び保護者であることを十分理解し、研修について保護者とよく話し合い、同意を得る。
- ② 研修予定地の事情をよく調べ、研修機関のサポート内容などを確認しながら研修計画を作成する。
- ③ 旅行保険等の加入など万全の準備をするほか、連絡体制についても明確にし、大学に伝える。
- ④ 担当教員による事前・事後指導も評価の対象となるので、誠実な態度で指導を受ける。
- ⑤ 国際情勢の急な変化によって研修実施が困難となる場合もあることに留意する。
- ⑥ 本講義は 10 人以上により開講する。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式
 シャトルカード方式
 ICT 利用 (WEB フォームやメールなど)
- その他 ()

■授業時間外学習にかかわる情報

渡航先の語学や会話を授業で受講しておくこと。また日常から海外のニュースを見聞きし、情報を得ておくことが必要である。旅券の取得、現地通貨などの準備、ツアーや航空券の手配、保険の申請などがある。

■オフィスアワー

月曜日 3 時間目 (変更が生じた場合は適宜指示する)。

■評価方法

海外研修時において学生個人が定めた目的に対し、十分な学習経験を得ていると認められる活動に対し、単位を認める。成績は、事前指導、事後指導への参加状況、研修中の活動記録 (40%)、研修後報告書の課題 (60%) をもとに評価する。原則として以下の条件を満たすこと。

- ① 学内におけるガイダンス、事前・事後指導にすべて出席すること。
- ② 事前に研修期間を通して学修・研究すべき課題を決め、事前レポートを提出すること。
- ③ 滞在期間中に必要な学習活動を行うこと。
- ④ 研修期間中の活動記録を提出すること。
- ⑤ 帰国後、指定された時期までに報告書などの課題を提出すること。

■教科書

担当教員が適宜指示する。

■参考書

海外渡航学生マニュアル (群馬医療福祉大学作成) 渡航先に関するガイドブック、新聞、海外ニュース、ネットなどによる最新の情報など。

科目名	海外語学研修（フィリピン）	担当教員 (単位認定者)	小林 洋子・田口 敦彦	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	理学・作業療法専攻 1年次～3年次選択科目	免許等指定科目			
	カリキュラム上の位置づけ		基礎科目		
キーワード	グローバル化 英語教育 国際経験 海外ボランティア				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

海外研修を通じて国際社会に貢献する意欲を養い、様々な人と出会い交流し、文化や言葉の壁を越えた理解を深めながらコミュニケーション能力を身につける。また国際社会で活躍する医療福祉人材として、海外での様々な体験を通して世界を違う視点から見るができるようになることを目的とする。このプログラムはフィリピンでの医療福祉事情の理解と臨床現場での実地体験を目的としたプログラムを組み込んでいる。医療・福祉施設（小児がん治療施設・リハビリデイケアセンター・障害者施設・病院）にて実地体験を経験し、国際的な視野、協調性、行動力、自主性といった能力を中心に培いながら、現地の学生との交流により、英語によるコミュニケーション能力並びに医療英語や英会話を含む英語能力の向上や異文化体験の機会をも得ることを目的とする。

〔到達目標〕

- (1) 語学力の向上：日常的な英語力を身に付け、より良い意思疎通を図るためのコミュニケーションスキル、語学力の向上を目指す。
- (2) 異文化の体験：文化や生活習慣の違いを海外で体験することで、視野を広げ、コミュニケーション力を向上させる。さらに生き方を見つけるなど人生において重要な経験を得る。
- (3) 意識：日本での文献調査では得られない学びや様々な体験により、主体的に学び、実践できるようになる。

■授業の概要

研修は、群馬医療福祉大学の協定・提携大学フィリピン・アレリアノ大学との間に企画された、誰もが参加しやすい医療福祉ボランティア学習に重点を置いたプログラムである。事前学習として訪問先の文化・社会等についての理解を深め、医療英語及び日常英会話についてのコミュニケーション能力を高める。その後、本学の協定大学における8日間の研修プログラム（講義又フィールドワーク）を中心に実施し、帰国後、それらの講義、体験をもとに、まとめ・報告会を行う。
研修期間 平成31年3月17日～3月25日

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	研修先の概要(1) オリエンテーション	海外研修プログラムについての概要	申込書などの記入の仕方
第2回	研修先の概要(2)	アレリアノ大学についての概要	
第3回	フィリピン研究(1)	世界とフィリピンの関係について 文化、歴史、経済、習慣等について	
第4回	手続きガイダンス(1)	海外渡航に必要な諸手続きについて	
第5回	医療福祉研修(1)	ボランティア先での注意事項	
第6回	医療福祉研修(2)	ボランティア先でのレクリエーション企画について	
第7回	英語研修(1)	日常英会話 英語圏の生活に必要なこと 入国審査カードの書き方、入国審査での質問、機内での英会話	
第8回	英語研修(2)	日常英会話 自文化を紹介する態度、言い回し	
第9回	英語研修(3)	医療英語 患者及び施設利用者とのコミュニケーション	
第10回	協定校での授業	会話、課外授業、ボランティア体験	Meet with Program Team
第11回	協定校での授業	会話、課外授業、ボランティア体験	Welcome & Program Orientation
第12回	協定校での授業	会話、課外授業、ボランティア体験	Campus Orientation & Tour
第13回	協定校での授業	会話、課外授業、ボランティア体験	Esperanza Health Center and Lying in Clinic Immunization, Nutrition Program
第14回	協定校での授業	会話、課外授業、ボランティア体験	Esperanza Health Center and Lying in Clinic Weight Monitoring, Feeding Program
第15回	協定校での授業	会話、課外授業、ボランティア体験	Esperanza Health Center and Lying in Clinic Health Education Childbirth
第16回	協定校での授業	会話、課外授業、ボランティア体験	Esperanza Health Center and Lying in Clinic Prenatal and Postnatal Check-up

第 17 回	協定校での授業	会話、課外授業、ボランティア体験	Kaisaka Rehabilitative Therapies
第 18 回	協定校での授業	会話、課外授業、ボランティア体験	Kaisaka Adult Day Care Services
第 19 回	協定校での授業	会話、課外授業、ボランティア体験	Kaisaka Caring for Persons with Disabilities and Social Rehabilitation
第 20 回	協定校での授業	会話、課外授業、ボランティア体験	Arellano University Rehabilitation Clinic Rehabilitative Therapies
第 21 回	協定校での授業	会話、課外授業、ボランティア体験	Arellano University Rehabilitation Clinic Adult Day Care Services
第 22 回	協定校での授業	会話、課外授業、ボランティア体験	Arellano University Rehabilitation Clinic Caring for Persons with Disabilities and Social Rehabilitation
第 23 回	協定校での授業	会話、課外授業、ボランティア体験	Tour of Manila
第 24 回	協定校での授業	会話、課外授業、ボランティア体験	Tour of Manila
第 25 回	協定校での授業	会話、課外授業、ボランティア体験	Tour of Manila
第 26 回	協定校での授業	会話、課外授業、ボランティア体験	CHILD HAUS Children's Home, Day Care Centers
第 27 回	協定校での授業	会話、課外授業、ボランティア体験	CHILD HAUS Children's Home, Day Care Centers Recreation①
第 28 回	協定校での授業	会話、課外授業、ボランティア体験	CHILD HAUS Children's Home, Day Care Centers Recreation②
第 29 回	研修成果	レポート及び報告会 プレゼンテーション準備	Program Closing Ceremony
第 30 回	研修成果	報告会 (まとめとふりかえり)	

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ① 研修への参加責任及び費用負担義務の所在が本人及び保護者であることを十分理解し、研修について保護者とよく話し合い、同意を得る。
- ② 研修予定地の事情をよく調べ、研修機関のサポート内容などを確認しながら研修計画を作成する。
- ③ 旅行保険等の加入など万全の準備をするほか、連絡体制についても明確にし、大学に伝える。
- ④ 担当教員による事前・事後指導も評価の対象となるので、誠実な態度で指導を受ける。
- ⑤ 国際情勢の急な変化によって研修実施が困難となる場合もあることに留意する。
- ⑥ 本講義は 10 人以上により開講する。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT 利用 (WEB フォームやメールなど)
 その他 ()

■授業時間外学習にかかわる情報

渡航先の語学や会話を授業で受講しておくこと。また日常から海外のニュースを見聞きし、情報を得ておくことが必要である。旅券の取得、現地通貨などの準備、ツアーや航空券の手配、保険の申請などがある。

■オフィスアワー

月曜日 13 時～ 14 時 30 分 (変更が生じた場合は適宜指示する)。

■評価方法

海外研修時において学生個人が定めた目的に対し、十分な学習経験を得ていると認められる活動に対し、単位を認める。成績は、事前指導、事後指導への参加状況、研修中の活動記録 (40%)、研修後報告書の課題 (60%) をもとに評価する。原則として以下の条件を満たすこと。

- ① 学内におけるガイダンス、事前・事後指導にすべて出席すること。
- ② 事前に研修期間を通して学修・研究すべき課題を決め、事前レポートを提出すること。
- ③ 滞在期間中に必要な学習活動を行うこと。
- ④ 研修期間中の活動記録を提出すること。
- ⑤ 帰国後、指定された時期までに報告書などの課題を提出すること。

■教科書

担当教員が適宜指示する。

■参考書

海外渡航学生マニュアル (群馬医療福祉大学作成) 渡航先に関するガイドブック、新聞、海外ニュース、ネットなどによる最新の情報など。

理学療法専攻

科目名	基礎演習Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	1年生担任	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目			
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目			
キーワード	授業の受け方、図書館利用、レポート、グループワーク、発表、礼儀挨拶、環境美化				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

本学の建学の精神・教育目標に基づき、高校と大学の相違を、さまざまな観点から学び、円滑な移行を目指して初年次教育をおこなう。基礎演習Ⅰにおいては、礼儀・挨拶、ボランティア活動、環境美化活動を理解し、積極的に取り組み、人間としての基礎的教養力と自律的実践能力を養う。基礎演習の導入として、学問への動機づけ、コミュニケーション能力など、学習成果を保証するための学習方法や技術を総合的に学ぶ。

- ①礼儀・挨拶について説明でき、日々の生活の中で実践できる。
- ②環境美化について説明でき、日々の生活の中で実践できる。
- ③レポートを形式に則って作成できる。
- ④グループワークを円滑に実施できる。
- ⑤発表を簡潔にわかりやすく行えるようになる。
- ⑥実際の場面において適切な身だしなみ、見学態度、時間厳守、報告・連絡・相談が実践できる。

■授業の概要

本学の建学の精神・教育目的に基づき、自律的実践能力(マナー、バランス感覚、挨拶、服装、時間厳守、環境美化、ボランティア等)や基礎学士力(読書力、発表力、企画力等)の定着を図る。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	建学の精神と実践教育プログラム①: 科目オリエンテーション、基礎学士力の育成、ポートフォリオについて
第2回	建学の精神と実践教育プログラム②: 図書館の活用法
第3回	建学の精神と実践教育プログラム③: 礼儀・挨拶の実践、個人情報取り扱いについて
第4回	建学の精神と実践教育プログラム④: 礼儀・挨拶の実践 -身だしなみ-
第5回	建学の精神と実践教育プログラム⑤: ディズニープロジェクト①事前学習
第6回	学士力育成プログラム①: グループワーク手法、レポートの書き方①
第7回	学士力育成プログラム②: レポートの書き方②
第8回	建学の精神と実践教育プログラム⑥: ディズニープロジェクト②
第9回	建学の精神と実践教育プログラム⑦: ディズニープロジェクト③
第10回	建学の精神と実践教育プログラム⑧: ディズニープロジェクト④発表
第11回	建学の精神と実践教育プログラム⑨: 個人情報保護について①
第12回	建学の精神と実践教育プログラム⑩: 個人情報保護について②
第13回	学士力育成プログラム③: 聞く・伝える・まとめる力
第14回	建学の精神と実践教育プログラム⑪: 礼儀・挨拶、環境美化について①
第15回	建学の精神と実践教育プログラム⑫: 礼儀・挨拶、環境美化について②

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

グループワークや発表は出席が前提となるので、体調管理を怠らないこと。

〔受講のルール〕

- ①シラバスを確認し予習復習を必ず行い積極的に臨むこと。
- ②受講態度や身だしなみが整っていない場合受講を認めない。
- ③授業の流れや雰囲気を乱したり他の受講生の迷惑となる行為(私語、携帯電話の使用)は厳禁。
- ④内容が類似した課題は受け付けられないため自己の努力で作成すること。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式
 シャトルカード方式
 ICT利用(ウェブフォームやメールなど)
- その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

全ての授業で、情報収集、資料作成を行い、ポートフォリオを作成する。また、発表では、指定時間を厳守し、わかりやすく伝える工夫をすること。

■オフィスアワー

担当教員のオフィスアワーに準ずる。

■評価方法

- ◆レポート 30% ◆発表 30% ◆ポートフォリオ 40%

■教科書

基礎演習テキスト、地へのステップ、学生生活GUIDE

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	基礎演習Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	2年生担任	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学療法専攻2年次必修科目	免許等指定科目			
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目			
キーワード	企画・運営能力、コミュニケーション能力、読書力、問題解決能力				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

本学の建学の精神・教育目的に基づき、基礎演習Ⅰで行った初年次教育のステップアップを行う。基礎演習Ⅱにおいては、礼儀・挨拶、ボランティア活動、環境美化活動に自主的に取り組み、工夫できることを目指し、人間としての基礎的教養力と自立的実践能力を確実なものとする。読書力、コミュニケーション能力、問題解決能力などを高め、専門演習への橋渡しとする。

〔到達目標〕

- ①コミュニケーションに必要な、語彙・敬語・文法など日本語の総合力を身につける。
- ②自分のコミュニケーションの特徴を理解することができる。
- ③グループでのプレゼンテーション課題を通じて、企画・運営能力を高める。

■授業の概要

基礎演習Ⅱでは、①建学の精神と実践教育、②学士力育成、③進路・資格取得、④地域貢献、⑤心身の健康の5つのプログラムから構成し、建学の精神に則り、ボランティア活動、環境美化活動、挨拶等の礼儀作法等に関する人間としての基礎的教養力と自立的実践能力を学習する。また、読書力、問題解決能力、コミュニケーション能力を高め、学士力の向上を図る。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	建学の精神と実践教育プログラム①：科目オリエンテーション
第2回	学士力育成プログラム①：敬語・文法・語彙力
第3回	学士力育成プログラム②：言葉の意味・表記・漢字
第4回	学士力育成プログラム③：リベラルアーツ①
第5回	学士力育成プログラム④：リベラルアーツ②
第6回	学士力育成プログラム⑤：企画・運営能力を高める
第7回	学士力育成プログラム⑥：プレゼンテーション
第8回	学士力育成プログラム⑦：国際福祉機器展の事前学習
第9回	学士力育成プログラム⑧：国際福祉機器展①
第10回	学士力育成プログラム⑨：国際福祉機器展②
第11回	学士力育成プログラム⑩：国際福祉機器展③
第12回	学士力育成プログラム⑪：国際福祉機器展の振り返り
第13回	学士力育成プログラム⑫：読書力形成①
第14回	学士力育成プログラム⑬：読書力形成②
第15回	建学の精神と実践教育プログラム②：基礎演習まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

コミュニケーション能力は授業だけでは身に付かないため、積極的にボランティアに参加し、授業で得た知識を実践していくこと。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式
 シャトルカード方式
 ICT利用（WEBフォームやメールなど）
 その他（ ）

■授業時間外学習にかかわる情報

初回オリエンテーション時に詳細を伝える。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

レポート 80%（国際福祉機器展課題 40%、読書力形成課題 40%）、プレゼンテーション課題 20%。

■教科書

基礎演習テキスト、学生生活 GUIDE

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	総合演習Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	4年生担任 森田 隆夫	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学療法専攻 4 年次必修科目	免許等指定科目			
	カリキュラム上の位置づけ	基礎科目			
キーワード	就職活動、自己分析、将来設計				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕 本学の建学の精神・教育目的に基づき、人間としての総合的な力と問題解決能力を育成する。礼儀を重んじるとともに、ボランティア、環境美化活動、実習を通して身についた実践力をさらに高め、「仁愛」の精神をもつ自立した社会人となるためのスキルアップを図る。 〔到達目標〕 ①自己を客観的に分析し、他者に対しわかりやすく説明できる。 ②社会人としてのマナーを身につける。
--

■授業の概要

総合演習Ⅱでは、目前に迫る就職における基本的な知識を学ぶ。そして、大学4年間を振り返り自分自身を客観的に捉え直す機会とする。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	建学の精神と実践教育プログラム①：科目オリエンテーション／学長講話および建学の精神について
第2回	進路・資格取得プログラム①：就職活動の流れ
第3回	進路・資格取得プログラム②：就職活動におけるマナー講座①
第4回	進路・資格取得プログラム③：就職活動におけるマナー講座②
第5回	進路・資格取得プログラム④：求人票の見方
第6回	進路・資格取得プログラム⑤：情報収集発表①
第7回	進路・資格取得プログラム⑥：情報収集発表②
第8回	進路・資格取得プログラム⑦：自己分析①
第9回	進路・資格取得プログラム⑧：自己分析②
第10回	進路・資格取得プログラム⑨：履歴書①
第11回	進路・資格取得プログラム⑩：履歴書②
第12回	進路・資格取得プログラム⑪：面接
第13回	進路・資格取得プログラム⑫：卒業生からのメッセージ（就職編）
第14回	進路・資格取得プログラム⑬：卒業生からのメッセージ（就職編）
第15回	進路・資格取得プログラム⑭：まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕 教室指定をするので確認しておくこと。ポートフォリオ作成するためA4クリアファイル（厚めの物）を用意しておくこと。 〔受講のルール〕 間違っている、正しくなくても発言すること。他者の発言を糾弾し否定することは許されない。 ディスカッションには十分な準備が必要である。そのため、必ず配布された文献を読み、関連する資料を集めておくこと。それらはすべてポートフォリオに収める。
--

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

<input checked="checked" type="checkbox"/> コメントカード方式 <input type="checkbox"/> シャトルカード方式 <input type="checkbox"/> ICT利用（WEBフォームやメールなど） <input type="checkbox"/> その他（ ）
--

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

ポートフォリオ 100%

■教科書

進路の手引き

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	ボランティア活動Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	1年生担任	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目			
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目			
キーワード	汎用的技能、態度・志向性、ボランティア、コミュニケーション				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

ボランティアへの参加を通し、医療従事者としての基本的態度を学び、身に付ける。幅広い視点・視野、協調性、行動力といった能力を中心に培うことを目的とする。

〔到達目標〕

- ① 本学におけるボランティア活動の位置づけについて理解し、説明することができる。
- ② 依頼ボランティアや学校行事ボランティアへの参加を通して、基本的参加態度やボランティアの必要性を理解することができる。
- ③ ボランティア体験を通して、医療従事者としての基本的態度などの実践を行うことができる。

■授業の概要

医療従事者を目指す者として、専門的な医学知識や技術の習得だけでなく、汎用的技能や態度・志向性を身につける必要がある。そのために必要なことをボランティア活動などを通して学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション、本学・本学部におけるボランティアの位置づけと自己目標の設定、ボランティアに望むための態度
第2回	車椅子体験
第3回	高齢者体験
第4回	車椅子・高齢者体験まとめ
第5回	ボランティアについての講和
第6回	前期の振り返り
第7回	クリスマス会の企画
第8回	クリスマス会の企画、内容の検討、役割分担
第9回	クリスマス会予演会①
第10回	クリスマス会予演会②
第11回	クリスマス会
第12回	クリスマス会
第13回	クリスマス会の振り返り、まとめ
第14回	1年の振り返り(コミュニケーション、対人)
第15回	1年の振り返り(自己分析・他者評価)

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に係る情報〕

ポートフォリオ用のA4クリアブックを用意。

〔受講のルール〕

この科目は、ボランティア活動を通して自分自身がどの様に成長したか自分でまとめていく作業があります。積極的なボランティア活動の実践が前提となっています。

依頼ボランティア参加方法について十分理解し、先方やボランティアセンターとトラブルのないように配慮してください。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式
 シャトルカード方式
 ICT利用(WEBフォームやメールなど)
- その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

初回オリエンテーション時に詳細を伝えます。

■オフィスアワー

各専攻担任より指示。

■評価方法

ポートフォリオ 70%、ボランティア参加状況 18%、授業内発表 12%。

■教科書

ボランティアハンドブック

■参考書

鈴木敏恵著：ポートフォリオ評価とコーチング手法—臨床研修・臨床実習の成功戦略！, 医学書院, 2006

科目名	ボランティア活動Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	2年生担任	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学療法専攻2年次必修科目	免許等指定科目			
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目			
キーワード	汎用的技能、態度・志向性、ボランティア、コミュニケーション				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

ボランティア実践や模擬場面での練習を通し、医療従事者としての基本的態度を身につける。

〔到達目標〕

- ①社会人・職業人としての基本的マナーを身に付け、実践することができる。
- ②自身のコミュニケーション能力について客観的に評価し、分析することができる。
- ③プレゼンテーションの適切な方法について理解、実践することができる。
- ④グループワークのプロセスについて理解し、プロセスを実践することができる。
- ⑤自分自身の課題を認識し、その改善のための具体的な取り組み方法を検討することができる。

■授業の概要

医療従事者を目指す者として、専門的な医学知識や技術の習得だけでなく、汎用的技能や態度・志向性を身につける必要がある。アクティブ・ラーニングを通じてこれらについて学び、医療従事者としての基本的態度を身につける。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション/ポートフォリオとは
第2回	マナー
第3回	マナー
第4回	マナー
第5回	マナー
第6回	コミュニケーション技能
第7回	コミュニケーション技能
第8回	コミュニケーション技能
第9回	講話：学生ボランティア経験について
第10回	資料の作成方法
第11回	資料の作成方法
第12回	資料の作成方法
第13回	グループワークの進め方
第14回	グループワークの進め方
第15回	学んだことの振り返り

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に係る情報〕

A4 クリアブック(40ポケット)を用意。

〔受講のルール〕

積極的なボランティア活動の実践が前提である。

ふざけた態度や礼を欠く態度を取る者は受講を拒否することがある。

授業に関係ないものの持ち込みを禁止。特別な指示がない限り、携帯電話やスマートフォンは机に出さない。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式
 シャトルカード方式
 ICT利用(WEBフォームやメールなど)
- その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

初回オリエンテーション時に詳細を伝えます。

■オフィスアワー

各専攻担任より指示。

■評価方法

ポートフォリオ 50%、授業内課題など 35%、ボランティア参加 15%。

■教科書

特になし。適宜紹介する。

■参考書

鈴木敏恵著：ポートフォリオ評価とコーチング手法—臨床研修・臨床実習の成功戦略!、医学書院、2006
尾形圭子：イラッとされないビジネスマナー—社会常識の正解、サンクチュアリ出版、2010

作業療法専攻

科目名	基礎演習Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	1年生担任	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目			
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目			
キーワード	授業の受け方、図書館利用、レポート、グループワーク、発表、礼儀挨拶、環境美化				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

本学の建学の精神・教育目標に基づき、高校と大学の相違を、さまざまな観点から学び、円滑な移行を目指して初年次教育をおこなう。基礎演習Ⅰにおいては、礼儀・挨拶、ボランティア活動、環境美化活動を理解し、積極的に取り組み、人間としての基礎的教養力と自律的実践能力を養う。基礎演習の導入として、学問への動機づけ、コミュニケーション能力など、学習成果を保証するための学習方法や技術を総合的に学ぶ。

- ①礼儀・挨拶について説明でき、日々の生活の中で実践できる。
- ②環境美化について説明でき、日々の生活の中で実践できる。
- ③レポートを形式に則って作成できる。
- ④グループワークを円滑に実施できる。
- ⑤発表を簡潔にわかりやすく行えるようになる。
- ⑥実際の場面において適切な身だしなみ、見学態度、時間厳守、報告・連絡・相談が実践できる。

■授業の概要

本学の建学の精神・教育目的に基づき、自律的実践能力(マナー、バランス感覚、挨拶、服装、時間厳守、環境美化、ボランティア等)や基礎学士力(読書力、発表力、企画力等)の定着を図る。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	建学の精神と実践教育プログラム①：科目オリエンテーション、基礎学士力の育成、ポートフォリオについて
第2回	建学の精神と実践教育プログラム②：図書館の活用法
第3回	建学の精神と実践教育プログラム③：礼儀・挨拶の実践、個人情報取り扱いについて
第4回	建学の精神と実践教育プログラム④：礼儀・挨拶の実践 -身だしなみ-
第5回	建学の精神と実践教育プログラム⑤：ディズニープロジェクト①事前学習
第6回	学士力育成プログラム①：グループワーク手法、レポートの書き方①
第7回	学士力育成プログラム②：レポートの書き方②
第8回	建学の精神と実践教育プログラム⑥：ディズニープロジェクト②
第9回	建学の精神と実践教育プログラム⑦：ディズニープロジェクト③
第10回	建学の精神と実践教育プログラム⑧：ディズニープロジェクト④発表
第11回	建学の精神と実践教育プログラム⑨：個人情報保護について①
第12回	建学の精神と実践教育プログラム⑩：個人情報保護について②
第13回	学士力育成プログラム③：聞く・伝える・まとめる力
第14回	建学の精神と実践教育プログラム⑪：礼儀・挨拶、環境美化について①
第15回	建学の精神と実践教育プログラム⑫：礼儀・挨拶、環境美化について②

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

グループワークや発表は出席が前提となるので、体調管理を怠らないこと。

〔受講のルール〕

- ①シラバスを確認し予習復習を必ず行い積極的に臨むこと。
- ②受講態度や身だしなみが整っていない場合受講を認めない。
- ③授業の流れや雰囲気や乱したり他の受講生の迷惑となる行為(私語、携帯電話の使用)は厳禁。
- ④内容が類似した課題は受け付けられないため自己の努力で作成すること。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式
 シャトルカード方式
 ICT利用(ウェブフォームやメールなど)
- その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

全ての授業で、情報収集、資料作成を行い、ポートフォリオを作成する。また、発表では、指定時間を厳守し、わかりやすく伝える工夫をすること。

■オフィスアワー

担当教員のオフィスアワーに準ずる。

■評価方法

- ◆レポート 30% ◆発表 30% ◆ポートフォリオ 40%

■教科書

基礎演習テキスト、地へのステップ、学生生活GUIDE

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	基礎演習Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	2年生担任	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻 2 年次必修科目	免許等指定科目			
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目			
キーワード	企画・運営能力、コミュニケーション能力、読書力、問題解決能力				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

本学の建学の精神・教育目的に基づき、基礎演習Ⅰで行った初年次教育のステップアップを行う。基礎演習Ⅱにおいては、礼儀・挨拶、ボランティア活動、環境美化活動に自主的に取り組み、工夫できることを目指し、人間としての基礎的教養力と自立的実践能力を確実なものとする。読書力、コミュニケーション能力、問題解決能力などを高め、専門演習への橋渡しとする。

〔到達目標〕

- ①コミュニケーションに必要な、語彙・敬語・文法など日本語の総合力を身につける。
- ②自分のコミュニケーションの特徴を理解することができる。
- ③グループでのプレゼンテーション課題を通じて、企画・運営能力を高める。

■授業の概要

基礎演習Ⅱでは、①建学の精神と実践教育、②学士力育成、③進路・資格取得、④地域貢献、⑤心身の健康の5つのプログラムから構成し、建学の精神に則り、ボランティア活動、環境美化活動、挨拶等の礼儀作法等に関する人間としての基礎的教養力と自立的実践能力を学習する。また、読書力、問題解決能力、コミュニケーション能力を高め、学士力の向上を図る。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	建学の精神と実践教育プログラム①：科目オリエンテーション
第2回	学士力育成プログラム①：敬語・文法・語彙力
第3回	学士力育成プログラム②：言葉の意味・表記・漢字
第4回	学士力育成プログラム③：リベラルアーツ①
第5回	学士力育成プログラム④：リベラルアーツ②
第6回	学士力育成プログラム⑤：企画・運営能力を高める
第7回	学士力育成プログラム⑥：プレゼンテーション
第8回	学士力育成プログラム⑦：国際福祉機器展の事前学習
第9回	学士力育成プログラム⑧：国際福祉機器展①
第10回	学士力育成プログラム⑨：国際福祉機器展②
第11回	学士力育成プログラム⑩：国際福祉機器展③
第12回	学士力育成プログラム⑪：国際福祉機器展の振り返り
第13回	学士力育成プログラム⑫：読書力形成①
第14回	学士力育成プログラム⑬：読書力形成②
第15回	建学の精神と実践教育プログラム②：基礎演習まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

コミュニケーション能力は授業だけでは身に付かないため、積極的にボランティアに参加し、授業で得た知識を実践していくこと。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式
 シャトルカード方式
 ICT利用 (WEB フォームやメールなど)
- その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

初回オリエンテーション時に詳細を伝える。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

レポート 80% (国際福祉機器展課題 40%、読書力形成課題 40%)、プレゼンテーション課題 20%。

■教科書

基礎演習テキスト、学生生活 GUIDE

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	総合演習 I	担当教員 (単位認定者)	3 年生担任	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻 3 年次必修科目	免許等指定科目			
	カリキュラム上の位置づけ	基礎科目			
キーワード	質問力、問題発見能力、問題解決能力				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

本学の建学の精神に基づき、基礎演習で身に付けた基礎学力や問題解決能力等を基にして、高度な専門知識と豊かな人間性及び人間愛並びに奉仕の精神を備え、自立心と礼儀を重んじた世の中で役に立つ心豊かな学生を育成する。問題解決の思考プロセスの体得を目指し、総合的な学力を養成する。

■授業の概要

総合演習 I では、論理的思考能力の基礎となる「質問力」「問題解決能力」「ディベート」をグループワーク等を通して身につけていく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第 1 回授業にて配付します。

第 1 回	建学の精神と実践教育プログラム①：科目オリエンテーション/学長講話および建学の精神について
第 2 回	学習統合プログラム①：何が問題か、問題点の整理
第 3 回	学習統合プログラム②：重要問題を選んで問を立てる
第 4 回	学習統合プログラム③：解決アイデアを発想する
第 5 回	学習統合プログラム④：解決アイデアを評価する基準及び評価
第 6 回	学習統合プログラム⑤：実行計画の立案
第 7 回	進路・資格取得プログラム①：救急救命について(心肺蘇生法、AEDの方法について)
第 8 回	進路・資格取得プログラム②：就職活動の準備～①就職説明会に向けて
第 9 回	学習統合プログラム⑥：ディベート①
第 10 回	学習統合プログラム⑦：ディベート②
第 11 回	学習統合プログラム⑧：発表①
第 12 回	学習統合プログラム⑨：発表②
第 13 回	学習統合プログラム⑩：FPSP 問題解決力検定
第 14 回	進路・資格取得プログラム③：就職活動の準備～②就職説明会に向けて
第 15 回	建学の精神と実践教育プログラム②：まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

グループワークが多いので休まないこと。
ポートフォリオ作成のため、A4 クリアフォルダー(なるべくいっぱい入るもの)を用意すること。
NPO 法人 日本未来問題解決プログラム FPSP 問題解決力検定 受験料 3,000 円。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT 利用 (WEB フォームやメールなど)
 その他 ()

■授業時間外学習にかかわる情報

論理的思考能力を身につけるには、日々の生活を疑問を持って送ることが重要となる。授業で学んだことを生活の中で実践することが大切である。

■オフィスアワー

各専攻担任より指示。

■評価方法

■ポートフォリオ 40% ■FPSP 問題解決力検定 30% ■授業内発表 30%

■教科書

授業内で適宜紹介する。

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	ボランティア活動Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	1年生担任	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目			
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目			
キーワード	汎用的技能、態度・志向性、ボランティア、コミュニケーション				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

ボランティアへの参加を通し、医療従事者としての基本的態度を学び、身に付ける。幅広い視点・視野、協調性、行動力といった能力を中心に培うことを目的とする。

〔到達目標〕

- ① 本学におけるボランティア活動の位置づけについて理解し、説明することができる。
- ② 依頼ボランティアや学校行事ボランティアへの参加を通して、基本的参加態度やボランティアの必要性を理解することができる。
- ③ ボランティア体験を通して、医療従事者としての基本的態度などの実践を行うことができる。

■授業の概要

医療従事者を目指す者として、専門的な医学知識や技術の習得だけでなく、汎用的技能や態度・志向性を身につける必要がある。そのために必要なことをボランティア活動などを通して学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション、本学・本学部におけるボランティアの位置づけと自己目標の設定、ボランティアに望むための態度
第2回	車椅子体験
第3回	高齢者体験
第4回	車椅子・高齢者体験まとめ
第5回	ボランティアについての講和
第6回	前期の振り返り
第7回	クリスマス会の企画
第8回	クリスマス会の企画、内容の検討、役割分担
第9回	クリスマス会予演会①
第10回	クリスマス会予演会②
第11回	クリスマス会
第12回	クリスマス会
第13回	クリスマス会の振り返り、まとめ
第14回	1年の振り返り(コミュニケーション、対人)
第15回	1年の振り返り(自己分析・他者評価)

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に係る情報〕

ポートフォリオ用のA4クリアブックを用意。

〔受講のルール〕

この科目は、ボランティア活動を通して自分自身がどの様に成長したか自分でまとめていく作業があります。積極的なボランティア活動の実践が前提となっています。

依頼ボランティア参加方法について十分理解し、先方やボランティアセンターとトラブルのないように配慮してください。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シヤトルカード方式 ICT利用(WEBフォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

初回オリエンテーション時に詳細を伝えます。

■オフィスアワー

各専攻担任より指示。

■評価方法

ポートフォリオ 70%、ボランティア参加状況 18%、授業内発表 12%。

■教科書

ボランティアハンドブック

■参考書

鈴木敏恵著：ポートフォリオ評価とコーチング手法—臨床研修・臨床実習の成功戦略!、医学書院、2006

科目名	ボランティア活動Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	2年生担任	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻2年次必修科目	免許等指定科目			
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目			
キーワード	汎用的技能、態度・志向性、ボランティア、コミュニケーション				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

ボランティア実践や模擬場面での練習を通し、医療従事者としての基本的態度を身につける。

〔到達目標〕

- ①社会人・職業人としての基本的マナーを身に付け、実践することができる。
- ②自身のコミュニケーション能力について客観的に評価し、分析することができる。
- ③プレゼンテーションの適切な方法について理解、実践することができる。
- ④グループワークのプロセスについて理解し、プロセスを実践することができる。
- ⑤自分自身の課題を認識し、その改善のための具体的な取り組み方法を検討することができる。

■授業の概要

医療従事者を目指す者として、専門的な医学知識や技術の習得だけでなく、汎用的技能や態度・志向性を身につける必要がある。アクティブ・ラーニングを通じてこれらについて学び、医療従事者としての基本的態度を身につける。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション/ポートフォリオとは
第2回	マナー
第3回	マナー
第4回	マナー
第5回	マナー
第6回	コミュニケーション技能
第7回	コミュニケーション技能
第8回	コミュニケーション技能
第9回	講話：学生ボランティア経験について
第10回	資料の作成方法
第11回	資料の作成方法
第12回	資料の作成方法
第13回	グループワークの進め方
第14回	グループワークの進め方
第15回	学んだことの振り返り

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に係る情報〕

A4 クリアブック (40 ポケット) を用意。

〔受講のルール〕

積極的なボランティア活動の実践が前提である。

ふざけた態度や礼を欠く態度を取る者は受講を拒否することがある。

授業に関係ないものの持ち込みを禁止。特別な指示がない限り、携帯電話やスマートフォンは机に出さない。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式
 シャトルカード方式
 ICT 利用 (WEB フォームやメールなど)
- その他 ()

■授業時間外学習にかかわる情報

初回オリエンテーション時に詳細を伝えます。

■オフィスアワー

各専攻担任より指示。

■評価方法

ポートフォリオ 50%、授業内課題など 35%、ボランティア参加 15%。

■教科書

特になし。適宜紹介する。

■参考書

鈴木敏恵著：ポートフォリオ評価とコーチング手法—臨床研修・臨床実習の成功戦略！, 医学書院, 2006

尾形圭子：イラッとされないビジネスマナー—社会常識の正解, サンクチュアリ出版, 2010

專門基礎科目

共 通

科目名	解剖学I	担当教員 (単位認定者)	伊東 順太	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学・作業療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	理学療法・作業療法国家試験 受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「人体の構造と機能及び心身の発達」			
キーワード	骨格系、筋系				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

人体の構造と分類、特に骨格系、筋系および神経系について学び、運動に関係する基本的な解剖学的な構造を習得できるようにすることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①椎骨の基本型と脊柱および胸郭の構成を説明することができる。
- ②四肢の骨格の構成と各部の名称を説明することができる。
- ③頭蓋骨の構成と各部の特徴を説明することができる。
- ④四肢の筋群の起始停止部、支配神経および作用を説明することができる。
- ⑤体幹および頭頸部の筋群の構成と位置関係を説明することができる。
- ⑥骨の連結の種類と構造を説明することができる。
- ⑦脊柱と胸郭の連結を説明することができる。
- ⑧四肢の骨格の連結と運動を説明することができる。

■授業の概要

生体観察を通して、人体の区分、各部の特徴および骨格系と筋系、骨の連結について知り、理解できるようになることが必要である。また、解剖学実習、生理学実習、生理学、運動学の知識と双方向性の理解が必要となる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	オリエンテーション、人体の各部の名称と方向用語
第2回	骨格系-1 上肢の骨
第3回	骨格系-2 上肢の骨
第4回	骨格系-3 骨盤、下肢の骨
第5回	骨格系-4、-5 椎骨、脊椎と胸郭
第6回	骨格系-5、-6 胸郭と頭部の骨、骨の構成
第7回	筋系-1 頭頸部の筋、頭部の各骨との連結
第8回	筋系-2 体幹の筋、胸部の筋
第9回	筋系-3 脊柱の筋、上肢の筋、肩関節
第10回	筋系-4 上肢の筋、肘関節、前腕の筋、手の筋
第11回	筋系-5 上肢の筋、肘関節、前腕の筋、手の筋
第12回	筋系-6 骨盤の筋、骨盤の連結、下肢の筋
第13回	筋系-7 骨盤の筋、骨盤の連結、下肢の筋
第14回	筋系-8 下肢の筋、下肢の連結と運動について
第15回	筋系-9 まとめ、試験について

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・講義の予習復習に十分な時間を割くこと。
- ・講義資料を配付しますので、解剖トレーニングノートおよび教科書の該当ページを必ず参照すること。

〔受講のルール〕

- ・授業概要を必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。
- ・最前列から着席し、授業を受けやすい環境を作ること。
- ・医療専門職及び対人サービス職として、出席時間の厳守および対象者が好感を持てる態度を身につけることは基本である。そのため態度や身だしなみ等が整っていない場合は、受講を認めないことがある。
- ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話やスマートフォンの使用）は厳禁。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用（WEBフォームやメールなど）
 その他（ ）

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時間外には、予習復習に十分に時間を割くこと。特に、復習に重点を置き、授業内容はその日のうちに身につけること。

■オフィスアワー

授業終了後 20 分程度、対応可能。

■評価方法

筆記試験（客観・論述）100%であり、60%を越えていることが必要である。しかし、総合評価には課題提出状況が良好であることが前提となる。

■教科書

- ・標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学 野村巖【編】 医学書院
- ・解剖トレーニングノート 竹内修二（著） 医学教育出版社

■参考書

- ・ネッター解剖学アトラス Frank H. Netter(著) 南江堂
- ・ネッター解剖生理学アトラス John T.Hansen(著) 南江堂
- ・プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論・運動器系 坂井建雄(著) 医学書院
- ・カラーイラストで学ぶ 集中講義 解剖学 メジカルビュー社

科目名	解剖学Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	伊東 順太	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学・作業療法専攻 1 年次必修科目	免許等指定科目	理学療法・作業療法国家試験 受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「人体の構造と機能及び心身の発達」			
キーワード	脳、脊髄				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

人体の構造と分類、特に筋系、関節および神経系について学び、運動に関係する基本的な解剖学的な構造を習得できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①中枢神経の構造と機能および伝導路が説明することができる。
- ②末梢神経のうち、体性神経（脳神経、脊髄神経）の構成と分布先が説明することができる。
- ③末梢神経のうち、自律神経（交感神経、副交感神経）の構成と分布先が説明することができる。
- ④骨格系、筋系および神経系の構造を機能と関連づけて説明することができる。

■授業の概要

生体観察を通して、人体の区分、各部の特徴および筋系と神経系、筋の神経支配について知り、理解できるようになることが必要である。また、解剖学実習、生理学実習、生理学、運動学の知識と双方向性の理解が必要となる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション、神経系と筋系との関わり
第2回	脳と脊髄-1 中枢神経系の全体的な構造、大脳と間脳の構造
第3回	脳と脊髄-2 中脳、橋、延髄、小脳、脊髄の構造
第4回	脳と脊髄-3 脳と脊髄のまとめ
第5回	脳と脊髄-4 中脳、橋、延髄、小脳、脊髄の伝導路
第6回	脊髄神経-1 脊髄神経の構造とその枝
第7回	脊髄神経-2、-3 頸神経叢、腕神経叢の構成とその枝
第8回	脊髄神経-4 腕神経叢の枝と支配筋
第9回	脊髄神経-5 腕神経叢のまとめ
第10回	脊髄神経-6 肋間神経の構成とその枝、支配筋
第11回	脊髄神経-7 腰神経叢の構成とその枝、支配筋
第12回	脊髄神経-8 仙骨神経叢の構成とその枝、支配筋
第13回	脊髄神経-9 坐骨神経の枝、支配筋
第14回	脊髄神経-10 腰神経総、仙骨神経叢のまとめ
第15回	脊髄神経-11 脳神経、自律神経、試験勉強

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・講義の予習復習に十分な時間を割くこと。
- ・講義資料を配付しますので、解剖トレーニングノートおよび教科書の該当ページを必ず参照すること。

〔受講のルール〕

- ・授業概要を必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。
- ・最前列から着席し、授業を受けやすい環境を作ること。
- ・医療専門職及び対人サービス職として、出席時間の厳守および対象者が好感を持てる態度を身につけることは基本である。そのため態度や身だしなみ等が整っていない場合は、受講を認めないことがある。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話やスマートフォンの使用）は厳禁。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用（WEBフォームやメールなど）
 その他（ ）

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

授業終了後 20 分程度、対応可能。

■評価方法

筆記試験（客観・論述）100%であり、60%を越えていることが必要である。しかし、総合評価には課題提出状況が良好であることが前提となる。

■教科書

- ・標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学 野村巖【編】 医学書院
- ・解剖トレーニングノート 竹内修二（著） 医学教育出版社

■参考書

- ・ネッター解剖学アトラス Frank H. Netter(著) 南江堂
- ・ネッター解剖生理学アトラス John T.Hansen(著) 南江堂
- ・プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論・運動器系 坂井建雄(著) 医学書院
- ・カラーイラストで学ぶ 集中講義 解剖学 メジカルビュー社

科目名	解剖学実習	担当教員 (単位認定者)	多田 真和・栗原 卓也	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学・作業療法専攻 1 年次必修科目	免許等指定科目	理学療法・作業療法国家試験 受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「人体の構造と機能及び心身の発達」			
キーワード	脳神経系、呼吸器系、循環器系、消化器系、泌尿器系、内分泌系、平衡聴覚器				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

解剖学は、生理学、運動学、整形外科学および神経内科学等の専門基礎科目、さらに理学療法専門科目および作業療法専門科目等のすべての科目の基礎的知識であり、医療従事者として必須のものであるため、しっかりと知識を定着させる。

〔到達目標〕

- ①人体の構造を、器官系別に分類し理解できる。
- ②器官系別に理解した知識を有機的にまとめ、人体全体を立体的、総合的に理解できる。
- ③人体の構造を、自らの手で描き、説明することができる。

■授業の概要

「解剖学Ⅰ/Ⅱ」では「骨格系」、「筋系」および「神経系」を中心に授業が進められる。「解剖学実習」では、「脳神経系」に加え、人体の他の構成単位である「呼吸器系」、「循環器系」、「消化器系」、「泌尿器系」、「内分泌系」および「平衡聴覚器」について学ぶ。授業では、パワーポイント(ppt)やビデオ画像を多用し、視覚的に理解しやすいように配慮する。また、学年末には、実際の人体の解剖標本を目の当たりにすることで、授業で学んだ知識を立体的かつ総合的に理解を深められるようにする。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	大脳半球、脳室、脳脊髄液、上行・下行伝導路、間脳	(栗原)
第2回	脳血管	(栗原)
第3回	CT、MRIの読影	(栗原)
第4回	大脳週縁系、交感神経、副交感神経、脳神経	(栗原)
第5回	呼吸器系 (鼻、喉頭、気管・気管支、肺)	(多田)
第6回	循環器系 I (動脈・静脈・毛細血管、心臓)	(多田)
第7回	循環器系 II (肺循環、体循環、全身の動脈系、全身の静脈系)	(多田)
第8回	循環器系 III (胎生期の循環系、リンパ系)	(多田)
第9回	消化器系 I (口腔)	(多田)
第10回	消化器系 II (咽頭、食道、胃、小腸、大腸)	(多田)
第11回	消化器系 III (肝臓、胆嚢、膵臓、腹膜)	(多田)
第12回	泌尿器系 (腎臓、尿管、膀胱、尿道)	(多田)
第13回	内分泌系 I (ホルモン・標的器官、下垂体、甲状腺、上皮小体)	(多田)
第14回	内分泌系 II (副腎、膵臓、腎臓、視床下部、胸腺)	(多田)
第15回	平衡聴覚器 (外耳、中耳、内耳)	(多田)

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

授業に臨むにあたり、必ず該当分野の予習を行ってこよう。体内の位置と機能については、必須である。

〔受講のルール〕

将来の医療従事者として、相手から信頼感が得られるような態度および姿勢で授業に臨むこと。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用 (WEBフォームやメールなど)
 その他 ()

■授業時間外学習にかかわる情報

教科書の該当分野は前もって熟読し、自分が理解しにくい部分を明確にして授業に臨むこと。

■オフィスアワー

授業終了後の15分間、また、コメントカードに質問内容を記載すれば次回授業時に解説する。

■評価方法

筆記試験 100%

■教科書

標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第4版 野村嶺【編】 医学書院
 JINブックス 絵で見る脳と神経 しくみと障害のメカニズム 第3版 馬場元毅著 医学書院

■参考書

授業中に適宜紹介する。

科目名	生理学I	担当教員 (単位認定者)	岩崎 俊晴	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学・作業療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	理学療法・作業療法国家試験 受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「人体の構造と機能及び心身の発達」			
キーワード	神経系、運動器、造血管				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕 神経系、運動器、造血管の調節機構の基礎を身につけること、及び、専門科目に応用可能な知識を習得することを目的とする。
〔到達目標〕 ①内臓器の基礎を解剖図・概念図を用いて簡潔に説明出来るようになる。 ②生理学全体を鳥瞰的に理解し、基本概念を全体の中での位置づけを意識して説明出来るようになる。 ③他の基礎科目・専門科目に応用することが出来るようになる。

■授業の概要

生理学はヒトの体の正常の機能を理解することを目的としており、疾病から正常状態への復帰を目指すリハビリテーションには不可欠である。しかし、生理学の領域は膨大で、未だ解明されていないことが多くある。リハビリテーションの実践に、いかに生理学の知識を活用していくのかを常に念頭に置いて、体系的に理解が進められるように授業を進めていく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。	
第1回	生命現象と人体①
第2回	生命現象と人体②
第3回	心臓と循環①
第4回	心臓と循環②
第5回	心臓と循環③
第6回	呼吸とガスの運搬①
第7回	呼吸とガスの運搬②
第8回	尿の生成と排泄①
第9回	尿の生成と排泄②
第10回	酸塩基平衡
第11回	内分泌①
第12回	内分泌②
第13回	生殖と発生
第14回	代謝と体温①
第15回	代謝と体温②

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕 ・予習復習は必ず行うこと。
〔受講のルール〕 ・授業概要を必ず確認し積極的に授業に臨むこと。 ・出席時間厳守。 ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

<input checked="" type="checkbox"/> コメントカード方式	<input type="checkbox"/> シャトルカード方式	<input type="checkbox"/> ICT利用（WEBフォームやメールなど）
<input type="checkbox"/> その他（ ）		

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

授業終了後 20 分程度、対応可能。

■評価方法

選択式もしくは筆記式（論述含む）、レポート、出席点の総合評価。

■教科書

標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第4版 石澤光郎 富永淳 著、医学書院
シンプル生理学（改訂7版）、貴邑 富久子、根来 英雄、南江堂

■参考書

リップスコット生理学、栗原 敏（監修、翻訳）、鯉淵 典之（監修、翻訳）

科目名	生理学実習	担当教員 (単位認定者)	大竹 一男	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学・作業療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	理学療法・作業療法国家試験 受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「人体の構造と機能及び心身の発達」			
キーワード					

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

生理学の授業で学んだ知識を最大限に活用し、実習を通じて生体の仕組みをより深く理解する。

〔到達目標〕

- ①人体の仕組みについての知識を習得し系統だてて説明できる。
- ②実際に医療現場で使われている器具や装置を適切に扱うことができる。
- ③お互い測定しあうことによって医療人としてのコミュニケーション能力を高めることができる。

■授業の概要

実際の医療の現場で使われている器具や装置を使って、私たちの血圧、呼吸、体温、心電図を実際に測定したり、血液を顕微鏡で観察したり、尿試験紙による尿検査も行います。また私たちが食物を摂取することによってエネルギーを生み出し、消費し、排泄するまでの一連の過程についても学習します。また、PT・OTの領域で重要な視覚や聴覚についての仕組みについても学びます。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	血圧測定の意義と方法について学ぶ。
第2回	実際に水銀血圧計で血圧を測定し、その評価ができる。
第3回	心電図の測定の意義と方法について学ぶ。
第4回	実際に心電図計で心電図を測定し、その評価ができる。
第5回	呼吸数及び呼吸機能の測定の意義と方法について学ぶ。
第6回	実際にスパイロメータで呼吸機能を測定し、その評価ができる。
第7回	体温測定の意義と方法について学ぶ。実際に体温を測定し、その評価ができる。
第8回	消化と吸収について学ぶ。消化管の運動（嚥下、蠕動運動、排便）について学ぶ。
第9回	エネルギー産生について学ぶ。十二指腸、肝臓、膵臓、胆のうのネットワークについて学ぶ。
第10回	体組成と腹囲測定の意義と方法について学ぶ。実際に体組成を測定し、その評価ができる。
第11回	神経細胞の軸索のネットワークと脳の可塑性
第12回	血液について学ぶ。実際の血液像を顕微鏡で観察し、その評価ができる。
第13回	尿の生成と排尿のしくみについて学ぶ。実際に尿検査を実施し、その評価ができる。
第14回	視覚についての基礎を学ぶ。盲点、瞳孔の反射の確認、色盲試験を行い、その評価ができる。
第15回	聴覚についての基礎を学ぶ。音の周波数の違い、平衡感覚試験を行い、その評価ができる。

■受講生に関わる情報および受講のルール

実習の実施に当たっては怪我のないように十分に注意し指導教員の指示に従うこと。実習で得られた検査結果を基に報告書（レポート）を作成し期限内に提出すること。その他、実習器具、検査値、感染性一般ゴミの取り扱いに注意し指導教員の指示に従うこと。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用（WEBフォームやメールなど）
 その他（)

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

授業前後10分程度。

■評価方法

実習レポート30%、期末レポート試験70%。

■教科書

岡田隆夫／長岡正範，標準理学療法学・作業療法学 生理学 第4版，2013年

■参考書

その都度指示する。

科目名	人間発達学	担当教員 (単位認定者)	北爪 浩美	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	理学・作業療法専攻 1 年次必修科目	免許等指定科目	理学療法・作業療法国家試験 受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「人体の構造と機能及び心身の発達」			
キーワード	ライフステージ、発達、発達過程				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

ヒトの神経系の発達と運動発達、認知・精神機能及び社会性の発達を学び、リハビリテーションに携わるものとしてQOLの視点から対象者の発達区分や状況に応じた対応ができるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①発達の諸段階と発達課題について説明できる。
- ②ヒトの発達における身体、認知機能の発達について理解し、説明することができる。
- ③心理、社会生活活動の発達について理解し、説明することができる。
- ④育ちを支える社会機構について理解し、説明することができる。

■授業の概要

ヒトの発達は脳を中心とする神経系の発達と外部からの情報を入力することでなされ、様々な機能や行動を学習し成熟する。発達を理解することでリハビリテーションにおける対象者の状況や目標を適切に把握するため、発達過程や発達課題について学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション、人間発達の概念
第2回	乳児期の発達、反射、神経系の発達
第3回	乳児期の反射、神経系の発達
第4回	乳児期の発達(3～7か月)、原始反射、反応
第5回	乳児期及び幼児期の発達、反射反応と運動発達の関係
第6回	学童期の発達
第7回	青年期、成人期の発達
第8回	高齢期の発達

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・授業で配布する資料の予備は保管しないため、欠席した場合は出席者からコピーすること。
- ・授業の流れや雰囲気等を乱す行為、常識を欠く行為(私語、携帯電話の使用など)は厳禁。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式
 シャトルカード方式
 ICT利用(WEBフォームやメールなど)
- その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

授業終了後 20 分程、対応可能。

■評価方法

筆記試験 100%

■教科書

福田恵美子編：コメディカルのための専門基礎テキスト 人間発達学 2 版. 中外医学社. 2009

■参考書

前川喜平著：小児リハビリテーションのための神経と発達の診かた. 新興医学出版社. 2002

科目名	病理学概論	担当教員 (単位認定者)	前島 俊孝	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学・作業療法専攻 2 年次必修科目	免許等指定科目	理学療法・作業療法国家試験 受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進」			
キーワード	病因、病態				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

病理学的な用語の定義、様々な疾患の発生機序や病態について学び、理解することを目的とする。

〔到達目標〕

- ・病理学関連の用語を理解し、正しく説明できる。
- ・基本的な疾患の病態について説明できる。

■授業の概要

細胞傷害、循環障害、先天異常、炎症、免疫、腫瘍、代謝異常などを学び、様々な疾病の成り立ち・病態が理解できるよう解説する。病理学概論の内容は、将来医療スタッフとして働いていく上で必要不可欠な知識であり、その理解なしには医学書を読むことも不可能である。覚えることが多いが、できるだけ考えることを重視した講義を行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第 1 回授業にて配付します。

第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	解剖学の復習
第 3 回	病因
第 4 回	細胞傷害
第 5 回	循環障害
第 6 回	循環障害
第 7 回	炎症
第 8 回	免疫、アレルギー
第 9 回	代謝異常、糖尿病
第 10 回	腫瘍
第 11 回	腫瘍
第 12 回	腫瘍
第 13 回	先天異常
第 14 回	感染症
第 15 回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・春休みに解剖学全般の復習をして、病理学概論の講義に望んで欲しい。
- ・机の隣同士 2～3 人で相談し、毎時間、病理学と解剖学の教科書を各 1 冊は用意すること。
- ・病理学概論の講義では授業中の質問に対して「わからない」は禁句である。試験ではないので、教科書等で調べたり、周りと相談するなどして何らかの答えを導き出すように。
- ・時間厳守であるが、もし遅刻した場合やトイレ等で退室する際などは、授業の妨げとならないよう静かに行動すること。
- ・新聞やテレビなどのニュース、特に医療・医学に関する内容に興味を持つ。
- ・読書の習慣を身につける。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT 利用 (WEB フォームやメールなど)
 その他 ()

■授業時間外学習にかかわる情報

講義を受けることで、教科書を理解して読むことが可能となるはずである。月に 2 回程度、週末で構わないので、講義で扱った範囲の教科書を読む習慣をつけておくと、試験直前に勉強を 0 から始めるような状況にならずにすむ。

■オフィスアワー

授業終了後 20 分は対応可能。

■評価方法

筆記試験 (客観・論述) 80%、レポート 20%。

■教科書

堤寛: クイックマスター 病理学 第 2 版, サイオ出版, 2017

■参考書

解剖学の教科書 (病理学概論の講義でも使用する)

科目名	臨床心理学	担当教員 (単位認定者)	橋本 広信	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学・作業療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	理学療法・作業療法国家試験 受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進」			
キーワード	精神分析療法、認知行動療法、森田療法、内観療法、芸術・表現療法、障害受容、リハビリテーション患者の心理				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

理学療法士・作業療法士を目指す者として、臨床心理学領域における国家試験問題に対処できる基礎知識を習得する。また、集団としての人ではなく、人生の途上で、一人ひとり独自の存在として生きる個人個人が会う心の問題に対する見方を学び、問題を多面的に理解し、その対処のあり方をイメージできることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①代表的な心理療法の理論と実際についてその基礎を理解できる。
- ②リハビリ患者を含め、それ以外の心理的な支援を必要とする人が抱える生きづらさや心理的課題を理解できる。
- ③心理的な課題を抱えた人が歩む回復のプロセスと支援方法を描くことができる。

■授業の概要

臨床心理学において積み上げられてきた人の心に関する諸理論を解説する。そして、多様な角度から考えられた心の回復や成長のプロセスを学ぶことで、それを引き出す対人支援のあり方を理解できるよう授業を行う。授業全体を通し、「人の心が回復する」、「人が成長する」ということの意味や意義を考えられるように、具体的事例や障害当事者の方の授業参加を取り入れ、なるべく多くの演習形式を取入れた授業を展開する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション 臨床心理学とは？
第2回	精神分析の理論と技法：フロイトと無意識の発見
第3回	心の探求のその後① C. G. ユングと分析心理学を中心に
第4回	人間関係を分析する 交流分析(バーン、デュセイ)、エゴグラム、ゲーム分析、シナリオ分析
第5回	ロジャーズの人格理論とクライエント中心療法 自己論、セラピストの三条件
第6回	行動療法：学習理論、系統的脱感作法、不安階層表、オペラント法 等
第7回	認知行動療法：思い込みを修正する、論理情動療法(エリス)、認知療法(ベック)、自己教示訓練(マイケンバウム)
第8回	森田療法・内観療法：日本で生まれた心理療法を学ぶ
第9回	芸術・表現療法：自己を表現して癒す 絵画療法、箱庭療法、バウムテスト、風景構成法、カラージュ療法 等
第10回	家族療法：IPという考え方、家族システム、構造派家族療法、戦略派家族療法、解決志向短期療法
第11回	リハビリ患者の心理と障害受容を考える① 心理的ストレス反応尺度、障害受容の5段階説、障害受容について
第12回	集団心理療法：エンカウンター・グループ、SST(リバーマン)、心理劇(モレノ)
第13回	様々な訓練法と心理検査復習：自立訓練法(シュルツ)、漸進的筋弛緩法(ジェイコブソン)、感受性訓練法、心理検査
第14回	リハビリ患者の心理と障害受容を考える②(当事者によるリハビリ患者の心理：身体障害を生きる)
第15回	リハビリ患者の心理と障害受容を考える③(当事者によるリハビリ患者の心理：難病を生きる)、障害の社会モデル

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・国家試験に関連する科目であるので、国家試験参考書で実際にどのように問題が出るかを随時調べる。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話の使用等)は退席を命じる。その場合は欠席扱いとする。
- ・評価方法にある通り、3回程度小レポートや感想文を課す。それぞれ評価の対象になるので、必ず期限内に提出すること。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式
 シャトルカード方式
 ICT利用(WEBフォームやメールなど)
- その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

授業5回ごとの区切りで提出する予定の課題について、小レポート・感想文等を作成し提出させる予定。毎回の授業では、授業概要をもとに授業に出てくる重要人物とその理論について授業前に調べ、ノートに整理しておくこと。

■オフィスアワー

月曜 9時～10時30分、12時～13時。

■評価方法

〈総合評価〉総合得点 60～69点：C 70～79点：B 80～89点：A 90点以上：S で評価。
 〈評価割合〉期末試験 70%、小レポート・感想文等提出物 30%(30点÷提出回(予定3回)=1提出物得点(1回10点))。

■教科書

窪内節子・吉武光世『やさしく学べる心理療法の基礎』(培風館、2003)

■参考書

松島恭子『臨床実践からみるライフサイクルの心理療法』(創元社、2004) その他適宜指示をする。

科目名	一般臨床医学	担当教員 (単位認定者)	栗原 卓也	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学・作業療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修 社会福祉主事任用資格指定科目		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進」			
キーワード	生活習慣病、がん、感染症、生殖、移植				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

その病気がなぜ起こり、体の中でどのような異常が起きているのか、そしてその状態を改善するためにはどのような方法をとればいいのかを、簡潔かつ的確に述べられることを目標とする。

〔到達目標〕

- ①各種疾患の症状や障害発生のメカニズムを病態生理学的に説明できる。
- ②疾患診断にあたっての代表的な手法や主要な治療方法、予後について説明できる。

■授業の概要

将来、医療の世界で活躍してゆく者にとって必要な医学の知識を、白紙の状態である君たちに、出来る限りわかりやすく、平易に伝えてゆく。人体を構成する各臓器の単位で、まずは構造(解剖)機能(生理)を学習し、ついでその破綻(病理)とその修復(治療)を、君たちが将来必ず直面する疾患に焦点を絞って解説する。1年次で並行して学習する、解剖学、生理学、生化学に役立ち、2年次で学習する病理学、内科学に直結する内容となるよう配慮している。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	・授業オリエンテーション ・医学とは? 医学の歴史、医学の分類、医療の約束事(ルール)
第2回	生命維持のしくみ I 細胞、組織、血液
第3回	生命維持のしくみ II 循環器(心臓、血管)
第4回	生活習慣病I 動脈硬化のメカニズム (高血圧症)
第5回	生活習慣病II 動脈硬化のメカニズム (糖尿病、脂質異常症、メタボリック症候群)
第6回	生活習慣病III 動脈硬化の末路 (脳血管障害)
第7回	生活習慣病IV 動脈硬化の末路 (狭心症・心筋梗塞)
第8回	小テスト①(第1講から第6講までの範囲)、生命維持のしくみ III 呼吸器(口腔、鼻咽腔、気管、肺)
第9回	呼吸器の障害 : 炎症、閉塞性肺疾患、拘束性肺疾患、たばこの問題
第10回	細胞の暴走=がん: がんとは? がんの問題点、治療方法
第11回	生命維持のしくみ IV 消化器(消化管、腹腔内臓器)
第12回	消化器の障害 : 消化管のがん、潰瘍、肝炎
第13回	小テスト②(第7講から第12講までの範囲)、外敵の侵入: 感染症
第14回	次世代につなぐ命I: 生殖(妊娠、不妊症)
第15回	次世代につなぐ命II: 臓器移植、細胞移植

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。
テキストはなく、授業時に配布する資料がテキストとなる。授業はハイスピードで進む。高校の授業とは違うことを認識すること。そのためには、Keywordsを参照しながら、授業に集中することが要求される。そして、授業終了後にKeywordsの指示事項を整理記憶することが必須である。この作業ができない者は、将来、患者さんからの情報を収集、分析することはできない。なお配布資料については、朝のホームルーム前に週番が講師室に受け取りに来て、責任を持ってクラスの全員に配布すること。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(WEBフォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

第1回の授業で配布するKeywordに従って、要点を整理してゆくこと。A4のノートの左側にKeywordを短冊状に切って貼り付け、右側のページに、指定内容を記載してゆくこと。復習が重要となる。

■オフィスアワー

木曜日の授業終了後の休憩時間。

■評価方法

筆記試験による期末試験で、60%以上の得点を得る事が、成績評価の前提条件である。その上で、学期中に2回行なう小テストの点数を50%(25点×2回)、期末テストの点数に50%(50点)の配分をした点数をもって、成績評価を行なう。小テストの比重が重いことに注意されたい。なお小テストについては、再試験を実施しない。欠席の場合は、如何なる理由でも0点となる。期末の再試験においても、小テストの再試験は実施せず、前期講義の全範囲の内容の100点満点の再試験で、単位修得の可否のみ判定(CまたはD評価のみとなる)する。日頃の健康管理も重要であり、医療人となる者にとっては必須の事項である。各テストは、空欄補充形式の問題と指定範囲内の過去の国家試験問題からなる。

■教科書

広範囲な内容にふさわしい適切なテキストがないため、特に指定しない。授業で配布するプリントの蓄積がテキストとなる。

■参考書

授業中に適宜紹介する。

科目名	リハビリテーション医学	担当教員 (単位認定者)	栗原 卓也	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学・作業療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修 社会福祉主事任用資格指定科目		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進」			
キーワード	廃用症候群、運動器リハ、脳神経リハ、心臓リハ、呼吸器リハ				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

第4の医学といわれるリハビリテーション医学の成り立ち、背景を理解し、対象とする疾患の病態生理ならびに解決方法を、簡潔にかつ的確に述べられること。

〔到達目標〕

- ①痛みや機能障害発生のメカニズムを病態生理学的に説明できる。
- ②診断にあたっての手順とその所見が説明できる。
- ③治療方法の根拠と手順が説明できる。
- ④治療前後の病態の変化が観察、理解、明示できる。

■授業の概要

2年次以降に展開される、専門科目や実習で必要となるリハビリテーション医学の内容は、広範囲にわたり、膨大な知識が必要となる。授業では、各項目について要点のみ簡潔に解説し、身についた知識が幹となり、2年次以降に学習する各専門科目に花開き、国家試験ならびに将来の現場で実を結ぶように配慮している。テキストは、基礎医学、臨床医学を学習している事が前提に記載されており、難解であり、予習は不可能である。未学習分野をプリントやビデオで補い、基礎的なところから疾患の病態に入り、その疾患に対するリハビリテーションの実際を重要点に絞って解説する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション、リハビリテーション医学総論Ⅰ(歴史、理念、位置づけ、評価)
第2回	リハビリテーション医学総論Ⅱ(医療経済学)
第3回	リハビリテーション医学総論Ⅲ(評価、廃用症候群)
第4回	運動器リハビリテーションⅠ(骨疾患、骨折)
第5回	運動器リハビリテーションⅡ(関節疾患 1)
第6回	運動器リハビリテーションⅢ(関節疾患 2)
第7回	運動器リハビリテーションⅣ(腰痛、頸肩腕痛)
第8回	運動器リハビリテーションⅤ(スポーツ外傷障害、複合性局所疼痛症候群)
第9回	小テスト①(第1回から第8回までの内容) 脳神経リハビリテーションⅠ(脳血管障害の病態、急性期リハビリテーション)
第10回	脳神経リハビリテーションⅡ(脳血管障害の回復期、維持期のリハビリテーション)
第11回	脳神経リハビリテーションⅢ(高次脳機能障害)
第12回	脳神経リハビリテーションⅣ(認知症)
第13回	脳神経リハビリテーションⅤ(神経変性疾患)
第14回	小テスト②(第9回から第13回までの内容)、内科領域のリハビリⅠ(心臓リハビリ、生活習慣病、内部障害のリハビリ)
第15回	内科領域のリハビリⅡ(呼吸器リハビリテーション)

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。
Keywordに基づき、集中して授業を聞き取ることが必須となる。自分の授業前の作業が、的確であったか否かの確認となる。さらに派生する重要事項も吸収することが必要で、1時間半の集中を要求する。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式
 シャトルカード方式
 ICT利用(WEBフォームやメールなど)
- その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

第1回の授業で配布するKeywordに従って、教科書で重要点を予習しておくこと。A4のノートの左側にKeywordを短冊状に切って貼り付け、右側のページに指定内容を記載しておく。授業でその内容を確認して、さらに追加内容を復習すること。

■オフィスアワー

木曜日の授業終了後の休憩時間。

■評価方法

筆記試験による期末試験で、60%以上の得点を得る事が、成績評価の前提条件である。その上で、学期中に2回行なう小テストの点数を50%(25点×2回)、期末テストの点数に50%(50点)の配分をした点数をもって、成績評価を行なう。小テストの比重が重いことに注意されたい。なお小テストについては、再試験を実施しない。欠席の場合は、如何なる理由でも0点となる。期末の再試験においても、小テストの再試験は実施せず、後期講義の全範囲の内容の100点満点の再試験で、単位修得の可否のみ判定(CまたはD評価のみとなる)する。日頃の健康管理も重要であり、医療人となる者にとっては必須の事項である。各テストは、空欄補充形式の問題と指定範囲内の過去の国家試験問題からなる。

■教科書

最新リハビリテーション医学 米本恭三監修 医歯薬出版株式会社

■参考書

授業中に適宜紹介する。

科目名	内科・老年医学Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	神谷 誠	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学・作業療法専攻 2 年次必修科目	免許等指定科目	理学療法・作業療法国家試験 受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進」			
キーワード	内科診断学、症候学、循環器疾患、呼吸器疾患、消化器疾患				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

目の前の患者さん、利用者さんの持っている内科的疾患に対して、その病態、治療内容、起こりうる合併症が把握、理解できるようになることである。到達目標は、理学療法士・作業療法士として活躍するために必要な内科学領域の知識、技術を習得することである。

〔到達目標〕

- ①メカニズムを病態生理学的に説明できる。
- ②診断にあたっての手順とその根拠が説明できる。
- ③治療方法の根拠と手順が説明できる。
- ④治療前後の病態の変化が観察、理解、明示できる。

■授業の概要

臨床医学の根幹をなす内科学について、各臓器別に、解剖学、生理学的知識を再確認しながら、疾患の病態生理、検査方法、治療方法を学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション、内科学の概念	症候学Ⅰ
第2回	症候学Ⅱ	
第3回	循環器Ⅰ	
第4回	循環器Ⅱ	
第5回	循環器Ⅲ	
第6回	循環器Ⅳ	
第7回	呼吸器Ⅰ	
第8回	呼吸器Ⅱ	
第9回	呼吸器Ⅲ	
第10回	呼吸器Ⅳ	
第11回	消化器Ⅰ	
第12回	消化器Ⅱ	
第13回	肝 胆 膵 Ⅰ	
第14回	肝 胆 膵 Ⅱ	
第15回	肝 胆 膵 Ⅲ	

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT 利用 (WEB フォームやメールなど)
 その他 ()

■授業時間外学習にかかわる情報

自宅で問題演習と併せ復習を行う。

■オフィスアワー

授業終了後、20 分程度対応可能。

■評価方法

筆記試験による期末試験で行う。

■教科書

標準理学療法学、作業療法学 専門基礎分野 内科学 第3版 前田真治他 執筆 医学書院

■参考書

授業中に適宜紹介する。

科目名	内科・老年医学Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	神谷 誠	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学・作業療法専攻 2 年次必修科目	免許等指定科目	理学療法・作業療法国家試験 受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進」			
キーワード	血液疾患、内分泌代謝疾患、腎泌尿器疾患、膠原病、アレルギー疾患、感染症、皮膚科学、老年病				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

目の前の患者さん、利用者さんの持っている内科的疾患に対して、その病態、治療内容、起こりうる合併症が把握、理解できるようになることである。到達目標は、理学療法士・作業療法士として活躍するために必要な内科および老年医学領域の知識、技術を習得することである。

〔到達目標〕

- ①各種徴候や症状の発生メカニズムを病態生理学的に説明できる。
- ②診断にあたっての手順とその根拠が説明できる。
- ③治療方法の根拠と手順が説明できる。
- ④治療前後の病態の変化が観察、理解、明示できる。

■授業の概要

臨床医学の根幹をなす内科学を、各臓器別に、解剖学、生理学的知識を再確認しながら、疾患の病態生理、検査方法、治療方法を学習する。後半では、加齢に伴う生体の変化、高齢者特有の疾患の病態生理を重要点に絞り学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	血液 造血器 I
第2回	血液 造血器 II
第3回	代謝
第4回	内分泌 I (総論)
第5回	内分泌 II (各論)
第6回	腎、泌尿器 I
第7回	腎、泌尿器 II
第8回	腎、泌尿器 III
第9回	アレルギー疾患
第10回	膠原病
第11回	感染症 I 総論
第12回	感染症 II 各論
第13回	老年学 I (総論)
第14回	老年学 II (高齢者に特徴的な症候と疾患①)
第15回	老年学 III (高齢者に特徴的な症候と疾患②)

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT 利用 (WEB フォームやメールなど)
 その他 ()

■授業時間外学習にかかわる情報

自宅で問題演習と併せ復習を行う。

■オフィスアワー

授業終了後、20 分程度は対応可能。

■評価方法

筆記試験による期末試験で行う。

■教科書

標準理学療法学、作業療法学 専門基礎分野 内科学 第3版 前田真治他 執筆 医学書院
標準理学療法学、作業療法学 専門基礎分野 老年学 第4版 大内尉義編集 医学書院

■参考書

授業中に適宜紹介する。

科目名	整形外科学I	担当教員 (単位認定者)	栗原 卓也	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学・作業療法専攻2年次必修科目	免許等指定科目	理学療法・作業療法国家試験 受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進」			
キーワード	骨疾患、骨折、関節疾患、変形性関節症、関節リウマチ、脊椎疾患、脊髄損傷				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

筋骨格系疾患の痛み、機能障害を訴える患者の体の異常を的確に把握し、その現象（病態生理）をわかりやすく説明できるようにすることである。その上で、その異常（痛みや機能障害）を改善するためには、どのような方法をとればよいのか説明できるようになることである。

〔到達目標〕

- ①痛みや機能障害発生のメカニズムを病態生理学的に説明できる。
- ②診断においての手順とその所見が説明できる。
- ③治療方法の根拠と手順が説明できる。
- ④治療前後の病態の変化が観察、理解、明示できる。

■授業の概要

運動器(筋、骨格、神経系)の機能障害を対象とする外科学の1分野であるが、外科の手技だけでなく、保存的治療も重要である。理学、作業療法は、保存的治療の主役であり、将来の君たちが治療の主役を担う事となる。リハビリテーション医療においては、必須の科目であり、日常よく遭遇する疾患を重点的に学習し、繰り返し行なう問題演習により、知識の定着を図る。将来君たちが現場に出た時に、迷わず動く事ができる実用的な知識を伝える。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション、骨 I：骨の基礎
第2回	骨 II：骨疾患、骨折総論①
第3回	骨 III：骨折総論②
第4回	骨 IV：骨折各論① 体幹部の骨折
第5回	骨 V：骨折各論② 上肢の骨折
第6回	骨 VI：骨折各論③ 下肢の骨折
第7回	関節 I：関節の基本構造、関節の変形、先天性股関節脱臼
第8回	小テスト①(骨IからVIまでの範囲)、関節 II：変形性関節症総論
第9回	関節 III：変形性関節症各論
第10回	関節 IV：関節リウマチ
第11回	関節 V：外傷性疾患①
第12回	関節 VI：外傷性疾患②
第13回	小テスト②(関節IからVIまでの範囲)、脊椎 I：脊椎の構造、障害部位と神経所見、脊椎疾患①
第14回	脊椎 II：脊椎疾患②
第15回	脊椎 III：脊椎疾患③

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。
チェックシート以外の重要点も随時強調する。神経を研ぎ澄ませ、聞き漏らさないこと。1時間半の集中を要求する。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(WEBフォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

授業で配布するチェックシートに従って、学習する。A4のノートの左側にチェックシートを短冊状に切って貼り付け、右側のページに、指定内容を教科書から調べ記載してゆくこと。これが予習である。授業で自分の事前の作業の妥当性を確認し、自宅で問題演習と併せ復習を行う。

■オフィスアワー

木曜日の授業終了後の休憩時間。

■評価方法

筆記試験による期末試験で、60%以上の得点を得る事が、成績評価の前提条件である。その上で、学期中に2回行なう小テストの点数を50%(25点×2回)、期末テストの点数に50%(50点)の配分をした点数をもって、成績評価を行なう。小テストの比重が重いことに注意されたい。なお小テストについては、再試験を実施しない。欠席の場合は、如何なる理由でも0点となる。期末の再試験においても、小テストの再試験は実施せず、前期講義の全範囲の内容の100点満点の再試験で、単位修得の可否のみ判定(CまたはD評価のみとなる)する。日頃の健康管理も重要であり、医療人となる者にとっては必須の事項である。各テストは、空欄補充形式の問題と指定範囲内の過去の国家試験問題からなる。

■教科書

標準整形外科学 第12版 中村利孝他編 医学書院
1年次で使用した、リハビリテーション医学(医歯薬出版)も適宜使用する。

■参考書

授業中に適宜紹介する。

科目名	整形外科学Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	栗原 卓也	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学・作業療法専攻 2 年次必修科目	免許等指定科目	理学療法・作業療法国家試験 受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進」			
キーワード	末梢神経疾患、神経、筋疾患、骨軟部腫瘍、四肢切断、義肢装具、スポーツ外傷、熱傷				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

筋骨格系疾患の痛み、機能障害を訴える患者の体の異常を的確に把握し、その現象（病態生理）をわかりやすく説明できるようにすることである。その上で、その異常（痛みや機能障害）を改善するためには、どのような方法をとればよいのか説明できるようになることである。

〔到達目標〕

- ①痛みや機能障害発生のメカニズムを病態生理学的に説明できる。
- ②診断にあたっての手順とその所見が説明できる。
- ③治療方法の根拠と手順が説明できる。
- ④治療前後の病態の変化が観察、理解、明示できる。

■授業の概要

運動器(筋、骨格、神経系)の機能障害を対象とする外科学の1分野であるが、外科の手技だけでなく、保存的治療も重要である。理学、作業療法は、保存的治療の主役であり、将来の君たちが治療の主役を担う事となる。リハビリテーション医療においては、必須の科目であり、日常よく遭遇する疾患を重点的に学習し、繰り返し行なう問題演習により、知識の定着を図る。将来君たちが現場に出た時に、迷わず動く事ができる実用的な知識を伝える。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	脊髄損傷 I
第2回	脊髄損傷 II
第3回	脊髄損傷 III
第4回	末梢神経 I
第5回	末梢神経 II
第6回	神経・筋疾患
第7回	小テスト①(脊髄損傷ⅠからⅢと末梢神経ⅠからⅡが範囲)、骨・軟部腫瘍
第8回	四肢の循環障害と壊死性疾患
第9回	切断および離断と義肢 I
第10回	切断および離断と義肢 II
第11回	切断および離断と義肢 III
第12回	小テスト②(神経筋疾患、骨軟部腫瘍腫瘍、四肢循環障害、壊死性疾患、切断、離断、義肢が範囲)熱傷、手の外科
第13回	スポーツ外傷・障害 I
第14回	スポーツ外傷・障害 II
第15回	整形外科的治療法

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。

チェックシート以外の重要点も随時強調する。神経を研ぎ澄ませ、聞き漏らさないこと。1時間半の集中を要求する。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT 利用 (WEB フォームやメールなど)
 その他 ()

■授業時間外学習にかかわる情報

授業で配布するチェックシートに従って、学習する。A4 のノートの左側にチェックシートを短冊状に切って貼り付け、右側のページに、指定内容を教科書から調べ記載してゆくこと。これが予習である。授業で自分の事前の作業の妥当性を確認し、自宅で問題演習と併せ復習を行う。

■オフィスアワー

木曜日の授業終了後の休憩時間。

■評価方法

筆記試験による期末試験で、60%以上の得点を得る事が、成績評価の前提条件である。その上で、学期中に2回行なう小テストの点数を50%(25点×2回)、期末テストの点数に50%(50点)の配分をした点数をもって、成績評価を行なう。小テストの比重が重いことに注意されたい。なお小テストについては、再試験を実施しない。欠席の場合は、如何なる理由でも0点となる。期末の再試験においても、小テストの再試験は実施せず、後期講義の全範囲の内容の100点満点の再試験で、単位修得の可否のみ判定(CまたはD評価のみとなる)する。日頃の健康管理も重要であり、医療人となる者にとっては必須の事項である。各テストは、空欄補充形式の問題と指定範囲内の過去の国家試験問題からなる。

■教科書

標準整形外科学 第12版 中村利孝他編 医学書院
1年次で使用した、リハビリテーション医学(医歯薬出版)も適宜使用する。

■参考書

授業中に適宜紹介する。

科目名	神経内科学I	担当教員 (単位認定者)	栗原 卓也	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学・作業療法専攻 2 年次必修科目	免許等指定科目	理学療法・作業療法国家試験 受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進」			
キーワード	中枢神経、脳循環、脳脊髄液循環、意識障害、脳ヘルニア、言語障害、認知症、運動麻痺、知覚障害、脳神経障害、 摂食嚥下障害、排尿障害、脳血管障害				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的・到達目標]

神経系の障害による、運動、知覚を代表とする諸機能の障害を訴える患者の異常を的確に把握し、その現象（病態生理）を説明できることをまず目的とする。そのためには、中枢神経、末梢神経、脳循環、脳脊髄液循環の構造としくみをしっかり理解していることが基礎となる。その上で、その障害を改善するためには、どのような方法をとればよいか説明できるようになることを最終目標とする。

■授業の概要

リハビリテーションの中心分野である神経疾患の知識は、理学、作業療法を行うものにとっては、必須である。まず中枢神経のしくみ（解剖学、生理学の復習となる）を理解し、そのうえで各種障害のメカニズムを学習してゆく。後期では、各種神経疾患を順次学習する。前期に学習した内容、整形外科学ならびに小児科学で学習する内容を繰り返し学習することで、知識の確実な定着をはかる。そして繰り返し行なう小テストと各自が行う問題演習により、知識は更に確実なものになる。将来諸君が現場に出た時に、目の前で生じている障害を的確に判断し、何が生じているかの病態生理を説明でき、自信を持って動く事ができる実用的な知識を伝える。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第 1 回授業にて配付します。

第 1 回	科目オリエンテーション、中枢神経のしくみ I 中枢神経と末梢神経、大脳①				
第 2 回	中枢神経のしくみ II 大脳②、小脳				
第 3 回	中枢神経のしくみ III 脳幹、脊髄				
第 4 回	中枢神経のしくみ IV 脳循環、脳脊髄液循環				
第 5 回	小テスト①（第1回から4回までの内容：20点満点）、障害のメカニズム I 意識障害、脳ヘルニア				
第 6 回	障害のメカニズム II 言語障害、認知症				
第 7 回	小テスト②（第5、6回の内容：10点満点） 障害のメカニズム III 運動麻痺				
第 8 回	障害のメカニズム IV 知覚障害				
第 9 回	小テスト③（第7、8回の内容：10点満点） 障害のメカニズム V 脳神経障害①				
第 10 回	障害のメカニズム VI 脳神経障害 ②、摂食嚥下障害				
第 11 回	小テスト④（第9、10回の内容：10点満点） 障害のメカニズム VII 小脳の障害				
第 12 回	障害のメカニズム VIII 排尿障害				
第 13 回	障害のメカニズム IX 脳血管障害①				
第 14 回	障害のメカニズム X 脳血管障害②				
第 15 回	障害のメカニズム XI 脳脊髄液障害				

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。チェックシートを傍らに置き、予習でわからなかったチェックシートの項目を、授業中に明らかにすること。膨大なテキストの内容をこなすには、授業に集中することが必須である。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT 利用（WEB フォームやメールなど）
 その他（ ）

■授業時間外学習にかかわる情報

膨大な内容を短時間で理解するために、授業前にテキストの該当範囲を一読することが必要である。その上で、配布されたチェックシートに従って、学習する。A4 のノートにチェックシートを短冊状に切って貼り付け、右側のページに、指定内容を教科書から調べ記載してゆくこと（予習）。授業で自分の事前の作業の妥当性を確認し、不明点、誤っていた点は授業中に修正する。授業後、チェックシートを点検したのち、該当範囲の国家試験問題を行う（復習）。

■オフィスアワー

木曜日の授業終了後の休憩時間。

■評価方法

筆記試験による期末試験（前期講義の全範囲）で、60%以上の得点を得る事が、成績評価の前提条件である。その上で、学期中に5回行なう小テストの点数を50%（20点×1回+10点×4回＝合計50点）、期末テストの点数に50%（50点）の配分をした点数をもって、成績評価を行なう。小テストの比重が重いことに注意されたい。なお小テストについては、再試験を実施しない。欠席の場合は、如何なる理由でも0点となる。期末の再試験においても、小テストの再試験は実施せず、前期講義の全範囲の内容の100点満点の再試験で、単位修得の可否のみ判定（CまたはD評価のみとなる）する。日頃の健康管理も重要であり、医療人となる者にとっては必須の事項である。各テストは、空欄補充形式の問題と指定範囲内の過去の国家試験問題からなる。

■教科書

- ① JIN ブックス 絵でみる脳と神経 しくみと障害のメカニズム第3版 馬場元毅著 医学書院（1年次の解剖学実習で使用したテキストである）
- ② ベッドサイド神経の診かた 第17版 田崎義昭著 南山堂

■参考書

授業中に適宜紹介する。

科目名	神経内科学Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	栗原 卓也	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学・作業療法専攻2年次必修科目	免許等指定科目	理学療法・作業療法国家試験 受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進」			
キーワード	脳腫瘍、外傷性脳損傷、変性疾患、脱髄疾患、Parkinson症候群、末梢神経障害、てんかん、筋疾患、神経感染症、脳性麻痺、廃用症候群、誤用症候群、排尿障害、性機能障害、失認、失行、注意障害、遂行機能障害、認知症、脳血管障害				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的・到達目標〕

神経系の障害による、運動、知覚を代表とする諸機能の障害を訴える患者の異常を的確に把握し、その現象（病態生理）を説明できることをまず目的とする。そのためには、中枢神経、末梢神経、脳循環、脳脊髄液循環の構造としくみをしっかり理解していることが基礎となる。その上で、その障害を改善するためには、どのような方法をとればよいか説明できるようになることを最終目標とする。

■授業の概要

リハビリテーションの中心分野である神経疾患の知識は、理学、作業療法を行うものにとっては、必須である。まず中枢神経のしくみ（解剖学、生理学の復習となる）を理解し、そのうえで各種障害のメカニズムを学習してゆく。後期では、各種神経疾患を順次学習する。前期に学習した内容、整形外科学ならびに小児科学で学習する内容を繰り返し学習することで、知識の確実な定着をはかる。そして繰り返し行なう小テストと各自が行う問題演習により、知識は更に確実なものになる。将来諸君が現場に出た時に、目の前で生じている障害を的確に判断し、何が生じているかの病態生理を説明でき、自信を持って動く事ができる実用的な知識を伝える。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション、小児神経疾患
第2回	てんかん
第3回	筋疾患
第4回	脳腫瘍、外傷性脳損傷
第5回	小テスト ①(第1回から4回までの内容)、脳血管障害①
第6回	脳血管障害②
第7回	小テスト ②(第5、6回の内容)、認知症
第8回	変性疾患、脱髄疾患
第9回	小テスト ③(第7、8回の内容) 感染性疾患、中毒性疾患、栄養欠乏による神経疾患
第10回	脊髄疾患、末梢神経疾患
第11回	小テスト ④(第9、10回の内容) 廃用症候群と誤用症候群、排尿障害、性機能障害
第12回	高次脳機能障害(失認、失行、注意障害、遂行機能障害)
第13回	脳神経外科領域の疾患(頭蓋内圧亢進、脳浮腫、脳ヘルニア、髄膜刺激症状)、構音障害、嚥下障害
第14回	小テスト ⑤(第11、12、13回の内容) 総復習① 神経診断技術から診る神経疾患①
第15回	総復習② 神経診断技術から診る神経疾患②

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。チェックシートを傍らに置き、予習でわからなかったチェックシートの項目を、授業中に明らかにすること。膨大なテキストの内容をこなすには、授業に集中することが必須である。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(WEBフォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

膨大な内容を短時間で理解するために、授業前にテキストの該当範囲を一読することが必要である。その上で、配布されたチェックシートに従って、学習する。A4のノートの左側にチェックシートを短冊状に切って貼り付け、右側のページに、指定内容を教科書から調べ記載してゆくこと(予習)。授業で自分の事前の作業の妥当性を確認し、不明点、誤っていた点は授業中に修正する。授業後、チェックシートを点検したのち、該当範囲の国家試験問題を行う(復習)。

■オフィスアワー

木曜日の授業終了後の休憩時間。

■評価方法

筆記試験による期末試験(後期講義の全範囲)で、60%以上の得点を得る事が、成績評価の前提条件である。その上で、学期中に5回行なう小テストの点数を50%(10点×5回)、期末テストの点数に50%(50点)の配分をした点数をもって、成績評価を行なう。小テストの比重が重いことに注意されたい。なお小テストについては、再試験を実施しない。欠席の場合は、如何なる理由でも0点となる。期末の再試験においても、小テストの再試験は実施せず、後期講義の全範囲の内容の100点満点の再試験で、単位修得の可否のみ判定(CまたはD評価のみとなる)する。日頃の健康管理も重要であり、医療人となる者にとっては必須の事項である。各テストは、空欄補充形式の問題と指定範囲内の過去の国家試験問題からなる。

■教科書

- ①標準理学療法学、作業療法学 専門基礎分野 神経内科学 第3版 川平和美編集 医学書院
②ベッドサイド神経の診かた第17版 田崎義昭著 南山堂

■参考書

授業中に適宜紹介する。

科目名	精神医学	担当教員 (単位認定者)	諸川由実代・石関 圭	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学・作業療法専攻 2 年次必修科目	免許等指定科目	理学療法・作業療法国家試験 受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進」			
キーワード	精神障害 ライフサイクル メンタルヘルス 自殺 脆弱性—ストレスモデル ICD-10 DSM-V インフォームド・コンセント 薬物療法 精神療法 リエゾン精神医学 多職種連携 リハビリテーション				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕 精神障害リハビリテーションに関わる基本的な疾病の知識や評価・診断の方法、治療・援助の方法を理解・説明できることを目的とする。
〔達成目標〕 ①精神医学の歴史と精神障害者の処遇について理解・説明することができる。 ②現代社会とストレス・メンタルヘルスの関係性について理解・説明することができる。 ③“脆弱性—ストレスモデル”に基づいた精神障害の成因について理解・説明することができる。 ④精神医学において用いられる診断・評価方法の概要について理解・説明することができる。 ⑤薬物療法や精神療法、リハビリテーションなどの治療法の一般的枠組みについて理解・説明することができる。 ⑥精神障害リハビリテーションにおける多職種連携の重要性を理解・説明することができる。 ⑦各疾患における成因や症状、治療を理解・説明することができる。 ⑧精神障害者が地域生活を送るためのポイントと課題について理解・説明することができる。

■授業の概要

理学・作業療法士は対象者の身体・精神機能を十分把握した上でリハビリテーションを進めなければならない。本授業では、リハビリテーションに必要な、精神疾患の成因や症状、診断・評価について学ぶ。また、入院から地域生活に移行するためのおおまかな治療・援助の流れと精神障害領域に関わる職種の連携、障害を持つ人が地域生活を送るためのポイントや課題を学ぶ。
--

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。	
第1回	オリエンテーション/精神医学とは/精神障害の成因と分類
第2回	精神機能の障害と精神症状(1)
第3回	精神機能の障害と精神症状(2)
第4回	精神障害の診断と評価
第5回	脳器質性精神障害/てんかん
第6回	症状性精神障害/精神作用物質による精神および行動の障害
第7回	統合失調症およびその関連障害
第8回	気分(感情)障害①
第9回	気分(感情)障害②
第10回	神経症性障害
第11回	生理的障害および身体的要因に関連した障害、成人のパーソナリティ・行動・性の障害
第12回	精神遅滞、心理的発達障害、リエゾン精神医学
第13回	心身医学、ライフサイクルにおける精神医学
第14回	精神障害の治療とリハビリテーション
第15回	精神科保健医療と福祉、職業リハビリテーション、社会・文化とメンタルヘルス

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕 極力欠席のないようにし、質問は積極的に授業内で行うようにしてください。
〔受講のルール〕 携帯電話はマナーモードもしくは電源を切り、鞆にしまっておくこと。集中して講義に参加してください。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

<input checked="" type="checkbox"/> コメントカード方式	<input type="checkbox"/> シャトルカード方式	<input type="checkbox"/> ICT利用(ウェブフォームやメールなど)
<input type="checkbox"/> その他()		

■授業時間外学習にかかわる情報

より効率的に授業を進めるため、事前に十分予習を行ってこよう。また、授業終了後に復習をすること。

■オフィスアワー

授業終了後 20 分対応可能。

■評価方法

出席率 2/3 以上を試験受験資格とし、筆記試験 100%で判断。

■教科書

上野武治編：標準理学療法・作業療法学 精神医学(第4版)。医学書院、2015
--

■参考書

上島国利 立山萬里編：精神医学テキスト 改訂第3版。南江堂、2012

科目名	小児科学	担当教員 (単位認定者)	栗原 卓也	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学・作業療法専攻2年次必修科目	免許等指定科目	理学療法・作業療法国家試験 受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進」			
キーワード	成長、発育、発達、新生児、未熟児、先天異常、小児の神経筋疾患				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

出生から成人になるまで、常に成長、発達を遂げる（はずのものが大多数であるが、例外もある）ヒトの、成長、発育、発達の過程をまず理解する。その過程で生じるような様々な障害を、リハビリテーション領域に関連の深い、神経、筋骨格系、精神系の疾患を重点的に学習する。そして小児の内科的疾患、外科的疾患、先天異常、遺伝病を学習し、小児におこる様々な問題を理解し、解決できる方法を思考できることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①成長、発育、発達の状態が、正確に評価できる事。
- ②先天異常と遺伝病の概要と各疾患の特徴が説明できること。
- ③神経、筋、骨格系、精神科領域の小児疾患の概要、特徴が説明できること。
- ④小児の内科的疾患の概要が説明できること。

■授業の概要

物言わぬ新生児、乳児、障害を持つ幼児、親の期待に応えようとしてつぶれる学童など、将来の諸君の前には、様々な子供たちが、助けを求めて現われる。そして、その背後には、子供の将来に大いなる不安を抱えた親がいる。目の前の子供に起こっている事を把握し、現状を正確に評価、その子の将来の為に何をなすべきか、さらにはその計画を、子供そして親に、的確に説明し、了解を得る能力が必要とされる。これらのテクニックを中心に、授業を進めてゆく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション、小児科学 概論Ⅰ：小児の成長・発育・発達
第2回	小児科学 概論Ⅱ：栄養と摂食、小児保健、小児の診断と治療の概要
第3回	新生児・未熟児疾患 Ⅰ
第4回	新生児・未熟児疾患 Ⅱ
第5回	先天異常と遺伝病
第6回	神経・筋・骨系疾患 Ⅰ 中枢神経疾患
第7回	小テスト①（第1回から第5回までの範囲） 神経・筋・骨系疾患 Ⅱ てんかん
第8回	神経・筋・骨系疾患 Ⅲ 脳性麻痺
第9回	神経・筋・骨系疾患 Ⅳ 知的障害・児童精神障害・脊髄疾患・筋疾患・骨関節疾患
第10回	循環器疾患
第11回	小テスト②（第6階から第9回までの範囲） 呼吸器疾患、感染症
第12回	消化器疾患、代謝内分泌疾患
第13回	血液疾患・免疫・アレルギー・膠原病
第14回	腎・泌尿器系、生殖器疾患、腫瘍性疾患
第15回	心身医学的疾患・虐待・重症心身障害児・眼科・耳鼻科的疾患

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。

チェックシート以外の重要点も、随時強調するので、神経を研ぎ澄ませ、聞き漏らさないこと。1時間半の集中！

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用（WEBフォームやメールなど）
 その他（ ）

■授業時間外学習にかかわる情報

授業で配布するチェックシートに従って、要点を整理してゆくこと。A4のノートの左側にチェックシートを短冊状に切って貼り付け、右側のページに、指定内容を教科書から調べ記載してゆくこと。これが予習である。授業で自分の作業の妥当性を確認し復習を行う。

■オフィスアワー

木曜日の授業終了後の休憩時間。

■評価方法

筆記試験による期末試験で、60%以上の得点を得る事が、成績評価の前提条件である。その上で、学期中に2回行なう小テストの点数を50%（25点×2回）、期末テストの点数に50%（50点）の配分をした点数をもって、成績評価を行なう。小テストの比重が重いことに注意されたい。なお小テストについては、再試験を実施しない。欠席の場合は、如何なる理由でも0点となる。期末の再試験においても、小テストの再試験は実施せず、後期講義の全範囲の内容の100点満点の再試験で、単位修得の可否のみ判定（CまたはD評価のみとなる）する。日頃の健康管理も重要であり、医療人となる者にとっては必須の事項である。各テストは、空欄補充形式の問題と指定範囲内の過去の国家試験問題からなる。

■教科書

標準理学療法学、作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第4版 編集 富田豊 医学書院
（第8および9講 神経、筋、骨格系疾患ⅢおよびⅣにおいては、1年次で使用したりハビリテーション医学のテキストも使用する。）

■参考書

授業中に適宜紹介する。

科目名	保健医療福祉論	担当教員 (単位認定者)	大竹 勤	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	理学・作業療法専攻 1 年次選択科目	免許等指定科目	理学療法・作業療法国家試験 受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「保健医療とリハビリテーションの理念」			
キーワード	対人援助技術、コミュニケーションスキル、ライフサイクル、社会保障				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

医療福祉従事者に必要なソーシャルワークについて学び、実践できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①ソーシャルワークの意義と目的について理解する。
- ②援助技術の原理原則について理解する。
- ③基本的な援助技法を身につける。

■授業の概要

講義や演習を通して、医療従事者に必要な社会福祉の知識や援助技術の実際について学ぶ。援助技術は「人の生活を支える」重要な技術であり、そのために必要な支援の方法を考える。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第 1 回授業にて配付します。

第 1 回	科目オリエンテーション、自己紹介カード
第 2 回	障害者の理解、DVD 視聴（障害者の自立について）
第 3 回	対人援助技術の原則
第 4 回	コミュニケーションスキルを磨こう DVD 視聴
第 5 回	情報を共有し合意するという事
第 6 回	リハビリテーションを通しての援助支援について考える DVD 視聴
第 7 回	人の一生と社会福祉 事例検討
第 8 回	援助の基本原則 まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

対人援助サービスに携わる者としての視点で授業に参加すること。
8 回の授業なので、欠席が 3 回以上になると単位認定はできなくなるので注意すること。
演習には積極的に参加すること。授業の流れに反した行動を取る場合には履修しないこと。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式
 シャトルカード方式
 ICT 利用（WEB フォームやメールなど）
 その他（ ）

■授業時間外学習にかかわる情報

2 回に 1 回の割合でレポート課題を出す。

■オフィスアワー

授業終了後 20 分ほど、対応可能。

■評価方法

筆記試験（レポート試験）80%と授業中に出すレポート課題等の提出物 20%により評価する。レポート試験の採点基準詳細については試験時に指示する。

■教科書

授業中に指示する。

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	公衆衛生学	担当教員 (単位認定者)	大竹 一男	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	理学・作業療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	理学療法・作業療法国家試験 受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「保健医療とリハビリテーションの理念」			
キーワード	生活単位、家族、ライフスタイル、疫学、母子保健、地球環境				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

公衆衛生の目的は、人々を疾病から守り、健康を保持・増進し、人々に十分な発育を遂げさせ、肉体的・精神的な能力を完全に発揮させることである。臨床医学が病気になった個人を対象にしているのに対し、公衆衛生学は個人、家族、地域社会及び全国民の健康の総和を指標として、疾病のみならずすべての健康からの偏りの予防、コントロール、治療のみでなく、積極的な意味での健康の達成を目的としている。従って、単なる治療医学ではなく、予防医学さらには社会における医療制度施設など社会の健康水準を保持・増進するのに必要な社会医学も含まれる。

〔到達目標〕

- ①人々の基本的な生活と人間のあり方、健康と公衆衛生、健康指標と予防、生活環境の保全について学習するとともに、最新データを自ら読み解き、日本が抱える課題・問題等を発見することができる。
- ②専門医療職に従事することを念頭に、クライアントに対して公衆衛生学の領域に関して適切なアドバイスをすることができる。

■授業の概要

人々の基本的な生活と人間のあり方、健康と公衆衛生、健康指標と予防、生活環境の保全について学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	生活単位、家庭生活の基本機能、生活の場と健康について学ぶ
第2回	家族の機能と役割、ライフスタイルの変化、生活習慣の確立、人間の集団としての働きを学ぶ
第3回	公衆衛生の概念、健康と環境について学ぶ
第4回	疫学的方法による健康の理解について学ぶ
第5回	人口静態と人口動態、疾病統計について学ぶ
第6回	母子保健統計について学ぶ
第7回	地球環境、水・空気・土壌、食品管理及び家庭用品について学ぶ
第8回	ごみ、廃棄物、住環境について学ぶ

■受講生に関わる情報および受講のルール

配布プリントに最新の政府発表のデータのURLを紹介するので、予習・復習に役立ててください。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式
 シャトルカード方式
 ICT利用（WEBフォームやメールなど）
 その他（ ）

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

授業前後 10分程度。

■評価方法

講義中の輪読や簡単な口頭試問を行い(10%)、最終筆記試験(90%)で評価する。

■教科書

みるみるナーシング最新版

■参考書

授業内で適宜紹介する。

理学療法専攻

科目名	体表解剖・触診演習	担当教員 (単位認定者)	新谷 益巳	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学療法専攻 2 年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る 必須		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「人体の構造と機能及び心身の発達」			
キーワード	触診、ハンドリング、体表解剖、用手接触				

■授業の目的・到達目標

<p>[授業の目的] 解剖学、運動学で学んだ知識を用いて、実際に人体の観察・触知する技術の基礎を学ぶ。</p> <p>[到達目標]</p> <p>①対象者に不快を与えない手技について説明できる。 ②対象者に対するあらゆる配慮について述べる事ができる。 ③解剖学で学んだ主要な部位を体表から観察、触知できる。</p>

■授業の概要

<p>対象者が困難となっている日常生活の様々な活動について改善を促していくために、まず動作がどのように行われているのか(どのようにできていないのか)を観る事ができなければならない。また、これまでに学んだ解剖学や運動学に知識を照らし合わせて、原因となっている身体機能を見抜いていく必要がある。そのような能力を養う授業となる。</p>

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。	
第1回	科目オリエンテーション / 触診の基本
第2回	肩甲骨と鎖骨と上腕骨
第3回	橈骨と尺骨と手根骨と指骨
第4回	肩関節複合体に関連する靭帯、肘関節複合体に関連する靭帯、中手指節関節に関連する靭帯
第5回	肩甲上腕関節に関わる筋
第6回	肩甲胸郭関節に関わる筋
第7回	肘関節に関わる筋と手関節および手指に関わる筋
第8回	骨盤と大腿骨
第9回	膝関節周辺と足関節および足部周辺の下肢骨
第10回	スカルパ三角関連と膝関節関連と足関節関連の靭帯
第11回	股関節に関わる筋
第12回	膝関節に関わる筋
第13回	足関節および足部に関わる筋
第14回	胸郭に関連する諸組織
第15回	脊柱に関連する諸組織

■受講生に関わる情報および受講のルール

<p>[服装指定] 男性：水泳パンツ、女性：水着またはタンクトップ+ショートパンツのいずれか。</p> <p>[学習方法] デルトマグラフで皮膚に直接書き込みながら学習を進めていきます。 解剖学、運動学の知識を獲得済みであることを前提とします。不十分な者は事前学習を個人で進めてください。</p>
--

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

<input type="checkbox"/> コメントカード方式 <input checked="" type="checkbox"/> シャトルカード方式 <input type="checkbox"/> ICT 利用 (WEB フォームやメールなど) <input type="checkbox"/> その他 ()

■授業時間外学習にかかわる情報

<p>[復習支援] 技術を身につけるために復習とトレーニングを支援します。</p>

■オフィスアワー

木曜日 16 時 30 分～17 時 30 分。

■評価方法

筆記試験 60%、ポートフォリオ 30%、小テスト 10% (2 回) の総合評価にて判定するが、筆記試験が 60 点以上であることが前提となる。

■教科書

<p>運動療法のための機能解剖学的触診術 上肢 林典雄 (執筆) MEDICAL VIEW 運動療法のための機能解剖学的触診術 下肢 林典雄 (執筆) MEDICAL VIEW</p>

■参考書

図解 四肢と脊椎の診かた Stanley Hoppenfeeld 著 野島元雄監訳 医歯薬出版

科目名	運動生理学演習	担当教員 (単位認定者)	多田 菊代	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学療法専攻 2 年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「人体の構造と機能及び心身の発達」			
キーワード	運動、運動負荷、呼吸、循環、代謝、栄養、サルコペニア				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

運動生理学は運動に対する生理反応を理解する学問である。運動という治療手段を用いてリハビリテーションを実践する我々セラピストにとって極めて重要な知識である。運動時の呼吸循環反応や運動の効果について理解することを目的とする。

〔到達目標〕

- ①運動が呼吸器系に与える影響を説明できる。
- ②運動が循環器系に与える影響を説明できる。
- ③筋肥大・筋萎縮・筋疲労のしくみを説明できる。
- ④運動負荷試験による生体反応のしくみを説明できる。

■授業の概要

運動器障害を有する高齢者や、循環器・呼吸器をはじめとする内部障害などをもつ対象者における運動時の呼吸循環反応や運動の効果についての理解は、運動という手段を用いてリハビリテーションを実践する理学療法士にとって、極めて重要である。運動時の呼吸循環反応や運動が身体に及ぼす影響について、演習も交え学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	運動とエネルギー（ATP、糖と脂肪の利用変化、エネルギー供給系）
第3回	身体組成・肥満・体温調節の生理学
第4回	運動と筋力、トレーニングの原理・原則
第5回	運動と呼吸（呼吸器系の構造、ガス交換、換気メカニクス）
第6回	運動と呼吸（血液によるガスの運搬、呼吸中枢と呼吸調節、運動時の呼吸応答、酸素摂取量、呼吸商）
第7回	心肺系（最大酸素摂取量）の評価
第8回	運動と循環（循環系の運動生理学）
第9回	運動と循環（漸増運動負荷時の変化、運動時の血流分配、最大酸素摂取量を規定する因子）
第10回	運動時の循環調節の評価
第11回	グループ課題オリエンテーション・課題準備
第12回	グループ課題発表準備
第13回	グループ課題発表
第14回	グループ課題発表
第15回	加齢と運動（サルコペニア、フレイル、カヘキシア、サルコペニア判定のための筋肉量、筋力、身体能力の測定）

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

講義への出席は必須の前提であり、無断欠席・遅刻は注意すること。演習を行う際は、大学指定体操着着用とし、臨床実習に準じた身だしなみとすること。（爪は短く切り長い髪は束ねる、マニキュア・アクセサリ・香水・派手な化粧・頭髪の派手な染色などは受講を認めない場合がある。）

〔受講のルール〕

- ①シラバスを毎回持参し、各回の講義終了時、次回の内容を確認の上、受講準備を十分行う事。
- ②受講態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めない。
- ③講義の流れや雰囲気等を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、居眠り、許可した場面以外でのスマートフォン等の使用）は厳禁とする。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式
 シャトルカード方式
 ICT利用（WEBフォームやメールなど）
 その他（ ）

■授業時間外学習にかかわる情報

- ①講義終了後、シラバスで次回内容の確認をし、受講の準備計画を立てる（5分程度）。
- ②前回講義内容の復習をし、要点をまとめておく（20分程度）。
- ③次回内容のkey wordsを中心にわからないことを事前に調べておくこと（10分程度）。
- ④グループ課題の発表に向けての準備のため①～③以外にも時間外学習が必要となる。

■オフィスアワー

水曜日 16時から17時は随時。それ以外は要予約。

■評価方法

ポートフォリオ提出 30%、発表の内容と参画状況 10%、筆記試験 60%。総合評価は筆記試験が 60%以上であることが前提となる。

■教科書

- ①藤縄理編：シンプル理学療法学シリーズ 運動学テキスト、南江堂
- ②市川則明・編：運動療法学 障害別アプローチの理論と実際 第二版、文光堂、2015

■参考書

玉木 彰監修：リハビリテーション運動生理学、メジカルニュー社

科目名	運動学I	担当教員 (単位認定者)	柴ひとみ	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻1年次必修科目 解剖学、生理学、力学の知識を必要とする。	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る 必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「人体の構造と機能及び心身の発達」			
キーワード	関節の形状、運動の名称、筋収縮、関節運動の主動作筋				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

身体の構造を理解しながら、体や各関節の動きを説明できることを目的とする。また、各関節運動に作用する筋について、自身の体に置き換えて説明できることを目的とする。

[到達目標]

- ①身体各部・各関節の名称及び運動の名称・運動面・運動軸を答えることができる。
- ②運動時の筋収縮様態を説明することができる。
- ③各関節の形状分類を理解し、関節運動を述べるができる。
- ④各関節運動の主動作筋を列挙することができる。

■授業の概要

授業を通し、理学療法士として治療の対象となる機能障害を把握するうえで必要な正常なヒトの体のしくみについて学ぶ。自らの体を使って各関節や体の動きを理解し、各関節の主動作筋と関節運動の関係を整理しながら運動の特徴を学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション/運動の基礎 身体各部位の名称、運動面と運動軸、運動方向の名称
第2回	関節の構造と運動について
第3回	筋の収縮のメカニズムについて、顔面の運動に作用する筋
第4回	肩複合体の運動①
第5回	肩複合体の運動②
第6回	肩関節の筋とその作用
第7回	肩甲骨周囲の筋とその作用
第8回	肘関節の運動、前腕の運動
第9回	手関節の構造と運動について
第10回	手指の関節の構造と運動について
第11回	骨盤・股関節の運動について
第12回	股関節の運動に作用する筋
第13回	膝関節の運動
第14回	距腿関節の構造、足部の運動について
第15回	頭部、頸部、体幹の運動について

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関わる情報]

・解剖学が基礎となるため履修内容に関連した範囲は必ず学習すること。

[受講のルール]

- ・授業計画を必ず確認し理解を深めるよう積極的に授業に臨むこと。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（携帯電話の使用、私語）は厳禁。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式
 シャトルカード方式
 ICT利用（WEBフォームやメールなど）
 その他（ ）

■授業時間外学習にかかわる情報

毎回、授業内容に関連した事前学習シートを提出すること。類似した事前学習シートは受け付けない。また、授業外において口頭試問を実施するため、各自アポイントメントを取ったうえで実施すること。

■オフィスアワー

木曜日 16時～17時は随時（変更時は掲示する）。その他の曜日については要予約。

■評価方法

筆記試験（客観）70%、口頭試問（15%）、事前学習シート（15%）。総合評価は筆記試験が60%以上であることが前提となる。

■教科書

藤縄理編：シンプル理学療法学シリーズ 運動学テキスト。南江堂
林典雄：機能解剖学的触診技術 上肢 下肢・体幹。メジカルビュー
林典雄：動画でマスター！機能解剖学的触診技術 上肢+下肢・体幹セット。メジカルビュー

■参考書

野村巖編：標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学第3版 医学書院
中村隆一：基礎運動学第6版 医学書院

科目名	運動学Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	柴 ひとみ	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻1年次必修科目 解剖学、生理学、力学の知識を必要とする。	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る 必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「人体の構造と機能及び心身の発達」			
キーワード	重心、姿勢、呼吸、歩行、運動学習、運動障害				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

身体の構造を理解し各関節の運動を捉えたうえで、姿勢や正常歩行、呼吸について説明できることを目的とする。また、理学療法の対象となる運動障害の知識を得ることを目的とする。

[到達目標]

- ①重心、姿勢の名称について答えることができる。
- ②歩行周期について説明することができる。
- ③歩行時の下肢関節の運動や重心の移動について説明することができる。
- ④呼吸時の胸郭の動きを説明することができる。
- ⑤上下肢や体幹の主な運動障害を列挙することができる。

■授業の概要

授業を通し、理学療法士として治療の対象となる機能障害を把握するうえで必要な正常なヒトの体のしくみについて学ぶ。自らの体を使って各関節や体の動きを理解し、姿勢の保持や歩行、呼吸時に関わる関節運動の特徴を学ぶ。また、上下肢・体幹の各関節における運動障害を学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション/姿勢、生体力学(力の釣り合い)
第2回	人体における重心について
第3回	支持基底面と重心の関係
第4回	正常歩行:歩行周期
第5回	正常歩行:下肢の関節運動と重心の移動
第6回	正常歩行:歩行時の筋活動について
第7回	呼吸運動
第8回	肩複合体の運動障害
第9回	肘の運動障害
第10回	手の運動障害
第11回	骨盤・股関節の運動障害
第12回	膝関節の運動障害
第13回	下腿・足根・足部の運動障害
第14回	頭部・頸部・体幹の運動障害
第15回	運動学習

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関わる情報]

- ・解剖学が基礎となるため履修内容に関連した範囲は必ず学習すること。

[受講のルール]

- ・授業計画を必ず確認し理解を深めるよう積極的に授業に臨むこと。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(携帯電話の使用、私語)は厳禁。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式
 シャトルカード方式
 ICT利用(WEBフォームやメールなど)
- その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

毎回、授業内容に関連した事前学習シートを提出すること。類似した事前学習シートは受け付けない。また、授業外において口頭試問を実施するため、各自アポイントメントを取ったうえで実施すること。

■オフィスアワー

木曜日16時～17時は随時(変更時は掲示する)。その他の曜日については要予約。

■評価方法

筆記試験(客観)70%、口頭試問(15%)、事前学習シート(15%)。総合評価は筆記試験が60%以上であることが前提となる。

■教科書

藤縄理編：シンプル理学療法学シリーズ 運動学テキスト、南江堂
林典雄：機能解剖学的触診技術 上肢 下肢・体幹、メジカルビュー
林典雄：動画でマスター!機能解剖学的触診技術 上肢+下肢・体幹セット、メジカルビュー

■参考書

野村巖編：標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学第3版 医学書院
中村隆一：基礎運動学第6版 医学書院

科目名	臨床運動学実習	担当教員 (単位認定者)	横山 雅人・新谷 益巳	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学療法専攻 2 年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「人体の構造と機能及び心身の発達」			
キーワード	運動学、バイオメカニクス、姿勢・動作観察、姿勢・動作分析、基本動作				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕 身体の構造を理解しながら、健全なヒトの動作を運動学的に説明できることを目的とする。また、理学療法の場面で使用される機器について知識を得ることを目的とする。
〔到達目標〕 ①姿勢を体位や構えを説明することができる。 ②バイオメカニクスの基礎的知識を理解し、動作を専門用語を使用して説明することができる。 ③立ち上がり動作を運動学的に説明することができる列挙できる。 ④寝返り・起き上がり動作を運動学的に説明することができる。 ⑤歩行動作を運動学的に説明することができる。 ⑥基本的なレポート作成ができる。

■授業の概要

授業を通し、理学療法士として治療の対象となる機能障害を把握するうえで必要な正常なヒトの体のしくみについて興味を持つことが重要である。自らの体を使って各動作を理解し、運動の特徴を学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。		
第1回	科目オリエンテーション、姿勢、重心、バランスについて	【横山】
第2回	姿勢・立位バランス ※レポート課題(姿勢・重心動揺)	【横山】
第3回	生体力学の基礎・スクワット動作①	【横山】
第4回	生体力学の基礎・スクワット動作②	【横山】
第5回	生体力学の基礎・スクワット動作③ ※小テスト実施(生体力学の基礎)	【横山】
第6回	生体力学の基礎・スクワット動作④表面筋電図を用いたスクワット動作 ※レポート課題	【横山】
第7回	立ち上り動作観察、動作分析①	【横山】
第8回	立ち上り動作観察、動作分析②	【横山】
第9回	立ち上り動作観察、動作分析③ ※レポート課題	【横山】
第10回	寝返り・起き上がり動作観察、動作比較、動作分析①	【横山】
第11回	寝返り・起き上がり動作観察、動作比較、動作分析② ※レポート課題	【横山】
第12回	歩行動作①：正常歩行と異常歩行	【横山】
第13回	歩行動作②：歩行評価	【横山】
第14回	歩行動作③：歩行観察、歩行分析 ※小テスト(正常・異常歩行動作) ※レポート課題	【横山】
第15回	機器を用いた歩行分析	【新谷】

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕 ・運動学が基礎となるため履修内容に関連した範囲は必ず学習すること。 ・実習については学校指定ジャージを着用のこと。
〔受講のルール〕 ・授業概要を必ず確認し理解を深めるよう積極的に授業に臨むこと。 ・類似したレポートと判断された場合や提出期限を過ぎた場合、いかなる理由においても減点とする。 ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(携帯電話の使用、私語)は厳禁。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

<input type="checkbox"/> コメントカード方式	<input checked="" type="checkbox"/> シャトルカード方式	<input type="checkbox"/> ICT利用(ウェブフォームやメールなど)
<input type="checkbox"/> その他()		

■授業時間外学習にかかわる情報

重心動揺計や筋電図、三次元動作解析装置を用いて実習を行うが、授業内で終えることができない場合、授業時間外で行うこととする。

■オフィスアワー

水曜日 16時～17時(その他の曜日については要予約)。

■評価方法

筆記試験(客観)30%、レポート50%(計5回、各10%)、小テスト20%(計2回、各10%)の総合評価にて判定するが、筆記試験が60点以上であることが前提となる。

■教科書

藤縄理・編：シンプル理学療法学シリーズ 運動学テキスト 第2版、南江堂、2015 石川朗・総編：理学療法・作業療法テキスト 臨床運動学、中山書店、2015
石井慎一郎：動作分析 臨床活用講座、メジカルビュー、2013

■参考書

月城慶一ら・訳：観察による歩行分析、医学書院、2015 市橋則明・編：運動療法学 障害別アプローチの理論と実際 第二版、文光堂、2014
潮見泰蔵ら・編：リハビリテーション基礎評価学、羊土社、2014 石井慎一郎ら：基礎バイオメカニクス入門 第2版、医歯薬出版、2015
中村隆一他：基礎運動学 第6版、医歯薬出版 中村隆一他：臨床運動学 第3版、医歯薬出版
他：必要に応じて授業内に提示します。

科目名	リハビリテーション入門	担当教員 (単位認定者)	小島 俊文	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	理学療法専攻 1 年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「保健医療とリハビリテーションの理念」			
キーワード	リハビリテーション、QOL、ノーマライゼーション				

■授業の目的・到達目標

リハビリテーションとは何か、その概要について理解することがこの科目の目標である。
リハビリテーションを支える思想、またその領域と諸段階を学び、どのような専門職が何を担っているのかを知る。
さらにリハビリテーションを提供する様々な施設、それらを動かす関連法制度を知る必要がある。
1年前期の8コマではあるが、理学療法士として必須であるリハビリテーションの知識について、しっかり身につけてもらう。

■授業の概要

医療やリハビリテーション領域の土台となる基礎的な知識を学び、今後の理学療法の学習へ役立てる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション/リハビリテーションの定義と目的
第2回	ノーマライゼーション・IL運動・QOL
第3回	障害とは・国際疾病分類〈ICD〉・国際生活機能分類〈ICF〉
第4回	障害者の心理・リハビリテーションの諸段階
第5回	リハビリテーションの過程と手段
第6回	関連職種とその役割・チームアプローチ
第7回	評価会議・ゴール設定、リハビリテーションプログラム、クリニカルパス
第8回	4年間のカリキュラムマップと到達目標について

■受講生に関わる情報および受講のルール

1年前期の授業ということで、学習者としての態度、自ら考え学ぶための学習方法とその習慣について、大学生としての基本的な姿勢についてしっかり築き上げていてもらいたい。

〔復習支援〕

オフィスパワーを上手に活用してください。わからないことがあったら、すぐに解決するそんな習慣を身につけてください。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用（WEBフォームやメールなど）
 その他（ ）

■授業時間外学習にかかわる情報

授業終了後には、復習を行う用意をしてください。次回の授業でミニテストを行います。

■オフィスパワー

火曜日 16時30分～。

■評価方法

客観試験 ミニテスト全8回（各5点、合計40点）と期末試験（60点）の100点満点で行うが、授業態度や発言等も勘案し、総合的に判断するものである。

■教科書

なし

■参考書

入門リハビリテーション概論 中村隆一編 医歯薬出版

作業療法専攻

科目名	運動学I	担当教員 (単位認定者)	古田 常人	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「人体の構造と機能及び心身の発達」			
キーワード	運動学、骨・関節の構造と運動				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

作業療法士が対象者の生活に関わる上で必要となる身体運動や様々な動作を構造-機能的見方で理解し、説明することができることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①体の運動の要素を理解できるようになるために、骨関節についての解剖・生理を復習する。
- ②人体の運動の要素を理解できるようになるために骨格筋・神経系についての解剖・生理を復習する。
- ③物理学、特に力学の知識を用いて、人の動作・活動を理解できるようになる。
- ④上肢の運動を分析できるようになるため、肩甲帯と肩関節、肘関節と前腕、手関節と手についての骨・関節の構造と機能を理解する。
- ⑤上肢における指標となる骨・筋を触診できるようになる。

■授業の概要

作業療法士は、対象者の生活をリハビリする仕事といわれている。生活とは、様々な姿勢で行う動作や活動の繰り返しで成り立っている。この授業では、ひとの動作や活動を評価・分析するために必要な身体構造・機能、身体を動かすための力学、動作の基礎となる姿勢の基礎知識を学ぶ。それをもとに、上肢の機能解剖と運動を学ぶことを目的とする。授業の内容は、解剖学・生理学の内容を基礎に学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション/運動学の定義/身体の肢位・区分・位置・方向/身体運動の面と軸/骨・関節・筋の構造と機能
第2回	物理学・力学の基礎
第3回	身体における物理・力学の視点
第4回	物理学・力学の日常生活での視点
第5回	実技試験① 骨・関節の部位名称、及び標本組み立て(上肢)
第6回	上肢帯・肩関節に関する骨・関節・靭帯の基本構造と機能・役割
第7回	上肢帯における骨格筋の構造と作用、及び触診
第8回	肩関節における骨格筋の構造と作用、及び触診
第9回	肘関節の構造と運動/小テスト①(肩甲帯・肩関節)
第10回	上腕・肘における骨格筋の構造と作用、及び触診
第11回	前腕における骨格筋の構造と作用、及び触診
第12回	前腕・手関節・手指・母指の構造と運動/小テスト②(肘関節)
第13回	前腕・手関節における骨格筋の構造と作用、及び触診
第14回	手指・母指における骨格筋の構造と作用、及び触診
第15回	実技テスト② 触診(上肢)

■受講生に関わる情報および受講のルール

実際に身体を動かすことが多いため、Tシャツ・ハーフパンツ・学校ジャージを用意しておくこと。

メモがしやすいように筆記用ボードを用意しておくこと。

予習復習は欠かせないこと。

測定・検査の実技課題・テストがあるので各自実技練習を実施しておくこと。

授業資料の再発行はしない。授業を休んだ場合は、クラスメートからコピーを取ること。

授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為を行う者は受講を拒否する可能性がある。

授業に関係のないものの持ち込みは禁止。

携帯電話・スマートフォン・タブレットなどは机上に出さない。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(WEBフォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

授業計画に示されている文献は必ず確認し、理解をして授業に臨むこと。わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。

■オフィスアワー

月曜日 16時～17時30分は随時(変更時は掲示する)。その他の曜日においては要予約。

■評価方法

■筆記試験 60% ■小テスト 20% ■実技試験(骨・関節標本、触診) 20%

■教科書

筋骨格系のキネシオロジー 嶋田智明訳 医歯薬出版
 新・徒手筋力検査法 原著第9版、協同医書出版社、2014

■参考書

- ・伊藤元、高橋正明編：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 運動学. 医学書院, 2012
- ・中村隆一・齋藤宏：基礎運動学. 第6版, 医歯薬出版株式会社
- ・野村巖編：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学. 第3版, 医学書院, 2012
- ・荻島秀男：図説運動器の機能解剖 By Rene Cailliet
- ・A.I.Kapandji 著/荻島秀男監訳/嶋田智明訳：カパンディ 関節の生理学
- ・By J.Gastaing：図解関節・運動器の機能解剖(上巻・下巻)
- ・望月久、棚橋信雄、他：PT・OTゼロからの物理学、羊土社

科目名	運動学Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	古田 常人	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻 1 年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「人体の構造と機能及び心身の発達」			
キーワード	運動学、筋作用、姿勢、歩行、運動の学習				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

作業療法士が対象者の生活に関わる上で必要となる身体運動や様々な動作を構造—機能的見方で理解し、説明することができることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①運動学の基礎となる生体力学について説明することができる。
- ②運動器のひとつである筋の触診を行い、位置を特定し、作用を説明することができる。
- ③姿勢・歩行について運動学的に分析を行い、説明することができる。

■授業の概要

作業療法士は、対象者の生活をリハビリする仕事といわれている。この授業では、ひとの動作や活動を運動学的観点で分析し、評価・治療に必要な身体構造・機能、身体を動かすための力学、動作の基礎となる姿勢の基礎知識を学ぶ。授業の内容は、解剖学・生理学の内容を基礎として、触診を通して下肢・頭頸部・体幹の構造、及び骨格筋の作用と運動を学ぶことを目的とする。また、姿勢や歩行について運動学的分析を基に学ぶことを目的とする。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第 1 回授業にて配付します。

第 1 回	科目オリエンテーション／下肢の構造と役割／骨盤・下肢帯の構造と運動
第 2 回	股関節の構造と運動
第 3 回	骨格筋の作用と触診：股関節部
第 4 回	膝関節の構造と運動①／小テスト①
第 5 回	膝関節の構造と運動②
第 6 回	骨格筋の作用と触診：大腿部・膝関節部
第 7 回	足関節の構造と運動／小テスト②
第 8 回	骨格筋の作用と触診：下腿部・足部
第 9 回	脊柱（頸椎・胸椎・腰椎）の構造と運動／小テスト③
第 10 回	触診（下肢） 実技テスト
第 11 回	胸郭の運動と呼吸運動／顔面・頭部の構造と運動／口腔・咽頭・喉頭の構造と嚥下運動
第 12 回	姿勢の分類と安定性
第 13 回	歩行：歩行周期と運動学分析①
第 14 回	歩行：歩行周期と運動学分析②
第 15 回	運動学習

■受講生に関わる情報および受講のルール

実際に身体を動かすことが多いため、Tシャツ・ハーフパンツ・学校ジャージを用意しておくこと。

メモがしやすいように筆記用ボードを用意しておくこと。

予習復習は欠かせないこと。

測定・検査の実技課題・テストがあるので各自実技練習を実施しておくこと。授業資料の再発行はしない。授業を休んだ場合は、クラスメートからコピーを取ること。

授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為を行う者は受講を拒否する場合がある。

授業に関係のないものの持ち込みは禁止。

携帯電話・スマートフォン・タブレットなどは机に出さない。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT 利用（WEB フォームやメールなど）
 その他（ ）

■授業時間外学習にかかわる情報

授業計画に示されている文献は必ず確認し、理解をして授業に臨むこと。わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。

■オフィスアワー

月曜日 16 時～17 時 30 分は随時（変更時は掲示する）。その他の曜日においては要予約。

■評価方法

■筆記試験 50% ■小テスト 30% ■実技試験（触診）20%

■教科書

- ①筋骨格系のキネシオロジー 嶋田智明訳 医歯薬出版
- ②新・徒手筋力検査法 原著第 9 版、協同医書出版社、2014

■参考書

- ・伊藤元、高橋正明編：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 運動学. 医学書院, 2012
- ・中村隆一・齋藤宏：基礎運動学. 第 6 版, 医歯薬出版株式会社
- ・野村嶺編：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学. 第 3 版, 医学書院, 2012
- ・荻島秀男：図説運動器の機能解剖 By Rene Cailliet
- ・A. I. Kapandji 著／荻島秀男 監訳／嶋田智明 訳：カパンディ 関節の生理学
- ・By J. Castaing：図解関節・運動器の機能解剖（上巻・下巻）
- ・望月久、棚橋信雄、他：PT・OTゼロからの物理学、羊土社

科目名	運動学実習	担当教員 (単位認定者)	古田 常人・宮寺 亮輔	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻 2 年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「人体の構造と機能及び心身の発達」			
キーワード	基本動作、3次元動作解析、筋電図、筋機能評価、重心動揺、呼吸機能評価				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

人の動きに関して、筋力、角度・位置・速さの変化、重心の変化などを観察や各種測定機器を利用して分析する。そして、人間の活動のメカニズムを理解し、その動き・機能を解剖・生理学・運動学、および医学用語を用いて表現できるようになる。

〔達成目標〕

- 1) 身体の各部位や関節の長さや周径等を正しく計測し、結果を適切に評価できる。
- 2) セグメント法により平面上で重心位置を推定し、平面上で重心線が体重支持面上に落ちることを証明できる。
- 3) 重心動揺計を用いていわゆる“重心動揺”を測定できる。重心と足圧中心の違い、立位姿勢制御における視覚の役割を説明できる。
- 4) 体重を用いてこの原理で重心の位置を測定することができる。
- 5) 筋機能解析装置を使用し、筋力測定が行える。また肢位・角速度による筋力の違い、筋疲労を理解し、種々の活動における複合筋力を測定できる。
- 6) 筋電図法と電気角度計を用いて動作分析ができる。
- 7) 健康者の寝返り・立ち上がり動作を観察し、基礎運動学(教科書)に記載されている運動分析手順にそって分析ができ、動作分析に必要な表現ができる。
- 8) 学習とパフォーマンスの関係の説明ができる。反復練習に伴うパフォーマンスの変化を確認し、トランスファーテストを用いて運動学習の成立を確認する。
- 9) 3次元動作解析装置を利用し、正常歩行の動作分析、および解析を学ぶ。
- 10) 運動負荷量を変化させ、酸素摂取量・二酸化酸素呼出量を測定できる。呼吸機能を理解し、その評価を実施できる。

■授業の概要

ひとが日々暮らしていく中で行っている様々な行為は、姿勢を保ちながら体の一部を動かして行われている。このひとの動きの基礎となる、姿勢、運動、動作について学び、それらを行うために必要な機能について、動作分析の方法や機器を用いて学んでいく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション、形態計測1
第2回	形態計測2、筋力評価
第3回	姿勢評価
第4回	解析方法について1
第5回	基本動作分析/筋電図/筋機能解析装置
第6回	〃
第7回	〃
第8回	解析方法について2
第9回	運動学習1
第10回	運動学習2
第11回	呼吸機能評価/自律神経機能評価/3次元動作分析
第12回	〃
第13回	〃
第14回	解析方法について3
第15回	発表

■受講生に関わる情報および受講のルール

実際に体を動かすことが多いため、学校指定のジャージを用意しておくこと。

メモがしやすいように筆記用ボードを用意しておくこと。

課題の提出は、原則としてデータ収集、あるいは解析方法の指導後2週間後の17時、担当教員に提出すること。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用 (WEBフォームやメールなど)

その他 (実験ごとにレポートの提出を行い、学習状況を確認する。)

■授業時間外学習にかかわる情報

解析方法などは授業内で説明するが、解析し、結果・考察を導き出すためには、解剖学・生理学・運動学の復習や深い理解が必要となる。グループで協力し、理解を深めること。

■オフィスアワー

月曜日 16時～17時30分は随時(変更時は掲示する)。その他の曜日においては要予約。

■評価方法

レポート 40% (個人レポート 20%、グループレポート 20%) グループ発表 20% 筆記試験 40%

■教科書

実習手引きの配布。

■参考書

授業の中で紹介する。

科目名	リハビリテーション入門	担当教員 (単位認定者)	山口 智晴・悴田 敦子	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	作業療法専攻 1 年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「保健医療とリハビリテーションの理念」			
キーワード	リハビリテーション、ICF、QOL、ノーマライゼーション				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

医療分野でのリハビリテーションの理念を学び、現代社会におけるリハビリテーションのニーズ、WHO 分類に基づいた障害の考え方を身につけ、チーム医療の中での作業療法士の役割を理解する。

〔到達目標〕

- ①リハビリテーションについて簡潔に説明することが出来る。
- ②リハビリテーションの諸段階について説明できる。
- ③WHO 分類について理解し、説明することが出来る。
- ④リハビリテーションにおけるチーム医療の必要性と概要を説明することが出来る。
- ⑤ライフステージにおける障害特性と疾病ごとのリハビリテーションの特性を説明することが出来る。

■授業の概要

高齢化社会を迎え、地域に根ざしたリハビリテーションは医療と保健、福祉サービスをつなぐ重要な役割を担っている。本講義ではWHO 分類に基づく障害の考え方、現代社会におけるリハビリテーション医療の目的と目標を学び、チーム医療における作業療法士の役割を確認する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第 1 回授業にて配付します。

第 1 回	リハビリテーションの歴史と理念、目的
第 2 回	リハビリテーションにおけるノーマライゼーションの考え方
第 3 回	ICF、ICIDH とは
第 4 回	グループワーク発表
第 5 回	医学的リハビリテーション、リハの諸段階
第 6 回	リハビリテーションにおける評価と治療
第 7 回	ライフステージにおける障害特性とリハビリテーション、作業療法
第 8 回	疾病ごとのリハビリテーション（発表）

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・授業で配布する資料の予備は保管しないため、欠席した場合は出席者からコピーすること。
- ・授業の流れや雰囲気を乱す行為、常識を欠く行為（私語、携帯電話の使用など）は厳禁。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式
 シャトルカード方式
 ICT 利用（WEB フォームやメールなど）
 その他（ ）

■授業時間外学習にかかわる情報

グループ発表など課題が事前に提示されるため、予習をしっかりと進めておくこと。

■オフィスアワー

月曜日または水曜日の 16 時 30 分～ 17 時 30 分。

■評価方法

小テスト 30%、発表 30%、期末筆記試験（論述）40%。これらを基に総合的に評価する。

■教科書

栢森良二著：学生のためのリハビリテーション医学概論 第 2 版。医歯薬出版株式会社。2015
 世界保健機関（WHO）：ICF 国際生活機能分類。中央法規。2002

■参考書

上田敏（監修）標準リハビリテーション医学 第 3 版（標準医学シリーズ）、医学書院、2012。

專 門 科 目

理学療法専攻

科目名	理学療法概論	担当教員 (単位認定者)	小島 俊文	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻 1 年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「基礎理学療法学」			
キーワード	理学療法、リハビリテーション、運動療法、物理療法				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

理学療法に関して、歴史・法律・理学療法対象・理学療法手技・倫理・活動分野等、様々な観点より理学療法を捉えることにより、理学療法の概要について知る。

〔到達目標〕

- ①リハビリテーション医療における位置付けおよび理学療法発展の歴史について説明できる。
- ②理学療法士及び作業療法士法について説明できる。
- ③理学療法士の活動分野と概略について説明できる。
- ④理学療法の対象者と疾患について説明できる。
- ⑤理学療法の治療までの流れと理学療法の手段について説明できる。
- ⑥リハビリテーションチームと理学療法部門の管理について説明できる。

■授業の概要

15 回に及ぶ講義中心の授業である。毎回ごとに主たるテーマを決め、そのテーマにそって授業を展開する。第 2 回以降、授業冒頭にミニテストを行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第 1 回授業にて配付します。

第 1 回	科目オリエンテーション・理学療法の歴史と法律
第 2 回	理学療法の対象
第 3 回	理学療法の治療手段
第 4 回	リハビリテーションチームと理学療法部門
第 5 回	理学療法士の活動分野
第 6 回	医療事故と理学療法
第 7 回	感染予防
第 8 回	理学療法に関連する各法律
第 9 回	理学療法における障害のとらえ方
第 10 回	理学療法と評価
第 11 回	運動療法と関連機器
第 12 回	物理療法と関連機器
第 13 回	理学療法と義肢装具
第 14 回	理学療法と日常生活活動
第 15 回	理学療法と倫理

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・授業中の居眠りや、他の学生に迷惑となるような行為は厳に慎むこと。たび重なる注意を与えても改善が見られない場合は、退室してもらう場合がある。
- ・その回の課題については必ず行ってくること。授業中に発表していただくが、課題を忘れることで他の受講生に迷惑をかけることを認識しておくこと。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT 利用 (WEB フォームやメールなど)
 その他 ()

■授業時間外学習にかかわる情報

毎回授業の復習を行うこと。復習の結果は次の回の授業でミニテストで確認します。

■オフィスアワー

火曜日 16 時 30 分～。

■評価方法

筆記試験 (客観・論述) 100%。
 ※ただし、授業への参加姿勢、課題の遂行状況等を勘案し、総合的に評価することとする。

■教科書

特に定めなし。必要に応じ資料を配布する。

■参考書

理学療法概論 奈良勲編 医歯薬出版

科目名	理学療法セミナーI	担当教員 (単位認定者)	村山 明彦	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学療法専攻 3 年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「基礎理学療法学」			
キーワード	研究方法論、エビデンス、ナラティブ、ガイドライン、文献抄読、統計学、プレゼンテーション				

■授業の目的・到達目標

<p>[授業の目的] 理学療法関連研究の基本的な考え方、および統計解析の基礎を学び、それらを実践できるようになることを目的とする。</p> <p>[到達目標]</p> <p>①理学療法関連研究の基本的な考え方を説明できる。 ②ガイドラインについて説明できる。 ③エビデンスとナラティブの関係を説明できる。 ④統計解析の基礎を説明できる。</p>
--

■授業の概要

<p>理学療法士は、常に進歩する医療に興味を持ち、新しい知見を得ていく必要がある。そのためには、自らも先行研究を基に研究を進めることが重要となる。理学療法セミナーIでは、研究の基礎を学ぶことで、論理的な思考能力、問題解決能力、文書作成能力などを身につけることを目的とする。</p>
--

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。	
第1回	科目オリエンテーション～なぜ研究をするのか?～
第2回	研究の基礎①～文献(和文・英文)を効率よく検索する～
第3回	研究の基礎②～文献(和文・英文)を効率よく読む～
第4回	研究の基礎③～ガイドライン～
第5回	研究の基礎④～エビデンス～
第6回	研究の基礎⑤～ナラティブ～
第7回	研究の基礎⑥～身近な例で研究デザインを考える①～
第8回	研究の基礎⑦～身近な例で研究デザインを考える②～
第9回	統計解析の基礎①～記述統計～
第10回	統計解析の基礎②～スチューデントのT検定、マンホイットニーのU検定～
第11回	統計解析の基礎③～対応のあるT検定、ウィルコクソンの符号付順位和検定～
第12回	統計解析の基礎④～分散分析、クルスカールウォリス検定、フリードマン検定～
第13回	統計解析の基礎⑤～相関と回帰①～
第14回	統計解析の基礎⑥～相関と回帰②～
第15回	まとめ～学会抄録・投稿論文の査読者の視点から～

■受講生に関わる情報および受講のルール

<p>[受講生に関わる情報]</p> <p>①予習・復習は必須である。 ②授業で使用するスライド等の資料は、全て電子媒体にて事前に配布する。授業当日までにプリントアウトもしくは、電子媒体を閲覧できる環境(PC・タブレット・スマートフォンなど)を整えておくこと。</p> <p>[受講のルール]</p> <p>①授業概要を確認し積極的に臨むこと。 ②受講態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めない。 ③授業の流れや雰囲気等を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為は厳禁とする。</p>
--

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

<input type="checkbox"/> コメントカード方式 <input checked="" type="checkbox"/> シャトルカード方式 <input type="checkbox"/> ICT利用(WEBフォームやメールなど) <input type="checkbox"/> その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

<p>初回の科目オリエンテーションにて詳細を説明する。 予習や課題の実施を前提に講義を進める。</p>

■オフィスアワー

火曜日 16 時 30 分～17 時 30 分(その他の曜日については要予約)。
--

■評価方法

レポート 100%

■教科書

山田実編著、土井剛彦、浅井剛著: PT・OTのための臨床研究はじめての一步～研究デザインから統計解析、ポスター・口述発表のコツまで実体験から教えます。羊土社
--

■参考書

<p>西内啓: 統計学が最強の学問である データ社会を生き抜くための武器と教養。ダイヤモンド社 新谷歩: 今日から使える 医療統計。医学書院 森本剛: 査読者が教える 医学論文のための研究デザインと統計解析。中山書店 柳井久江: 4steps エクセル統計 第4版。オーエムエ出版 末吉正成、末吉美喜: EXCEL ビジネス統計分析 第3版。翔泳社</p>
--

科目名	理学療法セミナーⅡ	担当教員 (単位認定者)	小島・柴・多田 新谷・横山・村山	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学療法専攻 4 年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「基礎理学療法学」			
キーワード	理学療法 治療 効果判定				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕 臨床においては、評価結果をもとに個々の症例の問題点を改善していくことが必須となる。より良い効果が得られるような治療の選択および実施ができるよう知識・実技を確実に身につけることを目的とする。
〔到達目標〕 ①各疾患の特徴が説明できる。 ②問題点を改善するために必要な治療を選択することができる。 ③選択した治療を実施することができる。 ④実施した治療に対する効果判定を行うために必要な検査項目を列挙し、検査の意義を説明できる。

■授業の概要

評価実習で担当した症例について評価結果を整理し、問題点を改善するための治療プログラムを立案する。選択した治療プログラムの根拠を説明できるようにし、効果判定に関わる考え方を学ぶ。
--

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。	
第1回	症例の振り返り・問題点の整理
第2回	症例検討-発表準備①-
第3回	症例検討-発表準備②-
第4回	症例検討-発表準備③-
第5回	症例検討-発表準備④-
第6回	症例検討-発表①-
第7回	症例検討-発表②-
第8回	症例検討-発表③-
第9回	症例検討-発表④-
第10回	症例検討-発表⑤-
第11回	症例検討-発表⑥-
第12回	症例検討-発表⑦-
第13回	症例検討-発表⑧-
第14回	症例検討-発表⑨-
第15回	症例検討-発表⑩-

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕 ・予習復習を必ず行い、授業中は自ら積極的に参加し、考え、発言すること。 ・実技を行うときはケーシーを着用し、医療従事者としての身だしなみを整えること。
〔受講のルール〕 ・医療従事者として必要な態度や身だしなみを整えようとして受講すること。準備不足の学生は授業を受けられないこともある。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

<input checked="" type="checkbox"/> コメントカード方式 <input type="checkbox"/> シャトルカード方式 <input type="checkbox"/> ICT利用(ウェブフォームやメールなど)
<input type="checkbox"/> その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

与えられた課題は、授業時間中では達成できない。授業時間外での予習は必須である。また確実に知識を身につけるためには、復習も必須となるので「自ら学び、学び続ける」努力を怠らないこと。

■オフィスアワー

各担当教員のオフィスアワーに準ずる。

■評価方法

発表 100%

■教科書

授業内で適宜紹介する。

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	理学療法評価学Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	多田 菊代	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻 2 年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「理学療法評価学」			
キーワード	下記授業計画の【 】を参照。				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕
理学療法評価の基本的な考え方・枠組み、基本的な検査項目を学び、実践できるよう検査・測定のス��を身につける。

〔到達目標〕

- ①理学療法における評価の手順や治療の流れを理解する。
- ②理学療法で用いる基本的な検査・測定の意味や目的を理解する。
- ③理学療法で用いる基本的な検査・測定実施時のリスク管理を理解する。
- ④理学療法における検査・測定のス��を身につける。

■授業の概要

対象者が持つ身体的機能面から全生活場面までをみて症状や障害を把握し、回復や改善の方策を探ることが「評価」の目的である。理学療法評価の基本的な枠組みを学ぶとともに、実践できるよう検査測定技能を修得する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第 1 回授業にて配付します。

第 1 回	科目オリエンテーション【理学療法評価（意義・目的、流れ、検査・測定、統合と解釈）】
第 2 回	【理学療法における障害の捉え方、障害モデル、ICIDH、ICF】
第 3 回	【医療面接、フィジカルアセスメント、Vital Sign、スクリーニング】実践の流れと方法
第 4 回	意識障害・全身状態の評価、フィジカルアセスメント
第 5 回	【評価記録の方法、取り扱い、症例報告書の書き方】
第 6 回	【情報収集（情報収集項目、カルテの見かた、医学的・社会的情報の取り方）】整理と全体像把握
第 7 回	【医療面接、フィジカルアセスメント、Vital Sign、スクリーニング】実施における留意点
第 8 回	【痛みの評価（痛みとは、運動器に関連した疼痛評価の進め方）】
第 9 回	【痛みの臨床的評価尺度】
第 10 回	【姿勢観察、形態計測の意義・方法】
第 11 回	【腱反射検査の意義・目的・方法】
第 12 回	【腱反射以外の反射検査の意義・目的・方法】
第 13 回	【感覚検査の意義・目的・方法】
第 14 回	【関節可動域検査の意義・目的・方法】
第 15 回	【徒手筋力検査の意義・目的・方法】

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕
疾患を問わず臨床で用いられる理学療法の基本的な検査・測定的基础知識と基本手技を学習する科目である。3 年後期の評価実習や 4 年臨床実習場面で実践することになるため、机上の学習止まりではなく、実践可能なレベルまで知識・技術を習得する必要がある。そのため、自身の身体を用いて思考してもらったり場面やデモンストレーションを行う場面では、積極的な態度で臨む事。講義への出席は必須の前提であり、無断欠席・遅刻は小テスト成績に影響するので注意すること。実技を行う場合は、白衣または大学指定体操着着用を指示することもあるため準備しておくこと。臨床実習に準じる身だしなみとすること。（爪は短く切り長い髪は束ねる、マニキュア・アクセサリ・香水・派手な化粧・頭髮の派手な染色などは受講を認めない場合がある。）

〔受講のルール〕

- ①シラバスを毎回持参し、各回の講義終了時、次回の内容を確認の上、受講準備を十分行う事。
- ②受講態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めない。
- ③講義の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、居眠り、許可した場面以外でのスマートフォン等の使用）は厳禁とする。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シヤトルカード方式 ICT 利用（WEB フォームやメールなど）
 その他（ ）

■授業時間外学習にかかわる情報

各検査・測定のス��向上のためには時間外にも実技練習を行う必要がある。個人の技能習熟度により必要な時間は異なる。

- ①講義終了後、シラバスで次回内容の確認をし、受講の準備計画を立てる（5 分程度）。
- ②前回講義内容の復習をし、要点をまとめておくこと（20 分程度）。
- ③次回内容の key words を中心にわからないことを事前に調べておくこと（10 分程度）。

■オフィスアワー

水曜日 16 時から 17 時は随時。それ以外は要予約。

■評価方法

課題提出 30%、ポートフォリオ 10%、筆記試験 60%。
総合評価は筆記試験が 60%以上であることが前提となる。

■教科書

潮見泰蔵ら編：リハビリテーション基礎評価学，羊土社

■参考書

- ①柴喜崇ら編：ADL，羊土社
- ②細田多穂監：シンプル理学療法学シリーズ 運動学テキスト，南江堂
- ③田崎義昭著：ベッドサイドの神経の診かた，南山堂
- ④津山直一 中村耕三訳：新徒手筋力検査法 協同医書出版
- ⑤林典雄著：運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢+下肢・体幹 改訂第 2 版
- ⑥市橋則明編：運動療法学—障害別アプローチの理論と実際

科目名	理学療法評価学Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	村山 明彦	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻 2 年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「理学療法評価学」			
キーワード	評価プロセス、面接技法、観察技法、検査技法、エビデンス				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

理学療法評価の基本的な考え方・枠組み、基本的な検査項目を学び、実践できるようになることを目的とする。

[到達目標]

- ①エビデンスに基づいた評価の選択・実施について説明できる。
- ②観察式・質問式評価のメリット・デメリットを説明できる。
- ③ADL 評価の意義、評価手順を説明できる。
- ④評価から得られた結果を統合し解釈することができる。

■授業の概要

対象者が持つ身体的機能面から全生活場面までをみて症状や障害を把握し、その回復の方策を探ることが「評価」の目的である。理学療法評価学Ⅰおよび理学療法評価学実習Ⅰで学んだ評価の目的、意義、方法、流れを基軸としつつ、各種検査方法について学んでいく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第 1 回授業にて配付します。

第 1 回	科目オリエンテーション ～科学的根拠に基づく理学療法 (Evidence-based Physical Therapy : EBPT) と評価～
第 2 回	意欲・自己効力感の評価 ～評価の選択・実施のポイント～
第 3 回	気分(うつ・不安)・思考の評価 ～評価の選択・実施のポイント～
第 4 回	ADL ～評価の選択・実施のポイント～
第 5 回	観察に基づく ADL 評価 ～グループワーク、事例検討 ①～
第 6 回	観察に基づく ADL 評価 ～グループワーク、事例検討 ②～
第 7 回	観察に基づく ADL 評価 ～グループワーク、事例検討 ③～
第 8 回	IADL ～評価の選択・実施のポイント～
第 9 回	高次脳機能障害の評価① ～評価の選択・実施のポイント～
第 10 回	高次脳機能障害の評価② ～障害別の具体的な方法～
第 11 回	認知症の評価 ～評価の選択・実施のポイント～
第 12 回	転倒予防の評価 ～評価の選択・実施のポイント～
第 13 回	各種ガイドラインとアウトカム評価指標 ～評価結果の解釈と予後予測のポイント～
第 14 回	評価における統合と解釈 ～グループワーク ①～
第 15 回	評価における統合と解釈 ～グループワーク ②～

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関わる情報]

- ①予習・復習は必須である。
- ②授業で使用するスライド等の資料は、全て電子媒体にて事前に配布する。授業当日までにプリントアウトもしくは、電子媒体を閲覧できる環境 (PC・タブレット・スマートフォンなど) を整えておくこと。

[受講のルール]

- ①授業概要を確認し積極的に臨むこと。
- ②受講態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めない。
- ③授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為は厳禁とする。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式
 シャトルカード方式
 ICT 利用 (WEB フォームやメールなど)
- その他 ()

■授業時間外学習にかかわる情報

初回の科目オリエンテーションにて詳細を説明する。予習や課題の実施を前提に講義を進める。

■オフィスアワー

火曜日 16 時 30 分～17 時 30 分 (その他の曜日については要予約)。

■評価方法

筆記試験 (客観) 60%、レポート 40%。
総合評価は筆記試験が 60%以上であることが前提となる。

■教科書

潮見泰藏, 下田信明編: PT・OT ビジュアルテキスト リハビリテーション基礎評価学. 羊土社
奈良勲, 鎌倉矩子 シリーズ編集, 川平和美編集: 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学. 第 4 版, 医学書院

■参考書

適宜紹介する。

科目名	理学療法評価学実習Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	多田 菊代	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学療法専攻2年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「理学療法評価学」			
キーワード	下記授業計画の【 】を参照。				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕
理学療法評価の基本的な考え方・枠組み、基本的な検査項目を学び、実践できるよう検査・測定スキルを身につける。

〔到達目標〕

- ①理学療法における評価の手順や治療の流れを理解する。
- ②理学療法で用いる基本的な検査・測定の意義や目的を理解する。
- ③理学療法で用いる基本的な検査・測定実施時のリスク管理を理解する。
- ④理学療法における検査・測定スキルを身につける。

■授業の概要

対象者が持つ身体的機能面から全生活場面までをみて症状や障害を把握し、その回復の方策を探ることが「評価」の目的である。理学療法評価学Ⅰで学んだ評価の目的、意義、方法、流れを基軸をしつつ、各種検査方法を学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	【形態測定】 科目オリエンテーション、筆記小テスト①(形態測定)、形態測定の実際
第2回	【形態測定】 実技小テスト①(形態測定)、形態測定のポイント
第3回	【反射検査】 筆記小テスト②(反射検査)、反射検査の実際
第4回	【反射検査】 実技小テスト②(反射検査)、反射検査のポイント
第5回	【関節可動域検査】 筆記小テスト③(関節可動域検査)、関節可動域検査の基礎
第6回	【関節可動域検査】 (肩甲帯・肩・肘・前腕)
第7回	【関節可動域検査】 実技小テスト③(関節可動域検査)、関節可動域検査(股関節・膝関節・足関節)
第8回	【関節可動域検査】 (頸部・体幹・手・手指)
第9回	【徒手筋力検査】 筆記小テスト④(徒手筋力検査)、徒手筋力検査の基礎
第10回	【徒手筋力検査】 (上肢)
第11回	【徒手筋力検査】 (下肢)
第12回	【徒手筋力検査】 (その他の部位)(機器を用いた筋力検査)
第13回	【感覚検査】 実技小テスト④(徒手筋力検査)、感覚検査の基礎
第14回	【感覚検査】 筆記小テスト⑤(感覚検査)、感覚検査の実際
第15回	感覚検査のポイント

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕
疾患を問わず臨床で用いられる理学療法の基本的な検査・測定の基礎知識と基本手技を学習する科目である。3年後期の評価実習や4年臨床実習場面で実践することになるため、机上の学習止まりではなく、実践可能なレベルまで知識・技術を習得する必要がある。そのため、デモンストレーション・実技演習場面では、積極的態で臨む事。講義への出席は必須の前提であり、無断欠席・遅刻は小テスト成績に影響するので注意すること。全ての回において白衣着用を基本とするが、大学指定体操着着用を指示することもあるため準備しておくこと。臨床実習に準じる身だしなみとすること。(爪は短く切り長い髪は束ねる、マニキュア・アクセサリ・香水・派手な化粧・頭髪の派手な染色などは受講を認めない場合がある。)

〔受講のルール〕

- ①シラバスを毎回持参し、各回の講義終了時、次回の内容を確認の上、受講準備を十分行う事。
- ②受講態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めない。
- ③講義の流れや雰囲気や迷惑行為、他の受講生の迷惑になる行為(私語、居眠り、許可した場面以外でのスマートフォン等の使用)は厳禁とする。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(WEBフォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

実技小テストの実施や再テストの実施は、授業時間外に行う場合がある。各検査・測定の技能向上のためには時間外にも実技練習を行う必要がある。個人の技能習熟度により必要な時間は異なる。

- ①講義終了後、シラバスで次回内容の確認をし、受講の準備計画を立てる(5分程度)。
- ②前回講義内容の復習をし、要点をまとめておくこと(20分程度)。
- ③次回内容のkey wordsを中心にわからないことを事前に調べておくこと(10分程度)。

■オフィスアワー

木曜日の授業間の休憩時間。その時間以外は要予約。

■評価方法

小テスト40%(筆記20%・実技20%、いずれも再試験あり)、実技試験50%、課題提出10%。
総合評価は実技試験が60%以上であることが前提となる。

■教科書

潮見泰蔵ら編：リハビリテーション基礎評価学、羊土社

■参考書

- | | |
|---|-----------------------------------|
| ①柴喜崇ら編：ADL、羊土社 | ②細田多穂 監 シンプル理学療法学シリーズ 運動学テキスト、南江堂 |
| ③田崎義昭著：ベッドサイドの神経の診かた、南山堂 | ④津山直一 中村耕三訳：新徒手筋力検査法 協同医書出版 |
| ⑤林典雄著：運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢+下肢・体幹 改訂第2版 | ⑥市橋則明編：運動療法学―障害別アプローチの理論と実際 |

科目名	理学療法評価学実習Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	横山 雅人	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	〈理学療法専攻2年次必修科目〉解剖学、運動学、理学療法入門、リハビリテーション入門、理学療法評価学Ⅰの知識が必要となる。	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「理学療法評価学」			
キーワード	評価プロセス、面接技法、観察技法、検査技法				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕 主に神経障害に関連する理学療法評価の基本的な考え方・枠組み、基本的な検査項目を学び、実践できるようになることを目的とする。
〔到達目標〕
①評価の意味、評価の対象、評価の手段を理解できる。
②基本的な面接・観察技法を身につける。
③基本的な検査手技を自己学習により正確に行えるようになる。
④それぞれの検査の目的や利用法についての基本的知識を得る。

■授業の概要

主に神経障害患者が持つ身体的機能面から全生活場面までをみて症状や障害を把握し、その回復の方策を探ることが「評価」の目的である。理学療法評価学Ⅰおよび理学療法評価学実習Ⅰで学んだ評価の目的、意義、方法、流れを基軸としつつ、各種検査方法について学んでいく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。	
第1回	片麻痺機能検査①
第2回	片麻痺機能検査②
第3回	片麻痺機能検査③
第4回	筋緊張検査①
第5回	筋緊張検査②
第6回	片麻痺機能検査・筋緊張検査 小テスト①
第7回	観察による動作観察・分析①
第8回	観察による動作観察・分析②
第9回	観察による動作観察・分析③ 小テスト②
第10回	脳神経検査
第11回	協調性検査
第12回	姿勢・平衡機能・バランス検査①
第13回	姿勢・平衡機能・バランス検査②
第14回	姿勢・平衡機能・バランス検査③
第15回	姿勢・平衡機能・バランス検査④ 小テスト③

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕
①実技を行う場合は動きやすい格好で準備すること。
②予習を前提に講義を進める。
〔受講のルール〕
①授業概要を確認し積極的に臨むこと。
②受講態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めない
③授業の流れや雰囲気等を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

<input type="checkbox"/> コメントカード方式	<input checked="" type="checkbox"/> シャトルカード方式	<input type="checkbox"/> ICT利用（WEBフォームやメールなど）
<input type="checkbox"/> その他（ ）		

■授業時間外学習にかかわる情報

授業概要・授業進行を確認し、予習を怠らないこと。指定された予習以外にも、評価（検査・測定）に関連する基礎医学的な知識を学習しておくこと。また、不足している基礎的な医学知識を授業終了後に必ず確認すること。

■オフィスアワー

水曜日 16時～17時（その他の曜日については要予約）。

■評価方法

実技試験 60%、授業進行に合わせた課題・小テスト等 40%の総合評価にて判定するが、実技・筆記試験が60%以上であることが前提となる。

■教科書

潮見泰蔵ら・編：リハビリテーション基礎評価学、羊土社、2014	石川朗・総編：理学療法テキスト 神経障害理学療法学Ⅰ、中山書店、2011
川平和美・編：神経内科、医学書院、2013	千野直一ら：脳卒中の機能評価 SIASとFIM、金原書店、2012
石川朗・総編：理学療法・作業療法テキスト 臨床運動学、中山書店、2015	市橋則明・編：運動療法学 障害別アプローチの理論と実際 第二版、文光堂、2015

■参考書

奈良勲ら・編：図解理学療法検査・測定ガイド、文光堂、2009
市橋則明・編：理学療法評価学、文光堂、2016
月城慶一ら・訳：観察による歩行分析、医学書院、2015

科目名	運動療法学I	担当教員 (単位認定者)	新谷 益巳	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻 2 年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「理学療法治療学」			
キーワード	関節可動域練習、筋力強化練習、持久力練習				

■授業の目的・到達目標

理学療法における治療技術の基礎を身につける。
 ①主要なキーワードを自分の言葉で説明ができる。
 ②正常と異常について説明ができる。
 ③評価と結び付けて運動プログラムを説明できる。

■授業の概要

解剖学、運動学、評価学の学習を踏まえて、理学療法で必要となる治療技術の考え方の基礎について学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション / 運動療法とは
第2回	運動の必要性と効果
第3回	運動療法の順序
第4回	関節可動域訓練(1)
第5回	関節可動域訓練(2)
第6回	関節の機能と障害
第7回	トレーニングの基礎的原理
第8回	筋の機能と障害
第9回	筋力増強訓練(1)
第10回	筋力増強訓練(2)
第11回	筋持久力増強訓練
第12回	随意運動と運動制御モデル
第13回	運動制御と運動学習
第14回	機能(統合)訓練の位置づけ
第15回	障害別機能(統合)訓練 対麻痺・四肢麻痺

■受講生に関わる情報および受講のルール

学習方法：基礎を学びながら、実際の運動療法について学びます。
 解剖学、運動学の知識を理解していることが前提となります。不十分な者は事前学習を個人で進めて下さい。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(WEBフォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

運動療法学実習Iに繋がる内容のため、十分な理解が必要となるため、ポートフォリオに整理を毎回行うことをして下さい。また、小テストについては授業内で範囲を説明しますので自己学習を進めて下さい。

■オフィスアワー

木曜日 16時30分～17時30分。

■評価方法

筆記試験 60%、ポートフォリオ 30%、小テスト 10% (2回) の総合評価にて判定するが、筆記試験が 60 点以上であることが前提となる。

■教科書

細田多穂：シンプル理学療法学シリーズ 運動療法学テキスト、南江堂

■参考書

奈良勲：標準理学療法学、運動療法学(総論)、医学書院、2010 第12回、第13回時に使用。
 市橋則明：運動療法学(障害別アプローチの理論と実際)、文光堂、2015

科目名	運動療法学Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	横山 雅人	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻 2 年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「理学療法治療学」			
キーワード	神経の機能と構造、運動療法、神経障害				

■授業の目的・到達目標

<p>〔授業の目的〕 神経障害疾患の理学療法における評価・治療技術の基礎を学ぶ。</p> <p>〔達成目標〕</p> <p>①授業で提示した主要なキーワードを自分言葉で説明ができる。 ②疾患に関連した障害像を説明できる。 ③疾患の特性・症状・評価結果と結びつけた運動療法の考え方・介入方法を説明できる。</p>

■授業の概要

解剖学、運動学、評価学、運動療法学の学習を踏まえて、主に神経障害疾患に関する理学療法で必要となる考え方・評価・治療技術の基礎を学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	運動療法に必要な神経の構造と機能① / 科目オリエンテーション
第2回	運動療法に必要な神経の構造と機能②
第3回	中枢神経障害・脳血管障害に対する運動療法①
第4回	中枢神経障害・脳血管障害に対する運動療法②
第5回	感覚障害に対する運動療法
第6回	バランス障害・姿勢障害に対する運動療法①
第7回	バランス障害・姿勢障害に対する運動療法②
第8回	運動失調・協調性障害に対する運動療法
第9回	歩行障害に対する運動療法
第10回	神経障害—運動療法・介入の実際 脳卒中急性期①
第11回	神経障害—運動療法・介入の実際 脳卒中急性期②
第12回	パーキンソン病に対する運動療法
第13回	高次脳機能障害に対する運動療法
第14回	嚥下障害① (外部講師)
第15回	嚥下障害② (外部講師)

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔服装指定〕実技の予定がある場合は指定ジャージとします(防寒対策は認めます)。
〔学習方法〕神経障害疾患に関する基礎知識、評価、運動療法を中心に学びますので、関連した予習を進めてください。
解剖学、運動学、生理学の知識を獲得済みであることを前提としますので、不十分な者は事前学習を個人で進めてください。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(ウェブフォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

科目オリエンテーションや授業内で説明を実施しますが、予習・課題・復習の実施を前提に講義を進めます。

■オフィスアワー

水曜日 16 時～17 時(その他の曜日については要予約)。

■評価方法

筆記試験 70%、授業進行に合わせた課題・小テスト等 30%の総合評価にて判定するが、筆記試験が 60%以上であることが前提となる。

■教科書

石川朗・総編：理学療法テキスト 神経障害理学療法学Ⅰ, 中山書店, 2011
細田多穂・監修：中枢神経障害理学療法テキスト 第二版, 南江堂, 2014
市橋則明・編：運動療法学 障害別アプローチの理論と実際 第二版, 文光堂, 2015

■参考書

石川齊ら・編：図解 理学療法技術ガイド, 文光堂, 2014 奈良勲・監修：神経内科 第4版, 医学書院, 2013
奈良勲・監修：解剖学 第4版, 医学書院, 2015 石川朗・総編：理学療法・作業療法テキスト 臨床運動学, 中山書店, 2015
石井慎一郎：動作分析 臨床活用講座, メジカルビュー, 2013
他：必要に応じて授業内に提示します。

科目名	運動療法学Ⅲ	担当教員 (単位認定者)	多田 菊代	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻 3 年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「理学療法治療学」			
キーワード	内部障害、内部障害のリハビリテーション、呼吸リハビリテーション				

■授業の目的・到達目標

<p>〔授業の目的〕 呼吸器疾患に対する基本的理学療法の評価(情報収集・統合と解釈・問題点抽出)と治療プログラム立案のための知識と実践力を身につける。</p> <p>〔到達目標〕 「知識・理解」 ①内部障害の定義が説明できる。 ②代表的な呼吸器疾患の病態と治療が説明できる。 ③呼吸器疾患に対するリスク管理について説明できる。 ④呼吸器疾患に対する一般的理学療法プログラムを説明できる。</p> <p>「思考・判断」 ①課題のテーマに沿ったプレゼンテーション資料を作成し発表できる。 ②プレゼンテーションにおいて専門用語を使用して説明できる。</p> <p>「関心・意欲・態度」 ①関連する書籍や文献などを主体的に調べることができる。 ②疑問点があれば自ら調べるとともに適宜質問することができる。 ③他者と協力しながらグループワークに取り組むことができる。</p>
--

■授業の概要

代表的な呼吸器疾患について、病態に関する知識の確認を行うと共にフィジカルアセスメントを学ぶ。また、呼吸リハビリテーションの意義と目的、その方法を学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。	
第1回	科目オリエンテーション、内部障害の定義・疫学・歴史的背景
第2回	呼吸器系の解剖学・運動学
第3回	呼吸器系の生理学(呼吸運動のメカニズム、呼吸リズムの調節)
第4回	呼吸器系の生理学(酸塩基平衡、動脈血液ガスの理解)
第5回	呼吸器系の生理学(呼吸機能測定の種類と内容、スパイロメトリー、フローボリューム曲線)
第6回	呼吸不全の病態と呼吸器疾患
第7回	呼吸理学療法における評価(フィジカルアセスメント)
第8回	呼吸理学療法における評価(運動耐容能、筋力、ADL、QOL、画像所見、栄養状態、心理状態)
第9回	包括的呼吸リハビリテーション(コンディショニング、呼吸練習、呼吸筋トレーニング、胸郭可動域トレーニング)
第10回	呼吸理学療法の実際
第11回	呼吸理学療法基本手技(排痰法、呼吸介助)
第12回	呼吸理学療法(運動療法)
第13回	酸素療法、在宅酸素療法
第14回	人工呼吸療法と呼吸理学療法
第15回	COPD患者に対する呼吸リハビリテーション

■受講生に関わる情報および受講のルール

<p>〔受講生に関わる情報〕 講義への出席は必須の前提であり、無断欠席・遅刻は小テスト成績に影響するので注意すること。実習を行う際は、白衣または大学指定体操着着用とする。臨床実習に準じる身だしなみとすること。(爪は短く切り長い髪は束ねる、マニキュア・アクセサリ・香水・派手な化粧品・頭髪の派手な染色などは受講を認めない場合がある。)</p> <p>〔受講のルール〕 ①シラバスを毎回持参し、各回の講義終了時、次回の内容を確認の上、受講準備を十分行う事。 ②受講態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めない。 ③講義の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(私語、居眠り、許可した場面以外でのスマートフォン等の使用)は厳禁とする。</p>

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

<input type="checkbox"/> コメントカード方式 <input checked="" type="checkbox"/> シャトルカード方式 <input type="checkbox"/> ICT利用(ウェブフォームやメールなど) <input type="checkbox"/> その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

<p>①講義終了後、シラバスで次回内容の確認をし、受講の準備計画を立てる(5分程度)。 ②前回講義内容の復習をし、要点をまとめておくこと(20分程度)。 ③次回内容のkey wordsを中心にわからないことを事前に調べておくこと(10分程度)。</p>
--

■オフィスアワー

水曜日 16時から17時は随時。それ以外は要予約。

■評価方法

筆記試験(客観)60%、課題20%、小テスト20%。総合評価は筆記試験が60%以上であることが前提となる。

■教科書

<p>①シンプル理学療法学シリーズ 内部障害理学療法学テキスト 改訂第3版:南江堂 ②動画でわかる呼吸リハビリテーション 第4版:中山書店</p>

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	運動療法学実習 I	担当教員 (単位認定者)	新谷 益巳	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学療法専攻 2 年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「理学療法治療学」			
キーワード	関節可動域練習、筋力強化練習、ストレッチング				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

理学療法における治療技術の基礎を身につける。

〔到達目標〕

- ①異常な状態に対する治療技術を選ぶことができる。
- ②①に関連した主要な治療技術を実行できる。
- ③②について、評価学に基づいて、介入効果を示すことができる。

■授業の概要

運動療法学 I の学習を踏まえて、理学療法で必要となる治療技術の代表的なものが実施できるように、体験して身につける。この科目で学んだことは、今後運動療法学、理学療法技術論へつながる科目である。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第 1 回授業にて配付します。

第 1 回	科目オリエンテーション / リラクゼーションテクニック
第 2 回	ストレッチング(上肢)
第 3 回	ストレッチング(下肢)
第 4 回	運動療法による関節可動域の維持と改善(1)上肢
第 5 回	運動療法による関節可動域の維持と改善(2)下肢
第 6 回	関節可動域制限に対する運動療法
第 7 回	姿勢変化と生体反応の実際
第 8 回	疾患別の運動療法(治療体操)
第 9 回	運動療法による筋力の維持と増強(1)上肢
第 10 回	運動療法による筋力の維持と増強(2)下肢
第 11 回	運動療法による筋力の維持と増強(3)体幹
第 12 回	筋力低下に対する運動療法
第 13 回	運動療法による持久力の維持と改善
第 14 回	運動療法による筋持久力練習
第 15 回	障害別機能(統合)訓練 対麻痺・四肢麻痺に対しての実際

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔服装指定〕Tシャツ+ハーフパンツ(防寒対策は認めます)。

〔学習方法〕基礎を学びながら、実際の運動療法について学びます。

解剖学、運動学の知識を理解していることが前提となります。不十分な者は事前学習を個人で進めて下さい。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式
 シャトルカード方式
 ICT 利用(WEB フォームやメールなど)
- その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

復習学習：技術を身につけるために復習とトレーニングを支援します。

■オフィスアワー

木曜日 16 時 30 分～ 17 時 30 分。

■評価方法

筆記試験 60%、ポートフォリオ 30%、小テスト 10% (2 回) の総合評価にて判定するが、筆記試験が 60 点以上であることが前提となる。

■教科書

細田多穂：シンプル理学療法学 シリーズ運動療法学テキスト、南江堂、2010、
第 1 回、第 4 回、第 5 回、第 7 回、第 8 回、第 9 回、第 10 回、第 11 回、第 13 回、第 15 回

■参考書

柳澤健：理学療法学ゴールド・マスター・テキスト運動療法学、MEDICALVIEW、2010 第 2 回、第 3 回、第 14 回時に使用。
市橋則明：運動療法学(障害別アプローチの理論と実際)、文光堂、2015 第 6 回、第 12 回時に使用。

科目名	運動療法学実習Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	横山 雅人	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学療法専攻 2 年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「理学療法治療学」			
キーワード	神経障害、運動療法、動作観察・分析、基本動作				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕 神経障害疾患の理学療法における治療技術の基礎を身につける。 〔到達目標〕 ①疾患に関連した運動療法を中心とした治療技術を選択することができる。機能障害に対する治療技術を選ぶことができる。 ②①の主要な治療技術を立案・実行できる。 ③②について、難易度設定や効果判定評価、動作目標、機能障害を示すことができる。

■授業の概要

これまでの学習内容・運動療法学Ⅱの学習を踏まえて、神経障害疾患の理学療法で必要となる治療技術の代表的なものが実施できるように、身につける。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。	
第1回	神経障害に対する運動療法基礎：動作観察/科目オリエンテーション
第2回	神経障害—脳卒中片麻痺の姿勢・動作の特徴
第3回	神経障害—評価・運動療法・介入の基礎：姿勢・動作観察、運動制御、運動学習①
第4回	神経障害—評価・運動療法・介入の基礎：動作観察、姿勢・運動制御、運動学習②
第5回	神経障害—基本動作に対する運動療法・介入の基礎（移乗・立ち上がり・歩行）
第6回	神経障害—運動療法・介入の実際 運動療法の考え方：課題指向型アプローチ・神経生理学アプローチ①
第7回	神経障害—運動療法・介入の実際 運動療法の考え方：課題指向型アプローチ・神経生理学アプローチ②
第8回	神経障害—運動療法・介入の実際 運動療法の考え方：課題指向型アプローチ・神経生理学アプローチ③
第9回	神経障害—運動療法・介入の実際 具体的な運動療法①：寝返り・起き上がり/臥位・ベッド上動作/座位/立ち上がり/移乗/歩行
第10回	神経障害—運動療法・介入の実際 具体的な運動療法②：寝返り・起き上がり/臥位・ベッド上動作/座位/立ち上がり/移乗/歩行
第11回	神経障害—運動療法・介入の実際 具体的な運動療法③：寝返り・起き上がり/臥位・ベッド上動作/座位/立ち上がり/移乗/歩行
第12回	小児疾患に対する運動・理学療法①（外部講師）
第13回	小児疾患に対する運動・理学療法②（外部講師）
第14回	小児疾患に対する運動・理学療法③（外部講師）
第15回	小児疾患に対する運動・理学療法④（外部講師）

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔服装指定〕実技中心になることから、運動可能な指定ジャージを指定とします（防寒対策は認めます）。 〔学習方法〕体験と指導デモンストレーションをトレーニングします。 解剖学、運動学、生理学の知識を獲得済みであることを前提としますので、不十分な者は事前学習を個人で進めてください。
--

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

<input type="checkbox"/> コメントカード方式	<input checked="" type="checkbox"/> シャトルカード方式	<input type="checkbox"/> ICT利用（WEBフォームやメールなど）
<input type="checkbox"/> その他（ ）		

■授業時間外学習にかかわる情報

科目オリエンテーションや授業内で説明を実施しますが、予習・課題・復習の実施を前提に講義を進めます。

■オフィスアワー

水曜日 16 時～17 時（その他の曜日については要予約）。

■評価方法

筆記試験 60%、動作観察課題・実技見極めへの合格・講義実習への参加度等 40%の総合評価にて判定するが、筆記試験が 60 点以上であることが前提となる。

■教科書

石川朗・総編：理学療法・作業療法テキスト 臨床運動学，中山書店，2015 石川朗・総編：理学療法テキスト 神経障害理学療法学Ⅰ，中山書店，2011 石井慎一郎：動作分析 臨床活用講座，メジカルビュー，2013
--

■参考書

市橋則明・編：運動療法学 障害別アプローチの理論と実際 第二版，文光堂，2015 細田多穂・監修：中枢神経障害理学療法テキスト 第二版，南江堂，2014 奈良勲ら・編：図解理学療法検査・測定ガイド，文光堂，2009 市橋則明・編：理学療法評価学，文光堂，2016 月城慶一ら・訳：観察による歩行分析，医学書院，2015 石川齊ら・編：図解 理学療法技術ガイド，文光堂，2014 他：必要に応じて授業内に提示します。
--

科目名	運動療法学実習Ⅲ	担当教員 (単位認定者)	村山 明彦	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学療法専攻 3 年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「理学療法治療学」			
キーワード	理学療法、リハビリテーション、高齢者、認知症、介護予防、エビデンス				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

運動療法学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲおよびそれぞれの実習より学んだ各種運動療法の知識と技術を応用し、高齢者全般に関わる理学療法（特に運動療法）についての理解を深める。

〔到達目標〕

- ①高齢者の精神・心理の一般的な状態について述べるができる。
- ②高齢者の身体機能の特性について述べるができる。
- ③高齢者にみられやすい併存疾患の管理・リスク管理を説明できる。
- ④高齢者に多い問題への対応を説明できる。
- ⑤高齢者に対する理学療法のエビデンスについて説明できる。

■授業の概要

加齢による身体機能・精神機能が変化した高齢者の特性を知り、併存疾患の管理やリスク管理について理解する。また、理学療法士として高齢者に多い問題にどのように対応するか、その視点を学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション、超高齢者社会、日本の現状と課題
第2回	高齢者の定義と認知・身体機能特性
第3回	認知症の定義と分類、認知症の症状と評価
第4回	認知症に対するリハビリテーション 認知症状と認知症の行動・心理症状への介入
第5回	認知症に対するリハビリテーション 非薬物療法としての理学療法
第6回	高齢者のリハビリテーション ～医薬品による影響～
第7回	高齢者のリハビリテーション ～低栄養・褥瘡～
第8回	高齢者のリハビリテーション ～排尿・排便障害～
第9回	高齢者のリハビリテーション ～ロコモティブ・シンドローム～
第10回	高齢者のリハビリテーション ～サルコペニア～
第11回	高齢者のリハビリテーション ～フレイル～
第12回	高齢者のリハビリテーション ～主観的幸福感・Quality of Life (QOL) ～
第13回	高齢者のリハビリテーション ～介護者教育・看取り・Quality of Death (QOD) ～
第14回	高齢者のリハビリテーション ～介護予防・ヘルスプロモーション～
第15回	高齢者のリハビリテーション ～科学的根拠に基づく理学療法 (Evidence-based Physical Therapy : EBPT) ～

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ①予習・復習は必須である。
- ②授業で使用するスライド等の資料は、全て電子媒体にて事前に配布する。授業当日までにプリントアウトもしくは、電子媒体を閲覧できる環境（PC・タブレット・スマートフォンなど）を整えておくこと。

〔受講のルール〕

- ①授業概要を確認し積極的に臨むこと。
- ②受講態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めない。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式
 シャトルカード方式
 ICT利用（WEBフォームやメールなど）
 その他（ ）

■授業時間外学習にかかわる情報

授業内容を確認し、事前学習および復習を計画的に進めること。

■オフィスアワー

火曜日 16 時 30 分～ 17 時 30 分（その他の曜日については要予約）。

■評価方法

筆記試験（客観）60%、レポート40%。
総合評価は筆記試験が60%以上であることが前提となる。

■教科書

大内尉義 編集：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 老年学. 第4版, 医学書院

■参考書

島田裕之 総編集, 牧迫飛雄馬, 山田実 編：高齢者理学療法学. 医歯薬出版

科目名	物理療法学実習	担当教員 (単位認定者)	小島 俊文	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学療法専攻 2 年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「理学療法治療学」			
キーワード	温熱療法、寒冷療法、電気刺激療法、光線療法				

■授業の目的・到達目標

運動療法によって要素的な運動機能や実際の動作能力を高めていくための前段階として、疼痛や創傷などの機能・構造障害の改善を促進し、動きやすい身体状況を整える必要がある。そのための具体的な治療手段が、熱、光、水、電気、超音波などの物理的なエネルギーを生体に加えることの意味について理解し、各種機器を操作し実践することを目的・目標とする。

- ①物理療法機器を安全に取り扱うことができる。
- ②症状に合わせた機器の選択ができる。
- ③物理療法機器の適応と禁忌ならびに使い方のオリエンテーションができる。
- ④物理療法機器のメンテナンスができる。

■授業の概要

物理療法とは生体に物理的エネルギーを与え、生体反応を引き起こすことにより、疾病治療を行う治療手段である。当科目は各種疾患に対する物理療法の適応を理解し、物理療法に用いられる各種エネルギー特性と疾患特有の症状への生理的機序を学び、同時に適切に機器の運用ができるようになることである。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	物理療法の適応と禁忌
第2回	ホットパックの実際①（準備から実施、メンテナンスと注意事項）
第3回	ホットパックの実際②（準備から実施、メンテナンスと注意事項）
第4回	寒冷療法の実際（準備から実施、メンテナンスと注意事項）
第5回	パラフィン浴の実際（準備から実施、メンテナンスと注意事項）
第6回	赤外線療法と極超短波療法の実際（準備から実施、メンテナンスと注意事項）
第7回	超音波療法の実際①（準備から実施、メンテナンスと注意事項）
第8回	超音波療法の実際②（準備から実施、メンテナンスと注意事項）
第9回	低周波療法の実際①（準備から実施、メンテナンスと注意事項）
第10回	低周波療法の実際②（準備から実施、メンテナンスと注意事項）
第11回	牽引療法の実際①（準備から実施、メンテナンスと注意事項）
第12回	牽引療法の実際②（準備から実施、メンテナンスと注意事項）
第13回	グループ学習① 物理療法の操作と説明
第14回	グループ学習② 物理療法の操作と説明
第15回	物理療法実習のまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・ふざけた態度や礼を欠く態度を取る者は受講を拒否することがある。
- ・予習復習は必ず行うこと。
- ・授業概要を必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・授業の流れや雰囲気乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。
- ・寝ている者については、気づいた者が起こすなどして見て見ぬふりは絶対にしないこと。また、寝ている者がいる場合は授業の進行を一時止めたりすることもある。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式
 シャトルカード方式
 ICT利用（WEBフォームやメールなど）
 その他（ ）

■授業時間外学習にかかわる情報

授業計画の内容に関して、事前に該当の個所を予習してくること。

■オフィスアワー

火曜日 16 時 30 分～。

■評価方法

筆記試験（客観・論述）100%。※ただし、授業への参加姿勢、課題の遂行状況等を勘案し、総合的に評価することとする。

■教科書

松澤正・他：物理療法学 改訂第2版 金原出版株式会社

■参考書

シンプル理学療法学シリーズ 物理療法学テキスト 第2版 南江堂

科目名	義肢装具学	担当教員 (単位認定者)	小島 俊文	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻 2 年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「理学療法治療学」			
キーワード	義足、装具、歩行補助具				

■授業の目的・到達目標

<p>[授業の目的]</p> <p>車椅子や歩行補助具、義肢、装具の特徴を理解し、疾患や障害に合わせた車椅子や歩行補助具、義肢、装具を選択できるようになることを目的とする。</p> <p>[到達目標]</p> <p>①義肢・装具の種類と効果（作用）の説明ができる。 ②疾患や障害にあった義肢・装具の選択ができる。 ③歩行補助具の選択と調節ができる。</p>
--

■授業の概要

<p>臨床で使用されている車椅子、歩行補助具、義肢・装具を、理学療法との結び付きの中で学習し、これまで習った疾患や障害に照らし合わせながら車椅子、歩行補助具、義肢・装具の種類、適応、用法、禁忌、起こりやすいトラブルなどの基礎知識を身に付ける。義肢については、切断肢位、ソケットの構造、継手の種類・適応などを学ぶ。</p>
--

■授業計画

<p>※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。</p>	
第1回	科目オリエンテーション/歩行補助具について
第2回	歩行補助具、車椅子について
第3回	車椅子の採寸、チェックポイント
第4回	義肢装具の概念、切断部位と切断術について
第5回	切断の分類・原因、切断手段の概略、切断部位と切断術について
第6回	大腿義足ソケット（四辺形ソケットとIRCソケットの機能的役割）について
第7回	下腿義足ソケット（PTB、PTS、KBM、TSB式下腿義足）について
第8回	その他の義足について
第9回	義手について
第10回	装具学総論、短下肢装具①
第11回	短下肢装具②
第12回	長下肢装具①
第13回	長下肢装具②と靴型装具について
第14回	頸部体幹装具について
第15回	上肢装具について

■受講生に関わる情報および受講のルール

<p>[受講生に関わる情報]</p> <p>・整形外科学が基礎となるため履修内容に関連した範囲は必ず学習すること。積極的に車椅子や歩行補助具、義肢、装具などに触れること。</p> <p>[受講のルール]</p> <p>①シラバスを確認し予習復習を必ず行い積極的に臨むこと。 ②受講態度や身だしなみが整っていない場合受講を認めない。 ③授業の流れや雰囲気をも乱したり他の受講生の迷惑となる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。</p>

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

<input checked="" type="checkbox"/> コメントカード方式 <input type="checkbox"/> シャトルカード方式 <input type="checkbox"/> ICT 利用 (WEB フォームやメールなど) <input type="checkbox"/> その他 ()

■授業時間外学習にかかわる情報

<p>授業計画の内容に関して、事前に該当の箇所を予習しておくこと。</p>

■オフィスアワー

<p>火曜日 16 時 30 分～。</p>

■評価方法

<p>筆記試験 (客観・論述) 100%。 ※ただし、授業への参加姿勢、課題の遂行状況等を勘案し、総合的に評価することとする。</p>

■教科書

<p>日本整形外科学会・他監修：義肢装具のチェックポイント 医学書院</p>
--

■参考書

<p>義肢装具学テキスト 細田多穂 監 南江堂</p>

科目名	義肢装具学実習	担当教員 (単位認定者)	小島 俊文	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学療法専攻 3 年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「理学療法治療学」			
キーワード	義肢、装具、歩行補助具				

■授業の目的・到達目標

義肢、装具の特徴を理解し、疾患や障害に合わせた義肢、装具を選択できるようになることを目的とする。また、主な義足のアライメントの異常や下肢装具のチェックポイントを説明できることを目的とする。

- ①切断者に対する断端管理や義肢装着前訓練について述べるができる。
- ②下肢切断者の異常歩行について、その原因を述べるができる。
- ③SHBの製作工程と義肢装具士の役割について述べるができる。

■授業の概要

「義肢装具学」で学んだことを実際の義肢・装具などを扱いながら知識を深めることを目的とする。切断の断端管理、ソケットの構造や制作方法、懸垂方法、継手の種類・適応、フィッティングの確認方法、義足着用時の動作分析などを学習する。また、下肢装具の型どりを体験するとともに下肢装具のチェックポイントや歩行への影響を学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション/切断者の評価
第2回	断端管理法 義足装着前理学療法
第3回	早期義肢装着法と義足の適合
第4回	大腿義足のアライメントと異常歩行①
第5回	大腿義足のアライメントと異常歩行②
第6回	下腿義足のアライメントと異常歩行①
第7回	下腿義足のアライメントと異常歩行②
第8回	下肢装具のアライメントと異常歩行①
第9回	下肢装具のアライメントと異常歩行②
第10回	上肢装具・体幹装具・膝装具の実際
第11回	プラスチック装具の採型①(外部講師)
第12回	プラスチック装具の採型②(外部講師)
第13回	義肢製作所の見学①
第14回	義肢製作所の見学②
第15回	義肢装具実習のまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関わる情報]

- ・発表や実習、見学は出席が前提となるので、体調管理を怠らないこと。
- ・整形外科が基礎となるため履修内容に関連した範囲は必ず学習すること。積極的に義肢、装具などに触れること。

[受講のルール]

- ①シラバスを確認し予習復習を必ず行い積極的に臨むこと。
- ②受講態度や身だしなみが整っていない場合受講を認めない。
- ③授業の流れや雰囲気や迷惑を及ぼしたり他の受講生の迷惑となる行為(私語、携帯電話の使用)は厳禁。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(WEBフォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

授業計画の内容に関して、事前に該当の個所を予習してくること。

■オフィスアワー

火曜日 16 時 30 分～。

■評価方法

筆記試験(客観・論述) 100%。

※ただし、授業への参加姿勢、課題の遂行状況等を勘案し、総合的に評価することとする。

■教科書

義肢装具学テキスト 細田多穂 監 南江堂

■参考書

日本整形外科学会・他監修：義肢装具のチェックポイント 医学書院

科目名	理学療法技術論Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	新谷 益巳	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻 3 年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「理学療法治療学」			
キーワード	変形性関節症、靭帯損傷、骨性障害				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

臨床で担当する機会が多い運動器疾患であるが、その病態を理解した上で、評価からプログラムへと進める考え方が求められる。本講義は関節機能障害、関節外機能障害、関節内外複合障害について学び、EBMを元実際に治療について説明できることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①関節機能障害について説明できる。
- ②関節外機能障害について説明できる。
- ③関節内外複合障害について説明できる。
- ④整形外科疾患の評価および理学療法プログラムを設定することができる。

■授業の概要

「整形外科学」、「理学療法評価学」、「運動療法学」で学んだ知識を基に、各疾患に対しての治療方法について学ぶ。基礎的な内容に関しては、事前に復習しておく必要がある。授業は各疾患に対してどのような考えを基に治療（プログラムの立案）を進めるかについて学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション／運動器障害とは（運動器障害における基礎：炎症、再生、修復、癒着など）
第2回	変形性関節症 ①変形性脊椎症（頸部・腰部）
第3回	変形性関節症 ②変形性膝関節症（保存療法・手術療法）
第4回	変形性関節症 ③変形性股関節症（保存療法・手術療法）
第5回	関節構造に由来する障害 ①脱臼
第6回	関節構造に由来する障害 ②動揺関節、関節不安定性
第7回	骨性障害 ①骨折
第8回	骨性障害 ②大腿骨頸部骨折、転子部骨折（術前・術後）
第9回	骨性障害 ③大腿骨頸部骨折、転子部骨折（術後回復期）
第10回	骨性障害 ④上肢・下肢の骨折
第11回	骨性障害 ⑤脊椎の骨折
第12回	筋・軟部組織性障害 ①肩関節周囲炎・筋断裂・アキレス腱断裂
第13回	関節軟部組織性障害 ①前十字靭帯・後十字靭帯損傷
第14回	関節軟部組織性障害 ②膝内側側副靭帯、半月板および足関節外側側副靭帯損傷
第15回	複合障害 ①関節リウマチ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・授業計画を必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。
- ・寝ている者については、気づいた者が起こすなどして見て見ぬふりは絶対にしないこと。また、寝ている者がいる場合は授業の進行を一時止めたりすることもある。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式
 シャトルカード方式
 ICT利用（WEBフォームやメールなど）
 その他（ ）

■授業時間外学習にかかわる情報

ポートフォリオを用いて配布した資料をまとめる事。

■オフィスアワー

木曜日 16時30分～17時30分。

■評価方法

筆記試験 60%、ポートフォリオ 30%、小テスト 10%（2回）の総合評価にて判定するが、筆記試験が 60 点以上であることが前提となる。

■教科書

シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト 南江堂
PT臨床実習ルートマップ MEDICALVIEW

■参考書

授業内に随時紹介する。

科目名	理学療法技術論Ⅲ	担当教員 (単位認定者)	横山 雅人	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻 3 年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「理学療法治療学」			
キーワード	評価項目の抽出、統合と解釈、問題点抽出、プログラム立案、理学療法の実際、理学療法の記録				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

神経障害の理学療法の基本的な進め方を、脳血管障害・パーキンソン病など具体的な疾患を通して学び、実習ではそれらを実行できる能力を身につける。

〔到達目標〕

- ①実習で対応できるレベルのケースに即した理学療法を具体的に提示し、実行できる。
- ②ケースに応じたリスク管理について意見を述べ、実際に対応できる。
- ③実習に対応できるレベルのレポート、サマリーが作成できる。

■授業の概要

神経障害を呈する代表的疾患に対しての基本的な理学療法の進め方について学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	脳血管障害に対する理学療法①：脳損傷と回復 / 科目オリエンテーション
第2回	脳血管障害に対する理学療法②：Impairment / Activity Limitation 評価
第3回	脳血管障害に対する理学療法③：座位・立位
第4回	脳血管障害に対する理学療法④：歩行
第5回	脳血管障害に対する理学療法⑤：Pusher 現象と半側空間無視、注意障害
第6回	パーキンソン病の理解と理学療法①：基本的な考え方・評価
第7回	パーキンソン病の理解と理学療法②：理学療法の実際
第8回	運動失調症（脊髄小脳変性症・多系統萎縮症）の理解と理学療法
第9回	頭部外傷の理解と理学療法
第10回	多発性硬化症／筋萎縮性側索硬化症の理解と理学療法
第11回	筋ジストロフィー／多発性筋炎／重症筋無力症／ギラン・バレー症候群に対する理解と理学療法
第12回	脊髄損傷の理解と理学療法①：基本知識・基本的考え方・評価
第13回	脊髄損傷の理解と理学療法②：基本的考え方・評価
第14回	脊髄損傷の理解と理学療法③：理学療法の実際
第15回	その他の神経障害に対する理学療法：末梢神経損傷（腕神経叢損傷、絞扼性末梢神経損傷・褥瘡、排尿障害など）

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

授業概要・シラバスを毎回確認して受講に臨むこと。

〔受講ルール〕

- ・課題・予習・復習を怠らないこと。
- ・講義の流れや雰囲気を楽しんだり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、居眠り、許可した場面以外でのスマートフォン等の使用）は厳禁とする。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式
 シャトルカード方式
 ICT 利用（WEB フォームやメールなど）
 その他（ ）

■授業時間外学習にかかわる情報

難易度は高めであっても臨床では平均的に要求される内容であり、理解ができない部分は自己学習で十分に補うこと。課題等の出来栄が悪い場合は、個別に課題提示することがある。

■オフィスアワー

水曜日 16 時～17 時（その他の曜日については要予約）。

■評価方法

筆記試験 70%、授業進行に合わせた課題・小テスト等 30%の総合評価にて判定するが、筆記試験が 60 点以上であることが前提となる。

■教科書

石川朗・総編：理学療法テキスト 神経障害理学療法学Ⅰ，中山書店，2011	細田多穂・監修：中枢神経障害理学療法テキスト 第二版，南江堂，2014
市橋則明・編：運動療法学 障害別アプローチの理論と実際 第二版，文光堂，2015	石川朗・総編：理学療法・作業療法テキスト 臨床運動学，中山書店，2015
千野直一ら：脳卒中の機能評価 SIASとFIM，金原書店，2012	潮見泰蔵ら・編：リハビリテーション基礎評価学，羊土社，2014

■参考書

石井慎一郎：動作分析 臨床活用講座，メジカルビュー，2013	脳卒中理学療法の理論と技術 第2版，メジカルビュー，2013
石川齊ら・編：図解 理学療法技術ガイド，文光堂，2014	福井園彦ら・編：脳卒中最前線 第4版，医歯薬出版，2009
中島雅美ら：PT・OT 基礎から学ぶ 画像の読み方 第2版，医歯薬出版，2016	千田富義ら・編：脳卒中（リハ実践テクニック），メジカルビュー，2017
潮見泰蔵：編脳卒中に対する標準的理学療法介入 第2版，文光堂，2017	武田功・編：PTマニュアル 脊髄損傷の理学療法 第3版，医歯薬出版，2017

科目名	理学療法技術論実習Ⅲ	担当教員 (単位認定者)	横山 雅人	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学療法専攻 3 年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「理学療法治療学」			
キーワード	検査項目の抽出、統合と解釈、問題点抽出、プログラム立案、理学療法記録、ケースレポート、レジュメ				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

神経障害の理学療法の基本的な進め方を、脳血管障害・パーキンソン病など具体的な疾患を通して学び、実習ではそれらを実行できる能力を身につける。

〔到達目標〕

- ①実習で対応できるレベルのケースに即した理学療法を具体的に提示し、実行できる。
- ②ケースに応じたリスク管理について意見を述べ、実際に対応できる。
- ③実習に対応できるレベルのレポート、サマリーが作成できる。

■授業の概要

疾患概要、評価、治療と個々に学んだものを神経障害の観点から統合して、一連の理学療法プロセスを実践する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	脳血管障害の理学療法ケーススタディ①：リハビリテーションの流れ/科目オリエンテーション
第2回	脳血管障害の理学療法ケーススタディ②：情報収集・検査測定項目の選択・評価結果の解釈
第3回	脳血管障害の理学療法ケーススタディ③：統合と解釈
第4回	脳血管障害の理学療法ケーススタディ④：問題点抽出、ゴール設定
第5回	脳血管障害の理学療法ケーススタディ⑤：ケースに対する考察
第6回	脳血管障害の理学療法ケーススタディ⑥：歩行観察
第7回	脳血管障害の理学療法ケーススタディ⑦：歩行観察、歩行分析
第8回	脳血管障害の理学療法ケーススタディ⑧：歩行に対する理学療法の展開・装具療法
第9回	パーキンソン病の理学療法ケーススタディ：パーキンソン病に対する理学療法の考え方・評価・プログラム立案
第10回	ケーススタディ・グループ課題・口頭試問・実技課題①
第11回	ケーススタディ・グループ課題・口頭試問・実技課題②
第12回	ケーススタディ・グループ課題・口頭試問・実技課題③
第13回	ケーススタディ・グループ課題・口頭試問・実技課題④
第14回	ケーススタディ・グループ課題・口頭試問・実技課題⑤
第15回	ケーススタディ・グループ課題・口頭試問・実技課題⑥

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

高い思考力と実技能力が要求される。自力で思考展開ができ、かつ実践できるように学習を進めること。

〔受講ルール〕

他者に依存することで実習に対応できる能力が身に付かないので、主体的に関わること。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用（WEBフォームやメールなど）
 その他（ ）

■授業時間外学習にかかわる情報

口頭試問の難易度は実習で要求されるレベルを基準としている。時間外でも質問は随時受け付ける。

■オフィスアワー

水曜日 16時30分～17時30分。

■評価方法

筆記試験 60%、授業進行に合わせた口頭試問・課題・小テスト等 40%の総合評価にて判定するが、筆記試験が60点以上であることが前提となる。

■教科書

※これまで使用したすべてのテキスト（主に以下）

潮見泰蔵ら・編：リハビリテーション基礎評価学、羊土社、2014
千野直一ら：脳卒中の機能評価 SIASとFIM、金原書店、2012

柳澤健・編：PT臨床実習ルートマップ、メジカルビュー、2011

■参考書

石川朗・総編：理学療法テキスト 神経障害理学療法学Ⅰ、中山書店、2011
市橋則明・編：運動療法学 障害別アプローチの理論と実際 第二版、文光堂、2015
石井慎一郎：動作分析 臨床活用講座、メジカルビュー、2013
丸山仁司・編：評価から治療手技の選択、文光堂、2013
里宇明元・監修：リハビリテーション臨床実習、医歯薬出版、2015
相澤純也ら・編：PT症例レポート赤ペン添削、羊土社、2016
石川朗ら・編：臨床実習フィールドガイド 改訂第2版、南江堂、2014

細田多穂・監修：中枢神経障害理学療法テキスト 第二版、南江堂、2014
石川朗・総編：理学療法・作業療法テキスト 臨床運動学、中山書店、2015
嶋田智明・編：ケースで学ぶ理学療法臨床思考 シリーズ、文光堂、2009
中山恭秀・編：理学療法臨床評価プランニング、南江堂、2013
岡田慎一郎ら：理学療法臨床実習サポートブック、2015
椿原彰夫・編：PT・OT臨床実習で役立つリハビリテーション、2016

科目名	基礎理学療法学特論	担当教員 (単位認定者)	小島 俊文	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学療法専攻3年次自由科目	免許等指定科目			
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「理学療法治療学」			
キーワード	実習、介護保険事業所				

■授業の目的・到達目標

<p>〔授業の目的〕 理学療法士としての必要な知識と技能を身に付け、臨床的問題を見出し自ら解決する能力を身につける。</p> <p>〔到達目標〕 学習資料を自ら探し出し、事前準備をすることができる。 グループワークにおいて積極的な発言や、リーダーシップをとることができる。 制度や場所の違いにおける理学療法の役割について説明できる。</p>
--

■授業の概要

この科目では、基礎的医学・理学療法を整理し、臨床的問題を解決するために必要な基礎的知識と臨床技能を再確認する。特に介護保険分野における理学療法の役割について、事業所の見学やそこで担当しているPTから話をうかがい、理解を深めていく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。	
第1回	文献検索 介護保険事業所における理学療法の役割について文献を探し抄読を行う①
第2回	文献検索 介護保険事業所における理学療法の役割について文献を探し抄読を行う②
第3回	介護保険事業所(デイサービスセンター)での実習①
第4回	介護保険事業所(デイサービスセンター)での実習②
第5回	介護保険事業所(デイサービスセンター、居宅介護支援事業所)での実習①地域包括支援事業所見学
第6回	介護保険事業所(デイサービスセンター、居宅介護支援事業所)での実習②地域ケア会議見学
第7回	介護保険事業所(デイサービスセンター、居宅介護支援事業所)での実習③訪問理学療法見学
第8回	介護保険事業所(デイサービスセンター、居宅介護支援事業所)での実習④訪問理学療法見学

■受講生に関わる情報および受講のルール

<p>〔受講生に関わる情報〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の理解度を高めるためには、予習活動は必須である。決められた課題を必ず行ってくること。 ・グループにおける討議が重要となる。主体性を持って、自らグループを主導する気持ちで臨んでもらいたい。 <p>〔受講のルール〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療従事者として必要な態度や身だしなみを整えたうえで受講すること。準備不足の学生は授業を受けられないこともある。
--

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

<input checked="" type="checkbox"/> コメントカード方式 <input type="checkbox"/> シャトルカード方式 <input type="checkbox"/> ICT利用(ウェブフォームやメールなど) <input type="checkbox"/> その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

介護保険に関する基本的情報は復習しておくこと。

■オフィスアワー

火曜日 16時30分～。

■評価方法

ポートフォリオ 50%、口頭試問 50%。

■教科書

随時、参考資料を提供する。

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	中枢神経障害理学療法学特論	担当教員 (単位認定者)	横山 雅人	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	理学療法専攻 3 年次自由科目	免許等指定科目			
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「理学療法治療学」			
キーワード	脳卒中 パーキンソン病 理学療法 神経生理学的アプローチ				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

中枢神経障害についての特徴を学び、実際の現場を通してより具体的な理学療法テクニックについて経験する。

〔達成目標〕

- ①授業で提示した主要なキーワードを自分言葉で説明ができる。
- ②中枢神経障害の理学療法の役割について説明することができる。
- ③疾患の特徴や現象から、具体的な介入方法について説明することができる。

■授業の概要

主に脳卒中、パーキンソン病患者に対する理学療法の実際を学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	脳卒中、パーキンソン病を中心とした中枢神経障害に対する理学療法の実践テクニック・ディスカッション①
第3回	脳卒中、パーキンソン病を中心とした中枢神経障害に対する理学療法の実践テクニック・ディスカッション②
第4回	脳卒中、パーキンソン病を中心とした中枢神経障害に対する理学療法の実践テクニック・ディスカッション③
第5回	OSCE/病院・施設の見学
第6回	OSCE/病院・施設の見学
第7回	OSCE/病院・施設の見学
第8回	OSCE/病院・施設の見学

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔服装指定〕

指定のジャージ着用とします。(防寒対策は認めます)

〔学習方法〕

解剖・生理・運動学の知識、医学的知識、理学療法評価学、理学療法治療学の知識が獲得済みであることを前提とします。不十分な者は事前学習を個人で進めてください。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式
 シャトルカード方式
 ICT利用 (WEB フォームやメールなど)
- その他 ()

■授業時間外学習にかかわる情報

〔復習支援〕

技術を身につけるために復習とトレーニングを支援します。

■オフィスアワー

水曜日 16 時 30 分～ 17 時 30 分。

■評価方法

OSCE・実技課題 (40%)、レポート・ポートフォリオ (60%)。

■教科書

細田多穂・監修：中枢神経障害理学療法テキスト 第二版，南江堂，2014

市橋則明・編：運動療法学 障害別アプローチの理論と実際 第二版，文光堂，2015

■参考書

脳卒中理学療法の理論と技術 第2版，メジカルビュー，2013

福井園彦ら・編：脳卒中最前線 第4版，医歯薬出版，2009

千田富義ら・編：脳卒中(リハ実践テクニック)，メジカルビュー，2017

椿原彰夫・編：PT・OT臨床実習で役立つリハビリテーション，2016

丸山仁司・編：評価から治療手技の選択 中枢神経疾患編，文光堂，2013

里宇明元・監修：リハビリテーション臨床実習，医歯薬出版，2015

相澤純也ら・編：PT症例レポート赤ペン添削，羊土社，2016

石川朗ら・編：臨床実習フィールドガイド 改訂第2版，南江堂，2014

石川齊ら・編：図解 理学療法技術ガイド，文光堂，2014

中島雅美ら：PT・OT 基礎から学ぶ 画像の読み方 第2版，医歯薬出版，2016

潮見泰蔵：編脳卒中に対する標準的理学療法介入 第2版，文光堂，2017

嶋田智明・編：ケースで学ぶ理学療法臨床思考 シリーズ，文光堂，2009

中山恭秀・編：理学療法臨床評価プランニング，南江堂，2013

岡田慎一郎ら：理学療法臨床実習サポートブック，2015

椿原彰夫・編：PT・OT臨床実習で役立つリハビリテーション，2016

他：必要に応じて授業内に提示します。

科目名	内部障害理学療法学特論	担当教員 (単位認定者)	多田 菊代	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学療法専攻 3 年次自由科目	免許等指定科目			
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「理学療法治療学」			
キーワード	呼吸機能障害、循環機能障害、代謝性疾患、呼吸リハビリテーション、心大血管疾患理学療法診療ガイドライン				

■授業の目的・到達目標

<p>〔授業の目的〕 内部障害の定義が説明できると共に、内部障害に対する基本的理学療法の意義と内容を説明できる。</p> <p>〔到達目標〕</p> <p>①内部障害の定義が説明できる。 ②内部障害に対するフィジカルアセスメントについて説明できる。 ③内部障害に対するリスク管理について説明できる。 ④内部障害に対する一般的理学療法プログラムを説明できる。</p>
--

■授業の概要

運動療法学Ⅲ、理学療法技術論Ⅰで学んだ内部障害に対する理学療法の意義やフィジカルアセスメントを基盤とし、内部障害に対する理学療法評価・治療の実践的な方法を学ぶ。
--

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。	
第1回	演習1: 慢性疾患患者における炎症性サイトカイン増加が骨格筋に与える影響(文献を用いて)
第2回	演習2: 胸部X線写真の読影方法(理論)
第3回	演習3: 胸部X線写真の読影方法(実際)
第4回	演習4: 循環器・代謝性疾患に対する理学療法(理論)
第5回	演習5: 循環器・代謝性疾患に対する理学療法(実際)
第6回	演習6: 呼吸理学療法(評価)
第7回	演習7: 呼吸理学療法(実際)
第8回	演習8: 演習総括、ペーパーペイシエント

■受講生に関わる情報および受講のルール

<p>〔受講生に関わる情報〕 運動療法学Ⅲ・理学療法技術論Ⅰで学んだ内部障害に対する理学療法の知識を基盤とするため、それら科目の授業資料を本科目のポートフォリオに含め、活用する事。</p> <p>〔受講のルール〕</p> <p>①授業概要を確認し積極的に臨むこと。 ②受講態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めない。 ③授業の流れや雰囲気等を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(私語、スマートフォン等の使用)は厳禁。</p>

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

<input type="checkbox"/> コメントカード方式 <input checked="" type="checkbox"/> シャトルカード方式 <input type="checkbox"/> ICT利用(ウェブフォームやメールなど) <input type="checkbox"/> その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

<p>①講義終了後、シラバスで次回内容の確認をし、受講の準備計画を立てる(5分程度)。 ②前回講義内容の復習をし、要点をまとめておくこと(20分程度)。 ③次回内容のkey wordsを中心にわからないことを事前に調べておくこと(10分程度)。</p>
--

■オフィスアワー

水曜日 16時から17時は随時。それ以外は要予約。

■評価方法

ポートフォリオ 50%、レポート 50%。

■教科書

<p>①シンプル理学療法学シリーズ 内部障害理学療法学テキスト 改訂第3版: 南江堂 ②動画でわかる呼吸リハビリテーション 第4版: 中山書店</p>

■参考書

随時講義内に紹介する。

科目名	スポーツ理学療法特論	担当教員 (単位認定者)	新谷 益巳	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学療法専攻 3 年次自由科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「理学療法治療学」			
キーワード	スポーツ外傷、スポーツ障害、アライメント、リスク管理				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

スポーツ理学療法についての特徴を学び、実際の現場を通してより具体的なサポートについて経験する。

〔達成目標〕

- ①「スポーツ疾患とその特徴」について自分の言葉で説明ができる。
- ②スポーツ現場における理学療法の役割について説明ができる。
- ③スポーツ外傷と障害の違いについて明確に理解し、各疾患における対応方法について説明ができる。

■授業の概要

解剖学、運動学、評価学の学習を基に、スポーツ理学療法に必要な知識と技術を学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第 1 回授業にて配付します。

第 1 回	スポーツ障害の疫学と理学療法評価
第 2 回	スポーツ外傷発生時の対応と応急処置
第 3 回	スポーツ障害の理学療法プログラム
第 4 回	テーピングについて
第 5 回	足関節内反捻挫に対するテーピング①
第 6 回	足関節内反捻挫に対するテーピング②
第 7 回	動揺性膝関節に対するテーピング①
第 8 回	動揺性膝関節に対するテーピング②

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔服装指定〕

Tシャツ+ハーフパンツ 指定とします。(防寒対策は認めます)

〔学習方法〕

基礎を学びながら、実際に体験して学びます。

解剖学、運動学の知識を獲得済みであることを前提とします。不十分な者は事前学習を個人で進めてください。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式
 シャトルカード方式
 ICT 利用 (WEB フォームやメールなど)
- その他 ()

■授業時間外学習にかかわる情報

〔復習支援〕

技術を身につけるために復習とトレーニングを支援します。現場で必要とする技術などについては科目オリエンテーションで説明します。

■オフィスアワー

木曜日 16 時 30 分～ 17 時 30 分。

■評価方法

実技試験 (60%)、ポートフォリオ (40%)。

■教科書

授業内で適宜紹介する。

■参考書

スポーツ理学療法 浦辺幸夫 (著) 医歯薬出版株式会社

スポーツ外傷・障害に対する術後のリハビリテーション 園部俊晴 (著), 運動と医学の出版社

科目名	ヘルスプロモーション理学療法学特論	担当教員 (単位認定者)	村山 明彦	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	理学療法専攻 3 年次自由科目	免許等指定科目			
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「理学療法治療学」			
キーワード	ヘルスプロモーション、エビデンス、介護予防、国際生活機能分類				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

ヘルスプロモーションは「人々が自らの健康をコントロールし、改善することができるようにするプロセスである」と定義されている。この定義に準拠した理学療法を実践・実証していくための方法論を学ぶ。

〔到達目標〕

- ①ヘルスプロモーションの定義について述べることができる。
- ②健康増進法の概要について述べるができる。
- ③科学的根拠に基づく理学療法 (Evidence-based Physical Therapy : EBPT) の実践と実証について述べるができる。

■授業の概要

ヘルスプロモーション理学療法 (特に介護予防分野) におけるエビデンスの概要を理解し、さらにその実践活動について学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第 1 回授業にて配付します。

第 1 回	科目オリエンテーション、ヘルスプロモーションの定義、健康増進法の概要
第 2 回	ヘルスプロモーション理学療法における現状と課題①
第 3 回	ヘルスプロモーション理学療法における現状と課題②
第 4 回	地域におけるヘルスプロモーションの実際①
第 5 回	地域におけるヘルスプロモーションの実際②
第 6 回	地域におけるヘルスプロモーションの実際③
第 7 回	科学的根拠に基づく理学療法 (Evidence-based Physical Therapy : EBPT) ①
第 8 回	科学的根拠に基づく理学療法 (Evidence-based Physical Therapy : EBPT) ②

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ①予習・復習は必須である。
- ②授業で使用するスライド等の資料は、全て電子媒体にて事前に配布する。授業当日までにプリントアウトもしくは、電子媒体を閲覧できる環境 (PC・タブレット・スマートフォンなど) を整えておくこと。

〔受講のルール〕

- ①授業概要を確認し積極的に臨むこと。
- ②受講態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めない。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式
 シャトルカード方式
 ICT 利用 (WEB フォームやメールなど)
- その他 ()

■授業時間外学習にかかわる情報

授業内容を確認し、事前学習および復習を計画的に進めること。

■オフィスアワー

火曜日 16 時 30 分～17 時 30 分 (その他の曜日については要予約)。

■評価方法

レポート 100%。

■教科書

特になし。適宜紹介する。

■参考書

大淵修一, 浦辺幸夫 監修, 吉田剛, 井上和久 編: 予防理学療法学要論. 医歯薬出版

科目名	地域理学療法学Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	村山 明彦	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻 3 年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「地域理学療法学」			
キーワード	地域リハビリテーション、エビデンス、国際生活機能分類、地域包括ケアシステム				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

地域リハビリテーションの概念、社会背景、関連制度、施設についての知識を学ぶとともに、地域で生活する対象者を把握するうえで必要な知識を身につける。

〔到達目標〕

- ①地域理学療法の概要について説明できる。
- ②地域理学療法におけるキャリアラダーについて説明できる。
- ③地域理学療法の対象および関連制度について説明できる。

■授業の概要

地域リハビリテーションの思想を理解し、障害者や高齢者が社会の中で生活していくうえで地域が果たす役割が極めて大きいこと、その中で理学療法士に何ができるのかを考えながら自ら実践する基本を学ぶ。法学やリハビリテーション入門、理学療法概論が基礎となり、地域で生活する対象者を取り巻く制度・環境について理解を深める。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション 地域リハビリテーション総論
第2回	地域理学療法の概念
第3回	世界の動向とエビデンス
第4回	地域理学療法におけるキャリアラダー
第5回	医療保険制度 ～理学療法士に必要なポイント～
第6回	介護保険制度 ～理学療法士に必要なポイント～
第7回	介護保険制度下での地域理学療法
第8回	障害者総合支援法 ～理学療法士に必要なポイント～
第9回	バリアフリー新法 ～理学療法士に必要なポイント～
第10回	健康増進法 ～理学療法士に必要なポイント～
第11回	地域包括ケアシステム① ～理学療法士に必要なポイント～
第12回	地域包括ケアシステム② ～理学療法士に必要なポイント～
第13回	認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン） ～理学療法士に必要なポイント～
第14回	新しい総合事業 ～理学療法士に必要なポイント～
第15回	まとめ ～教養としての社会保障制度・「我が事・丸ごと」地域共生社会実現～

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ①予習・復習は必須である。
- ②授業で使用するスライド等の資料は、全て電子媒体にて事前に配布する。授業当日までにプリントアウトもしくは、電子媒体を閲覧できる環境（PC・タブレット・スマートフォンなど）を整えておくこと。

〔受講のルール〕

- ①授業概要を確認し積極的に臨むこと。
- ②受講態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めない。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT 利用（WEB フォームやメールなど）
 その他（ ）

■授業時間外学習にかかわる情報

授業内容を確認し、事前学習および復習を計画的に進めること。

■オフィスアワー

火曜日 16 時 30 分～17 時 30 分（その他の曜日については要予約）。

■評価方法

筆記試験（客観）60%、レポート40%。
総合評価は筆記試験が60%以上であることが前提となる。

■教科書

重森健太 編集：PT・OT ビジュアルテキスト 地域理学療法学. 羊土社

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	地域理学療法学Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	村山 明彦	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻 3 年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「地域理学療法学」			
キーワード	福祉住環境、生活環境支援理学療法、支援工学理学療法				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

地域リハビリテーションの対象となる各疾患の病態や症状について理解し、それぞれに適したADL指導、住環境整備が行えるようになる。また、理学療法士の役割や多職種との連携を学び、対象となる方の生活上の問題を挙げ、どのような支援が必要かを考える事を目的とする。

〔到達目標〕

- ①生活行為別に福祉住環境の整備について説明できる。
- ②生活環境支援理学療法について説明できる。
- ③支援工学理学療法について説明できる。

■授業の概要

地域リハビリテーションの思想を理解し、障害者や高齢者が社会の中で生活していくうえで地域が果たす役割が極めて大きいこと、その中でPTに何ができるのかを考えながら自ら実践する基本を学ぶ。地域リハビリテーションの対象となる各疾患の病態・症状について理解し、それぞれに適したADL指導・住宅環境について学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション、少子高齢社会の現状と課題	
第2回	ユニバーサル社会の実現の意義	小テスト①
第3回	日本の住環境の問題点	小テスト②
第4回	障害のとらえ方	小テスト③
第5回	高齢者の健康と自立	小テスト④
第6回	バリアフリーとユニバーサルデザイン	小テスト⑤
第7回	高齢者向けの住宅施策の変遷と概要	小テスト⑥
第8回	福祉住環境整備とケアマネジメント	小テスト⑦
第9回	生活行為別にみた安全・安心・快適な住まい	小テスト⑧
第10回	生活行為別にみた福祉用具の活用	小テスト⑨
第11回	疾患別にみた福祉住環境整備	小テスト⑩
第12回	障害別にみた福祉住環境整備	小テスト⑪
第13回	福祉住環境整備の共通基本技術	小テスト⑫
第14回	福祉住環境整備の実際 一事例検討ー	グループでの発表①
第15回	福祉住環境整備の実際 一事例検討ー	グループでの発表②

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ①予習・復習は必須である。
- ②授業で使用するスライド等の資料は、全て電子媒体にて事前に配布する。授業当日までにプリントアウトもしくは、電子媒体を閲覧できる環境(PC・タブレット・スマートフォンなど)を整えておくこと。

〔受講のルール〕

- ①授業概要を確認し積極的に臨むこと。
- ②受講態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めない。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式
 シャトルカード方式
 ICT利用(WEBフォームやメールなど)
- その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

初回オリエンテーション時に詳細を伝える。
予習や課題の実施を前提に講義を進める。

■オフィスアワー

火曜日 16時30分～17時30分(その他の曜日については要予約)。

■評価方法

小テスト60%、レポート40%。

■教科書

東京商工会議所編：福祉住環境コーディネーター検定試験[®]2級公式テキスト<改訂4版>

■参考書

東京商工会議所編：福祉住環境コーディネーター検定試験[®]3級公式テキスト<改訂4版>

科目名	地域理学療法学実習	担当教員 (単位認定者)	柴 ひとみ	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻 3 年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「地域理学療法学」			
キーワード	総合支援法、介護保険、地域包括ケアシステム、地域サービス、介護予防、体験学習				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

自立を援助する介助方法を身に付け、体験学習が円滑に実施できるようにする。地域リハビリテーションの対象者について面談から理学療法評価の一連の流れが安全・効率的に実践できる。また、地域サービスや自立支援施設等における体験学習を通し、理学療法士の役割や多職種との連携を学び、対象となる方の生活上の問題を考える事を目的とする。

〔到達目標〕

- ①基本的な介助方法（起居動作から移乗動作まで）の説明と実施ができる。
- ②体験学習を通して理学療法の対象者の生活について説明ができる。
- ③情報収集や動作観察から対象者の全体像を考えることができる。
- ④多職種の役割を理解したうえで、連携の必要性を説明できる。

■授業の概要

地域リハビリテーションの思想を理解し、障害者や高齢者が社会の中で生活していくうえで地域が果たす役割が極めて大きいこと、その中でPTに何ができるのかを考えながら自ら実践する基本を学ぶ。また、体験学習を通して理学療法士の役割・連携する多職種の役割について学び、地域で生活する対象者の生活を捉える。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション 生活期における理学療法 ADLに着目して
第2回	介助方法① 起居動作
第3回	介助方法② 立ちあがり
第4回	介助方法③ 移乗動作（全介助）
第5回	介助方法④ 移乗動作（部分介助）
第6回	体験学習① 準備 疾患の理解
第7回	体験学習② 準備 情報の整理
第8回	介助方法のまとめ 一起居動作から移乗動作まで
第9回	体験学習③
第10回	体験学習④
第11回	多職種との連携 看護師
第12回	多職種との連携 作業療法士
第13回	多職種との連携 言語聴覚士
第14回	多職種との連携 社会福祉士
第15回	多職種との連携 介護福祉士

第16回	行政で働く理学療法士
第17回	体験学習オリエンテーション
第18回	体験学習 「水浴りハビリの実際」
第19回	体験学習 「水浴りハビリの実際」
第20回	体験学習 「地域サービスの実際①」
第21回	体験学習 「地域サービスの実際①」
第22回	体験学習 「地域サービスの実際①」
第23回	体験学習 「地域サービスの実際①」
第24回	訪問リハビリテーションの実際（外部講師）
第25回	体験学習 「地域サービスの実際②」
第26回	体験学習 「地域サービスの実際②」
第27回	体験学習 「地域サービスの実際②」
第28回	体験学習 「地域サービスの実際②」
第29回	体験学習 発表①
第30回	体験学習 発表②

■受講生に関わる情報および受講のルール

体験学習は出席を前提とするため休まず予習（実技を含む）を行った上で臨むこと。
体験学習の実習記録は、翌日の9時までに提出すること。
内容が類似した実習記録やレポートは受け付けないため、自己の努力により作成すること。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用（WEBフォームやメールなど）
 その他（ ）

■授業時間外学習にかかわる情報

授業内容を確認し、事前学習および復習を計画的に進めること。

■オフィスアワー

木曜日 16時～17時、その他の曜日については要予約。

■評価方法

実技試験 40%、体験学習シート 30%、発表 30%。

■教科書

柴喜崇 編集：PTOT ビジュアルテキスト ADL 第1版 羊土社

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	地域理学療法学特論	担当教員 (単位認定者)	柴 ひとみ	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学療法専攻 3 年次自由科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る 必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「地域理学療法学」			
キーワード	介護保険、介護予防、ADL、住環境、体験学習				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

地域リハビリテーションの中の介護予防分野において、健康寿命を延伸するためにPTとして行えることは何かを考え、実践できる力を身に付ける。また、小規模多機能や訪問リハビリなどの地域サービスの実践を学び、地域における理学療法士の役割や他職種との連携を学ぶ。そして、地域包括ケアシステムの仕組みについて理解することを目的とする。

〔到達目標〕

- ①健康寿命について説明できる。
- ②健康寿命を延伸する目的で、PTとして行うべきことを実践できる。
- ③小規模多機能について説明できる。
- ④訪問リハビリの目的について説明できる。
- ⑤地域包括ケアシステムのしくみを理解し、その目的について説明ができる。

■授業の概要

地域で生活する高齢者、障害者の視点に立ち、安全・安心に暮らせるような住環境の整備や活動性の維持・向上を図るために必要な戦略を学ぶ。介護保険分野や介護予防分野におけるPTの役割を明確にする。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション、介護予防分野における理学療法とは
第2回	介護予防分野における理学療法－準備－
第3回	介護予防分野における理学療法－実践－
第4回	介護予防分野における理学療法－発表・振り返り－
第5回	介護保険分野における理学療法－小規模多機能、訪問リハビリ、地域包括ケアシステムとは－
第6回	介護保険分野における理学療法－小規模多機能、訪問リハビリ、地域包括ケアシステムの実践－
第7回	介護保険分野における理学療法－小規模多機能、訪問リハビリ、地域包括ケアシステムの実践－
第8回	介護保険分野における理学療法－まとめ－

■受講生に関わる情報および受講のルール

事前に授業計画を確認し、積極的に授業に参加すること。他の学生の迷惑となるような行為(私語・携帯電話の使用など)は厳禁。体験学習は出席を前提とするため休まず予習を行った上で臨むこと。体験学習の実習記録は、翌日の9時までに提出すること。内容が類似した実習記録は受け付けないため、自己の努力により作成すること。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(WEBフォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

前回の復習をして授業に臨むこと。
 体験学習にあたっては、事前に準備(情報収集や実技練習)をすること。

■オフィスアワー

木曜日 16時～17時は随時(変更時は掲示する)。その他の曜日については要予約。

■評価方法

ポートフォリオ 100%。

■教科書

授業内で適宜紹介する。

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	臨床実習指導Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	小島・柴・多田 新谷・横山・村山	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻 3 年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「臨床実習」			
キーワード	知識 技能 態度 OSCE				

■授業の目的・到達目標

<p>〔授業の目的〕 臨床技能の実践を中心に、理学療法士として必要な「知識」「技能」「態度」を確実に身につけることが目的である。</p> <p>〔到達目標〕 ①「感染予防」「医療面接」「リスク管理」「検査測定」について、決められた時間内に安全かつ正確に実施することができる。 ②実習後、レジュメを作成し、発表することができる。 ③評価に関わる検査測定技術を身に付ける事ができる。</p>

■授業の概要

<p>近年、理学療法臨床実習においてクリニカルクラークシップ形式の実習スタイルが推奨されている。そのような中、実習に臨む学生には、患者に理学療法介入を行うための「知識」「技能」「態度」が求められる。臨床実習指導Ⅰでは実際の臨床技能の習得に着目して、実習前後の達成度を測るためにOSCEを実施し、確実に臨床技能が習得できるように取り組んでいく。</p>

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。	
第1回	科目オリエンテーション/臨床実習の手引き
第2回	臨床技能を高めるために①
第3回	臨床技能を高めるために②
第4回	臨床技能を高めるために③
第5回	臨床技能を高めるために④
第6回	臨床技能を高めるために⑤/OSCEオリエンテーション
第7回	評価実習の進めかた①
第8回	評価実習の進めかた②
第9回	評価実習の進めかた③/個人情報保護
第10回	評価実習における提出物について
第11回	症例に関する情報収集について
第12回	症例の問題点の把握
第13回	症例の全体像の把握
第14回	OSCEの実施
第15回	OSCEの振り返り
第16回	評価実習に向けた目標設定

第 17 回	レジュメ発表①
第 18 回	レジュメ発表②
第 19 回	レジュメ発表③
第 20 回	レジュメ発表④
第 21 回	レジュメ発表⑤
第 22 回	レジュメ発表⑥
第 23 回	レジュメ発表⑦
第 24 回	レジュメ発表⑧
第 25 回	レジュメ発表⑨
第 26 回	ケースの振り返り
第 27 回	臨床実習に向けた目標設定
第 28 回	OSCEの実施
第 29 回	OSCEの実施
第 30 回	OSCEの振り返り

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関わる情報]

- ・実技を行うときはケーシーを着用し、医療福祉従事者としての身だしなみを整えること。

[受講のルール]

- ・医療従事者として必要な態度や身だしなみを整えたうえで受講すること。準備不足の学生は授業を受けられないこともある。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT 利用 (WEB フォームやメールなど)
 その他 ()

■授業時間外学習にかかわる情報

臨床技能は、度重なる練習を経て身につくものである。授業内で数回実施すれば身につくものではない。授業時間外での学習が必須となるので、PT、患者、評価者役を作り練習を重ねてもらいたい。また、ケース発表では事前に資料を熟読し、臨むこと。

■オフィスアワー

担当教員のオフィスアワーに準ずる。

■評価方法

レジュメ発表 50%、OSCE 50%。

■教科書

理学療法臨床実習サポートブック 医学書院

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	臨床実習指導Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	小島・柴・多田 新谷・横山・村山	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻 4 年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「臨床実習」			
キーワード	評価プロセス、面接技法、検査技法、観察技法、統合と解釈、問題点の抽出、理学療法プログラム				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

理学療法評価からプログラム実施までの基本的な進め方を学び、実際の場面で実施できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①臨床で必要とされる「知識」「技能」「態度」を身に付け、実践することができる。
- ②実習後、レジュメを作成し、発表することができる。

■授業の概要

これまで学んできたことを整理し、臨床総合実習に向けた準備とする。実習後は担当した症例について整理し、レジュメを作成した後に発表・報告会を行い、理学療法の評価から効果判定に対する理解を深めることを目的とする。また、実際の臨床技能の習得に着目して、OSCEを実施し、確実に臨床技能が習得できるように取り組んでいく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション/臨床実習の手引き
第2回	臨床実習の進めかた
第3回	臨床実習の進めかた/個人情報保護
第4回	臨床実習における提出物について①
第5回	臨床実習における提出物について②
第6回	レジュメ発表①
第7回	レジュメ発表②
第8回	レジュメ発表③
第9回	レジュメ発表④
第10回	レジュメ発表⑤
第11回	レジュメ発表⑥
第12回	レジュメ発表⑦
第13回	レジュメ発表⑧
第14回	レジュメ発表⑨
第15回	ケースの振り返り
第16回	目標設定

第 17 回	レジュメ発表⑩
第 18 回	レジュメ発表⑪
第 19 回	レジュメ発表⑫
第 20 回	レジュメ発表⑬
第 21 回	レジュメ発表⑭
第 22 回	レジュメ発表⑮
第 23 回	レジュメ発表⑯
第 24 回	レジュメ発表⑰
第 25 回	ケースの振り返り
第 26 回	目標設定
第 27 回	OSCEの準備
第 28 回	OSCEの実施
第 29 回	OSCEの実施
第 30 回	OSCEの振り返り

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・4年次総合臨床実習対象者が、受講の条件となる。
- ・実技を行うときはケーシー着用を着用し、医療福祉従事者としての身だしなみを整えること。

〔受講のルール〕

- ・医療従事者として必要な態度や身だしなみを整えたうえで受講すること。準備不足の学生は授業を受けられないこともある。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT 利用 (WEB フォームやメールなど)
 その他 ()

■授業時間外学習にかかわる情報

臨床実習の手引きを熟読すること。臨床技能を高めるために、積極的に授業時間外において実技練習を重ねること。また、ケース発表では事前に資料を熟読し、臨むこと。

■オフィスアワー

各担当教員のオフィスアワーに準ずる。

■評価方法

レジュメ発表 50%、OSCE 50%。

■教科書

授業内で適宜紹介する。

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	評価実習	担当教員 (単位認定者)	小島・柴・多田 新谷・横山・村山	単位数 (時間数)	4 (180)
履修要件	理学療法専攻 3 年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る 必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「臨床実習」			
キーワード	評価プロセス、面接技法、検査技法、観察技法、統合と解釈、問題点の抽出				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

臨床の場で各対象者に応じた評価項目を選択、実施し、得られた結果をもとに問題点の抽出を行えるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①理学療法士を目指す上で必要な基本的態度を身につける。
- ②臨床実習施設職員並びに対象者と良好な関係を築くことができる。
- ③理学療法の位置づけや役割を説明することができる。
- ④関連職種の仕事について説明することができる。
- ⑤各対象者に応じた評価項目を選択し、実施することができる。
- ⑥評価結果をもとに問題点の抽出、ゴールの設定を行うことができる。
- ⑦実習内容を記録し、書面や口頭で実習指導者に報告することができる。

■実習履修資格者

3 年次評価実習開始までに 1 年～ 3 年後期までに開講されるすべての科目（選択科目は選択の範囲において）の単位修得が必要となる。

■実習時期及び実習日数・時間

臨床評価実習を医療機関または介護老人保健施設において 4 週間実施する。これまで学んできた知識・技術を臨床の現場で、臨床実習指導者のもとで実施する。病院・老健という大きな組織の中で理学療法士の位置付け、他部門・他職種とのやり取り、患者様との交流などを学んでいく。クリニカルクラークシップのもとにリハビリテーション業務に実際に関わりながら、その実態を学んでいく。臨床実習指導者から紹介された患者様にインタビュー、評価を実施する。その際は患者様の背景、疾患の知識、初期情報とそこから評価の戦略、結果の統合と解釈、問題点抽出といった思考過程を、指導者の監視とアドバイスをもとに進めていく。

■実習上の注意

- ・医療従事者として必要な態度や身だしなみを整えたうえで実習に臨むこと。
- ・時間の厳守と、報告・相談・連絡を怠らないこと。
- ・体調管理に留意し、実習に対して積極的に行動すること。

臨床実習の手引きを熟読すること。

■評価方法

出席（出席時間数要件：4/5 以上）。

臨床実習評価の結果 60%、デイリーノート・ケースレポート 20%、実習に関する態度等 20%。

科目名	総合臨床実習Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	小島・柴・多田 新谷・横山・村山	単位数 (時間数)	8 (360)
履修要件	理学療法専攻 4 年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「臨床実習」			
キーワード	評価プロセス、面接技法、検査技法、観察技法、統合と解釈、問題点の抽出、理学療法プログラム				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

臨床の場で各対象者に応じた評価を実施し、得られた結果をもとに問題点の抽出、プログラムの実施、効果判定を行えるようになることを目的とする。

- ①各対象者に応じた評価項目を選択し、実施することができる。
- ②評価結果をもとに問題点の抽出、ゴールの設定、理学療法プログラムの立案を行うことができる。
- ③理学療法再評価を実施し、理学療法の効果判定を考察することができる。
- ④実習内容を記録し、書面や口頭で実習指導者に報告することができる。

■実習履修資格者

1年～3年次までに開講されるすべての科目（選択科目は選択の範囲において）の単位修得が必要となる。

■実習時期及び実習日数・時間

総合臨床実習を医療機関または介護老人保健施設において8週間実施する。これまで学んできた知識・技術を臨床の現場で、臨床実習指導者のもとで実施する。病院・老健という大きな組織の中で理学療法士の位置付け、他部門・他職種とのやり取り、患者様との交流などを学んでいく。臨床実習指導者から紹介された患者様にインタビュー、評価、プログラムを実施する。その際は患者様の背景、疾患の知識、初期情報とそこからの評価の戦略、結果の統合と解釈、問題点抽出、ゴールの設定、プログラム立案・実施といった思考過程を、指導者の監視とアドバイスをもとに進めていく。

■実習上の注意

- ・医療従事者として必要な態度や身だしなみを整えううえで実習に臨むこと。
- ・時間の厳守と、報告・相談・連絡を怠らないこと。
- ・体調管理に留意し、実習に対して積極的に行動すること。

臨床実習の手引きを熟読すること。

■評価方法

出席（出席時間数要件：4/5以上）。

臨床実習評価の結果 60%、デイリーノート・ケースレポート 20%、実習に関する態度等 20%。

科目名	総合臨床実習Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	小島・柴・多田 新谷・横山・村山	単位数 (時間数)	8 (360)
履修要件	理学療法専攻 4 年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「臨床実習」			
キーワード	評価プロセス、面接技法、検査技法、観察技法、統合と解釈、問題点の抽出、理学療法プログラム				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

臨床の場で各対象者に応じた評価を実施し、得られた結果をもとに問題点の抽出、プログラムの実施、効果判定を行えるようになることを目的とする。

- ①各対象者に応じた評価項目を選択し、実施することができる。
- ②評価結果をもとに問題点の抽出、ゴールの設定、理学療法プログラムの立案を行うことができる。
- ③理学療法再評価を実施し、理学療法の効果判定を考察することができる。
- ④実習内容を記録し、書面や口頭で実習指導者に報告することができる。

■実習履修資格者

1 年～3 年次までに開講されるすべての科目（選択科目は選択の範囲において）の単位修得が必要となる。

■実習時期及び実習日数・時間

総合臨床実習を医療機関または介護老人保健施設において 8 週間実施する。これまで学んできた知識・技術を臨床の現場で、臨床実習指導者のもとで実施する。病院・老健という大きな組織の中で理学療法士の位置付け、他部門・他職種とのやり取り、患者様との交流などを学んでいく。臨床実習指導者から紹介された患者様にインタビュー、評価、プログラムを実施する。その際は患者様の背景、疾患の知識、初期情報とそこからの評価の戦略、結果の統合と解釈、問題点抽出、ゴールの設定、プログラム立案・実施といった思考過程を、指導者の監視とアドバイスをもとに進めていく。

■実習上の注意

- ・医療従事者として必要な態度や身だしなみを整えううえで実習に臨むこと。
- ・時間の厳守と、報告・相談・連絡を怠らないこと。
- ・体調管理に留意し、実習に対して積極的に行動すること。

臨床実習の手引きを熟読すること。

■評価方法

出席（出席時間数要件：4/5 以上）。

臨床実習評価の結果 60%、デイリーノート・ケースレポート 20%、実習に関する態度等 20%。

科目名	卒業研究	担当教員 (単位認定者)	小島・柴・多田 新谷・横山・村山	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	理学療法専攻 4 年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「卒業研究」			
キーワード					

■授業の目的・到達目標

本講義では 4 年間の講義や実習で学んだ知識の集大成として、1 年間をかけ自ら研究を計画・実践し、論文の作成・発表を行う。また臨床実習で体験した症例などから観察された症状や障害について様々なデータを収集し、その特徴を明らかにし、治療モデルを見つけ出すことができる。

■授業の概要

研究テーマを見つけ、調査・資料収集を行いながら、担当教員の指導を受けながら計画的に研究を進める、その手順について学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第 1 回授業にて配付します。

第 1 回	科目オリエンテーション
第 2 回	研究計画の立案①
第 3 回	研究計画の立案②
第 4 回	調査（調査及び資料の収集）①
第 5 回	調査（調査及び資料の収集）②
第 6 回	研究計画書作成①
第 7 回	研究計画書作成②
第 8 回	倫理的配慮について（倫理審査書類の作成）
第 9 回	研究活動の実践とまとめ①
第 10 回	研究活動の実践とまとめ②
第 11 回	研究活動の実践とまとめ③
第 12 回	卒業研究発表①
第 13 回	卒業研究発表②
第 14 回	卒業研究発表③
第 15 回	卒業研究発表④

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・授業中の居眠りや、他の学生に迷惑となるような行為は厳に慎むこと。たび重なる注意を与えても改善が見られない場合は、退室してもらう場合がある。
- ・この科目は、自ら行動を起こすことを求められる。各担当教員と綿密に連絡を取り合い、計画的に研究を進めること。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT 利用（WEB フォームやメールなど）
 その他（随時対応）

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

担当教員と連絡を取り合いながら、個別に設定すること。

■評価方法

提出論文、取り組み、発表状況を総合的に勘案する。目安として研究論文（50%）及び研究発表（50%）。

■教科書

授業内で適宜紹介する。

■参考書

授業内で適宜紹介する。

作業療法専攻

科目名	作業療法入門	担当教員 (単位認定者)	牛込 祐樹	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	作業療法専攻 1 年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「基礎作業療法学」			
キーワード	作業療法、作業、作業療法過程、病院見学				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

作業療法を学ぶにあたり、知っておかなければならない基礎知識を自ら調べ、簡潔に説明できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①作業療法がどのような専門職か説明することができる。
- ②作業療法の歴史、原理、理論、対象、領域、病期、圏域について説明することができる。
- ③作業療法過程について述べるができる。
- ④基本的な発表方法を身につける。
- ⑤レポートをまとめることができる。

■授業の概要

本科目は、すべての作業療法専門科目の基礎に位置づけられる。本科目は、専門性の核となる「作業 (occupation)」の定義や範疇を正しく理解し、「作業療法とはどのような専門職か」を学ぶ。前半は、教科書に沿って、作業療法の定義や歴史、原理・理論、対象、領域、病期、作業療法過程、教育について体系的に学習する。後半は、病院見学を通して基本的な作業療法実践を説明できるように取り組む。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第 1 回授業にて配付します。

第 1 回	科目オリエンテーション／作業療法とは／作業療法士の養成課程について
第 2 回	作業療法の歴史／職能組織・専門職組織
第 3 回	作業療法過程
第 4 回	病院見学指導／課題発表の準備
第 5 回	課題発表「作業療法を説明しよう」
第 6 回	病院見学
第 7 回	病院見学
第 8 回	作業療法の現状と課題／まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・発表や見学は出席が前提となるので、体調管理をしっかりすること。

〔受講のルール〕

- ・シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。
- ・授業資料の再発行はしない。授業を休んだ場合は、クラスメートからコピーを取ること。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式
 シャトルカード方式
 ICT 利用 (WEB フォームやメールなど)
- その他 ()

■授業時間外学習にかかわる情報

グループによる発表を行うため、時間外での情報収集や資料作成などの準備に積極的にかかわること。
学習内容については科目オリエンテーションにて説明する。

■オフィスアワー

〔牛込〕月・木曜日 16 時～17 時 30 分は随時（変更時は掲示する）。その他の曜日においては要予約。

■評価方法

- 筆記試験 60%
 発表 20%
 レポート 20%

■教科書

- ①杉原素子編：作業療法学全書 改訂第 3 版 第 1 巻 作業療法概論。協同医書出版
- ②大野義一朗：感染対策マニュアル第 2 版。医学書院

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	作業療法入門実習	担当教員 (単位認定者)	山口 智晴	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	作業療法専攻 2 年次必修科目 作業療法入門、リハビリテーション医学の知識を必要とする。	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「基礎作業療法学」			
キーワード	作業療法実践過程、コミュニケーション、医療従事者				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕 作業療法入門で学んだ作業療法士として必要な知識や技能について、実際の現場を通してそれらを学ぶ。
〔到達目標〕 ①作業療法士に必要な職業人・医療職としての基本的態度を実践することができる。 ②見学を通して作業療法に興味を持ち、その実践過程を見学してることができる。 ③実際の臨床現場の見学を通じ、作業療法の実践過程、業務内容、対象の特性などをまとめて報告することができる。

■授業の概要

作業療法士が働いている医療機関（身体機能障害領域を中心とした病院）での 3 日間の見学を通して、作業療法の実践過程や作業療法士の業務内容、作業療法士の対象者などについて学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第 1 回授業にて配付します。	
第 1 回	事前オリエンテーション、リスク管理（感染予防管理、情報管理など）
第 2 回	事前オリエンテーション、リスク管理（転倒、コミュニケーション、バイタル確認など）
第 3 回	学生は県内の各病院施設へ配置される。3 日間の見学実習。
第 4 回	学生は県内の各病院施設へ配置される。3 日間の見学実習。
第 5 回	学生は県内の各病院施設へ配置される。3 日間の見学実習。
第 6 回	学生は県内の各病院施設へ配置される。3 日間の見学実習。
第 7 回	学生は県内の各病院施設へ配置される。3 日間の見学実習。
第 8 回	学生は県内の各病院施設へ配置される。3 日間の見学実習。
第 9 回	学生は県内の各病院施設へ配置される。3 日間の見学実習。
第 10 回	学生は県内の各病院施設へ配置される。3 日間の見学実習。
第 11 回	学生は県内の各病院施設へ配置される。3 日間の見学実習。
第 12 回	学生は県内の各病院施設へ配置される。3 日間の見学実習。
第 13 回	学生は県内の各病院施設へ配置される。3 日間の見学実習。
第 14 回	学生は県内の各病院施設へ配置される。3 日間の見学実習。
第 15 回	実習のまとめ・発表

■受講生に関わる情報および受講のルール

見学先の病院や日時については、決定次第連絡する。OTSとしての立場をよく理解し、それにふさわしい身だしなみや態度で参加すること。実習に不適切な身だしなみや態度で望む場合は、その場で実習を取りやめさせるため、十分注意すること。
--

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

<input type="checkbox"/> コメントカード方式 <input type="checkbox"/> シャトルカード方式 <input type="checkbox"/> ICT 利用（WEB フォームやメールなど） <input checked="" type="checkbox"/> その他（振り返りシート、実習経験表、実習成績表）

■授業時間外学習にかかわる情報

実習前にオリエンテーションを行う。実習の手引きをよく確認しておくこと。見学前に、見学先の病院について十分に事前学習を行うておくこと。また、実習中は日々の見学内容のまとめなども行う。
--

■オフィスアワー

水曜日 16 時 30 分～ 17 時 30 分は随時。その他、実習期間の前後は随時受け付け。

■評価方法

課題レポート 50%、実習への参加態度・発表 20%、振り返りシート 30%。

■教科書

大野義一郎監修：感染対策マニュアル第 2 版。医学書院

■参考書

京極真・鈴木憲雄（編著）：作業療法士・理学療法士臨床実習ガイドブック、誠信書房。 市川和子（編）：標準作業療法学-専門分野、作業療法臨床実習とケーススタディ、医学書院。 実習の手引きと配付資料
--

科目名	作業療法管理論	担当教員 (単位認定者)	古田 常人	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	作業療法専攻 4 年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る 必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「基礎作業療法学」			
キーワード	組織、医療倫理、倫理的ジレンマ、診療報酬				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

医療従事者としての管理運営の基本的な考え方、組織の在り方、組織の目的などの基本を身につける。

[到達目標]

- ・日本作業療法士協会の定める倫理綱領を学び、遵守することができる。
- ・医療分野における作業療法部門の管理運営方法の基本を説明できる。
- ・作業療法士の役割と地域貢献の必要性について説明できる。
- ・職業人として必要な倫理、責任について説明できる。

■授業の概要

多くの作業療法士は、その役割を果たすために他の専門職とともに一つの部門として組織に所属する。組織を形成する一員としての基本的な考え方を学び、作業療法士として地域貢献する意味について理解する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第 1 回授業にて配付します。

第 1 回	科目オリエンテーション／管理・運営総論
第 2 回	職業倫理および作業療法関連法規 / 職能団体としての活動
第 3 回	医療倫理 / 倫理的ジレンマ①
第 4 回	医療倫理 / 倫理的ジレンマ②
第 5 回	作業療法部門の開設、人事管理、備品・物品管理、安全管理 / 診療報酬、介護報酬制度の概要、総合支援事業など
第 6 回	デイサービスなど地域支援の起業、病院における作業療法部門開設など検討①
第 7 回	デイサービスなど地域支援の起業、病院における作業療法部門開設など検討②
第 8 回	発表

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講のルール]

- ・シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・医療専門職及び対人サービス職として、出席時間の厳守と対象者が好感を持てる態度を身につけることは基本である。そのため態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めないことがあるので注意すること。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT 利用（WEB フォームやメールなど）
 その他（ ）

■授業時間外学習にかかわる情報

社会の中で、求められる作業療法士像は、刻々と変化してきている。その為、新聞やニュースなどの情報に常に目を光らせ、社会における医療・福祉の問題に興味、疑問を持ってほしい。

■オフィスアワー

月曜日 16 時～ 17 時 30 分は随時（変更時は掲示する）。その他の曜日においては要予約。

■評価方法

レポート 60%、発表 40%。

■教科書

随時資料を配布する。

■参考書

杉原素子編：作業療法学全書 改訂第 3 版 第 1 巻 作業療法概論 協同医書出版
 亀田メディカルセンター：リハビリテーションリスク管理ハンドブック改訂第 2 版。メジカルビュー社
 里村恵子編集：作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 作業療法概論 改訂第 2 版 メジカルビュー社 2015

科目名	ひとと作業	担当教員 (単位認定者)	高坂 駿	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	作業療法専攻 1 年次必修科目 作業療法入門・運動学の知識が必要となる。	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る 必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「基礎作業療法学」			
キーワード	作業(生活行為) 作業活動 作業分析 適応 段階づけ				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

作業療法の基礎となる「作業」の意味の理解とそれを治療的に用いるための基本的な理論と実践方法を学ぶ。

〔到達目標〕

- ①ひとの生活を構成する「作業」について理解・説明することができる。
- ②作業・作業活動の治療的意味を理解・説明することができる。
- ③作業分析の概要を理解・説明することができる。
- ④適応・段階づけの方法を理解・説明することができる。

■授業の概要

「作業」に対する作業療法の基本的視点と理論、作業分析について学ぶ。また、実際に体験した作業活動を分析することを体験しながら学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第 1 回授業にて配付します。

第 1 回	オリエンテーション/生活の中の作業
第 2 回	作業の主観的意味
第 3 回	作業の文脈
第 4 回	作業による成長と回復：レポート提出
第 5 回	作業療法の視点
第 6 回	作業分析とは
第 7 回	作業分析について体験する・考える(マクラメ体験)
第 8 回	学んだことの振り返り：分析シート提出

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・作業療法の基礎となる授業のため、予習復習をしっかりすること。
- ・授業で作成する作品の材料費は各々の負担となる。
- ・成績評価に関する詳細はシラバスを参照すること。

〔受講のルール〕

- ・授業の構成は全ての出席を前提とするため休まないこと。
- ・グループ学習や課題作成があるため、積極的に参加すること。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式
 シャトルカード方式
 ICT 利用 (WEB フォームやメールなど)
- その他 ()

■授業時間外学習にかかわる情報

シラバスの内容を基に教科書や配布資料で予習復習すること。分からない箇所はそのままにせず、次回の授業で解決するよう質問や自分で調べたことなどをまとめておく。

■オフィスアワー

月曜日 16 時 30 分～17 時 30 分は随時 (変更時は掲示する)。その他の曜日においては要予約。

■評価方法

- 筆記試験 60% (再試験あり。) 60 点未満の場合、総合評価の対象としない。
- 授業内提出課題 20% (作品、分析シート)。
- レポート 20% (再提出あり。期限内に提出されないものは総合評価に含めない。)

■教科書

吉川ひろみ：「作業」って何だろう、第 2 版。医歯薬出版株式会社，2017

■参考書

- ①中村隆一他：基礎運動学，第 6 版。医歯薬出版，2003。
- ②山根寛 (著)：ひとと作業・作業活動，新版。三輪書店，2017。

科目名	ひとと作業活動I	担当教員 (単位認定者)	宮寺 亮輔	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	作業療法専攻1年次必修科目 ひとと作業、運動学の知識が必要となる。	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る 必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「基礎作業療法学」			
キーワード	作業活動 作業分析 適応 段階づけ				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

各種作業を通じて使用物品や作業の特性、作業療法への適応について学び、実践する。

〔到達目標〕

- ①各具体的作業活動についてその工程や使用する道具の正式名称、使用方法などを説明することができる。
- ②基本的な作業分析の視点を理解・説明することができる。
- ③各作業活動について、作品の自由度や段階づけについて説明することができる。

■授業の概要

作業療法入門やひとと作業で学んだ治療手段としての作業・作業活動の意味を実際の作業体験を通して学ぶ。実際に各自で作業活動を体験し、それぞれの作業活動を分析していくことで理解を深める。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション／革細工
第2回	革細工
第3回	革細工
第4回	革細工
第5回	革細工
第6回	革細工
第7回	作業特性を分析する
第8回	作業特性を分析する
第9回	織物
第10回	織物
第11回	織物
第12回	織物
第13回	作業特性を分析する
第14回	調理計画
第15回	調理活動
第16回	調理活動：レポート
第17回	エコクラフト

科目名	ひとと作業活動Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	宮寺 亮輔	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	作業療法専攻2年次必修科目 ひとと作業・運動学の知識が必要となる。	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る 必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「基礎作業療法学」			
キーワード	作業分析 適応 段階づけ 集団活動				

■授業の目的・到達目標

<p>〔授業の目的〕 各種作業を通じて使用物品や作業の特性、作業療法への適応について学び、実践する。</p> <p>〔到達目標〕</p> <p>①能動的作業が持つ治療効果について、まとめ説明することができる。 ②作業活動の工程や使用する道具の名称、使用方法などを説明することができる。 ③作品の自由度や段階づけについて説明することができる。 ④各作業活動における治療的適応について理解し、説明することができる。 ⑤治療的観点から作業計画の立案および振り返りを行うことができる。</p>
--

■授業の概要

<p>ひとと作業活動Ⅱに引き続き、作業療法の治療的手段となる基礎的な作業・作業活動について学習する。 実際に作業・作業活動を体験し、作業工程や作業の持つ特性について理解を深める。</p>
--

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。	
第1回	科目オリエンテーション／文献抄読
第2回	文献抄読
第3回	文献抄読：レポート
第4回	木工
第5回	木工
第6回	木工
第7回	木工
第8回	木工
第9回	木工
第10回	作業特性を分析する
第11回	陶芸
第12回	陶芸
第13回	陶芸
第14回	陶芸
第15回	陶芸
第16回	作業特性を分析する
第17回	木版画

第 18 回	木版画
第 19 回	木版画
第 20 回	木版画
第 21 回	木版画
第 22 回	作業特性を分析する
第 23 回	個別作業予定表作り
第 24 回	個別作業予定表作り
第 25 回	個別作業
第 26 回	個別作業
第 27 回	個別作業
第 28 回	個別作業
第 29 回	計画の振り返り
第 30 回	学んだことの振り返り

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関わる情報]

- ・各種作業における作業工程や特性、治療的適応等について予習復習しておく。
- ・授業で作成する作品の材料費は各々の負担となる。
- ・成績評価に関する詳細はシラバスを参照にすること。

[受講のルール]

- ・授業の構成は全ての出席を前提とするため休まないこと。
- ・グループ学習や課題作成があるため、積極的に参加すること。
- ・木工陶芸室を使用し、使用後は掃除・道具の整理・管理を必ず行うこと。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式
 シャトルカード方式
 ICT 利用 (WEB フォームやメールなど)
- その他 ()

■授業時間外学習にかかわる情報

シラバスの内容を基に教科書や配布資料で予習復習をすること。分からない箇所はそのままにせず、次回の授業で解決するように質問や自分で調べたことなどをまとめておく。

■オフィスアワー

月・火曜日の 9 ～ 12 時は随時 (変更時は掲示する)。その他の曜日については要予約。

■評価方法

筆記試験 (論述・客観) 60%、包括的作業分析チェックリスト 20%、レポート 20%、総合評価は筆記試験が 60%以上であることが前提。

■教科書

古川宏：つくる・あそぶを治療にいかす 作業活動実習マニュアル。医歯薬出版株式会社，2012

■参考書

- ①中村隆一，他：基礎運動学 第 6 版。医歯薬出版，2003
- ②山根寛 (著)：ひとと作業・作業活動 第 2 版。三輪書店，2006

科目名	作業療法セミナーⅠ	担当教員 (単位認定者)	山口智晴 (悴田敦子・牛込祐樹・宮寺亮輔)	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	作業療法専攻 3 年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「基礎作業療法学」			
キーワード	文献講読、ディスカッション、発表、ポートフォリオ				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

作業療法に関する文献を基に、ディスカッションを重ね理解を深めるとともに、卒業研究における研究テーマ立案のヒントとなることを目的とする。

〔到達目標〕

- ・論文を読むことができるようになる。
- ・自分の意見を論理立てて発言できるようになる。
- ・他人の意見を受け入れ自分の考えを再構築できるようになる。

■授業の概要

A～Dの4班に分かれ、各教員の指導の下で、各自が選んだ文献を読み深めてまとめる。それらをプレゼンテーションすると共に、教員のファシリテーションの基に、そこからディスカッション(問いと応答)を行う。最後に、班ごとにディスカッションで得られた考え・発見を言語化し発表するとともに、作業療法の学問における研究や文献の位置づけについて理解を深める。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	文献検索の方法について、学術論文の分類について
第3回	文献の抄読について
第4回	目標の確認1 (悴田A班/牛込B班/宮寺C班/山口D班)
第5回	ワーク1-① (悴田A班/牛込B班/宮寺C班/山口D班)
第6回	ワーク1-② (悴田A班/牛込B班/宮寺C班/山口D班)
第7回	ワーク1-③ (悴田A班/牛込B班/宮寺C班/山口D班)
第8回	ワーク1-④ (悴田A班/牛込B班/宮寺C班/山口D班)
第9回	目標の確認2 (悴田A班/牛込B班/宮寺C班/山口D班)
第10回	ワーク2-① (悴田A班/牛込B班/宮寺C班/山口D班)
第11回	ワーク2-② (悴田A班/牛込B班/宮寺C班/山口D班)
第12回	ワーク2-③ (悴田A班/牛込B班/宮寺C班/山口D班)
第13回	ワーク2-④ (悴田A班/牛込B班/宮寺C班/山口D班)
第14回	発表
第15回	科目のまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

教室指定をするので確認しておくこと。資料を整理するためのA4クリアファイル(厚めの物)を用意しておくこと。

〔受講のルール〕

間違っている、正しくなくても発言すること。他者の発言を糾弾し否定ことは許されない。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(ウェブフォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

ディスカッションには十分な準備が必要である。そのため、必ず配布された文献を読み、関連する資料を集めておくこと。それらはすべてポートフォリオに収める。

■オフィスアワー

水曜日の16時30分～17時30分。

■評価方法

各ワークへの取り組み50%、発表30%、ポートフォリオの作成20%。

■教科書

竹田徳則, 大浦智子(編): 作業療法研究法, 医歯薬出版株式会社, 2017.

■参考書

鎌倉矩子ほか 著『作業療法士のための研究法入門』 三輪書店 第1版

科目名	作業療法セミナーⅡ	担当教員 (単位認定者)	古田 常人・高坂 駿	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	作業療法専攻 4 年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「基礎作業療法学」			
キーワード	事例検討、評価計画、全体像、作業療法治療、PBL				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

事例を通して、根拠に基づく、作業療法実践プロセスを理解する。

〔到達目標〕

- 1) 限られた情報・観察から対象者の基本能力・応用的能力を把握し、対象者に必要な絞った評価計画を立案できる。
- 2) 対象者の全体像を構造的に理解できる。
- 3) 対象者に必要な作業療法目標を設定し、具体的な作業療法計画を立案できる。

■授業の概要

さまざまな領域・病期・生活をもった複数の対象者に対し、作業療法過程を模擬体験し、実践能力を高められる。特に、スクリーニングからの絞った評価、作業療法評価から得られる全体像の把握、作業療法計画立案を繰り返し体験し、作業療法の流れを考えられる力を身につける。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	オリエンテーション
第2回	事例A①評価計画立案
第3回	事例A②全体像、目標設定
第4回	事例A③治療計画
第5回	事例B①評価計画立案
第6回	事例B②全体像、目標設定
第7回	事例B③治療計画
第8回	発表(事例A、B)
第9回	事例C①評価計画立案
第10回	事例C②全体像、目標設定
第11回	事例C③治療計画
第12回	事例D①評価計画立案
第13回	事例D②全体像、目標設定
第14回	事例D③治療計画
第15回	発表(事例C、D)

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

教室指定をするので確認しておくこと。

〔受講のルール〕

間違っている、正しくなくても発言すること。他者の発言を糾弾し否定することは許されない。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(WEBフォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

間違っている、正しくなくても発言すること。他者の発言を糾弾し否定することは許されない。

ディスカッションには十分な準備が必要である。そのため、関連する資料を集めておくこと。

■オフィスアワー

〔高坂〕金曜日 16 時 30 分～17 時 30 分。その他の曜日においては要予約。

〔古田〕月曜日 16 時～17 時 30 分は随時(変更時は掲示する)。その他の曜日においては要予約。

■評価方法

■レポート 50% ■発表 50%

■教科書

なし。随時資料を配布する。

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	作業療法評価法Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	牛込 祐樹・古田 常人	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻 2 年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法評価学」			
キーワード	作業療法評価、観察、検査、測定、妥当性、信頼性				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

作業療法の実践にあたって、対象者の利点・問題点・ニーズを探るために行われる作業療法評価の概要を理解し、身体機能の評価について各検査項目の意義と目的・基礎知識・方法を学び、実践できる技能を身につけることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①作業療法過程における評価の意義と目的、位置づけを理解し、評価の時期や手段、記録の管理を理解することができる。
- ②評価の妥当性・信頼性について説明することができる。
- ③身体機能の評価について検査項目とその意義と目的を挙げることができる。
- ④各検査項目の基礎的な知識と方法について説明することができる。
- ⑤各検査項目を自己学習により正確に行う事ができる。

■授業の概要

作業療法の実践には、対象者が生活を送るために必要な課題や目標を見出すことが必要となる。その過程が作業療法評価である。本科目では、生活の基盤となる身体機能の評価について各検査項目の意義と目的・基礎知識・方法を学び、実践できる技能を修得する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション／評価概論
第2回	意識の評価／バイタルサインの測定／形態計測／反射検査
第3回	関節可動域測定①：関節可動域測定について
第4回	関節可動域測定②：グループ学習
第5回	関節可動域測定③：グループ学習
第6回	関節可動域測定④：グループ学習
第7回	筋力検査①：徒手筋力検査（MMT）について
第8回	筋力検査②：グループ学習
第9回	筋力検査③：グループ学習
第10回	筋力検査④：グループ学習
第11回	筋力検査⑤：グループ学習
第12回	知覚検査①：知覚検査について／簡易知覚検査
第13回	知覚検査②：識別知覚検査／識別能検査
第14回	筋緊張検査
第15回	バランス機能検査／リーチ機能検査／まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

実技を行うので、Tシャツ・ハーフパンツ・学校ジャージを用意しておくこと。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式
 シャトルカード方式
 ICT利用（WEBフォームやメールなど）
 その他（ ）

■授業時間外学習にかかわる情報

測定、検査の実技テストがあるので各自実技練習を実施しておくこと。

■オフィスアワー

〔牛込〕月・木曜日 16 時～17 時 30 分は随時（変更時は掲示する）。その他の曜日においては要予約。
〔古田〕月曜日 16 時～17 時 30 分は随時（変更時は掲示する）。その他の曜日においては要予約。

■評価方法

- 筆記試験 60% 関節可動域測定 実技テスト 20%
 徒手筋力検査（MMT） 実技テスト 20%

■教科書

- ①標準理学療法学・作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第2版、医学書院、2011
- ②新・徒手筋力検査法 原著第9版、協同医書出版社、2014

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	作業療法評価法Ⅲ	担当教員 (単位認定者)	山口 智晴	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻 3 年次必修科目 神経内科学、作業療法評価法Ⅰ・Ⅱの知識を必要とする。	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る 必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法評価学」			
キーワード	認知機能検査、高次脳機能障害、認知症				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

認知機能障害のある人に対する作業療法評価の様々な手法について、概要を学ぶとともに実際に評価方法を体験しながら実施方法を学び、評価の基本的な実施方法を習得する。

〔到達目標〕

- ①高次脳機能障害の代表的な各症候に対する評価について理解を深めることができる。
- ②認知機能障害を有する患者の臨床的特徴を理解し、適切な評価方法を説明できる。
- ③認知症について、原因となる代表的な疾患ごとの特徴やその評価について理解することができる。

■授業の概要

高次脳機能障害や前頭側頭葉変性症などの進行性神経変性疾患による認知症など、認知機能低下に対する専門的な評価手法を学ぶ。また、認知機能低下に伴う生活障害を評価する際に重要な視点なども学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	注意障害に対する評価
第3回	Unilateral Spacial Neglectのアセスメント
第4回	Agnosiaに対するアセスメント
第5回	Aphasiaに対するアセスメント
第6回	Aplasia、Gerstmann Syndromeに対するアセスメント
第7回	Memoryに対するアセスメント
第8回	executive functionに対するアセスメント
第9回	Social Behavior Disorders /Anosognosiaに対するアセスメント
第10回	Wechsler Adult Inteliigence Scale-III
第11回	認知症の評価
第12回	Alzheimer's diseaseの臨床像の特徴
第13回	DLB、FTLD、iNPHの評価
第14回	認知症の人の地域生活を支えるために必要なアセスメント
第15回	本科目のまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

ふざけた態度や礼を欠く態度を取る者は受講を拒否することがある。
授業に関係ないもの、携帯電話やスマートフォンは机に出さない。
講義で配布した資料は基本的に再配布等を行わない。欠席した者はクラスメートからコピーをとらせてもらうこと。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT 利用 (WEB フォームやメールなど)
 その他 ()

■授業時間外学習にかかわる情報

各科目において予習を前提としている。ポートフォリオは各単元の予習と復習を含む。

■オフィスアワー

水曜日 16 時～17 時 30 分 (木曜日以外であれば必要に応じて随時対応する。応相談)。

■評価方法

期末筆記試験 50%、各講義の予習と復習のまとめ課題の提出 50%。

■教科書

日本作業療法士協会監修/ 淵雅子編集：作業療法学全書、作業治療学 5、高次脳機能障害 第3版
小川敬之ほか編：認知症の作業療法～ソーシャルインクルージョンをめざして～ 第2版

■参考書

鈴木孝治 (編)：高次脳機能障害領域の作業療法～プログラム立案のポイント～、中央法規

科目名	作業療法評価法特論Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	宮寺 亮輔・古田 常人 牛込 祐樹	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻 3 年次選択科目 リハビリテーション入門、作業療法評価法Ⅰ・Ⅱの知識を必要とする。	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る 必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法評価学」			
キーワード	作業療法評価、評価計画、事例、ICF				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕 作業療法評価の過程を理解し、対象者理解に必要な情報を入手・整理できるようにする。
〔到達目標〕 ①作業療法依頼・相談内容から必要な情報を読み取ることができる。 ②情報収集の必要性を理解し、計画・実施できる。 ③対象者や対象者の関係者との面接が計画・実施できる。 ④対象者理解に必要な観察および検査測定のための説明ができ、計画・実施環境の手配ができる。 ⑤入手した情報を統合し、対象者の全体像が理解できる。 ⑥資料収集に際し、記録物の整理・管理ができる。

■授業の概要

作業療法評価の実施から対象者の全体像理解に至るまでのプロセスを模擬的に経験するために、事例検討に必要な情報が入手できるように働きかけながら学習する主体的学習方法（アクティブラーニング）を用いる。課題提示からグループにて実施方法を検討し、適宜、グループ毎に指導・助言を行う。またクラス全体での発表を通じて、全体的指導を行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。	
第1回	コースオリエンテーション／第1事例（作業療法依頼内容）の提示
第2回	対象者理解のための手立てを検討・実施
第3回	対象者理解のための手立てを検討・実施
第4回	対象者理解のための手立てを検討・実施
第5回	対象者理解のための手立てを検討・実施
第6回	対象者の全体像を作成
第7回	対象者の全体像を発表／フィードバック
第8回	第2事例の提示：対象者理解のための手立てを検討・実施
第9回	対象者理解のための手立てを検討・実施
第10回	対象者理解のための手立てを検討・実施
第11回	対象者理解のための手立てを検討・実施
第12回	対象者理解のための手立てを検討・実施
第13回	対象者の全体像を作成
第14回	対象者の全体像を発表／フィードバックおよび総括
第15回	口頭試問

■受講生に関わる情報および受講のルール

ふざけた態度や礼を欠く態度を取る者は受講を拒否することがある。 授業に関係ないもの、携帯電話やスマートフォン（調べ学習以外の用途）は机に出さない。 講義で配布した資料は基本的に再配布等を行わない。欠席した者はクラスメートからコピーをとらせてもらうこと。
--

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

<input type="checkbox"/> コメントカード方式	<input checked="" type="checkbox"/> シャトルカード方式	<input type="checkbox"/> ICT利用（WEBフォームやメールなど）
<input type="checkbox"/> その他（ ）		

■授業時間外学習にかかわる情報

グループ内での役割分担を遂行できるよう、各自学習が必要となる。対象者理解のために必要な情報、知識は、これまでに学んだことの復習だけでなく、新たな知識、学内で教わっていない部分も多々あるので、自ら積極的な学習が求められる。
--

■オフィスアワー

月・火曜日の9～12時は随時（変更時は掲示する）。その他の曜日については要予約。
--

■評価方法

定期試験（50％）、レポート・口頭試問（30％）、取組態度（20％）により総合的に評価する。
--

■教科書

なし。随時必要資料を配布する。

■参考書

随時紹介する。

科目名	作業療法評価法特論Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	悴田 敦子	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻 3 年次選択科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る 必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法評価学」			
キーワード	動作分析、ケーススタディ、記録				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

対象者の映像をもとに、動作観察、動作分析を行い、問題点を抽出し、記録できるようになることを目的とする。記録に関しては、専門用語を正しく使用し、自らが言いたいことを簡潔に表現できるようになることを目指す。

〔到達目標〕

- ①作業療法の過程を説明することができる。
- ②評価に必要な情報を列挙し、収集方法をあげることができる。
- ③動作観察から動作手順、動作の特徴を専門用語を使用し記録することができる。
- ④ICFを用いて対象者の問題点・利点を列挙し、目標を設定、プログラム立案を指定した形式のレポートにまとめることができる。

■授業の概要

ケーススタディを通して、作業療法評価の流れを確認し、評価項目の選択、評価計画の立案、問題点の抽出、作業療法目標の設定、作業療法プログラムの立案までを学びます。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第 1 回授業にて配付します。

第 1 回	科目オリエンテーション、作業療法評価の流れについて
第 2 回	記録について
第 3 回	ケーススタディー：動作分析のポイント
第 4 回	ケーススタディー：動作分析
第 5 回	ケーススタディー：記録、動作分析
第 6 回	ケーススタディー：動作分析
第 7 回	ケーススタディー：記録、動作分析
第 8 回	ケーススタディー：動作分析、評価計画
第 9 回	ケーススタディー：評価計画立案、情報収集、面接
第 10 回	ケーススタディー：情報収集、身体機能面評価
第 11 回	ケーススタディー：記録、情報収集、身体機能面評価、動作分析
第 12 回	ケーススタディー：情報収集、身体機能面評価、動作分析
第 13 回	ケーススタディー：動作分析、情報収集、評価
第 14 回	レポート・レジュメについて
第 15 回	ケース発表

■受講生に関わる情報および受講のルール

ケーススタディーでは各自ケースノートを作成し、授業終了後にまとめること。
問題点抽出はICFを使用するため、復習しておくこと。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式
 シャトルカード方式
 ICT 利用 (WEB フォームやメールなど)

■授業時間外学習にかかわる情報

動作分析、ケーススタディーを行った際は、次回授業までにデイリーノートまたはケースノートの形式でまとめる。

■オフィスアワー

月曜日 16 時 10 分～ 17 時 30 分。

■評価方法

ケースレポートまたはレジュメ 100%

■教科書

- 1) 岩崎テル子他編：標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学. 第 2 版. 医学書院
- 2) 山口昇・玉垣努編：標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学. 医学書院
- 3) 障害者福祉研究会編：ICF 国際生活機能分類, 国際障害分類改定版, 中央法規

■参考書

隈元庸夫：症例動作分析 動画から学ぶ姿勢と動作. ヒューマン・プレス, 2017

科目名	身体機能作業療法学Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	古田 常人	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻 2 年次必修科目 (運動学、解剖学、生理学、リハビリテーション医学、 神経内科学の知識を必要とする。)	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る 必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法治療学」			
キーワード	脳血管疾患、片麻痺、痙縮、連合反応、共同運動				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕 作業療法士として必要な、脳血管疾患・頭部外傷に対する基本的な知識や技術について学ぶ。
〔到達目標〕 ①脳血管疾患・頭部外傷に伴って生じる様々な臨床症状の知識を習得できる。 ②脳血管疾患の対象者に対する作業療法の基本的な流れを理解できる。 ③脳血管疾患と頭部外傷の違いを説明することができる。

■授業の概要

本科目では、複雑な運動障害、感覚障害、認知障害などの症状を呈する“脳血管疾患”に対する評価や治療方法を中心に、実技も交えながら学習する。また、基本的な作業療法評価から治療計画までの“流れ”と“考え方”についても学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。	
第1回	科目オリエンテーション。学ぶべき事項の確認、学習課題の抽出。脳血管障害について、基本事項の復習。
第2回	脳血管障害の各病期における作業療法の流れについて学ぶ
第3回	共同運動と連合反応について学ぶ
第4回	中枢性運動麻痺の回復過程や、予後について学ぶとともに、片麻痺機能や回復段階を評価する方法を学ぶ
第5回	中枢神経障害による運動麻痺の回復(前回の続き) 不随意運動、運動失調について
第6回	不随意運動、失調について、Br.Stageテストの小テスト
第7回	具体的介入法・急性期：リスク管理やポジショニングなど
第8回	具体的介入法・亜急性期～回復期：神経筋促進法や最新の機器を用いたリハビリテーションなどについて、特徴と適応について調べる
第9回	具体的介入法・回復期：上位運動ニューロン障害に対するアプローチについて調べたことを発表する
第10回	具体的介入法・回復期：麻痺の回復段階に応じた作業活動、手指の基本的機能と書字訓練
第11回	具体的介入法・回復期：麻痺の回復段階に応じた作業活動、ADLに配慮したアプローチ
第12回	脳血管障害の各病期におけるOTの役割
第13回	外傷性脳損傷における作業療法
第14回	外傷性脳損傷の続き、OTの流れ(脳血管障害のモデルケースを通して学ぶ)
第15回	病期/重症度/ライフステージなど様々な要素に配慮した治療計画の立案について。 本科目のまとめ。

■受講生に関わる情報および受講のルール

OTとしてふさわしい授業態度で参加すること。
実技も含まれるため、実技の含まれる講義では学校指定ジャージなどを用意しておくこと。
授業概要を確認し、積極的に授業に臨むこと。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(WEBフォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

初回の科目オリエンテーションにて詳細を説明する。15回の講義で効率的に学習を進めるため、事前学習を前提としている。また、実技に関しては授業外の時間に各自で練習をしておくこと。途中で小テストの実施も予定している。

■オフィスアワー

水曜日 16時30分～17時30分は随時。その他の曜日においては要予約。

■評価方法

■筆記試験(口論述 ■客観) ■レポート □口頭試験 □実地試験 ■その他
評価配分：筆記試験60%、授業内提出課題・小テスト40%。

■教科書

山口昇/玉垣努編『標準作業療法学 身体機能作業療法学』 医学書院 (第3版)

■参考書

菅原洋子編『作業療法全書 作業療法治療学1 身体障害』 協同医書出版社
千田富義編『リハ実践テクニック 脳卒中』 メジカルビュー社
Ortrud Eggers 著『エガース・片麻痺の作業療法』 協同医書出版

科目名	身体機能作業療法学Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	山口 智晴	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻2年次必修科目 運動学Ⅰ/Ⅱ、解剖学Ⅰ/Ⅱ、生理学Ⅰ/Ⅱ、 リハビリテーション医学、整形外科学の知識を必要とする。	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る 必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目における「作業療法治療学」			
キーワード	骨関節疾患、骨折、ROM、筋力増強練習、クリニカルパス、内部障害				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕 作業療法士として必要な、整形外科疾患や内部障害に対する基本的な知識や作業療法の流れについて学ぶ。 〔到達目標〕 ①整形外科疾患や内部障害に伴って生じる臨床症状や、生活上の支障についての知識を習得できる。 ②治療に使用する物理療法の基本についての知識を習得できる。 ③関節可動域練習や筋力増強練習などの基本的な手技について、知識と実技を身につけることができる。
--

■授業の概要

本講義では身体機能に対する作業療法を実施するために必要な知識・技術を学習する。特に、整形外科的疾患の中でも、比較的経験することの多い骨関節疾患を中心として、評価や治療計画立案、実際の介入方法について実技も交えながら理論を学習する。また、内部障害の作業療法の基本的な流れも学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。	
第1回	科目オリエンテーション／骨折に対するリハの流れと、OTの役割について学び／クリニカルパス
第2回	関節可動域訓練の治療原理
第3回	関節可動域練習の実際、筋力増強訓練の治療原理
第4回	筋力増強練習の治療原理とその実際（物理療法レポート事前提出）
第5回	物理療法について①（ホットパック、パラフィン浴、過流浴、極超短波治療器、超音波治療器など）
第6回	物理療法について②（ホットパック、パラフィン浴、過流浴、極超短波治療器、超音波治療器など）
第7回	治療① 上腕骨折や下肢骨折者、THA後の介入の実際
第8回	治療② 熱傷や関節リウマチ
第9回	治療③ 熱傷や関節リウマチ、SEL、多発性筋炎など
第10回	治療④ 内部障害のある人へのアプローチ（呼吸器・循環器）
第11回	治療⑤ 内部障害のある人へのアプローチ（代謝異常とターミナル）
第12回	末梢神経損傷に対する作業療法①
第13回	末梢神経損傷に対する作業療法② 学習確認小テスト
第14回	肩関節周囲炎、腰痛、変形性関節症
第15回	身体機能に対する作業療法を実践するための基本的な手技などのまとめをする。

■受講生に関わる情報および受講のルール

OTSとしてふさわしい授業態度で参加すること。
実技も含まれるため、実技の含まれる講義では学校指定ジャージなどを用意しておくこと。
授業概要を確認し、積極的に授業に臨むこと。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式
 シャトルカード方式
 ICT利用（WEBフォームやメールなど）
 その他（ ）

■授業時間外学習にかかわる情報

初回の科目オリエンテーションにて詳細を説明する。15回の講義で効率的に学習を進めるため、事前学習を前提としている。また、実技に関しては授業外の時間に各自で練習をしておくこと。
そのほかに、課題レポートと小テストがあるため、準備を進めること。

■オフィスアワー

水曜日 16時30分～17時30分は随時。その他の曜日においては要予約。

■評価方法

■筆記試験（口論述 ■客観）、■その他
評価配分：筆記試験 70%、授業内提出課題・小テスト 30%。

■教科書

山口昇／玉垣努編『標準作業療法学 身体機能作業療法学』 医学書院（第3版）

■参考書

菅原洋子編『作業療法全書 作業療法治療学1 身体障害』 協同医書出版社
長崎重信編『作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 身体障害作業療法学』 メジカルビュー社（第2版）

科目名	精神機能作業療法学Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	高坂 駿・遠藤 真史	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻 2 年次必修科目 主に臨床心理学、精神医学の知識が必要となる。	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る 必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目における「作業療法治療学」			
キーワード	モラトリートメント リカバリー 作業療法評価 障害者総合支援法 地域移行・定着				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

精神障害リハビリテーションおよび作業療法の基本的な考え方や評価・治療・支援・フィードバックに関する基礎的な知識について理解・説明できることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①精神医療の歴史・精神保健医療福祉の流れと作業療法の関係について理解・説明することができる。
- ②精神科領域における作業活動の手段・目的としての活用について理解・説明できる。
- ③精神科領域における作業療法評価(情報収集・観察・面接・集団・検査)やプログラム作成の原則について理解・説明することができる。
- ④精神科作業療法における治療・援助の構造や治療理論の基礎について理解・説明することができる。
- ⑤精神疾患の病期や領域に応じた作業療法の関わりを理解・説明することができる。
- ⑥地域移行・定着支援の概要について理解・説明することができる。

■授業の概要

精神領域におけるリハビリテーションおよび作業療法についての基本的な視点、実際の作業療法評価や治療の原則など、対象者の治療に必要な基礎知識に関して学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション/こころの病と精神科
第2回	精神障害リハビリテーション及び作業療法の歴史と現状：レポート提出
第3回	精神保健/関連法規
第4回	対象理解と評価
第5回	作業療法の基本的な視点と方法(作業・作業活動を介した回復支援・生活支援)
第6回	作業療法の基本的実践論(治療構造と実践形態/実践のプロセス)
第7回	作業療法の基本的実践論(病期に応じた生活支援：急性期、回復期、生活期、予防期)
第8回	精神機能作業療法評価の基礎(情報収集・観察法)
第9回	精神機能作業療法評価の基礎(面接法)
第10回	精神機能作業療法評価の基礎(集団評価法)
第11回	精神機能作業療法評価の基礎(検査法)
第12回	精神障害者の自立支援とチーム医療・チームケア(遠藤)
第13回	障害福祉サービスとケアマネジメントの基礎(遠藤)
第14回	精神障害者の地域移行支援～退院支援の仕組みとコツ～(遠藤)
第15回	学んだことの振り返り

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・予習復習をしっかりとる。
- ・成績評価に関する詳細はシラバスを参照すること。
- ・遠藤先生の講義日程については決まり次第連絡する。講義中盤で実施予定。

〔受講のルール〕

- ・講義は欠席のないようにする。
- ・授業内外問わず、積極的に自ら調べたり、質問をする。
- ・授業中の私語など他学生に迷惑となる行為は禁止。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT 利用 (WEB フォームやメールなど)
 その他 ()

■授業時間外学習にかかわる情報

シラバスの内容を基に教科書や配布資料で予習復習すること。分からない箇所はそのままにせず、次回の授業で解決するよう質問や自分で調べたことなどをまとめておく。

■オフィスアワー

水曜日 16 時 30 分～ 17 時 30 分は随時 (変更時は掲示する)。その他の曜日においては要予約。

■評価方法

- 筆記試験 70% (再試験あり。) 60 点未満の場合、総合評価の対象としない。
 レポート 30% (再提出あり。期限内に提出されないものは総合評価に含めない。)

■教科書

- ①日本作業療法士協会(監修)：作業療法学全書 改訂第3版 作業療法治療学2 精神障害, 2010.
- ②岩崎テル子他(編)：作業療法評価学, 第3版. 医学書院, 2017.

■参考書

- ①小林夏子(編)：標準作業療法学, 第2版. 医学書院, 2014.
- ②香山明美他：生活を支援する 精神障害作業療法—急性期から地域実践まで—, 第2版. 医歯薬出版, 2014.

科目名	精神機能作業療法学Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	高坂 駿・遠藤 真史	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻 2 年次必修科目 主に臨床心理学、精神医学の知識が必要となる。	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る 必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目における「作業療法治療学」			
キーワード	病期 評価プロセス 作業療法評価 ICF ケアマネジメント				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

精神科作業療法で対象となる各疾患の評価や目標の設定・治療・支援方法等、一般的な枠組みを理解・説明できることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①各疾患や障害のもつ医学的な特徴を理解・説明することができる。
- ②各疾患における精神機能作業療法評価、目標・治療計画の設定を理解・説明・実施できる。
- ③精神疾患を持つ方の生活障害を理解・説明することができる。
- ④精神科病院における長期入院者の現状と退院支援のあり方を理解・説明することができる。
- ⑤演習を通じて精神疾患を持つ方の地域生活支援・就労支援における作業療法の実践および、ケアマネジメントの展開について理解・説明することができる。

■授業の概要

ICFに基づいた精神疾患における評価～目標設定までを学び、演習を通して実践する。また、幅広いライフステージや回復過程に応じた精神科作業療法の実践および地域生活支援の視点・実践について学習をする。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション/精神障害領域における作業療法評価
第2回	統合失調症、統合失調症様障害および妄想性障害
第3回	気分(感情)障害
第4回	精神作用物質使用による精神および行動の障害
第5回	神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害
第6回	成人の人格(パーソナリティ)及び行動障害
第7回	生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群
第8回	てんかん
第9回	作業に焦点を当てた評価
第10回	精神科領域における参加・活動の評価
第11回	精神科領域における心身機能の評価:レポート提出
第12回	精神障害のOT評価グループワーク(遠藤)
第13回	精神障害のOT評価(野中式事例検討)(遠藤)
第14回	精神障害者のケアマネジメントの基礎(遠藤)
第15回	学んだことの振り返り

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・予習復習をしっかりとる。
- ・成績評価に関する詳細はシラバスを参照すること。
- ・遠藤先生の講義日程については決まり次第連絡する。講義中盤で実施予定。

〔受講のルール〕

- ・講義は欠席のないようにする。
- ・授業内外問わず、積極的に自ら調べたり、質問をする。
- ・授業中の私語など他学生に迷惑となる行為は禁止。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式
 シャトルカード方式
 ICT利用(WEBフォームやメールなど)
- その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

シラバスの内容を基に教科書や配布資料で予習復習すること。分からない箇所はそのままにせず、次回の授業で解決するよう質問や自分で調べたことなどをまとめておく。

■オフィスアワー

水曜日 16時30分～17時30分は随時(変更時は掲示する)。その他の曜日においては要予約。

■評価方法

- 筆記試験 70%(再試験あり。) 60点未満の場合、総合評価の対象としない。
- レポート 30%(再提出あり。期限内に提出されないものは総合評価に含めない。)

■教科書

- ①日本作業療法士協会(監修):作業療法学全書 改訂第3版 作業療法治療学2 精神障害, 2010.
- ②岩崎テル子他(編):作業療法評価学, 第3版. 医学書院, 2017.

■参考書

- ①香山明美他:生活を支援する 精神障害作業療法 一急性期から地域実践まで一. 医歯薬出版, 2008.
- ②障害者福祉研究会(編):国際生活機能分類, 2002.

科目名	発達過程作業療法学Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	北爪 浩美	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻 3 年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法治療学」			
キーワード	発達検査、評価、治療プログラム				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

発達検査について学び、作業療法評価への応用について考察する。また、作業療法で使用する検査について学び、実施と結果についての解釈の方法を学習し、児の全体像の把握および適切な治療目標を立てることが出来るようになる事を目的とする。

〔到達目標〕

- ①発達過程作業療法で使用する検査バッテリーについて理解し、実施することができる。
- ②各検査から得られた結果を評価し、作業療法で取り組む内容を抽出することができる。
- ③作業療法の目的を達成するための治療プログラムを立案することができる。
- ④対象児の将来像までを見据えた生活上の提案をすることができる。

■授業の概要

発達過程の作業療法対象者に対する評価について、検査バッテリーの紹介と実施方法について学び、対象者に対して実施できる力を身につける。また、各疾患への評価の適応や結果の解釈について考察し、治療プログラム立案までの道筋を考える。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション、発達過程における作業療法の理念と役割
第2回	発達過程作業療法における評価と治療の実践課程
第3回	発達過程の基礎知識と治療への応用
第4回	発達の評価・検査バッテリー
第5回	作業療法評価に必要な運動発達の視点(0～12か月)
第6回	作業療法評価に必要な運動発達の視点(1歳～6歳)
第7回	感覚統合理論と認知機能の発達
第8回	対応行動の発達と注意機能①
第9回	対応行動の発達と注意機能②
第10回	学習と社会性の発達と評価
第11回	地域における発達支援と特別支援教育①
第12回	地域における発達支援と特別支援教育②
第13回	疾患別作業療法の実際①脳性麻痺
第14回	疾患別作業療法の実際②神経筋疾患
第15回	疾患別作業療法の実際③発達障害

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・授業で配布する資料の予備は保管しないため、欠席した場合は出席者からコピーすること。
- ・シラバスを確認し授業に臨むこと。
- ・授業の流れや雰囲気を乱す行為(私語、携帯電話の使用など)は厳禁。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT 利用 (WEB フォームやメールなど)
 その他 ()

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

授業終了後 20 分程度、対応可能。

■評価方法

筆記試験 100%

■教科書

日本作業療法協会監修：作業療法学全書改訂第3版 6. 発達障害. 協同医書出版社. 2010
 日本作業療法協会監修：作業療法学全書改訂第3版 3. 作業療法評価学. 協同医書出版社. 2009

■参考書

シラバス参照のこと。

科目名	発達過程作業療法学Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	北爪 浩美	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻 3 年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法治療学」			
キーワード	発達過程、特別支援教育、感覚運動、感覚統合、あそび				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

発達過程における作業療法の対象疾患とその症状、作業療法の目的と方法について理解し、実施しうる能力を身につけることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①発達過程作業療法の対象疾患と対象児について理解し、発達過程における作業療法の目的を説明できる。
- ②発達過程作業療法の対象疾患の臨床像、評価、治療について説明できる。
- ③対象児者が地域社会で暮らすための方法や他職種との連携について説明できる。

■授業の概要

近年、特別支援教育については、教育あるいは医療、福祉領域において、その取り組みがめざましく発展し、対象児の可能性を広げるために取り組んでいる。本講義では乳児期から青年期までを対象とした作業療法について学び、発達途上にある児についての生物学的視点と心理・社会的視点を身につけ、家庭生活や教育環境などで生かすことの出来る適切な援助方法について考える。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	発達障害領域での作業療法の理念と役割
第2回	発達過程作業療法における障害の概要①肢体不自由
第3回	発達過程作業療法における障害の概要②肢体不自由
第4回	発達過程作業療法における障害の概要③発達障害
第5回	発達過程作業療法における障害の概要④発達障害
第6回	地域における発達支援
第7回	発達過程作業療法の実際①小児病院での作業療法
第8回	発達過程作業療法の実際②小児病院での作業療法
第9回	発達過程作業療法の実際③在宅での作業療法
第10回	発達過程作業療法の実際④在宅での作業療法
第11回	発達過程作業療法の実際⑤地域クリニックでの作業療法
第12回	発達過程作業療法の実際⑥地域クリニックでの作業療法
第13回	発達過程作業療法の実際⑦地域での作業療法
第14回	発達過程作業療法の実際⑧地域での作業療法
第15回	発達過程作業療法の課題

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・授業で配布する資料の予備は保管しません。

〔受講のルール〕

- ・シラバスを必ず確認し授業に臨むこと。
- ・授業の流れや雰囲気等を乱す行為、常識を欠く行為（私語、携帯電話の使用など）は厳禁。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT 利用 (WEB フォームやメールなど)
 その他 ()

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

授業終了後 20 分程度、対応可能。

■評価方法

レポート 100%

■教科書

日本作業療法協会監修：作業療法学全書改訂第3版 6. 発達障害. 協同医書出版社. 2010

■参考書

シラバスを参照すること。

科目名	高齢期作業療法学I	担当教員 (単位認定者)	悴田 敦子	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻3年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法治療学」			
キーワード	高齢期、生活、役割、地域、作業療法課程、認知症、介護予防				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

加齢とともに起こる身体的変化、精神的変化、生活の変化などを学び、様々な高齢者に対する作業療法について理解することを目的とする。

〔到達目標〕

- ①高齢者を取り巻く社会の現状を説明することができる。
- ②高齢期の身体的特徴や、特徴的な疾患について説明することができる。
- ③高齢期の作業療法実践の基本的枠組みを説明することができる。
- ④認知症および特徴的な疾患の作業療法アプローチを説明することができる。
- ⑤地域で生活する高齢者の特徴を説明することができる。
- ⑥介護予防における作業療法の可能性を説明することができる。

■授業の概要

高齢者の身体・精神・生活などについて学び、老年期障害領域での作業療法の実際や、作業療法士が果たす役割を理解する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション、高齢社会について
第2回	高齢期の一般的特徴、高齢期に多い疾患について（循環器・呼吸器等）
第3回	高齢期の一般的特徴、高齢期に多い疾患について（内分泌・神経系、運動器等）
第4回	高齢期の一般的特徴、高齢期に多い疾患について（心理・精神、生活）
第5回	高齢期作業療法の過程について
第6回	病期・場所に応じた治療・援助の違いについて
第7回	認知症の定義と分類について
第8回	認知症の症状と評価
第9回	アルツハイマー型認知症
第10回	認知症の評価と作業療法
第11回	認知症高齢者の作業療法（回想法）
第12回	健康高齢者、地域在住高齢者の作業療法
第13回	症例検討（認知症高齢者）①
第14回	症例検討（認知症高齢者）②
第15回	健康な高齢者のOT、まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

グループでの症例検討では、積極的な意見交換に努めてください。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式
 シャトルカード方式
 ICT利用（WEBフォームやメールなど）
 その他（ ）

■授業時間外学習にかかわる情報

グループ発表では、レジュメの作成・提出、発表準備行ってください。
高齢者向けサロンに参加するため、グループでの歌体操の準備を行ってください。

■オフィスアワー

月曜日 16時10分～17時30分。

■評価方法

レポート10%、筆記試験90%。

■教科書

松房利憲・新井健五編：標準作業療法学 専門分野 高齢期作業療法学 第3版、医学書院

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	高齢期作業療法学Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	古田 常人・高坂 駿	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻 3 年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法治療学」			
キーワード	作業(生活行為)、生活行為向上マネジメント				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

高齢期領域に関連する医療保健福祉の現状を理解し、高齢者を地域で支援するための考え方や具体的手段を身に付ける。また、「生活行為向上マネジメント(MTDLP)」を活用できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①時代背景を踏まえた地域包括ケアシステムの役割について理解・説明することができる。
- ②MTDLPを用いて作業に焦点を当てたアセスメントを実施することができる。
- ③MTDLPを用いて作業に焦点を当てた合意目標の設定をすることができる。
- ④MTDLPを用いて作業に焦点を当てた作業療法介入プランを作成することができる。

■授業の概要

- ・超高齢化社会である日本の医療保健福祉の現状を理解した上で、高齢期作業療法に関連する評価・支援技術、多職種連携の方法等について学ぶ。
- ・「生活行為向上マネジメント」が開発された経緯、マネジメントの流れ、各書式の内容等について学び、実践的に活用できるように自身でも一連のプロセスを経験する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション、地域包括ケアシステムとは
第2回	総合支援事業/介護予防
第3回	介護予防演習
第4回	介護予防実践演習①
第5回	介護予防実践演習②
第6回	模擬地域ケア会議演習①
第7回	模擬地域ケア会議演習②
第8回	生活行為向上マネジメントとは①
第9回	生活行為向上マネジメントとは②
第10回	マネジメントツールの使い方①
第11回	マネジメントツールの使い方②
第12回	マネジメントツールの使い方③
第13回	マネジメントツールの使い方④
第14回	各領域における生活行為向上マネジメントの活用
第15回	学んだことの振り返り

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・グループワークが中心となる。

〔受講のルール〕

- ・シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・医療専門職及び対人サービス職として、出席時間の厳守と対象者が好感を持てる態度を身につけることは基本である。そのため態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めないことがあるので注意すること。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話の使用)は厳禁。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式
 シャトルカード方式
 ICT利用(WEBフォームやメールなど)
- その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時間外学習の内容については科目オリエンテーションにて説明します。

■オフィスアワー

〔高坂〕金曜日 16 時 30 分～17 時 30 分。その他の曜日においては要予約。

〔古田〕月曜日 16 時～17 時 30 分は随時(変更時は掲示する)。その他の曜日においては要予約。

■評価方法

評価配分【古田】課題 30%、発表 20%。【高坂】課題 50%。詳細はシラバスを参照すること。

■教科書

(社)日本作業療法士協会：作業療法マニュアル 57 生活行為向上マネジメント。(社)日本作業療法士協会 2014

■参考書

吉川ひろみ：「作業」ってなんだろう 作業科学入門。医歯薬出版

科目名	ひとと暮らしI	担当教員 (単位認定者)	悴田 敦子	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻 2 年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法治療学」			
キーワード	基本動作、動作分析、疾患別ADL、自助具、福祉用具				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

作業療法士として必要な ADL・IADL を評価する力と介入する手法を身につけることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①代表的な ADL・IADL 評価を説明することができる。
- ②ADL 各項目の観察ポイントを挙げることができる。
- ③基本動作の観察ポイントを挙げることができる。
- ④評価結果をまとめることができる。

■授業の概要

ひとが暮らしていくとはどのようなものか。暮らし・生活の中で行われる様々な活動に目を向け、作業療法士としての視点で評価することを学びます。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第 1 回授業にて配付します。

第 1 回	科目オリエンテーション／ADL とは
第 2 回	ADL の評価とは
第 3 回	ADL 評価法 (Barthel Index、FIM)
第 4 回	ADL 評価法 (FIM 運動項目)
第 5 回	ADL 評価法 (FIM 運動項目、認知項目)
第 6 回	ADL 評価法 (FIM 認知項目)
第 7 回	小テスト、IADL 評価法 (老研式、FAI、AMPS)
第 8 回	AMPS (運動技能) ①
第 9 回	AMPS (運動技能) ②
第 10 回	AMPS (プロセス技能) ①
第 11 回	AMPS (プロセス技能) ②
第 12 回	動作分析①メモのとり方、評価のポイント
第 13 回	動作分析①寝返り動作
第 14 回	動作分析②片麻痺の寝返り動作
第 15 回	ADL・IADL 評価のまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

実習の際は動きやすい服装で受講すること。メモがしやすいように筆記用ボードを用意しておくこと。スマホ・タブレット・デジカメ等、静止画・動画が撮影できる機器を準備すること。授業に関係のないものの持ち込みを禁止する。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式
 シャトルカード方式
 ICT 利用 (WEB フォームやメールなど)
 その他 ()

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時間外学習の内容については科目オリエンテーションにて説明する。

■オフィスアワー

月曜日 16 時 10 分～17 時 30 分。

■評価方法

小テスト 10%、筆記 90%。

■教科書

濱口豊太編：標準作業療法学 専門分野 日常生活活動・社会生活行為学。医学書院，2014

■参考書

伊藤利之，江藤文夫編：新版日常生活活動 (ADL) 評価と支援の実際。医歯薬出版，2011

科目名	義肢装具学	担当教員 (単位認定者)	牛込 祐樹	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻 3 年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法治療学」			
キーワード	義手、義足、スプリント				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

義肢装具の概念、対象となる疾患・障害、処方・製作までの流れを学び、義肢装具の基本的な目的と原理を学ぶ。また、主な義肢装具の分類・名称・構造を知り、対象者にとってどのような義肢装具が必要であるか考える。さらに、作業療法士が良肢位保持や変形防止などのために製作するスプリントについて学び、実際に製作する。

〔到達目標〕

- ①切断の種類とそれに合わせた義肢の種類を言うことができる。
- ②義肢の種類及び各パーツの名称を言うことができる。
- ③上肢・下肢・体幹の装具の種類と目的、対象疾患を言うことができる。
- ④スプリントの種類と対象疾患、治療目的を言うことができる。
- ⑤代表的なスプリントを製作し、対象者に合わせた修正を行うことができる。

■授業の概要

作業療法で対象となる各種装具・スプリントと、国家試験で出題される各種義肢・装具の名称及びその特徴と対象疾患について学ぶ。また、代表的なスプリントの製作から、その特徴や治療目的を理解し、フィッティングなどの技術も学んでいく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第 1 回授業にて配付します。

第 1 回	科目オリエンテーション、義肢装具学総論
第 2 回	義手の分類・名称・構造・機能について
第 3 回	義手のチェックアウト
第 4 回	装具とは／体幹装具について
第 5 回	上肢装具について
第 6 回	スプリント作製のための基礎知識
第 7 回	スプリント作製の流れ
第 8 回	スプリント作製（カックアップスプリント）①
第 9 回	スプリント作製（カックアップスプリント）②
第 10 回	スプリント作製（カックアップスプリント）③
第 11 回	スプリント作製（カックアップスプリント）④
第 12 回	スプリント作製（短対立装具）①
第 13 回	スプリント作製（短対立装具）②
第 14 回	下肢切断と義足
第 15 回	下肢装具について

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・各種義肢・装具・スプリントを装着することが多く、また、後半はスプリント製作も行うため、作業のしやすい服装を心がけること。
- ・スプリント製作では各自タオルを用意すること。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式
 シャトルカード方式
 ICT 利用（WEB フォームやメールなど）
 その他（ ）

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

月・木曜日 16 時～17 時 30 分は随時（変更時は掲示する）。その他の曜日においては要予約。

■評価方法

筆記試験 100%

■教科書

日本整形外科学会、日本リハビリテーション医学会監：義肢装具のチェックポイント第 8 版、医学書院、2014

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	作業療法治療学Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	古田 常人	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻 2 年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法治療学」			
キーワード	作業、作業療法原理、EBOT				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕
作業療法の原理に基づく治療としての「作業」について学び、実践へ向けての考察ができるようになることを目的とする。
〔到達目標〕
①作業療法の原理について説明できる。
②治療としての「作業」の意味について説明できる。
③作業療法における理論について説明できる。
④作業療法理論に基づく、対象者理解・介入について理解する。

■授業の概要

ひとは日常生活や学習、趣味、仕事の場において「作業」を行う。個人の考えや主張は動作を実現する手や全身を使って表現され、その人らしさが社会における自らの存在を証明する。「作業」は生きることそのものであり、作業療法士はその対象となるひとが自己の望む作業に取り組めるように治療・指導・援助する専門職である。従って作業療法士は①作業は人間にとって不可欠である②作業は内的・外的要請に応じて変化する③作業療法士は健康と幸福増進のために作業を治療の手段として使用できる、という原則に基づく対応しなければならない。本講義ではこの原理に基づく治療について学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第 1 回授業にて配付します。

第 1 回	科目オリエンテーション、作業療法理論、体系①
第 2 回	作業療法における治療理論 1 [生体力学的理論] 関節可動域訓練①可動域制限の原因/治療理論
第 3 回	作業療法における治療理論 1 [生体力学的理論] 関節可動域訓練②治療実践
第 4 回	作業療法における治療理論 1 [生体力学的理論] 関節可動域訓練③治療実践
第 5 回	作業療法における治療理論 1 [生体力学的理論] 筋力増強訓練①筋力低下の原因
第 6 回	作業療法における治療理論 1 [生体力学的理論] 筋力増強訓練②増強訓練理論
第 7 回	作業療法における治療理論 1 [生体力学的理論] 筋力増強訓練③事例に基づく筋力増強訓練
第 8 回	作業療法における治療理論 1 [生体力学的理論] 知覚再教育訓練①知覚障害の原因
第 9 回	作業療法における治療理論 1 [生体力学的理論] 知覚再教育訓練②治療理論
第 10 回	作業療法における治療理論 1 [生体力学的理論] 協調性訓練
第 11 回	作業療法における治療理論 2 [神経発達理論 NDT] 基本原則
第 12 回	作業療法における治療理論 2 [神経発達理論 NDT] 環境適応的アプローチ①
第 13 回	作業療法における治療理論 2 [神経発達理論 NDT] 環境適応的アプローチ②
第 14 回	作業療法における治療理論 3 [認知運動療法]
第 15 回	作業療法における治療理論 4 [感覚統合理論]

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・白衣着用が必要な場合には事前に連絡する。
- ・授業で配布する資料の予備は保管しないため、欠席した場合は出席者からコピーすること。
- ・シラバスを確認し授業に臨むこと。
- ・授業の流れや雰囲気等を乱す行為、常識を欠く行為（私語、携帯電話の使用など）は厳禁。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シヤトルカード方式 ICT 利用 (WEB フォームやメールなど)
 その他 ()

■授業時間外学習にかかわる情報

実技試験、レポート、発表など授業外に準備する必要がある。その為、計画的に準備を進めること。

■オフィスアワー

月曜日 16 時～17 時 30 分。

■評価方法

筆記 40%、レポート 20%、発表 20%、実技試験 20%。

■教科書

長崎重信 編 身体障害作業療法学 改訂第 2 版 (作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト) メジカルビュー社 2015

■参考書

- ・日本作業療法士協会 監修「作業療法学全書 第 4 巻 作業療法学 1 身体障害」協同医書出版 2014 年
- ・大嶋伸雄編「身体障害領域の作業療法」中央法規 2012 年
- ・古川宏編「作業療法のとらえかた」文光堂 2011 年
- ・古川宏編「作業療法のとらえかた 2」文光堂 2011 年
- ・中里瑠美子 片麻痺の人のためのリハビリガイド 感じることで動きが生まれる 2017
- ・中里瑠美子 片麻痺の作業療法 QOL の新しい次元へ 2015
- ・鎌倉矩子 作業療法の世界 第 2 版 三輪書店 2004
- ・飯脇健司 高齢者のその人らしさを捉える作業療法 文光堂 2015
- ・吉川ひろみ「作業」って何だろう作業科学入門 2008
- ・山田孝 事例でわかる 人間作業モデル 2015
- ・山根寛 ひとと作業・作業活動 作業の知をとき技を育む 新版 2015
- ・Gary Kielhofner (著), 山田孝 (監訳) 人間作業モデル 理論と応用 2012
- ・吉川ひろみ (著), 齋藤さわ子 (著) 作業療法がわかる COPM・AMPS 実践ガイド 2014
- ・吉川ひろみ COPM-カナダ作業遂行測定 2006
- ・齋藤佑樹 (著) 作業で語る事例報告: 作業療法レジメの書きかた・考えかた 2014
- ・マリー ダナヒー (編集) 臨床が変わる! PT・OT のための認知行動療法入門 2014
- ・ギャーリー キールホフナー (著), Gary Kielhofner (原著), 山田孝 (翻訳) 作業療法実践の理論 原書第 4 版 2014
- ・B. Rosalie Johanna Miller (著) 作業療法実践のための 6 つの理論—理論の形成と発展 1995

科目名	作業療法治療学Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	宮寺 亮輔・牛込 祐樹	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻 3 年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法治療学」			
キーワード	身体障害、情報収集、作業療法評価・治療・支援、リスクマネジメント				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

身体障害領域の疾患について病態・症状・障害像を理解し、作業療法の特性を活かした評価・治療・支援を行えるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①身体障害領域の各疾患の病態・症状・障害像を理解し、説明することができる。
- ②各疾患の検査・評価を理解し、説明することができる。
- ③障害像、病期などを考慮し、作業療法の特性を活かした治療・支援・指導を説明する事ができる。

■授業の概要

作業療法の対象となる身体障害領域の疾患について病態・症状・障害像について理解し、作業療法の特性を活かした評価・治療・支援方法について学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション／骨・関節疾患における作業療法実践
第2回	末梢神経損傷における作業療法実践
第3回	腱損傷における作業療法実践
第4回	関節リウマチにおける作業療法実践
第5回	熱傷における作業療法実践
第6回	内部障害における作業療法実践①循環器疾患
第7回	内部障害における作業療法実践②呼吸器疾患
第8回	がんにおける作業療法実践
第9回	脳血管障害・脳外傷における作業療法実践①
第10回	脳血管障害・脳外傷における作業療法実践②
第11回	脳血管障害・脳外傷における作業療法実践③
第12回	脊髄損傷における作業療法実践①
第13回	脊髄損傷における作業療法実践②
第14回	神経変性疾患における作業療法実践
第15回	神経・筋疾患における作業療法実践

■受講生に関わる情報および受講のルール

予習復習は欠かさないこと。

授業資料の再発行はしない。授業を休んだ場合は、クラスメートからコピーを取ること。

授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為を行う者は受講を拒否する可能性がある。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT 利用 (WEB フォームやメールなど)
 その他 ()

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

月・木曜日 16 時～17 時 30 分は随時 (変更時は掲示する)。その他の曜日においては要予約。

■評価方法

筆記試験 100%

■教科書

標準作業療法学専門分野 身体機能作業療法学 第3版. 医学書院, 2016

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	作業療法治療学Ⅲ	担当教員 (単位認定者)	高坂 駿・遠藤 真史	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻 3 年次必修科目 主に臨床心理学、精神医学の知識が必要となる。	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る 必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法治療学」			
キーワード	治療構造論 作業療法 認知行動療法 地域生活移行(定着)支援 社会資源				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

これまでに学んだ精神障害リハビリテーションの基礎知識や各疾患の特徴、評価方法等を統合し、応用的に精神障害リハビリテーションを進めるための考え方や具体的方法を学ぶ。

〔到達目標〕

- ①各疾患における作業療法の課題と目的について理解・説明できる。
- ②各疾患における作業療法の基本的な援助方法を理解・説明できる。
- ③健康を高めるための行動変容技法について説明・実施できる。
- ④各疾患における作業療法実施上の留意点を理解・説明できる。
- ⑤治療場面での環境設定や適応・段階づけについて説明・実施できる。
- ⑥精神障害者に対する地域生活移行(定着)支援の仕組みと実際を理解・説明することができる。

■授業の概要

ICFに基づいた実践的なリハビリテーションの考え方と治療・支援の実際を学ぶ。その人にとっての生活障害とは何か、地域で生活を続けるための方法を事例をもとに考え、評価、治療・支援計画を立てる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション/精神科作業療法に関する理論・モデル・技法
第2回	精神科作業療法に関する理論・モデル・技法：レポート提出
第3回	作業を用いたリハビリテーション
第4回	各精神疾患に対する作業療法①
第5回	各精神疾患に対する作業療法②
第6回	各精神疾患に対する作業療法③
第7回	健康を高めるための行動変容技法
第8回	事例検討①
第9回	事例検討②：課題提出
第10回	司法精神医療における作業療法
第11回	精神障害者の地域移行支援、定着支援①(遠藤)
第12回	精神障害者の地域移行支援、定着支援②(遠藤)
第13回	精神障害者のケアマネジメント(遠藤)
第14回	精神障害領域における作業療法介入・研究
第15回	学んだことの振り返り

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・予習復習をしっかりとる。
- ・成績評価に関する詳細はシラバスを参照すること。
- ・遠藤先生の講義日程については決まり次第連絡する。講義中盤で実施予定。

〔受講のルール〕

- ・講義は欠席のないようにする。
- ・授業内外問わず、積極的に自ら調べたり、質問をする。
- ・授業中の私語など他学生に迷惑となる行為は禁止。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(WEBフォームやメールなど)
- その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

シラバスの内容を基に教科書や配布資料で予習復習すること。分からない箇所はそのまませず、次回の授業で解決するよう質問や自分で調べたことなどをまとめておく。

■オフィスアワー

木曜日 16 時 30 分～17 時 30 分は随時(変更時は掲示する)。その他の曜日においては要予約。

■評価方法

- 筆記試験 60% (再試験あり。) 60 点未満の場合、総合評価の対象としない。
- 授業内課題(事例検討シート) 20%。
- レポート 20% (再提出あり。期限内に提出されないものは総合評価に含めない。)

■教科書

- ①日本作業療法士協会監修：作業療法学全書 改訂第3版 作業療法治療学2 精神障害, 2010.
- ②岩崎テル子他(編)：作業療法評価学, 第3版. 医学書院, 2017.

■参考書

- ①香山明美他：生活を支援する 精神障害作業療法—急性期から地域実践まで—, 第2版, 医歯薬出版, 2014.
- ②障害者福祉研究会(編)：国際生活機能分類, 2002.
- ③日本行動医学会(編)：行動医学テキスト, 2015.

科目名	作業療法技術論Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	宮寺 亮輔・芦原 大	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻 3 年次選択科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法治療学」			
キーワード	行為、移動、作業、動作分析、上肢(協調運動)機能、日常生活動作、姿勢制御、視覚、転倒回避能力				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

作業療法士が対象者の行為を理解するために用いる動作分析および作業分析について、行為(作業)工程ごとに実施し、対象者の治療の方向性を説明できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①観察から対象者の姿勢や行為について運動学的に分析できる。
- ②分析した内容を他者にわかりやすく説明することができる。
- ③姿勢や行為から課題設定の理由が説明できる。
- ④対象者の日常生活動作上の問題点と分析内容を照らし合わせて治療の方向性を説明することができる。

■授業の概要

ひとの意志は動作として表現され、目的に応じた動作の連続が作業となる。作業療法士は作業を実現する専門職であるため、意志の表現としての動作を正確に解釈する必要がある。本講義では、ひとの動作の過程を分析し、対象者の評価および治療に生かす観察力を身につける。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	姿勢と動作、姿勢分析、動作分析
第2回	座位姿勢の評価(不良座位姿勢の原因の特定)
第3回	シーティングの理論
第4回	シーティングの実際①(身体寸法計測、座位機能評価、車椅子の選定)
第5回	シーティングの実際②(車椅子の調整)
第6回	シーティング後の適合評価①(座位機能)
第7回	シーティング後の適合評価②(上肢機能)
第8回	シーティング後の適合評価③(ADL、QOL)
第9回	上肢協調運動に対する作業療法①(姿勢変化に伴う上肢協調運動機能の評価)
第10回	上肢協調運動に対する作業療法②(姿勢変化に伴う上肢協調運動機能の治療)
第11回	姿勢制御の理論
第12回	移動支援技術の実際①(視覚情報処理機能と移動機能の関係)
第13回	移動支援技術の実際②(課題から考えるバランス機能の理解、転倒回避能力の促進方法)
第14回	行動、動作分析から作業療法を考える①(芦原)
第15回	行動、動作分析から作業療法を考える②(芦原)

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・授業で配布する資料の予備は保管しません。

〔受講のルール〕

- ・姿勢観察しやすい(身体貼付するマーカーなどが確認しやすい)服装で参加すること。
- ・シラバスを必ず確認し授業に臨むこと。
- ・授業の流れや雰囲気等を乱す行為、常識を欠く行為(私語、携帯電話の使用など)は厳禁。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式
 シャトルカード方式
 ICT利用(WEBフォームやメールなど)
- その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

シラバスの内容を基に教科書や配布資料で予習復習すること。分からない箇所はそのままにせず、次回の授業で解決するよう質問や自分で調べたことなどをまとめておく。

■オフィスアワー

月・火曜日の午前中。時間は事前に申し出ること。

■評価方法

レポート100%

■教科書

中村隆一他：基礎運動学 第6版。医歯薬出版株式会社。2003

岩崎テル子他：作業療法評価学。医学書院。2009

■参考書

廣瀬秀他：高齢者のシーティング 第2版。三輪書店。2014

奈良勲他：姿勢調節障害の理学療法 第2版。医歯薬出版株式会社。2012

科目名	作業療法技術論Ⅲ	担当教員 (単位認定者)	牛込 祐樹	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻 3 年次選択科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る 必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療治療学」			
キーワード	臨床実践、評価、介助、リスク管理				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

臨床場面で評価、介助を具体的な方法・手順に沿って、適切な準備・説明を行い、リスク管理に配慮しながら適切かつ安全に実施できることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①評価、介助に必要な準備を知り、実際に準備を整えることができる。
- ②評価、介助で起こりうるリスクを把握し、適切に対応することができる。
- ③評価、介助を行うにあたり、適切なオリエンテーション・フィードバック、声かけを実施できる。
- ④臨床場面を想定し、評価、介助をより具体的な方法・手順で実践的に行うことができる。

■授業の概要

作業療法士として必要な知識・技術を有していることに併せて、それを臨床場面で実際の対象者へ活用できる事も重要である。臨床場面を想定して、必要な準備や具体的な方法・手順、それに伴う説明、リスク管理の配慮等について知り、評価、介助を実践的に行えるように学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション／臨床に立つ上での準備・心構えについて
第2回	臨床でのリスクマネジメント①：コミュニケーション・基本的態度、感染対策、情報管理
第3回	臨床でのリスクマネジメント②：健康状態の管理、転倒・外傷の予防、誤用・過用症候群の予防
第4回	臨床実践：バイタルサイン測定
第5回	臨床実践：面接
第6回	臨床実践：起居・移乗動作介助
第7回	臨床実践：関節可動域測定
第8回	臨床実践：MMT
第9回	臨床実践：簡易知覚検査
第10回	臨床実践：片麻痺機能検査
第11回	臨床実践：精神機能・高次脳機能評価
第12回	臨床実践：ADL評価・介助（更衣）
第13回	臨床実践：ADL評価・介助（トイレ動作）
第14回	臨床実践：複数課題
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

実際に身体を動かすことが多いため、Tシャツ・ハーフパンツ・学校ジャージなどを用意しておくこと。
メモがしやすいように筆記用ボードを用意しておくこと。
予習復習は欠かさないこと。
授業資料の再発行はしない。授業を休んだ場合は、クラスメートからコピーを取ること。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式
 シャトルカード方式
 ICT利用（WEBフォームやメールなど）
 その他（ ）

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

月・木曜日 16 時～17 時 30 分は随時（変更時は掲示する）。その他の曜日においては要予約。

■評価方法

ポートフォリオ 100%

■教科書

授業内で適宜紹介する。

■参考書

- ①標準作業療法学専門分野 作業療法評価学. 第2版. 医学書院. 2011
- ②才藤栄一監：PT・OTのためのOSCE 臨床力が身につく実践テキスト. 第1版. 金原出版株式会社. 2011
- ③大野義一郎：感染対策マニュアル. 第2版. 医学書院
- ④里字明元監：自信が持てる！リハビリテーション臨床実習. 第1版. 医歯薬出版株式会社. 2015

科目名	作業療法特論Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	高坂 駿	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻 3 年次選択科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る 選択		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法治療学」			
キーワード	ライフサイクル、生活機能、集団、プログラム				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

ひとの集団の構造や機能について学ぶことにより、集団が個人に与える影響について理解する。また、集団が子に与える影響を知ること、作業療法における集団活用を考え、作業療法プログラムを作成し活用できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①ひとの集まりとしての社会の成り立ちを理解する。
- ②作業療法における集団活用について説明することができる。
- ③集団プログラムについて計画、実施、評価ができる。

■授業の概要

ひとの集まりは個人の成長や生き方に大きな影響を与え、また個人の存在も集団に影響を与える。ひとは集団のなかでひとのかかわりを学び、社会生活を営み、様々な集団が社会を構成する。個人の作業活動が他者にどのように受け止められているのかにより、個人の生活は影響を受けるが、それは作業療法対象者においても同様である。本講義ではひとと集団について学び、作業療法における集団活用について考える。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	オリエンテーション／集団の基礎①
第2回	集団の基礎②
第3回	集団の見学・評価①
第4回	集団の見学・評価②
第5回	集団の基礎③
第6回	集団評価の結果報告と考察
第7回	集団の治療的活用
第8回	模擬集団プログラム計画の立案①
第9回	模擬集団プログラム計画の立案②
第10回	模擬集団プログラム計画の立案③
第11回	模擬集団プログラム計画の立案④
第12回	模擬集団プログラムの実施①
第13回	模擬集団プログラムの実施②
第14回	集団プログラムの結果報告と考察
第15回	学んだことの振り返り

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・授業で配布する資料の予備は保管しない。

〔受講のルール〕

- ・シラバスを必ず確認し授業に臨むこと。
- ・授業の流れや雰囲気や乱す行為、常識を欠く行為（私語、携帯電話の使用など）は厳禁。
- ・対象者の評価や治療に対し、真摯な姿勢で臨むこと。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式
 シャトルカード方式
 ICT利用（WEBフォームやメールなど）
 その他（ ）

■授業時間外学習にかかわる情報

シラバスの内容を基に教科書や配布資料で予習復習すること。分からない箇所はそのままにせず、次回の授業で解決するよう質問や自分で調べたことなどをまとめておく。

■オフィスアワー

金曜日 16 時 30 分～ 17 時 30 分。時間については事前に申し出ること。

■評価方法

- 授業内提出課題 50%（プレゼンテーション、集団評価シート、集団プログラム計画）
 レポート 50%（再提出あり。期限内に提出されないものは総合評価に含めない。）

■教科書

山根寛他（著）：ひとと集団・場一ひとの集まりと場を利用する一、第2版。三輪書店、2007。

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	作業療法特論Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	山口 智晴	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻3年次選択科目 リハビリテーション医学、解剖学、生理学、神経内科学の知識を必要とする。作業療法評価法Ⅲの授業内容と対応。	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法治療学」			
キーワード	高次脳機能障害、認知症、社会資源、成年後見制度、DSM-5				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

作業療法士として必要な、認知機能障害に対する基本的な介入手法について学ぶ。

〔到達目標〕

- ①高次脳機能障害の代表的な各症候への基本的な介入手法について説明できる。
- ②認知機能障害を有する患者の臨床的特徴を理解し、適切な対応法について説明できる。
- ③高次脳機能障害をはじめとする認知機能障害患者に対する社会復帰支援について、社会資源とともに理解することができる。

■授業の概要

認知機能障害に伴う生活障害を学ぶ。具体的には高次脳機能障害の各症候や認知症に対する作業療法について学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション。高次脳機能障害者の暮らしぶり。認知機能障害をどの様に捉えるか(DSM-5など)
第2回	高次脳機能障害に対するリハビリテーションの考え方①：注意・記憶について
第3回	高次脳機能障害に対するリハビリテーションの考え方②：失認・半側空間無視について
第4回	高次脳機能障害に対するリハビリテーションの考え方③：失語・失書など言語障害について
第5回	課題作成に向けた指導
第6回	高次脳機能障害に対するリハビリテーションの考え方④：失行・行為の障害について
第7回	高次脳機能障害に対するリハビリテーションの考え方⑤：前頭葉症状、行動と感情の障害について
第8回	認知症患者の暮らしぶり。認知症の非薬物療法(リハビリテーション含む)について
第9回	認知症に対するリハビリテーション：基本的考え方① 認知症状と認知症の行動・心理症状への介入
第10回	認知症に対するリハビリテーション：基本的考え方② 認知症の行動・心理症状への介入、家族指導
第11回	認知機能障害のある方への社会資源① 基本的な制度 各自調べてまとめる
第12回	認知機能障害のある方への社会資源② 就労関係
第13回	認知機能障害のある方への社会資源③ 成年後見制度 権利擁護に関わる制度
第14回	認知機能障害のある方への社会資源④ 群馬県内の実情 支援拠点機関・認知症疾患医療センターなど
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業概要を確認し、講義を受けるにあたり、最低限必要となる知識(2年次までの知識)は、各自復習しておくこと。特に解剖学(脳と神経15回)を通しての理解が必要である。積極的に授業に臨むこと。神経内科学と作業療法評価法Ⅲとを関連づけて学ぶこと。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(WEBフォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

初回の科目オリエンテーションにて詳細を説明する。基本的に毎回の予習と復習を前提に進める。

■オフィスアワー

水曜日16時30分～17時30分は随時。その他の曜日においては要予約。

■評価方法

ポートフォリオ50%、授業内発表課題50%。

■教科書

日本作業療法士協会監修/瀧雅子編集：作業療法全書、作業治療学5、高次脳機能障害 第3版、協同医書出版
小川敬之ほか編『認知症の作業療法～ソーシャルインクルージョンをめざして～ 第2版、協同医書出版

■参考書

石合純夫著『高次脳機能障害』(医歯薬出版株式会社)
本田哲三編『高次脳機能障害のリハビリテーション 一実践的アプローチ』第2版 (医学書院)
鈴木孝治ほか編『高次脳機能障害マエストロシリーズ』①～④ (医歯薬出版社)
その他、随時講義の中で紹介する。

科目名	作業療法特論Ⅲ	担当教員 (単位認定者)	悴田 敦子	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻 4 年次選択科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る 必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法治療学」			
キーワード	ケーススタディ、基本動作、ADL 動作				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

ケーススタディを通し、様々な作業療法手段を考え、目標に合わせた治療計画を立案することを目的とする。

〔到達目標〕

- ①必要な評価項目を具体的に列挙することができる。
- ②ICFを使用し、対象者の利点・問題点を列挙し、関連性を説明することができる。
- ③作業療法目標を具体的にあげることができる。
- ④作業療法手段を対象者に合わせ、具体的にあげることができる。
- ⑤複数の作業療法手段から、作業療法目標にあったものを選択することができる。

■授業の概要

ケーススタディを通し、対象者の目標に合わせた様々な作業療法手段を学びます。また、具体的な設定、かかわり方も学びます。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション、ケーススタディ：評価計画立案
第2回	ケーススタディ：評価
第3回	ケーススタディ：基本動作
第4回	ケーススタディ：基本動作
第5回	ケーススタディ：ADL 動作
第6回	ケーススタディ：ADL 動作
第7回	ケーススタディ：ADL 動作
第8回	ケーススタディ：ADL 動作
第9回	ケーススタディ：神経疾患
第10回	ケーススタディ：神経疾患
第11回	ケーススタディ：神経疾患
第12回	ケーススタディ：神経疾患
第13回	ケーススタディ：神経疾患
第14回	ケーススタディ：神経疾患
第15回	ケース発表、まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

作業療法手段を体験することが多いため、動きやすく、触診しやすい服装で参加してください。
ケーススタディをグループまたは個人で行います。ケースノートを用意し、毎回提出してください。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT 利用 (WEB フォームやメールなど)
 その他 ()

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

月曜日 16 時 10 分～17 時 30 分。ただし実習中は随時対応します。

■評価方法

レポート 100%

■教科書

障害者福祉研究会編：ICF 国際生活機能分類. 国際障害分類改定版, 中央法規出版

■参考書

川平和美：標準 理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学. 第3版. 医学書院
岩崎テル子編：標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学. 医学書院

科目名	作業療法特論Ⅳ	担当教員 (単位認定者)	山口 智晴	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻 4 年次選択科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法治療学」			
キーワード	住宅改修、プランニング、パワーポイント、建築関連法規				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

住宅改修のプランニングができるようになる、また建築に関連する知識を深めることができることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①住宅改修の手順を示すことができる。
- ②家屋を計測し、図示できる。
- ③基本的な改修方法を示すことができる。
- ④基本的な改修プランを立案することができる。
- ⑤建築関連の基本的な知識を身につけることができる。

■授業の概要

障害を持って住み慣れた地域や家で暮らす、ということはノーマライゼーションの観点から言っても実現されなければならない事項である。

その具体的施策の一つが「住宅改修」であり、作業療法士にとって極めて重要な事項でもある。その住宅改修に必要な建築関連の基礎知識を学ぶとともに、具体的なプランを立案できるようになる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション/環境整備
第2回	発表に向けた学習と指導
第3回	介護保険制度における住環境整備
第4回	住環境整備の進め方と留意点
第5回	建築知識の基本と住環境整備の基本的配慮①
第6回	建築知識の基本と住環境整備の基本的配慮②
第7回	住環境整備と建築関連法規
第8回	住宅改修提案書一説明
第9回	住宅改修提案書一作成
第10回	住宅改修提案書一作成
第11回	住宅改修提案書一作成
第12回	住宅改修提案書一作成
第13回	住宅改修提案プレゼンテーション
第14回	住宅改修提案プレゼンテーション
第15回	住宅改修提案プレゼンテーション、本科目のまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・デジカメやスマホよりパソコンにデータを取り込める環境、電子メールのやり取りができる環境を準備すること。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式
 シャトルカード方式
 ICT利用（WEBフォームやメールなど）
 その他（ ）

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時間外学習の内容については科目オリエンテーションにて説明する。基本的には個人やグループでの授業外課題も多く含まれるため、積極的な取り組みが求められる。

■オフィスアワー

水曜日 16 時～17 時は随時（変更時は掲示する）。その他の曜日においては要予約。

■評価方法

発表課題 50%、提出課題 50%。

■教科書

野村 歡・橋本美芽：OT・PTのための住環境整備論。第2版。三輪書店

■参考書

木之瀬隆編：作業療法学全書改訂第3版 第10巻 作業療法技術学2 福祉用具の使い方・住環境整備
岡村英樹：OT・PT・ケアマネにおける建築知識なんかななくても住宅改修を成功させる本。三輪書店

科目名	地域作業療法入門Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	悴田 敦子	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	作業療法専攻 2 年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「地域作業療法学」			
キーワード	社会保障制度、医療保険、障害者総合支援法、障害者雇用、社会保険制度				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕
作業療法に関わる社会保障制度について、各法律の定義・内容を理解することを目的とする。

〔授業の到達目標〕

- ①地域リハビリテーションの定義を説明することができる。
- ②社会保障制度の仕組みについて説明することができる。
- ③作業療法に関わる関連法規の概要と規程施設について説明することができる。

■授業の概要

地域リハビリテーションにかかわる様々な制度、支援、他職種との連携について学ぶ。地域作業療法の実践に必要な基礎知識、主に社会保障制度と社会福祉関連を学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション、地域リハビリテーションとは、日本の社会保障制度
第2回	社会保険、医療保険制度について
第3回	診療報酬について
第4回	後期高齢者医療制度について
第5回	社会福祉について
第6回	障害者雇用制度について
第7回	精神科領域における地域作業療法について
第8回	小テスト、地域リハビリテーションのまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

関連法規を学ぶ上で、難しい専門用語が多く出てくる。その為、自己学習を積極的に行う事。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT利用(WEBフォームやメールなど)
 その他()

■授業時間外学習にかかわる情報

グループ発表では指定時間、レジュメの提出を厳守し、わかりやすい工夫を行うこと。

■オフィスアワー

月曜日 16 時 10 分～17 時 30 分。

■評価方法

小テスト 10%、筆記試験 90%。

■教科書

特に指定しない。

■参考書

中村隆一編：入門リハビリテーション概論. 第7版増補. 医歯薬出版

科目名	地域作業療法実習Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	高坂 駿	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	作業療法専攻 2 年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「地域作業療法学」			
キーワード	精神障害 社会資源 病院-地域の連携 退院支援				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

精神障害リハビリテーションに関わる病院・施設を見学し、地域との関わりにおける専門職の役割、業務内容などを学ぶ。

〔到達目標〕

- ①病院や施設を利用している患者様や職員とコミュニケーションを取ることができる。
- ②病院や施設的环境等に応じたリスク管理に留意することができる。
- ③病院や施設が地域でどのような役割を担っているか理解・説明できる。
- ④病院や施設が他機関とどのように連携し、患者様の地域生活を支えているかを理解・説明することができる。

■授業の概要

精神科病院・クリニックへの見学実習を行う。主に精神科病院のリハビリテーション部門、デイケアを見学させていただく。見学後は各々の視点から興味・関心の高かった事柄に対し考察し、レポートにまとめる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	事前オリエンテーション①
第2回	事前オリエンテーション②
第3回	病院・施設見学(1日目)
第4回	病院・施設見学(1日目)
第5回	病院・施設見学(1日目)
第6回	病院・施設見学(1日目)
第7回	病院・施設見学(2日目)
第8回	病院・施設見学(2日目)
第9回	病院・施設見学(2日目)
第10回	病院・施設見学(2日目)
第11回	病院・施設見学(3日目)
第12回	病院・施設見学(3日目)
第13回	病院・施設見学(3日目)
第14回	病院・施設見学(3日目)
第15回	学んだことの振り返り：レポート提出

■受講生に関わる情報および受講のルール

実習中は動きやすい服装と上履きを用意する(実習先の指定により変更する場合もある)。

実習前・実習中は各自、体調管理をしっかり行い、欠席のないようする。

ご協力いただいている患者様や病院・施設のスタッフに失礼がないよう、一人ひとりが服装・態度などに十分注意を払うこと。個人情報保護や鍵の管理などリスク管理に十分に配慮すること。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT 利用 (WEB フォームやメールなど)
- その他 (実習・病院施設の指導者に対する見学記録の提出)

■授業時間外学習にかかわる情報

シラバスの内容を基に教科書や配布資料で予習復習すること。分からない箇所はそのままにせず、質問や自分で調べたことなどをまとめておく。

■オフィスアワー

木曜日 16 時 30 分～17 時 30 分。質問等に関しては随時受ける。

■評価方法

- レポート 30% (提出されない場合は総合評価の対象とならない。)
- デイリーノート 30% (提出されない場合は総合評価の対象とならない。)
- 事前課題 20% (提出されない場合は総合評価の対象とならない。)
- 実習準備 20%。

※評価方法の詳細に関してはシラバスを参照すること。

■教科書

なし。

■参考書

精神医学・精神機能作業療法学・心理学等で扱った教科書を参考とすること。また、不足があれば自身で購入すること。

科目名	地域作業療法実習Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	悴田 敦子	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	作業療法専攻 2 年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「地域作業療法学」			
キーワード	介護老人保健施設、多職種連携、作業療法、コミュニケーション、記録				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

介護老人保健施設を見学し、施設・対象者・作業療法士を含む施設職員の役割を学び、病院における対象者、作業療法との違いについて各自考察し、学内発表において理解を深めることを目的とします。また、実習を通して自己のコミュニケーションに対して考えることを目的とします。

〔到達目標〕

- ①介護老人保健施設の概要、リハビリテーションの概要・目的を説明することができる。
- ②作業療法士および施設職員の役割、対象者について説明することができる。
- ③施設職員・対象者と積極的なコミュニケーションをはかり、自己のコミュニケーションについて考えることができる。
- ④実習内容を指定の書式に沿って記録し、報告することができる。

■授業の概要

作業療法士が勤務している介護老人保健施設において、3日間の見学実習を行います。見学、体験を通して介護老人保健施設を理解し、そこを利用する方や作業療法を受けている対象者について学び、介護老人保健施設の作業療法について理解します。また、病院における対象者、作業療法との違いについて各自考察し、学内にて発表を行います。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション、実習オリエンテーション、リスク管理、守秘義務
第2回	介護老人保健施設における3日間の実習を行います。
第3回	介護老人保健施設における3日間の実習を行います。
第4回	介護老人保健施設における3日間の実習を行います。
第5回	介護老人保健施設における3日間の実習を行います。
第6回	介護老人保健施設における3日間の実習を行います。
第7回	介護老人保健施設における3日間の実習を行います。
第8回	介護老人保健施設における3日間の実習を行います。
第9回	介護老人保健施設における3日間の実習を行います。
第10回	介護老人保健施設における3日間の実習を行います。
第11回	介護老人保健施設における3日間の実習を行います。
第12回	介護老人保健施設における3日間の実習を行います。
第13回	介護老人保健施設における3日間の実習を行います。
第14回	実習のまとめ、発表
第15回	実習のまとめ、発表

■受講生に関わる情報および受講のルール

第1回科目オリエンテーションへ参加しないもの、実習前の提出物に不備があったものは実習参加はできない。実習中は各施設指定の服装をする。交通手段については決定次第、各自手続きをとること。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式
 シャトルカード方式
 ICT利用（WEBフォームやメールなど）
 その他（ ）

■授業時間外学習にかかわる情報

実習施設の情報収集、交通手段等、実習開始前に必要なこと、また実習中の時間外学習については、第1回科目オリエンテーションにて説明します。

■オフィスアワー

月曜日 16 時 10 分～17 時 30 分。ただし実習中は随時対応します。

■評価方法

実習への参加が評価の前提となる。
実習先評価 10%、実習ノート 20%、レポート 40%、学内での発表 30%。

■教科書

特に指定しない。

■参考書

地域作業療法入門、身体機能作業療法学、作業療法評価学の教科書及び資料等を参考とする。

科目名	臨床評価実習指導	担当教員 (単位認定者)	山口 智晴	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	作業療法専攻 3 年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「臨床実習」			
キーワード	守秘義務、リスク管理、感染症対策、実習報告会				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

臨床で必要となる守秘義務・リスク管理の理解の徹底をはかる。実習後担当したケースの発表・報告を行い、疾患・ケースに対する理解を深めることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①守秘義務について説明することができ、実行できる。
- ②リスク管理について説明することができ、実行できる。
- ③評価における統合と解釈が行える。

■授業の概要

臨床で求められる守秘義務(情報管理)やリスク管理(感染症対策など)について確認し、実行に移せるように知識と技術を体得する。また、事例の統合と解釈を通して、評価プロセスの理解を深めることができる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配付します。

第1回	科目オリエンテーション/守秘義務について
第2回	リスク管理(感染症対策など)
第3回	守秘義務、感染症対策に関するテスト
第4回	統合と解釈
第5回	統合と解釈
第6回	統合と解釈
第7回	統合と解釈
第8回	臨床評価実習指導の心構え
第9回	臨床評価実習Ⅰの課題整理
第10回	臨床評価実習Ⅰの課題整理
第11回	臨床評価実習Ⅰの課題整理
第12回	臨床評価実習Ⅰの課題整理
第13回	臨床評価実習Ⅰの課題整理
第14回	臨床評価実習Ⅰの課題整理
第15回	臨床評価実習を振り返る実習報告

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

報告では発表用レジュメを用意しておくこと。

〔受講のルール〕

報告では有益なディスカッションが行えるよう発表者・聞き手ともに準備を十分にしておくこと。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

- コメントカード方式
 シャトルカード方式
 ICT 利用 (WEB フォームやメールなど)
- その他 ()

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

水曜日 16 時～17 時 30 分 (木曜日以外であれば必要に応じて随時対応する。応相談)。

■評価方法

実習の振り返りシートの作成 50%、参加態度・講義内での課題実施 50%。

■教科書

大野義一郎 監修：感染対策マニュアル第2版、医学書院
障害者福祉研究会：ICF 国際生活機能分類—国際障害分類改定版

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	臨床評価実習Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	作業療法専攻教員 分担	単位数 (時間数)	3
履修要件	作業療法専攻 3 年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る 必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「臨床実習」			
キーワード					

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

作業療法士が関与する医療機関や福祉施設等において、臨床実習指導者のもとでその指導と作業療法対象者の協力を受けながら必要とされる評価を実施し、その結果を整理する一連の技能の習得を目指す。

〔到達目標〕

- ①作業療法士を目指す上で必要な基本的態度を身につける。
- ②臨床実習施設職員並びに対象者と良好な関係を築くことができる。
- ③臨床実習施設や他部門ならびに作業療法部門の組織を理解する。
- ④臨床実習施設における作業療法士と他職種の役割を理解する。
- ⑤各種活動に参加し活動の意義を理解する。
- ⑥担当事例に必要な基本的評価項目を選択することができる。
- ⑦対象者や家族に評価に必要な説明と指導を行うことができる。
- ⑧選択した評価を正しい順序で適切に実施できる。
- ⑨評価実施の際、安全性を考慮することができる。
- ⑩評価結果を整理できる。
- ⑪評価結果を統合し作業療法計画を立案できる。
- ⑫与えられた課題を責任もって遂行することができる。
- ⑬実習報告会で使用するレジュメを作成し、発表することができる。
- ⑭実習報告会で積極的な質問をすることができる。
- ⑮症例報告としてまとめることができる。

■実習履修資格者

3 年次臨床実習Ⅰ開始までに 1 年～3 年後期までに開講されるすべての科目（選択科目は選択の範囲において）の単位修得が必要となる。

■実習時期及び実習日数・時間

11 月下旬～3 週間

■実習上の注意

臨床実習の手引きを熟読すること。

■評価方法

- ◆出席（出席時間数要件：4/5 以上）
- ◆臨床実習評価（臨床実習の手引き参照）：80%
※臨床実習評価は①欠席が 1/5 以上②無断欠席・遅刻③はっきりと注意しても重大なミスを繰り返す④その他、がみられる場合は、評価対象外または実習を中止とすることがある。
- ◆学内セミナー発表：10%
- ◆レポート：10%

再受験の取り扱い：無

科目名	臨床評価実習Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	作業療法専攻教員 分担	単位数 (時間数)	3
履修要件	作業療法専攻 3 年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る 必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「臨床実習」			
キーワード	臨床、評価				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

作業療法士が関与する医療機関や福祉施設等において、臨床実習指導者のもとでその指導と作業療法対象者の協力を受けながら必要とされる評価を実施し、その結果を整理する一連の技能の習得を目指す。

〔到達目標〕

- ①作業療法士を目指す上で必要な基本的態度を身につける。
- ②臨床実習施設職員並びに対象者と良好な関係を築くことができる。
- ③臨床実習施設や他部門ならびに作業療法部門の組織を理解する。
- ④臨床実習施設における作業療法士と他職種の役割を理解する。
- ⑤各種活動に参加し活動の意義を理解する。
- ⑥担当事例に必要な基本的評価項目を選択することができる。
- ⑦対象者や家族に評価上必要な説明と指導を行うことができる。
- ⑧選択した評価を正しい順序で適切に実施できる。
- ⑨評価実施の際、安全性を考慮することができる。
- ⑩評価結果を整理できる。
- ⑪評価結果を統合し作業療法計画を立案できる。
- ⑫与えられた課題を責任もって遂行することができる。
- ⑬実習報告会で使用するレジュメを作成し、発表することができる。
- ⑭実習報告会で積極的な質問をすることができる。
- ⑮症例報告としてまとめることができる。

■実習履修資格者

3 年次臨床評価実習Ⅱ開始までに 1 年～3 年後期までに開講されるすべての科目（選択科目は選択の範囲において）の単位修得が必要となる。

■実習時期及び実習日数・時間

1 月初旬～3 週間

■実習上の注意

臨床実習の手引きを熟読すること。

■評価方法

◆臨床実習評価（臨床実習の手引き参照）：70%

※臨床実習評価は①欠席が 1/5 以上②無断欠席・遅刻③はっきりと注意しても重大なミスを繰り返す④その他、
がみられる場合は、評価対象外または実習を中止とすることがある。

◆学内セミナー発表：15%

◆レポート：15%

再受験の取り扱い：無

科目名	臨床総合実習Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	作業療法専攻教員 分担	単位数 (時間数)	8 (360)
履修要件	作業療法専攻4年次必修科目	免許等指定科目	作業療法士国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「臨床実習」			
キーワード	臨床総合実習				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

以下の事項を経験し実行できるようになることを目的とする。

- (1) 施設全体の概要説明
組織、沿革、職員構成、関連施設、診療科目、急性期、回復期等の区別、病床数、病棟編成を理解する。
- (2) リハビリテーション部門についての概要・特徴・業務に関する説明
理学療法部門、言語聴覚部門といった関連職の位置付けや役割、また医師や看護師まで含めた業務連携などについての説明と見学（職員構成、対象者の疾患・年齢構成、入院から退院までの流れ、1日の業務の流れなど）を行う。
- (3) 作業療法部門の位置付けや役割、特徴などについての説明、紹介
職員構成、外来・入院の割合、対象者の疾患・年齢構成、入院から退院までの流れ、1日の業務の流れ、他部門との連携の方法などを学ぶ。
- (4) 各対象者に応じた評価の実施および作業療法プログラム立案、作業療法プログラム実施、再評価、という一連の臨床過程について事例を通して学ぶ。
- (5) 疾患や障害の特徴やさまざまな作業療法アプローチについて学ぶ。
- (6) ケース検討会議などへ見学・参加。
- (7) 各自の臨床にて経験した事項を記録し、書面・口頭で報告する。
- (8) 専門職として守るべき基本事項を学ぶ。
- (9) 実習担当者の指導のもと、家族との関わりについて学ぶ。
- (10) 担当症例についてA3のレジュメにまとめ提出し発表する。
- (11) 事例報告としてレポートにまとめ提出する。

〔到達目標〕

- ①職業人としての適性を身につける。
- ②担当事例に必要な基本的評価項目を選択することができる。
- ③対象者や家族に評価に必要な説明と指導を行うことができる。
- ④選択した評価を正しい順序で適切に実施できる。
- ⑤評価実施の際、安全性を考慮することができる。
- ⑥評価結果を整理できる。
- ⑦評価結果を統合し作業療法計画を立案できる。
- ⑧作業療法計画に基づき治療・指導・援助を実施することができる。
- ⑨再評価計画を立て実施することができる。
- ⑩再評価結果を整理できる。
- ⑪再評価によって作業療法計画を見直し実施することができる。
- ⑫治療・指導・援助に関する記録、報告をすることができる。
- ⑬作業療法部門の業務内容を把握し、一部を実行することができる。

■実習履修資格者

1年～3年次までに開講されるすべての科目（選択科目は選択の範囲において）の単位修得が必要となる。

■実習時期及び実習日数・時間

6月初旬～8週間

■実習上の注意

臨床実習手引きを熟読すること。

■評価方法

出席（出席時間数要件：4/5以上）

臨床実習指導者評価（臨床実習の手引き参照）70%

※臨床実習指導者評価は①欠席が1/5以上②無断欠席・遅刻③はつきりと注意しても重大なミスを繰り返す④その他、がみられる時、評価対象外となる。

学内評価：レポート15%、発表15%。

再受験の取り扱い：無

科目名	臨床総合実習Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	作業療法専攻教員 分担	単位数 (時間数)	8 (360)
履修要件	作業療法専攻 4 年次必修科目	免許等指定科目	作業療法士国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「臨床実習」			
キーワード	臨床総合実習				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

以下の事項を経験し実行できるようになることを目的とする。

- (1) 施設全体の概要説明
組織、沿革、職員構成、関連施設、診療科目、急性期、回復期等の区別、病床数、病棟編成を理解する。
- (2) リハビリテーション部門についての概要・特徴・業務に関する説明
理学療法部門、言語聴覚部門といった関連職の位置付けや役割、また医師や看護師まで含めた業務連携などについての説明と見学（職員構成、対象者の疾患・年齢構成、入院から退院までの流れ、1日の業務の流れなど）を行う。
- (3) 作業療法部門の位置付けや役割、特徴などについての説明、紹介
職員構成、外来・入院の割合、対象者の疾患・年齢構成、入院から退院までの流れ、1日の業務の流れ、他部門との連携の方法などを学ぶ。
- (4) 各対象者に応じた評価の実施および作業療法プログラム立案、作業療法プログラム実施、再評価、という一連の臨床過程について事例を通して学ぶ。
- (5) 疾患や障害の特徴やさまざまな作業療法アプローチについて学ぶ。
- (6) ケース検討会議などへ見学・参加。
- (7) 各自の臨床にて経験した事項を記録し、書面・口頭で報告する。
- (8) 専門職として守るべき基本事項を学ぶ。
- (9) 実習担当者の指導のもと、家族との関わりについて学ぶ。
- (10) 担当症例について A3 のレジュメにまとめ提出し発表する。
- (11) 事例報告としてレポートにまとめ提出する。

〔到達目標〕

- ①職業人としての適性を身につける。
- ②担当事例に必要な基本的評価項目を選択することができる。
- ③対象者や家族に評価に必要な説明と指導を行うことができる。
- ④選択した評価を正しい順序で適切に実施できる。
- ⑤評価実施の際、安全性を考慮することができる。
- ⑥評価結果を整理できる。
- ⑦評価結果を統合し作業療法計画を立案できる。
- ⑧作業療法計画に基づき治療・指導・援助を実施することができる。
- ⑨再評価計画を立て実施することができる。
- ⑩再評価結果を整理できる。
- ⑪再評価によって作業療法計画を見直し実施することができる。
- ⑫治療・指導・援助に関する記録、報告をすることができる。
- ⑬作業療法部門の業務内容を把握し、一部を実行することができる。

■実習履修資格者

1年～3年次までに開講されるすべての科目（選択科目は選択の範囲において）の単位修得が必要となる。

■実習時期及び実習日数・時間

9月～8週間

■実習上の注意

臨床実習手引きを熟読すること。

■評価方法

出席（出席時間数要件：4/5以上）

臨床実習指導者評価（臨床実習の手引き参照）70%

※臨床実習指導者評価は①欠席が1/5以上②無断欠席・遅刻③はつきりと注意しても重大なミスを繰り返す④その他、がみられる時、評価対象外となる。

学内評価：レポート15%、発表15%。

再受験の取り扱い：無

科目名	卒業研究	担当教員 (単位認定者)	山口・古田・悴田 宮寺・牛込・高坂	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	作業療法専攻 4 年次必修科目 作業療法研究法の知識が必要となる	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る 必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「卒業研究」			
キーワード	作業療法、統計、文献検索、文献抄読、研究計画				

■授業の目的・到達目標

<p>〔授業の目的〕 本講義では 4 年間の講義や実習で学んだ知識の集大成として、1 年間をかけ自ら研究を計画・実践し、論文の作成・発表までを行う。</p> <p>〔到達目標〕 作業療法に関して興味ある分野の論文抄読を通して、興味を深めることができる。また、各自が興味ある分野で研究計画を立案する過程で、理論的・客観的思考を身に着けることができる。 研究計画を基に、研究を実施し、得られた結果に対する考察を深めてまとめるとともに、それらを所定の形式で発表することができる。</p>
--

■授業の概要

<p>作業療法セミナーや臨床実習等をふまえ、興味ある研究テーマを絞り、そのまとめへのアプローチの手法を各自検討する。個々の調査・研究及びディスカッションを通じて考察を深め、卒業研究としてのまとめを図れるよう、各自が取り組む。</p>
--

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第 1 回授業にて配付します。	
第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	研究テーマの検討
第 3 回	〃
第 4 回	〃
第 5 回	卒業研究計画の立案
第 6 回	〃
第 7 回	〃
第 8 回	〃
第 9 回	〃
第 10 回	各自の研究テーマに沿った調査・実践などの研究活動（個別指導）
第 11 回	〃
第 12 回	〃
第 13 回	〃
第 14 回	〃
第 15 回	中間発表
第 16 回	〃

第 17 回	中間発表
第 18 回	完成に向けての研究活動の継続と執筆（個別指導）
第 19 回	”
第 20 回	”
第 21 回	”
第 22 回	”
第 23 回	”
第 24 回	卒業研究発表会
第 25 回	”
第 26 回	”
第 27 回	”
第 28 回	”
第 29 回	”
第 30 回	”

■受講生に関わる情報および受講のルール

卒業研究のテーマ決定、調査・自身の取り組み、論文執筆等、全ての取り組みにおいて、自ら進んで必要な情報を集め、行動し、調整を図り、自主的に取り組むこと。

■毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法

コメントカード方式 シャトルカード方式 ICT 利用（WEB フォームやメールなど）
 その他（随時対応）

■授業時間外学習にかかわる情報

本科目では、自ら行動を起こすことを求められる。各担当教員と綿密に連絡を取り合い、計画的に研究を進めること。

■オフィスアワー

各教員に問い合わせること。

■評価方法

「卒業研究に関わる課題探求能力」と「卒業研究に関わる発表能力・質疑応答能力・技術文書作成能力」で評価し、この合計を卒業研究の成績とする。

■教科書

担当教員より随時指示。

■参考書

担当教員より随時指示。

